

Pioneer

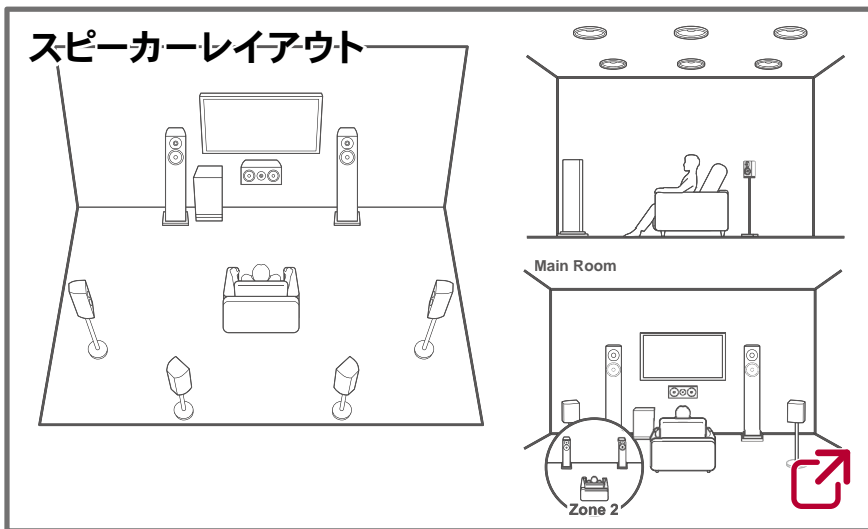
取扱説明書

AV Amplifier

VSA-LX805

Ja

目次



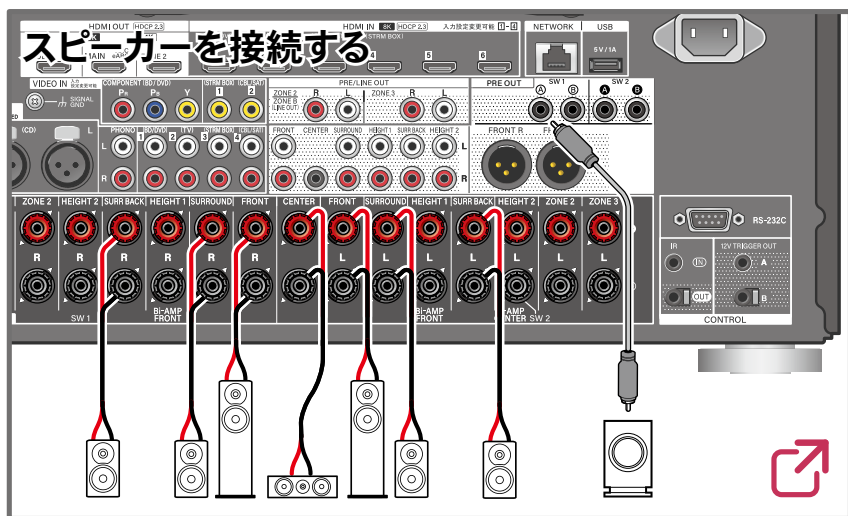
ファームウェアアップデート



困ったときは



追補情報



待機時消費電力を抑えるには

次の機能を有効に設定している場合は、スタンバイ時の消費電力が増加します。スタンバイ時の消費電力を抑えるには、各設定の内容を確認したうえで、設定を「オフ」にしてください。

- HDMI CEC (→[p134](#))
- HDMIスタンバイスルー (→[p134](#))
- スタンバイ時のUSB電源供給 (→[p136](#))
- ネットワークスタンバイ (→[p137](#))
- Bluetoothによる起動 (→[p137](#))

□ 目次の詳細 (次のページ)



はじめにお読みください	7
ファームウェアアップデートについて	8
ファームウェアの更新情報について	8
本機のファームウェアバージョンの確認	8
ファームウェアアップデートの手順	8
各部の名前	11
前面パネル	11
表示部	13
後面パネル	14
リモコン	16
文字を入力する	18
スピーカーを配置する	
リスニングルームとスピーカーレイアウト	20
5.1 チャンネルシステム	21
7.1 チャンネルシステム	22
5.1.2 チャンネルシステム	23
7.1.2 チャンネルシステム	24
5.1.4 チャンネルシステム	25
7.1.4 チャンネルシステム	28
スピーカーの設置方法	
スピーカーの設置方法	31

スピーカーを接続する

本機で使用できるスピーカーとケーブルの接続について	38
サブウーファーを接続する	39
パワーアンプを接続する	59

再生機器の接続

HDMIケーブルの接続と注意点	61
接続について	61
テレビを接続する	62
ARC/eARC対応テレビとの接続	62
ARC非対応テレビとの接続	62
サブモニターを接続する	63
サブモニター	63
再生機器を接続する	64
HDMI端子のあるBD/DVDやGAMEとの接続	64
HDMI端子のないBD/DVDとの接続	65
オーディオ機器との接続	66
ビデオカメラなどを接続する	67
別室のテレビやプリメインアンプと接続する (マルチゾーン)	68
別室のテレビと接続する (ゾーン 2)	68
別室のプリメインアンプと接続する (ゾーン2)	69
別室のプリメインアンプと接続する (ゾーン3)	70
ネットワークに接続する	71



外部のコントロール機器を接続する	72	Amazon Alexa	90
IR 入力/出力端子	72	本機をAmazonアカウントに登録する	90
12V トリガー出力端子	73	本機を操作する	91
電源コードを接続する	74	Amazon Music	92
再生する		本機をAmazon Musicに登録する	92
基本の操作	76	Pioneer Remote Appを使ってAmazon Musicを再生する	93
電源を入れる	76	リモコンを使ってAmazon Musicを再生する	93
再生するソースを選択する	76	Sonosシステムと接続して再生する	94
音量を調節する	77	必要な機器	94
連動機能を使う (HDMI CEC)	77	本機とSonos Portとの接続方法	94
表示を切り換える	78	設定する	94
リスニングモード	79	Sonosを本機で再生する	95
リスニングモードを選ぶ	79	インターネットラジオ	96
BLUETOOTH® 再生	80	再生する	96
BLUETOOTH対応機器の音声を本機で再生する	80	マルチゾーン	98
本機からBLUETOOTH対応機器へ音声を送信する	81	再生する(ゾーン 2)	99
AV Adjust	83	再生する(ゾーン 3)	101
Spotify	86	PERSONAL PRESET を使う	103
AirPlay®	87	AV Directモードを使う	105
本機で再生する	87	「AV Direct」を使用する	105
複数の機器で再生する(AirPlay2)	88	「AV Direct Net Off」を使用する	105
DTS Play-Fi®	89	USBストレージに保存された音楽ファイルを再生する	106
Playing Back	89	USBストレージについて	107



Music Server	108	フルオートMCACC	145
Music Serverについて	108	マニュアルMCACC	146
Windows Media® Player 12 の設定をする	108	MCACCデータチェック	150
再生する	109	データ管理	151
Play Queue	111	ネットワーク/Bluetooth	152
Play Queue情報の追加	111	メニュー操作	152
並び替えや削除	111	ネットワーク	153
再生する	112	Bluetooth	156
トランスミッターを接続して再生する	113	Web Setup	158
接続する	113	メニュー操作	158
設定する	113	設定ウィザードでの初期設定	159
再生する	113	初期設定を始める	159
		1. スピーカー設定	160
		2. マルチゾーン音声確認	161
		3. ARC設定	161
		4. ルームEQ	161
設定する		Pioneer Remote App	165
システム設定	115	主な機能	165
メニューリスト	115	初期設定	165
入力/出力端子の割り当て	117	Dirac Live	166
スピーカー	123	Dirac Liveで測定する	166
音の設定・調整	129	Dirac Liveを使用する	167
入力ソース	132	Manual Adjust（手動調整）	168
ハードウェア	134		
マルチゾーン	140		
その他	142		
MCACC Pro	144		
メニュー操作	144		



困ったときは

はじめにお読みください	170
動作が不安定なときは	171
故障かなと思ったら	172

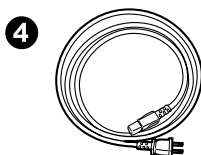
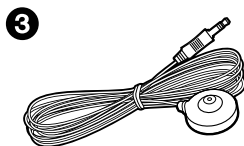
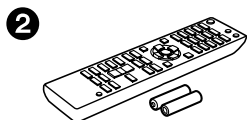
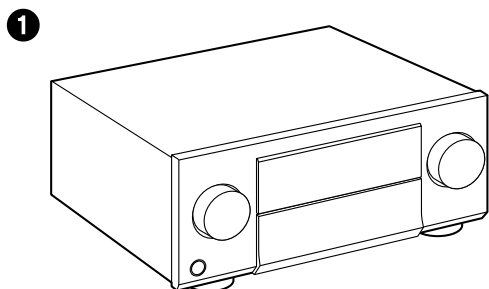
仕様について

スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード	184
入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて	187
リスニングモードの効果	191
スピーカー組み合わせ一覧	195
主な仕様	196



はじめにお読みください

■ 箱の中身を確認する



- ① 本体 (1)
- ② リモコン (RC-990R) (1)、乾電池 (AAA/R03) (2)
- ③ 測定用マイク (1)
 - 初期設定の際に使用します。
- ④ 電源コード (1)
 - 初期設定ガイド (1)

* 本書はオンライン版の取扱説明書です。製品には付属していません。

■ ご注意

- スピーカーはインピーダンスが4~16Ωのものを接続してください。
- 電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
- 他社製品との接続により生じたいかなる損害に対しても、当社では責任を負いかねます。
- お使いいただけるネットワークサービスやコンテンツは、ファームウェアのアップデートにより新しい機能が追加されたり、サービスプロバイダーのサービス終了などによりご利用できなくなる場合があります。また、お住まいの地域によって利用可能なサービスが異なる場合があります。
- ファームウェアアップデートの詳細については、弊社ホームページなどでお知らせいたします。
- 仕様および外観は予告なく変更することがあります。



ファームウェアアップデートについて

免責事項：本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。

弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することはありません。

弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む(ただしこれらに限定されない)、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

ファームウェアの更新情報について

最新のファームウェアの更新内容や、ファームウェアバージョンについては、ホームページでご確認ください。

- 本機をネットワーク接続している場合、ファームウェアの更新の通知が表示される場合があります。アップデートを行う場合は、リモコンのカーソルボタンで、「アップデートします」を選んでENTERボタンで決定してください。「Completed!」が表示された後に、本機は自動でスタンバイ状態になり、更新が完了します。

本機のファームウェアバージョンの確認

お持ちの製品のファームウェアを確認するには、リモコンの \blacktriangle ボタンを押して表示されるホーム画面の「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「バージョン」(→[p142](#))を参照ください。

ファームウェアアップデートの手順

更新には約20分かかります。また、設定した内容は保持されます。

ネットワーク経由で更新する

- 更新中は、以下のことを行わないでください。
 - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
 - PCやスマートフォンのアプリケーションからの本機へのアクセス
 - ネットワークに接続されたコントロール機器(PCなど)の電源を切ってください。
 - 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
 - マルチゾーン機能を使用している場合は、機能をオフにしてください。
 - 「HDMI CEC」設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - \blacktriangle を押してホーム画面を表示します。次に「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」を選び、ENTERボタンを押したあと、「HDMI CEC」を選び、「オフ」を選びます。
- * 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

アップデート

1. 本機の電源を入れ、そのまま20秒ほど待ちます。
2. リモコンの \blacktriangle ボタンを押し、カーソルで「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「ネットワーク経由のアップデート」を順に選び、ENTERを押します。
 - 「ファームウェアアップデート」が選べない場合は、システムが起動するまでしばらくお待ちください。
 - 本機のファームウェアが最新の場合は、「ネットワーク経由のアップデート」は選べません。
3. 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTERを押して更新を開始します。更新が完了すると「Completed!」が表示されます。
 - 進行状況は本体の表示部で確認できます。
4. 本体の \odot STANDBY/ONを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
 - リモコンの \odot は使用しないでください。




エラーが表示されたときは

エラー時は、本体の表示部に「*-** Error!」と表示されます。(「*」は表示される英数字を表しています。)以下の説明を参照し、確認してください。

エラーコード

- *-01、 *-10:
Ethernetケーブルが認識できません。Ethernetケーブルを正しく接続してください。
- *-02、 *-03、 *-04、 *-05、 *-06、 *-11、 *-13、 *-14、 *-16、 *-17、 *-18、 *-20、 *-21:
インターネットに接続できません。以下の項目を確認してください。
 - ルーターの電源が入っている
 - 本機とルーターがネットワーク接続されている本機およびルーターの電源の抜き差しをお試しください。改善することがあります。それでもインターネットにつながらない場合は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
- その他:
一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。




USB経由で更新する

- USBストレージにはアップデートのデータだけ保存してください。それ以外のデータは消去してください。
- 更新中は、以下のことを行わないでください。
 - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
 - PCやスマートフォンのアプリケーションからの本機へのアクセス
- 1 GB以上の容量のUSBストレージを準備してください。USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
 - USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
 - セキュリティ機能付きのUSBストレージには対応していません。
 - ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- ネットワークに接続されたコントロール機器(PCなど)の電源を切ってください。
- 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
- マルチゾーン機能を使用している場合は、機能をオフにしてください。
- 「HDMI CEC」の設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - を押してホーム画面を表示します。次に「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」を選び、ENTERボタンを押したあと、「HDMI CEC」を選び、「オフ」を選びます。
- * USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合、正しく内容を読み込めない場合、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- * USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても、弊社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- * 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

アップデート

1. お使いのPCにUSBストレージを接続します。
2. 弊社ホームページからお使いのPCにファームウェアファイルをダウンロードして、解凍します。
ファームウェアには、以下のようなファイル名が付いています。
PIOAVR****_R***.zip
PC上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。
3. 解凍したファイルやフォルダをすべてUSBストレージのルートフォルダにコピーします。
 - 必ず解凍したファイルをコピーしてください。
4. USBストレージを本機のUSB端子に接続します。



- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
 - USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
5. 本機の電源を入れ、そのまま20秒ほど待ちます。
 6. リモコンの  ボタンを押し、カーソルで「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「USB経由のアップデート」を順に選び、ENTERを押します。
 - 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。
 - 本機のファームウェアが最新の場合は、「USB経由のアップデート」は選べません。
 7. 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTERを押して更新を開始します。
更新が完了すると「Completed!」が表示されます。
 - 進行状況は本体の表示部で確認できます。
 - 更新中は、電源を切ったり、USBストレージを抜き差ししないでください。
 8. 本機からUSBストレージを抜きます。
 9. 本体の  STANDBY/ONを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
 - リモコンの  は使用しないでください。

エラーが表示されたときは

エラー時は、本体の表示部に「*-* Error!」と表示されます。（「*」は表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

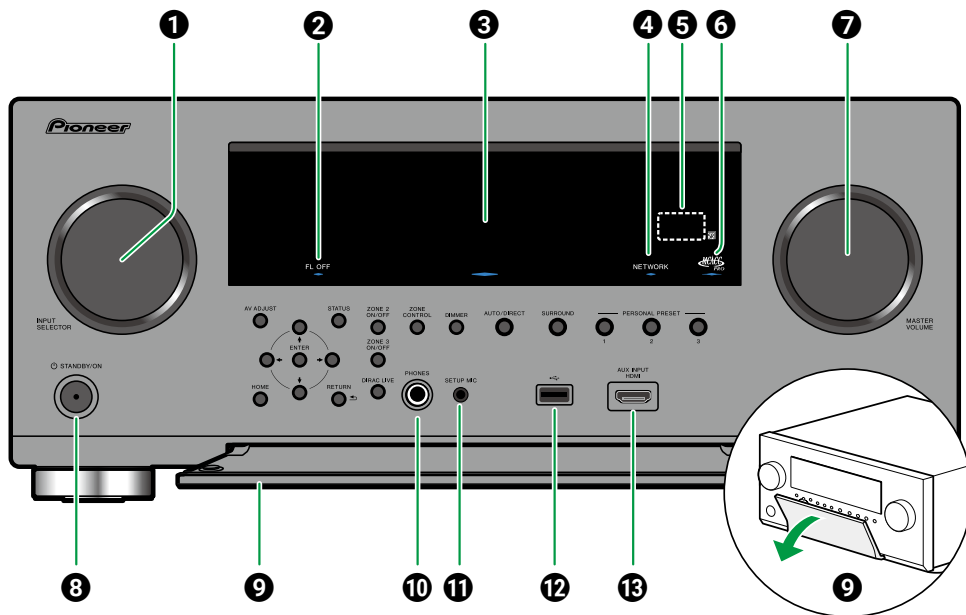
エラーコード

- *-01、*-10:
USBストレージが認識できません。USBストレージやUSBケーブルが、本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
- *-05、*-13、*-20、*-21:
USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。再度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。
- その他:
一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。



各部の名前

前面パネル



- ① **INPUT SELECTOR ダイヤル**: 再生する入力を切り換えます。
- ② **FL OFF インジケータ**: リモコンのDIMMERボタンをくり返し押し、表示部を消灯させているときに点灯します。
- ③ **表示部** (→p13)
- ④ **NETWORK インジケータ**: 「NET」入力切替でネットワークに接続されているときに点灯します。本機がスタンバイ時に、次のいずれかの機能が有効に設定している場合や、機能が働いている状態のとき

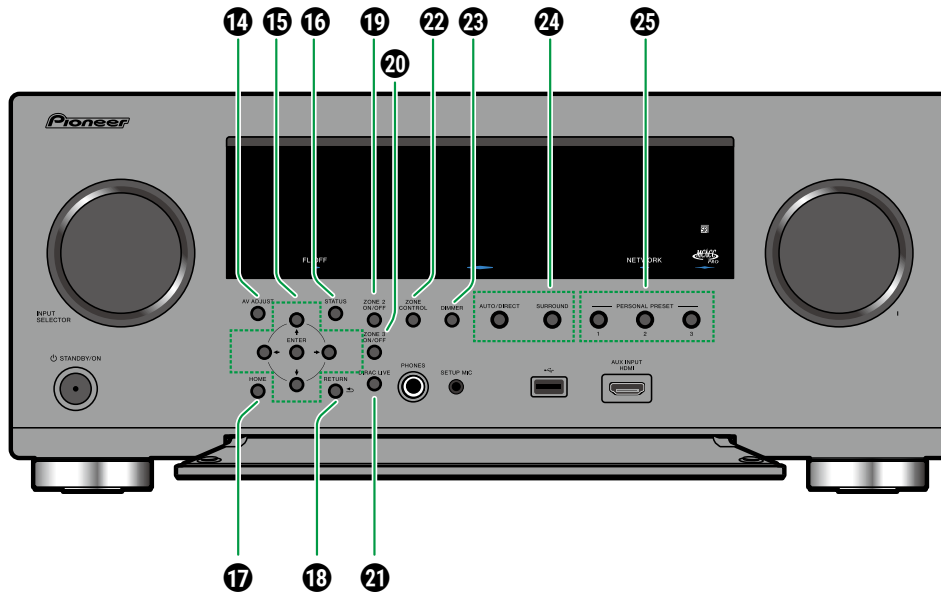
に点灯します。点灯しているときは、スタンバイ時での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードとなり、消費電力の増加を最小限に抑制しています。ただし、ゾーン 2/ゾーン 3がオンの場合は点灯しません。

- HDMI CEC (→p134)
- HDMIスタンバイスルー (→p134)
- スタンバイ時のUSB電源供給 (→p136)
- ネットワークスタンバイ (→p137)
- Bluetoothによる起動 (→p137)

- ⑤ **リモコン受光部**: リモコンからの信号を受信します。
 - リモコンの受光範囲は距離が約5 m、角度は上下20°、左右30°以内です。
- ⑥ **MCACC PRO インジケータ**: MCACC (→p145, p164) で測定したスピーカー補正を有効にしている場合に点灯します。
- ⑦ **MASTER VOLUME**
- ⑧ **STANDBY/ON ボタン**: 電源をオンにするとボタンの周辺が点灯します。ZONE 2/ZONE 3をオンにしたときも点灯します。
- ⑨ **フロントドア**
- ⑩ **PHONES端子**: 標準プラグ (6.3 mm)のヘッドホンに接続します。
- ⑪ **SETUP MIC端子**: 付属の測定用マイクを接続します。(→p145, p164)
- ⑫ **USB 端子**: USBストレージを接続して音楽ファイルを再生します。スタンバイ時のUSB 機器への電源供給には対応していません。(→p106)
- ⑬ **AUX INPUT HDMI端子**: HDMIケーブルを使用して、ビデオカメラなどを接続します。(→p67)



前面パネル



- ⑭ **AV ADJUSTボタン**: 「HDMI」「Audio」などの設定を、再生中にテレビの画面ですばやく行うことができます。(→[p83](#))
- ⑮ **カーソル(+ / - / ← / →)、ENTERボタン**: カーソルで項目を選び、ENTERで決定します。
- ⑯ **STATUSボタン**: 表示部の情報を切り換えます。(→[p78](#))
- ⑰ **HOME MENU ボタン**: ホーム画面を表示します。(→[p115](#), [p144](#), [p152](#))
- ⑱ **RETURNボタン**: 設定中にひとつ前の表示に戻し

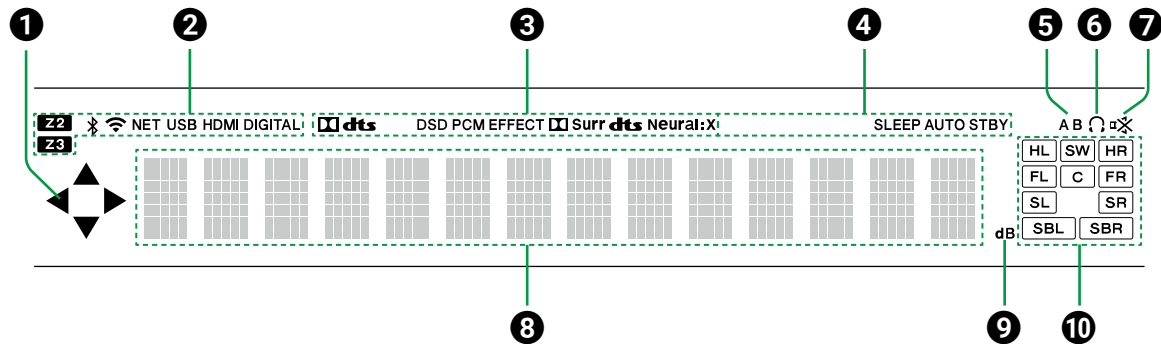
- ます。
- ⑲ **ZONE 2 ON/OFFボタン**: ZONE 2をオン/オフします。(→[p99](#))
- ⑳ **ZONE 3 ON/OFFボタン**: ZONE 3をオン/オフします。(→[p101](#))
- ㉑ **DIRAC LIVEボタン**: Dirac Liveの測定結果を保存したSlotを選択します。(→[p85](#))
- ㉒ **ZONE CONTROLボタン**: マルチゾーン機能の操作に使用します。(→[p98](#))
- ㉓ **DIMMERボタン**: 表示部を消灯したり、明るさを3段

階で切り換えることができます。

- ㉔ **リスニングモードボタン**: リスニングモード(→[p79](#))を切り換えます。
- ㉕ **PERSONAL PRESET 1/2/3 ボタン**: 現在の入力切替やリスニングモードなどの設定状態を登録したり、呼び出しをします。(→[p103](#))



表示部



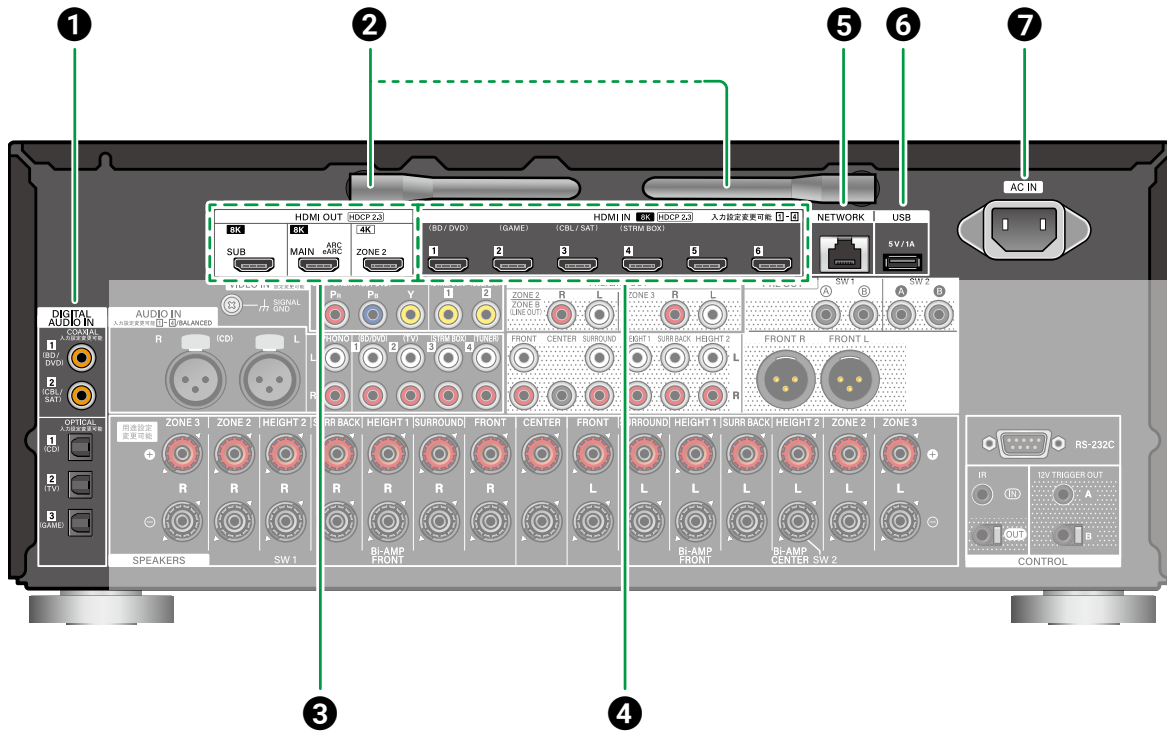
- ④ 次の状態のときに点灯します。
SLEEP: スリープタイマーが設定されているとき (→p136)
AUTO STBY: Auto Standbyが設定されているとき (→p136)
- ⑤ 音声の出力先を表示します。
A: ゾーン Aにのみ音声を出力しているとき
B: ゾーン Bにのみ音声を出力しているとき
AB: ゾーン Aとゾーン Bに音声を出力しているとき
- ⑥ ヘッドホン接続時に点灯します。
- ⑦ 消音中に点滅します。
- ⑧ 入力信号のさまざまな情報を表示します。
- ⑨ 音量の調整時に点灯します。
- ⑩ **スピーカー/チャンネル表示:** リスニングモードに対応した出力チャンネルを表示します。

- ① ▲/▼/◀/▶: 「NET」、「USB」入力切替での操作時に点灯することがあります。▲/▼は選択可能なフォルダやファイルが複数存在するときに点灯します。◀/▶は文字情報が「⑧」の範囲内に収まらない場合に点灯します。
- ② 次の状態のときに点灯します。
Z2/Z3: ゾーン 2/ゾーン 3がオンのとき
📶: BLUETOOTH接続時
📶: Wi-Fi接続時
NET: 「NET」入力切替でネットワークに接続され

- ているとき。ネットワークに正しく接続されていないときは点滅します。
USB: 「USB」入力切替でUSBが接続かつ選択されているとき。USBが正しく接続されていないときは点滅します。
HDMI: HDMI信号が入力かつ選択されているとき
DIGITAL: デジタル信号が入力かつ選択されているとき
- ③ 入力されているデジタル音声信号の種類やリスニングモードに応じて点灯します。

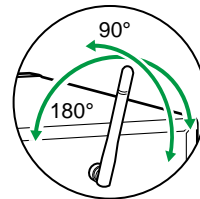


後面パネル



① DIGITAL AUDIO IN OPTICAL/COAXIAL端子:
光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルを使用して、テレビやAV機器のデジタル音声信号を入力します。

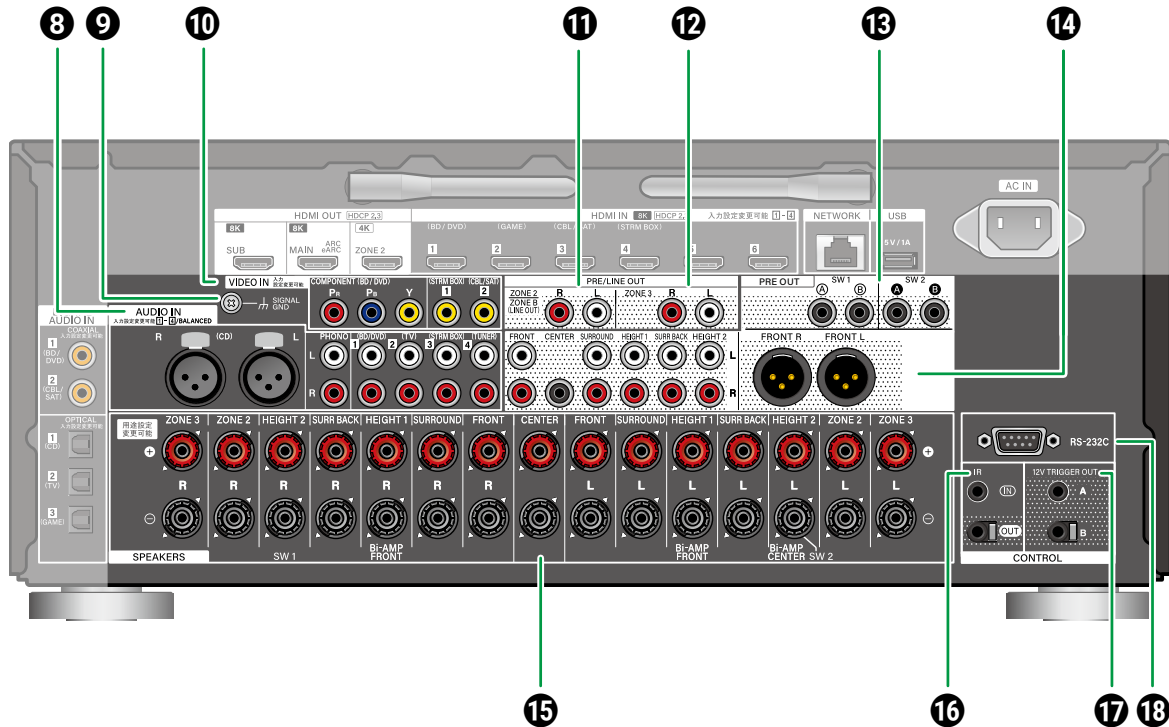
② 無線アンテナ: Wi-Fi接続を行う場合や、BLUETOOTH対応機器をご使用の場合に使用します。接続状況に応じて、アンテナの角度を調整してください。



- ③ HDMI OUT端子:** HDMIケーブルを使用してテレビやプロジェクターなどのモニターと接続し、映像信号や音声信号を伝送します。
- ④ HDMI IN端子:** HDMIケーブルを使用してAV機器と接続し、映像信号や音声信号を伝送します。
- ⑤ NETWORK 端子:** LANケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
- ⑥ USB 端子:** USBストレージを接続して音楽ファイルを再生します (→p106)。USBケーブルを使用して、USB機器への電源供給 (5 V/1 A) も可能です。
- ⑦ AC IN:** 付属の電源コードを接続します。



後面パネル



- 8 AUDIO IN 端子:** バランス型XLRケーブルやオーディオ用ピンケーブルを使用して、AV機器の音声信号を入力します。
- 9 SIGNAL GND 端子:** レコードプレーヤーのアース線を接続します。
- 10 COMPONENT VIDEO IN 端子:** コンポーネントビデオケーブルを使用して、AV機器の映像信号を入力します。(480i または 576i の解像度のみに対応しています。)
- VIDEO IN 端子:** ビデオ用ピンケーブルを使用し

て、AV機器の映像信号を入力します。

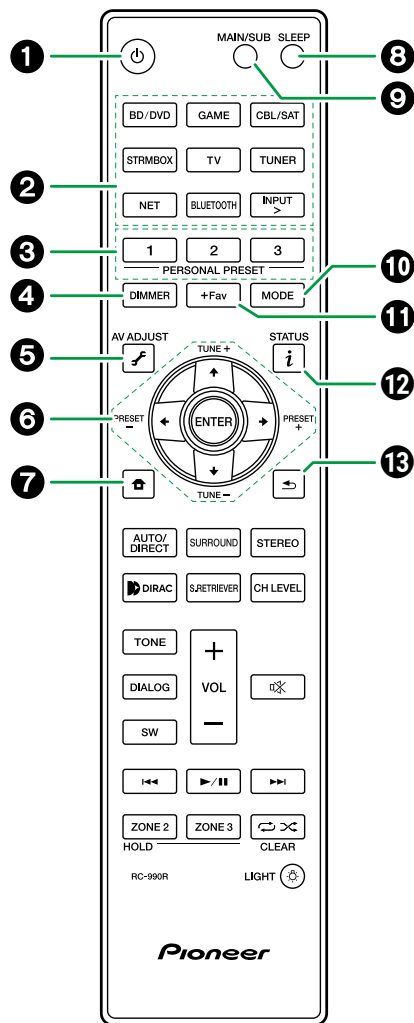
- 11 ZONE 2 PRE/LINE OUT 端子:** オーディオ用ピンケーブルを使用して、別室(ゾーン 2)のプリメインアンプやパワーアンプと接続し、音声信号を出力します。
- ZONE B LINE OUT 端子:** オーディオ用ピンケーブルを使用して、ワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーのトランスミッターなどと接続し、本機に接続したスピーカー(ゾーン A)と同じソースの音声を同時に出力します。
- 12 ZONE 3 PRE/LINE OUT 端子:** オーディオ用ピンケ

ーブルを使用して、別室(ゾーン 3)のプリメインアンプやパワーアンプと接続し、音声信号を出力します。

- 13 SUBWOOFER PRE OUT 端子:** サブウーファーケーブルを使用して、アンプ内蔵サブウーファーを接続します。詳しくは"サブウーファーを接続する" (→[p39](#))をご覧ください。
- 14 PRE OUT 端子:** パワーアンプを接続します。(→[p59](#))
- 15 SPEAKERS 端子:** スピーカーケーブルを使用して、スピーカーを接続します。(バナナプラグに対応しています。直径が4 mmのプラグをお使いください。Yプラグの接続には対応していません。)
- 16 IR IN/OUT 端子:** リモートコントロールレシーバユニットに接続する端子です。(→[p72](#))
- 17 12V TRIGGER OUT A/B 端子:** 12Vトリガー入力端子を持つ機器と接続し、その機器と本機を電源連動させる端子です。(→[p73](#))
- 18 RS-232C 端子:** RS-232C 端子を装備したホームコントロールシステムを接続する端子です。ホームコントロールシステムの導入については、専門の販売店にお問い合わせください。



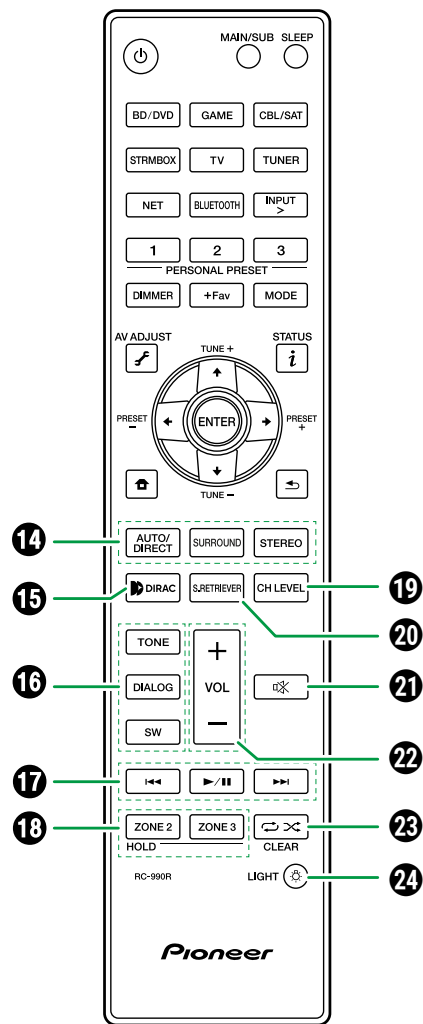
リモコン



- ① **STANDBY/ONボタン**
- ② **入力切替ボタン**: 再生する入力を切り換えます。
- ③ **PERSONAL PRESET 1/2/3 ボタン**: 現在の入力切替やリスニングモードなどの設定状態を登録したり、呼び出しをします。(→[p103](#))
- ④ **DIMMERボタン**: 表示部を消灯したり、明るさを3段階で切り換えることができます。
- ⑤ **f (AV ADJUST) ボタン**: 「HDMI」、「Audio」などの設定を、再生中にテレビの画面ですばやく行うことができます。(→[p83](#))
- ⑥ **カーソル、ENTER ボタン**: カーソルで項目を選び、ENTER で決定します。◀/▶ ボタンは、テレビの画面で音楽フォルダやファイルなどのリストが一面で表示されない場合に、画面を切り換えることができます。
- ⑦ **🏠 ボタン**: ホーム画面を表示します。(→[p115](#), [p144](#), [p152](#))
- ⑧ **SLEEPボタン**: 指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。「30分」、「60分」、「90分」、「オフ」から選びます。自動的にスタンバイ状態にしない場合は「オフ」を選びます。リモコンの🏠 ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「スリープタイマー」(→[p136](#)) から設定することもできます。
- ⑨ **HDMI MAIN/SUBボタン**: 映像信号を出力するHDMI OUT端子を「MAIN」、「SUB」、「MAIN+SUB」から選びます。
- ⑩ **MODEボタン**: 本機にHDMI CEC機能が有効なAV機器を接続している場合、⑦の再生操作ボタンを「CEC MODE」または「RCV MODE」(通常モード)に切り換えることができます。

- ⑪ **+Favボタン**: パスワードを入力するときに「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。
- ⑫ **i (STATUS)ボタン**: 表示部の情報を切り換えます。
- ⑬ **↶ ボタン**: 設定中にひとつ前の表示に戻します。





- 14 リスニングモード ボタン:** リスニングモード (→p79)を選びます。
- 15 DIRAC ボタン:** Dirac Liveの測定結果を保存した Slot を選択します。(→p85)
- 16 TONE/DIALOG/SWボタン:** スピーカーの音質やサブウーファーのレベルを調整することができます。
TONEボタン: スピーカーの音質を調整することができます。
1. TONEをくり返し押して、Treble、Bassのどちらか調整したい内容を選びます。
 Treble: スピーカーの高音域を強調したり、弱めたりします。
 Bass: スピーカーの低音域を強調したり、弱めたりします。
 2. +、-を押して調整します。
- DIALOGボタン:** 映画のセリフ部分や音楽のボーカルをより際立たせ、聴き取りやすくなります。特に映画のセリフ部分には有効です。またセンタースピーカーを用いない場合でもその効果を発揮します。「1」(低)～「5」(高)から、お好きなレベルをご利用ください。
1. DIALOGを押します。
 2. +、-を押して調整します。
- 入力ソースまたはリスニングモードの設定によっては、選択できない、もしくは望ましい効果を得ることができない場合があります。
- SWボタン:** 音声を聴きながら、サブウーファーのスピーカーレベルを調整します。
1. SWを押します。
 2. +、-を押して、「-15.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調整します。
- 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。
- 17 再生操作ボタン:** Music Server (→p108)やUSB再生 (→p106)の再生操作に使用します。また、10

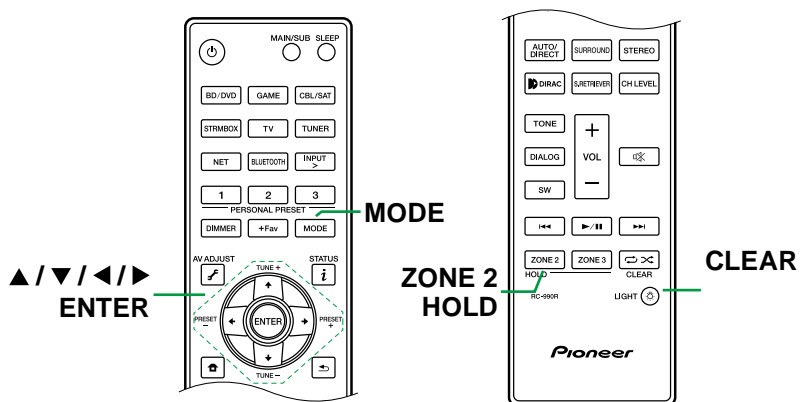
- のMODEボタンで「CEC MODE」に切り換えることができ、HDMI CEC機能が有効なAV機器を操作することができます。(機器によっては操作できない場合があります。)
- 18 ZONE 2/ZONE 3 HOLD ボタン:** マルチゾーン機能 (→p98)の操作に使用します。
- 19 CH SELボタン:** 各スピーカーの音量レベル (→p128)の設定を確認できます。6のカーソル◀/▶ボタンで設定を変更することもできます。
- 20 S.RETRIEVERボタン:** サウンドレトリバー (→p84)を有効にし、圧縮された音声をより良い音質にします。
- 21 MUTEボタン:** 一時的に消音します。もう一度押すと消音状態を解除できます。
- 22 ボリュームボタン**
- 23 再生/リピートボタン:** Music ServerやUSB再生時にリピート/ランダム再生の操作ができます。
- CLEAR ボタン:** テレビ画面での文字入力時に、入力した文字をすべて消去します。
- 24 (LIGHT)ボタン:** リモコンのバックライトをオン/オフします。また、オンにしたのち操作をせずに10秒経つと自動で消灯します。



文字を入力する

Wi-Fi Setup (→p153)のパスワードの入力など、文字や記号の入力をテレビ画面に表示したキーボードで行うことができます。

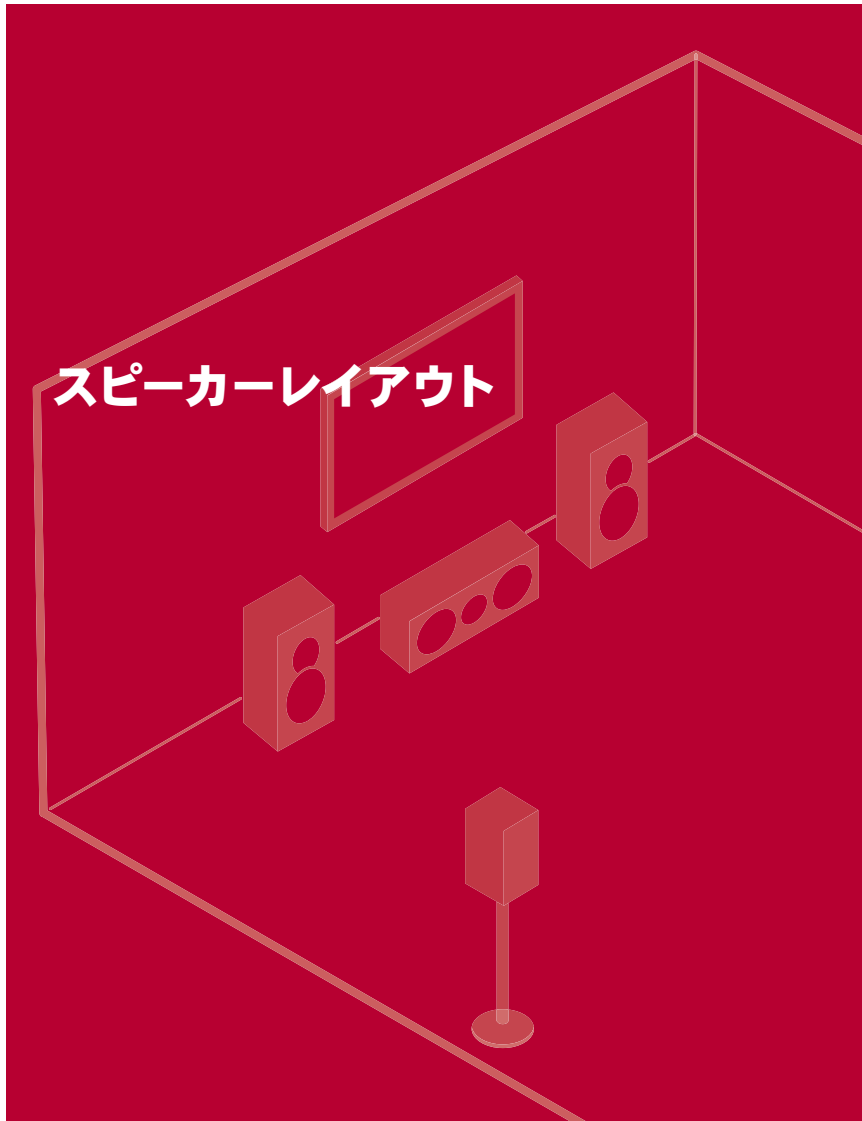
1. リモコンのカーソル ▲/▼/◀/▶ で文字・記号を選び、ENTERボタンを押します。
2. 入力を終えて、文字を保存するときは「OK」を選び、ENTERボタンを押します。



- 大文字/小文字の切り換えは「A/a」を選びます。(リモコンのMODEボタンでも切り換えることができます。)
- 1文字分スペースを入れるには、「□」を選びます。
- カーソルの左側の文字を1文字消去するには、「☒」を選びます。
- 入力した文字をすべて消去するには、リモコンのCLEARボタンを押します。
- ZONE 2の再生画面では、ZONE 2 HOLDボタンを押しながらリモコンを操作してください。入力した文字をすべて消去する場合は、ZONE 2 HOLDボタンは押さずにCLEARボタンだけを押してください。



本機は、設置するスピーカーのレイアウトを、さまざまなパターンの中から選ぶことができます。ご使用環境に合ったスピーカーレイアウトを選択して、設置や接続方法をご確認ください。



- [スピーカーレイアウト \(→p21\)](#)
- [スピーカーの設置 \(→p31\)](#)
- [スピーカーの接続 \(→p37\)](#)
- [スピーカーの組み合わせ一覧表 \(→p195\)](#)



5.1ch

7.1ch

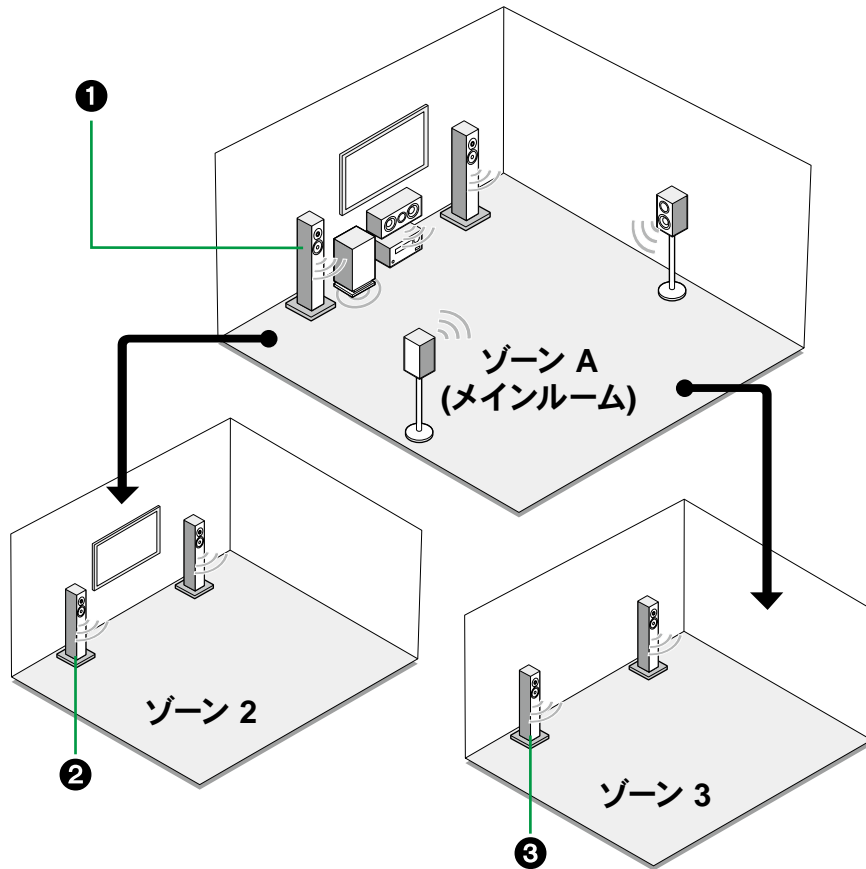
5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch

リスニングルームとスピーカーレイアウト



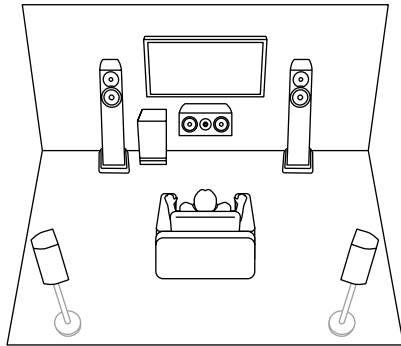
- ① ゾーン A スピーカー
メインルーム(本機のある部屋)に設置するスピーカーシステムです。
- ② ゾーン 2 スピーカー
別室(ゾーン 2)に設置する2チャンネルのスピーカーシステムです。メインルームと別室で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。
- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- ③ ゾーン 3 スピーカー
別室(ゾーン 3)に設置する2チャンネルのスピーカーシステムです。メインルームと別室で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

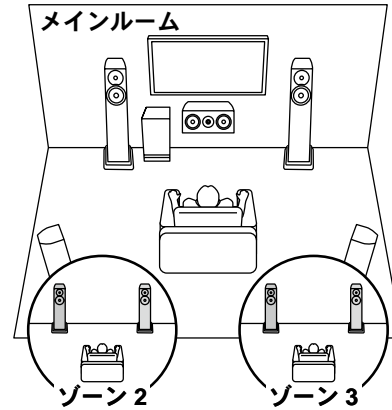


5.1 チャンネルシステム 基本となる5.1チャンネルシステムです。

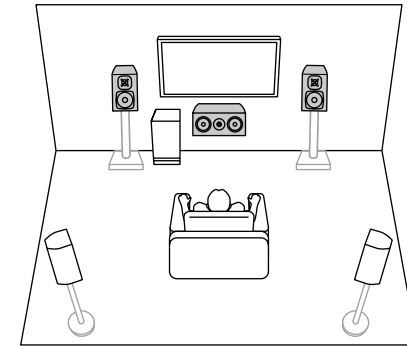
基本システム (→p32)



5.1 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3
(→p32)



5.1 チャンネル (バイアンプ対応 (フロント/センター)) (→p32)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

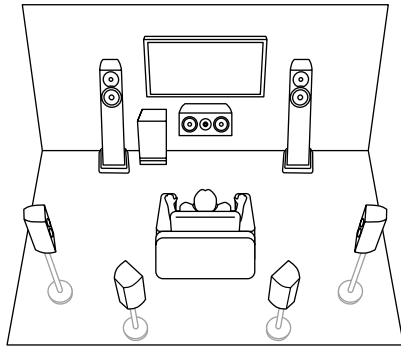
5.1.4ch

7.1.4ch

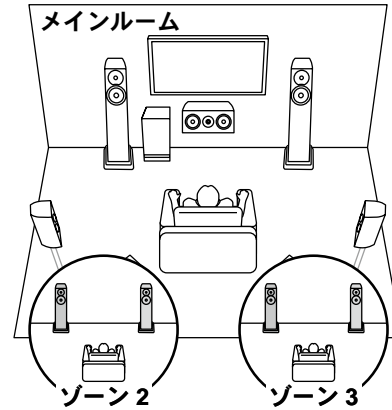


7.1 チャンネルシステム 基本となる5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。

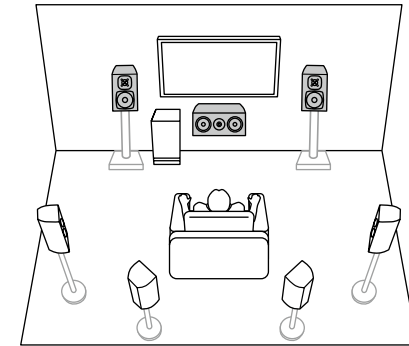
基本システム (→p32)



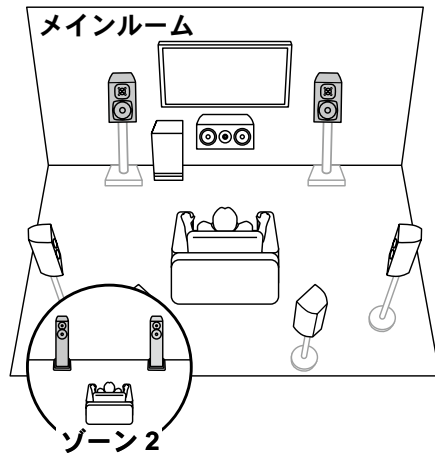
7.1チャンネル + ゾーン 2/ゾーン3 (→p32)



7.1チャンネル (バイアンプ対応 (フロント/センター)) (→p32)



7.1チャンネル (バイアンプ対応 (フロント)) + ゾーン 2 (→p32)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

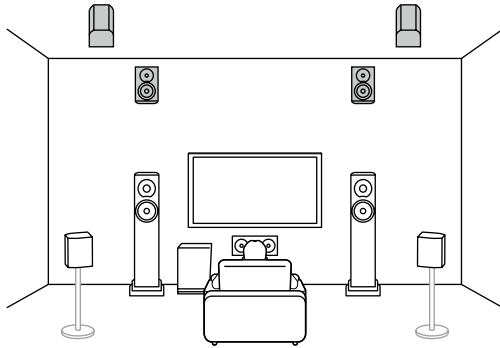
5.1.4ch

7.1.4ch

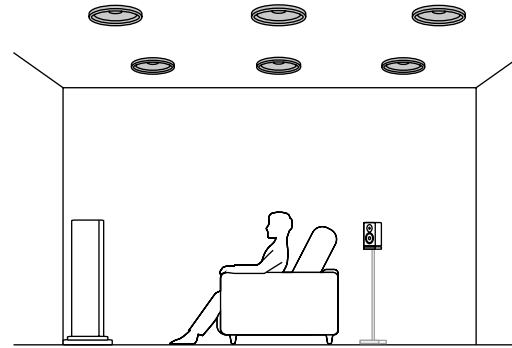


5.1.2 チャンネルシステム 5.1 チャンネルシステムに、ハイトスピーカーを1組み組み合わせたスピーカーシステムです。

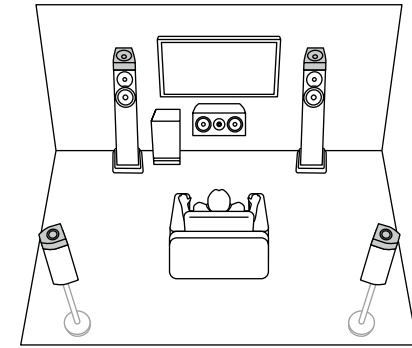
5.1.2 チャンネル (フロントハイまたはリアハイ)
(→p33)



5.1.2 チャンネル (トップフロント、トップミドル
またはトップリア) (→p33)

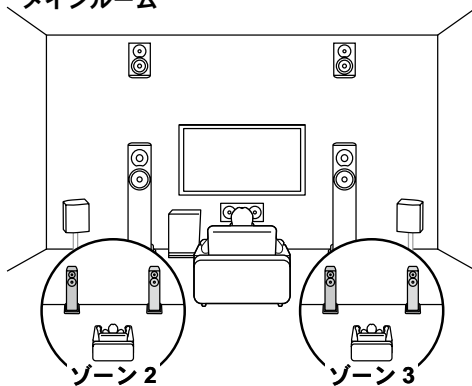


5.1.2 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー(フロントまたはサラウンド)) (→p33)

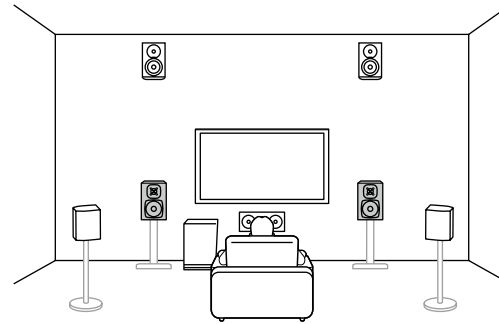


5.1.2 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3
(→p33)

メインルーム



5.1.2 チャンネル (パイアンプ対応 (フロント))
(→p33)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

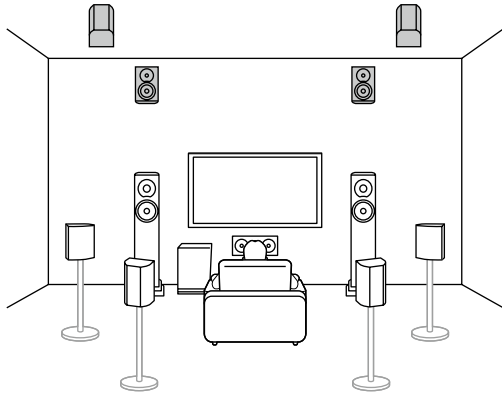
5.1.4ch

7.1.4ch

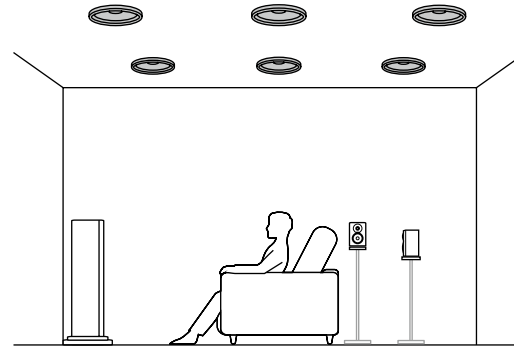


7.1.2 チャンネルシステム 7.1 チャンネルシステムに、ハイトスピーカーを1組み組み合わせたスピーカーシステムです。

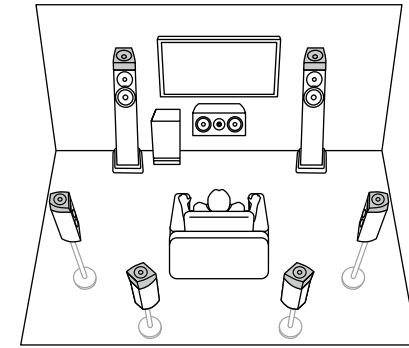
7.1.2 チャンネル (フロントハイまたはリアハイ)
(→p34)



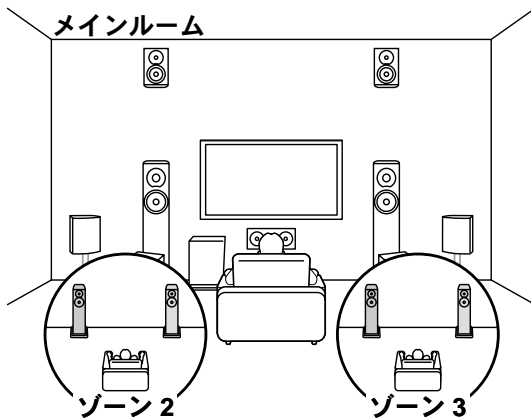
7.1.2 チャンネル (トップフロント、トップミドル
またはトップリア) (→p34)



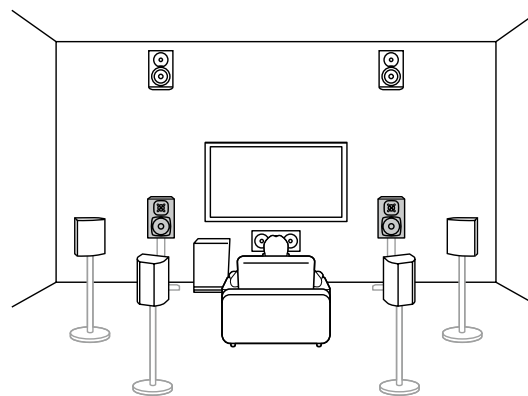
7.1.2 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー (フロント、
サラウンドまたはサラウンドバック)) (→p34)



7.1.2 チャンネル + ゾーン 2 / ゾーン 3
(→p34)



7.1.2 チャンネル (バイアンプ対応 (フロント))
(→p34)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

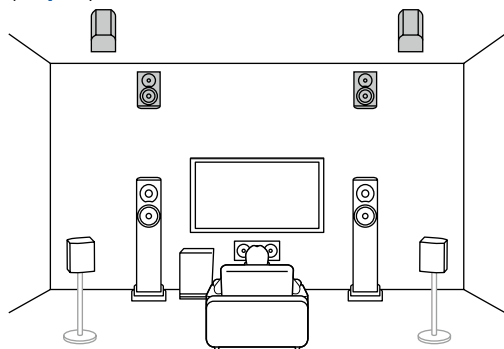
5.1.4ch

7.1.4ch

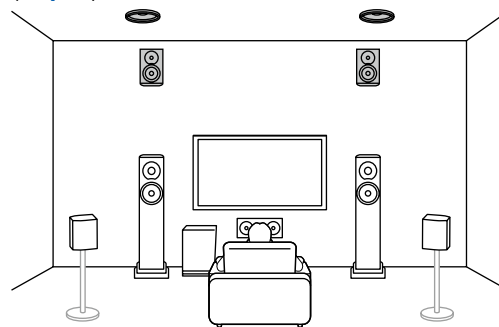


5.1.4 チャンネルシステム 5.1 チャンネルシステムに、ハイトスピーカーを2組み組み合わせたスピーカーシステムです。

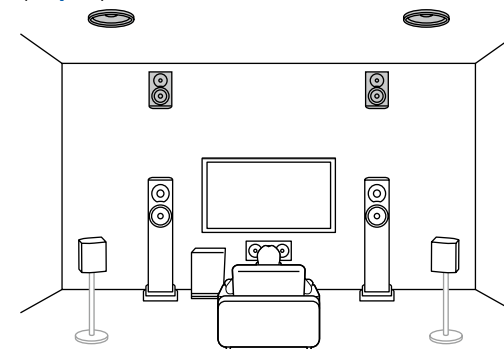
5.1.4 チャンネル (フロントハイとリアハイ)
(→p35)



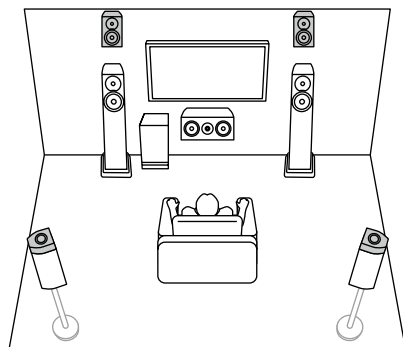
5.1.4 チャンネル (フロントハイとトップミドル)
(→p35)



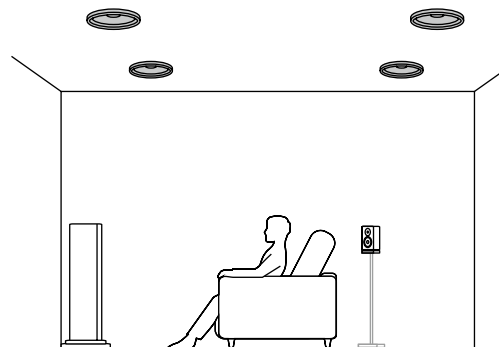
5.1.4 チャンネル (フロントハイとトップリア)
(→p35)



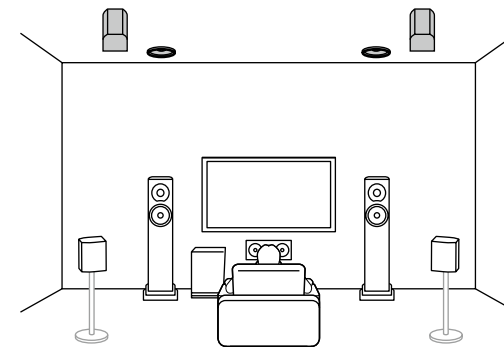
5.1.4 チャンネル (フロントハイとDolby Enabled
スピーカー (サラウンド)) (→p35)



5.1.4 チャンネル (トップフロントとトップリア)
(→p35)



5.1.4 チャンネル (トップフロントとリアハイ)
(→p35)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

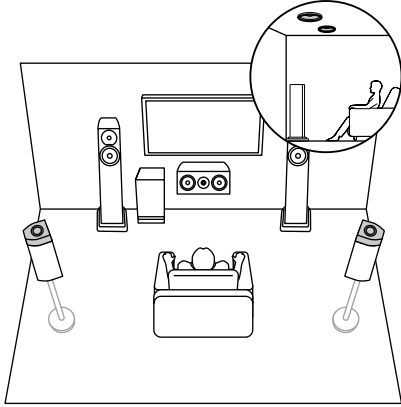
5.1.4ch

7.1.4ch

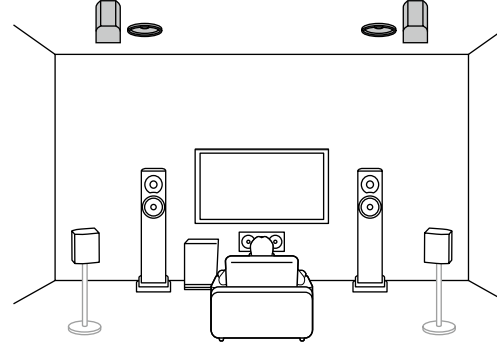


5.1.4 チャンネルシステム

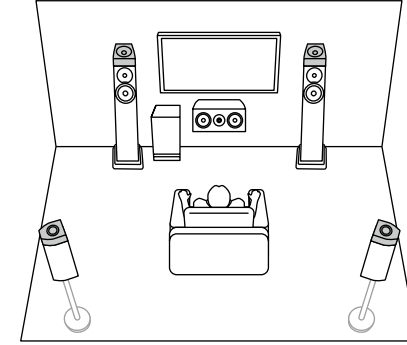
5.1.4 チャンネル (トップフロントと Dolby Enabledスピーカー (サラウンド)) (→p35)



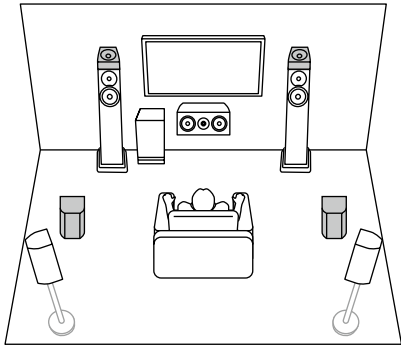
5.1.4 チャンネル (トップミドルとリアハイ) (→p35)



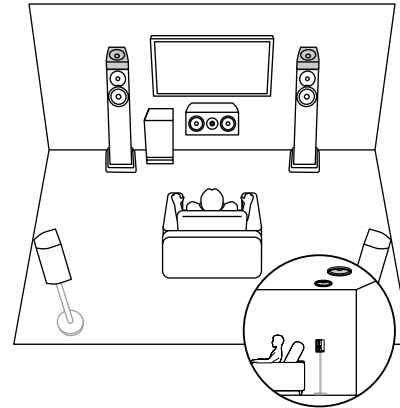
5.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー (フロントとサラウンド)) (→p35)



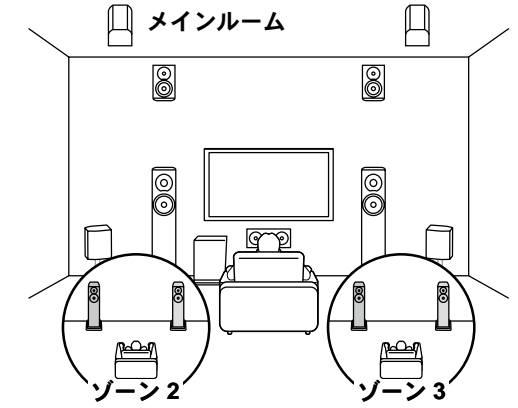
5.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー (フロント)とリアハイ) (→p35)



5.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー (フロント)とトップリア) (→p35)



5.1.4 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3 (→p35)



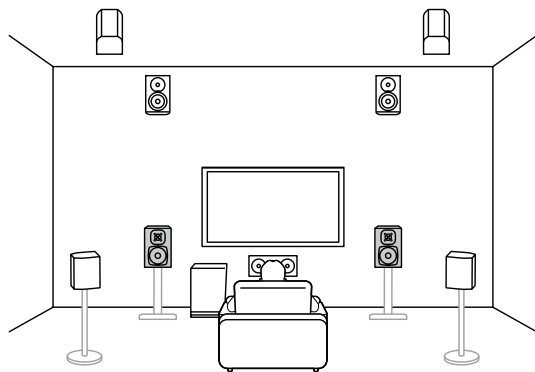
- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



5.1.4 チャンネルシステム

5.1.4 チャンネル (バイアンプ対応 (フロント))

(→[p35](#))

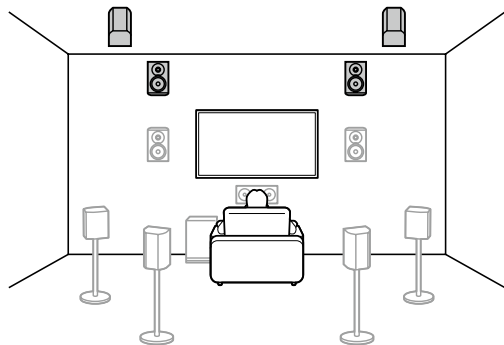


- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

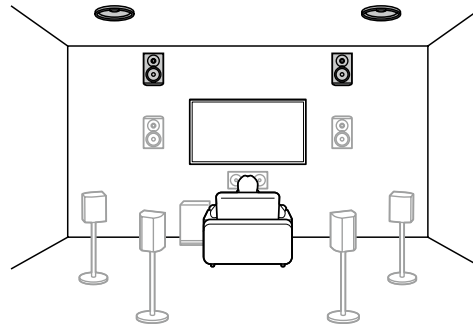


7.1.4 チャンネルシステム 7.1 チャンネルシステムに、ハイトスピーカーを2組み組み合わせたSpeaker Systemです。

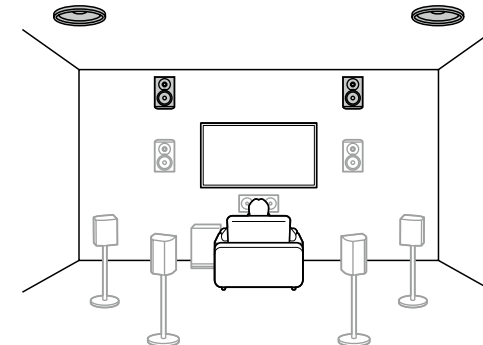
7.1.4 チャンネル (フロントハイとリアハイ)
(→p36)



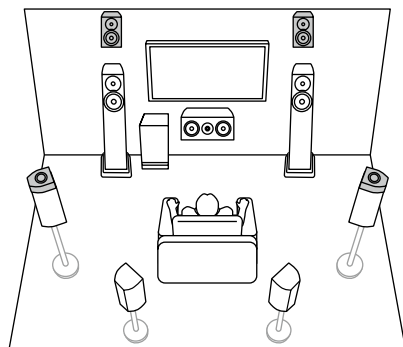
7.1.4 チャンネル (フロントハイとトップミドル)
(→p36)



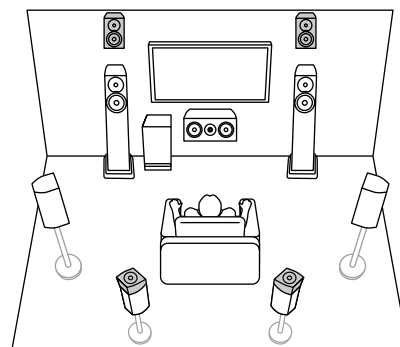
7.1.4 チャンネル (フロントハイとトップリア)
(→p36)



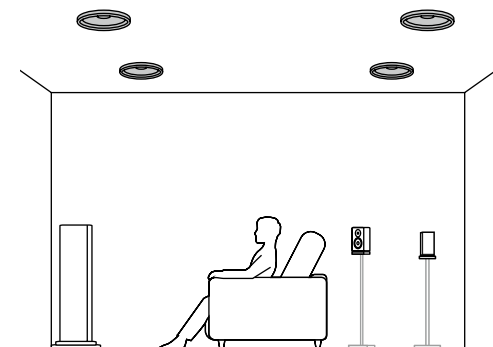
7.1.4 チャンネル (フロントハイとDolby Enabled
スピーカー (サラウンド)) (→p36)



7.1.4 チャンネル (フロントハイとDolby Enabled
スピーカー (サラウンドバック)) (→p36)



7.1.4 チャンネル (トップフロントとトップリア)
(→p36)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

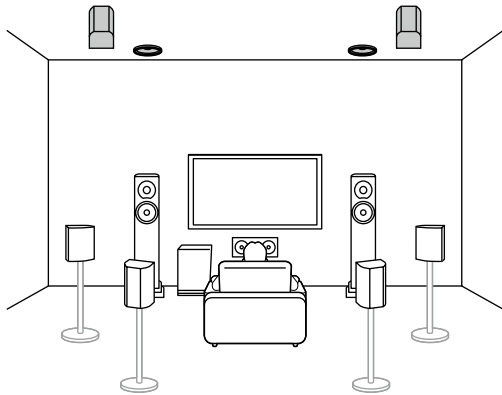
5.1.4ch

7.1.4ch

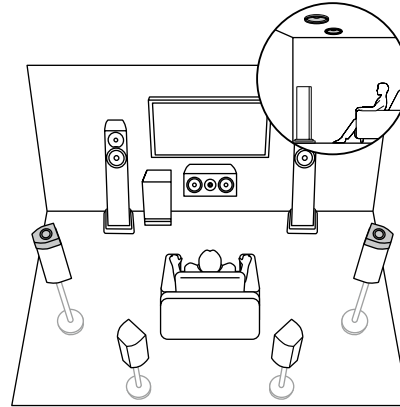


7.1.4 チャンネルシステム

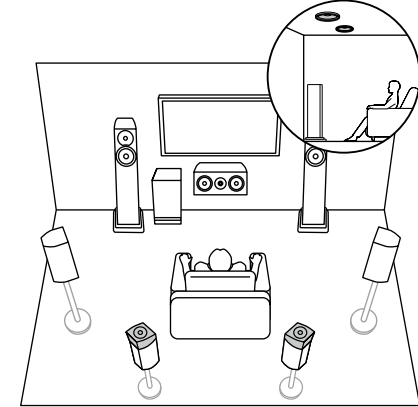
7.1.4 チャンネル (トップフロントとリアハイ)
(→p36)



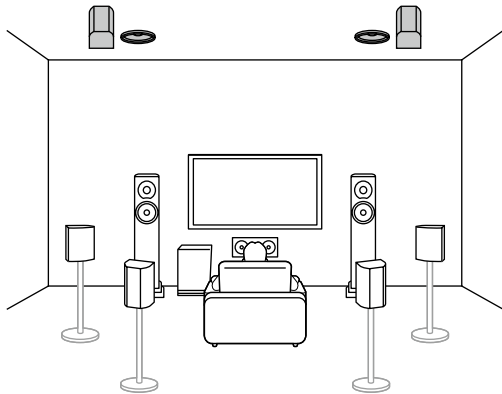
7.1.4 チャンネル (トップフロントとDolby Enabledスピーカー (サラウンド)) (→p36)



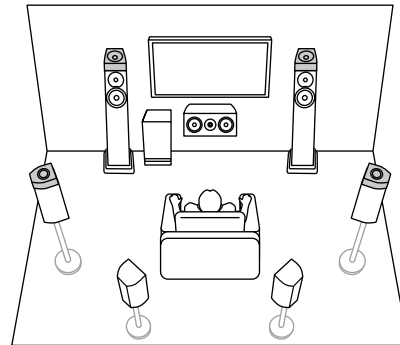
7.1.4 チャンネル (トップフロントとDolby Enabledスピーカー (サラウンドバック)) (→p36)



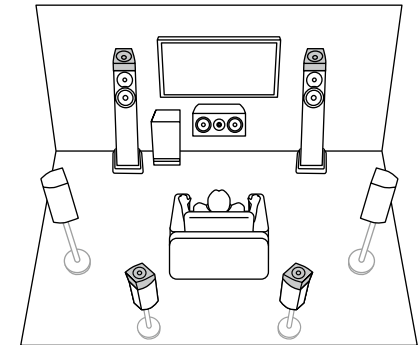
7.1.4 チャンネル (トップミドルとリアハイ)
(→p36)



7.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー (フロントとサラウンド)) (→p36)



7.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー (フロントとサラウンドバック)) (→p36)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

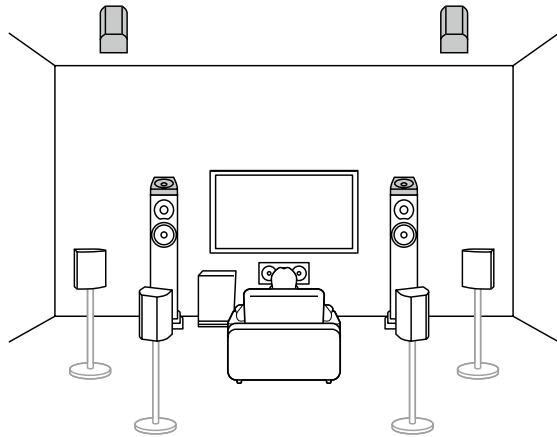
5.1.4ch

7.1.4ch

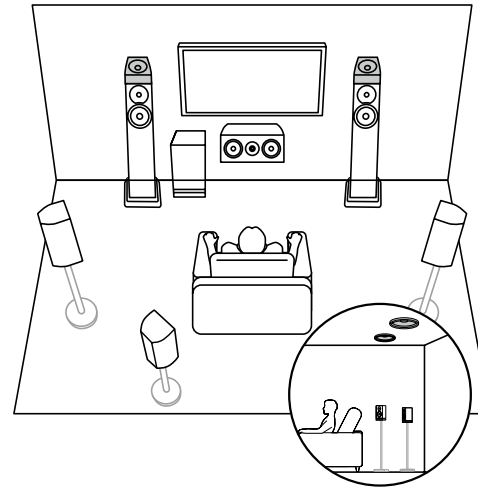


7.1.4 チャンネルシステム

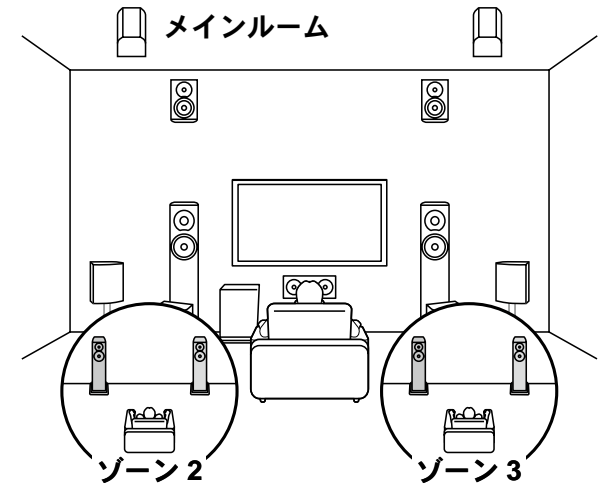
7.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー(フロント)とリアハイ) (→p36)



7.1.4 チャンネル (Dolby Enabledスピーカー(フロント)とトワップリア) (→p36)



7.1.4 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3 (→p36)



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch





スピーカーの設置方法

スピーカーの設置方法は、部屋の大きさや形などによって異なりますが、ここでは基本的な配置例を紹介します。

本章で記載しているアルファベットは、以下のスピーカーを表します。

FL / FR	フロントスピーカー左/右 (Front speaker Left/Right)
C	センタースピーカー (Center speaker)
SW	サブウーファー (SubWoofer)
SL / SR	サラウンドスピーカー左/右 (Surround speaker Left/Right)
SBL / SBR	サラウンドバックスピーカー左/右 (Surround Back speaker Left/Right)
FHL / FHR	フロントハイスピーカー左/右 (Front High speaker Left/Right)
RHL / RHR	リアハイスピーカー左/右 (Rear High speaker Left/Right)
TFL / TFR	トップフロントスピーカー左/右 (Top Front speaker Left/Right)
TML / TMR	トップミドルスピーカー左/右 (Top Middle speaker Left/Right)
TRL / TRR	トップリアスピーカー左/右 (Top Rear speaker Left/Right)
DFL / DFR	Dolby Enabledスピーカーフロント左/右 (Dolby enabled speaker フロント左/Right)
DSL / DSR	Dolby Enabledスピーカーサラウンド左/右 (Dolby enabled speaker サラウンド 左/Right)
DSBL/ DSBR	Dolby Enabledスピーカーサラウンドバック左/右 (Dolby enabled speaker Surround Back Left/Right)

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

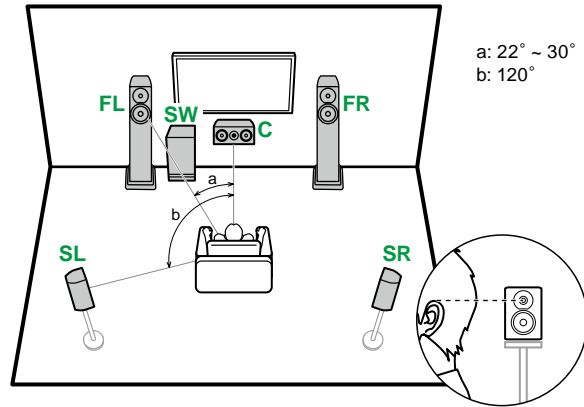
7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch



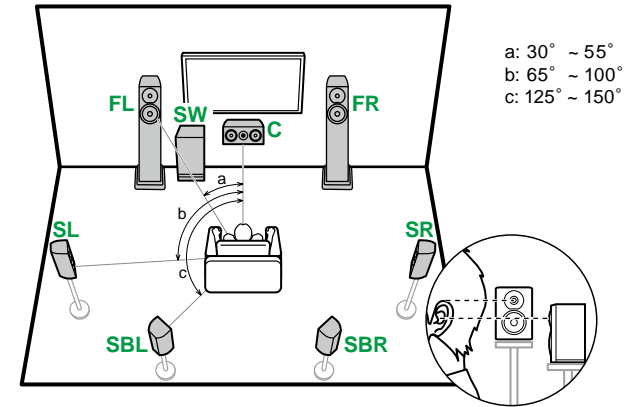
■ 5.1 チャンネルシステム



- FL、FR** フロントスピーカーの左と右は耳の高さに合わせて設置します。
C センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。
SW アンプ内蔵サブウーファーはセンタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置します。
SL、SR サラウンドスピーカーの左と右は耳の高さのちょうど上に設置します。

- 5.1 チャンネル 接続 (→[p40](#))
- 5.1 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3接続 (→[p41](#))
- 5.1 チャンネル (バイアンプ対応(フロント/センター))接続 (→[p42](#))

■ 7.1 チャンネルシステム



- FL、FR** フロントスピーカーの左と右は耳の高さに合わせて設置します。
C センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。
SW アンプ内蔵サブウーファーはセンタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置します。
SL、SR サラウンドスピーカーの左と右は耳の高さのちょうど上に設置します。
SBL、SBR サラウンドバックスピーカーの左と右は耳の高さに設置します。
 ・サラウンドバックスピーカーを設置する場合、サラウンドスピーカーの設置は必須です。

- 7.1 チャンネル 接続 (→[p43](#))
- 7.1 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3接続 (→[p44](#))
- 7.1 チャンネル (バイアンプ対応(フロント/センター))接続 (→[p45](#))
- 7.1 チャンネル (バイアンプ対応 (フロント)) + ゾーン 2接続 (→[p46](#))

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

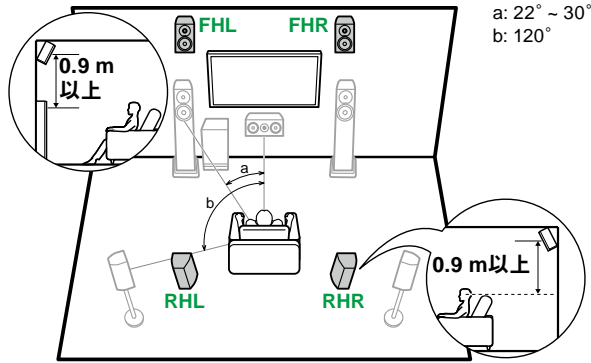
5.1.4ch

7.1.4ch



■ 5.1.2 チャンネルシステム

ハイスピーカー

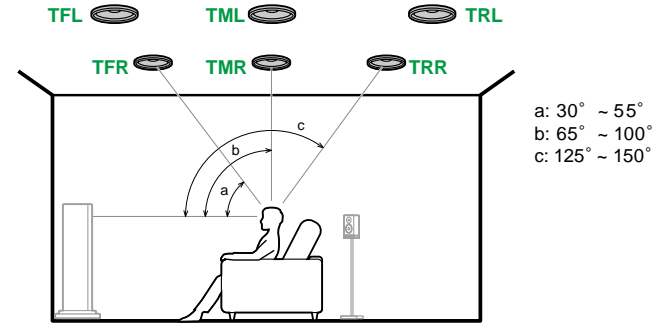


FHL, FHR フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの真上に設置して、視聴者に向くよう角度をつけます。

RHL, RHR リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーに合わせ、視聴者に向くよう角度をつけます。

- 5.1.2 チャンネル 接続 (→p47)
- 5.1.2 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3接続 (→p48)
- 5.1.2 チャンネル (バイアンプ対応(フロント)) 接続 (→p49)

トップスピーカー



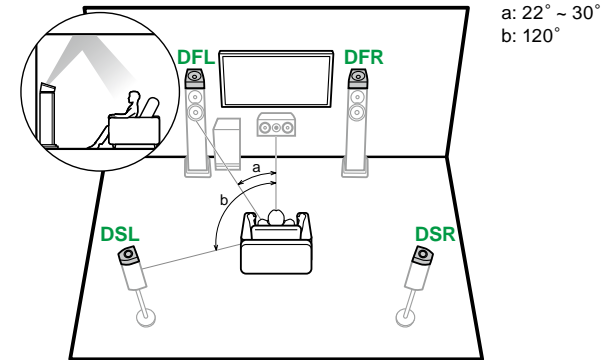
TFL, TFR トップフロントスピーカーは視聴位置の前方の天井に取り付けます。

TML, TMR トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。

TRL, TRR トップリアスピーカーは視聴位置の後方の天井に取り付けます。

- トップスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせます。

Dolby Enabledスピーカー



DFL, DFR Dolby Enabledスピーカー(フロント)はフロントスピーカーの上に設置します。

DSL, DSR Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)はサラウンドスピーカーの上に設置します。

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

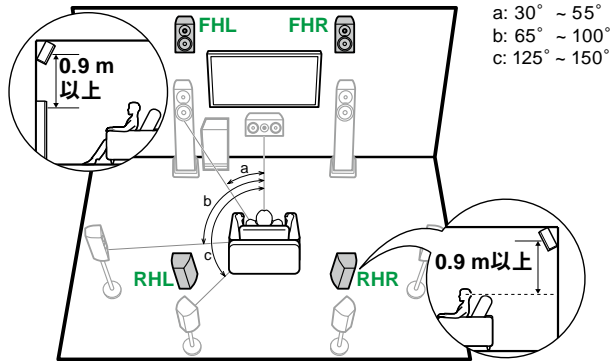
5.1.4ch

7.1.4ch



7.1.2 チャンネルシステム

ハイスピーカー

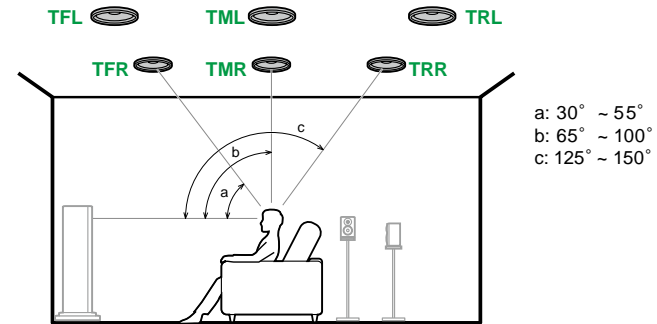


FHL, FHR フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの真上に設置して、視聴者に向くよう角度をつけます。

RHL, RHR リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーに合わせ、視聴者に向くよう角度をつけます。

- 7.1.2 チャンネル 接続 (→p50)
- 7.1.2 チャンネル + ゾーン 2接続 (→p51)
- 7.1.2 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3接続 (→p52)
- 7.1.2 チャンネル (バイアンプ対応(フロント)) 接続 (→p53)

トップスピーカー



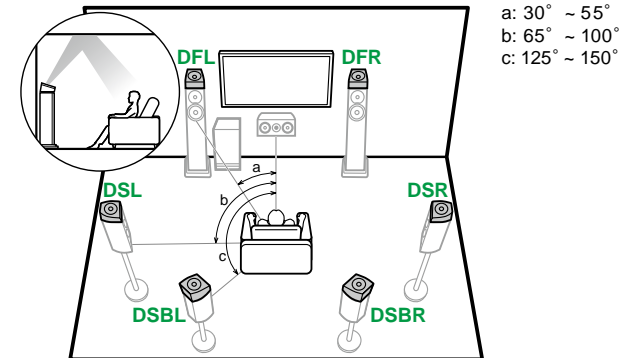
TFL, TFR トップフロントスピーカーは視聴位置の前方の天井に取り付けます。

TML, TMR トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。

TRL, TRR トップリアスピーカーは視聴位置の後方の天井に取り付けます。

- トップスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせます。

Dolby Enabledスピーカー



DFL, DFR Dolby Enabledスピーカー(フロント)はフロントスピーカーの上に設置します。

DSL, DSR Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)はサラウンドスピーカーの上に設置します。

DSBL, DSBR Dolby Enabledスピーカー(サラウンドバック)はサラウンドバックスピーカーの上に設置します。

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

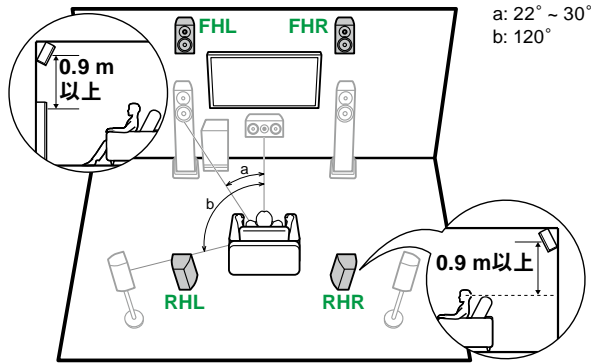
5.1.4ch

7.1.4ch



■ 5.1.4 チャンネルシステム

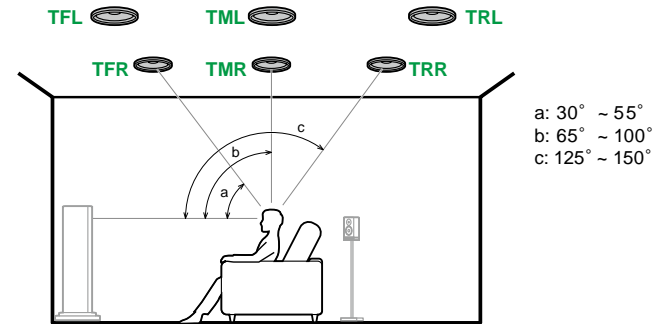
ハイスピーカー



FHL, FHR フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの真上に設置して、視聴者に向くよう角度をつけます。

RHL, RHR リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーに合わせ、視聴者に向くよう角度をつけます。

トップスピーカー



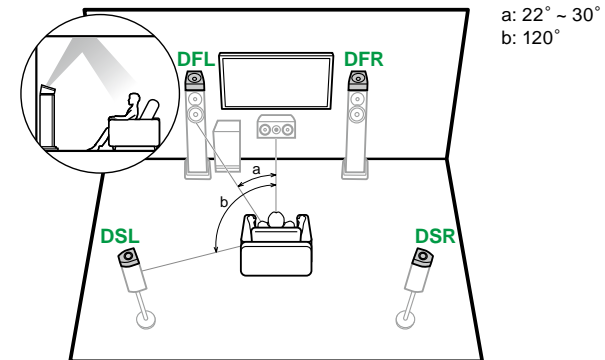
TFL, TFR トップフロントスピーカーは視聴位置の前方の天井に取り付けます。

TML, TMR トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。

TRL, TRR トップリアスピーカーは視聴位置の後方の天井に取り付けます。

- トップスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせます。

Dolby Enabledスピーカー



DFL, DFR Dolby Enabledスピーカー(フロント)はフロントスピーカーの上に設置します。

DSL, DSR Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)はサラウンドスピーカーの上に設置します。

- 5.1.4 チャンネル 接続 (→p54)
- 5.1.4 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3接続 (→p55)
- 5.1.4 チャンネル (バイアンプ対応(フロント)) 接続 (→p56)

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

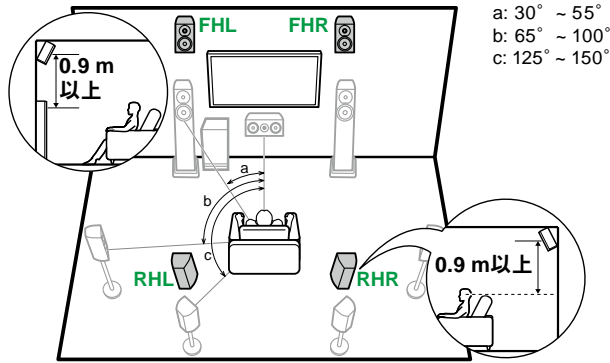
5.1.4ch

7.1.4ch



7.1.4 チャンネルシステム

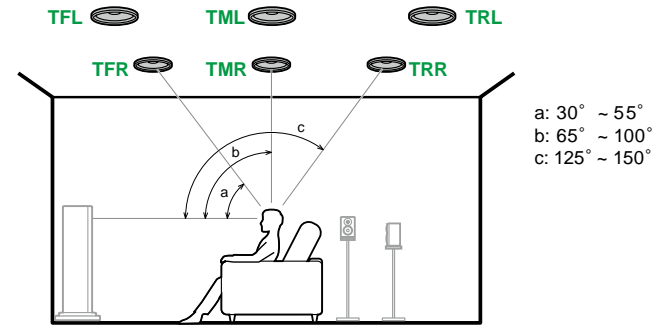
ハイスピーカー



FHL, FHR フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの真上に設置して、視聴者に向くよう角度をつけます。

RHL, RHR リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーに合わせ、視聴者に向くよう角度をつけます。

トップスピーカー



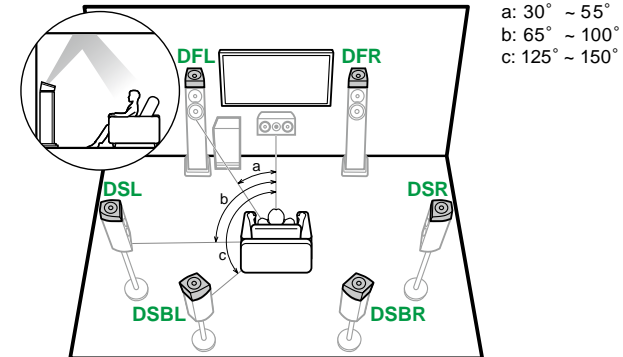
TFL, TFR トップフロントスピーカーは視聴位置の前方の天井に取り付けます。

TML, TMR トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。

TRL, TRR トップリアスピーカーは視聴位置の後方の天井に取り付けます。

- トップスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせます。

Dolby Enabledスピーカー



DFL, DFR Dolby Enabledスピーカー(フロント)はフロントスピーカーの上に設置します。

DSL, DSR Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)はサラウンドスピーカーの上に設置します。

DSBL, DSBR Dolby Enabledスピーカー(サラウンドバック)はサラウンドバックスピーカーの上に設置します。

■ 7.1.4 チャンネル 接続 (→p57)

■ 7.1.4 チャンネル + ゾーン 2/ゾーン 3接続 (→p58)

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

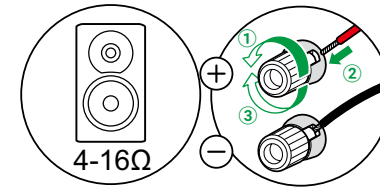
5.1.4ch

7.1.4ch



スピーカーを接続する

(はじめにお読みください)
本機で使用できるスピーカーとケーブルの接続について 38



サブウーファーを接続する	39
5.1 チャンネルシステム	40、41、42
7.1 チャンネルシステム	43、44、45、46
5.1.2 チャンネルシステム	47、48、49
7.1.2 チャンネルシステム	50、51、52、53
5.1.4 チャンネルシステム	54、55、56
7.1.4 チャンネルシステム	57、58
パワーアンプを接続する	59

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch




本機で使用できるスピーカーとケーブルの接続について

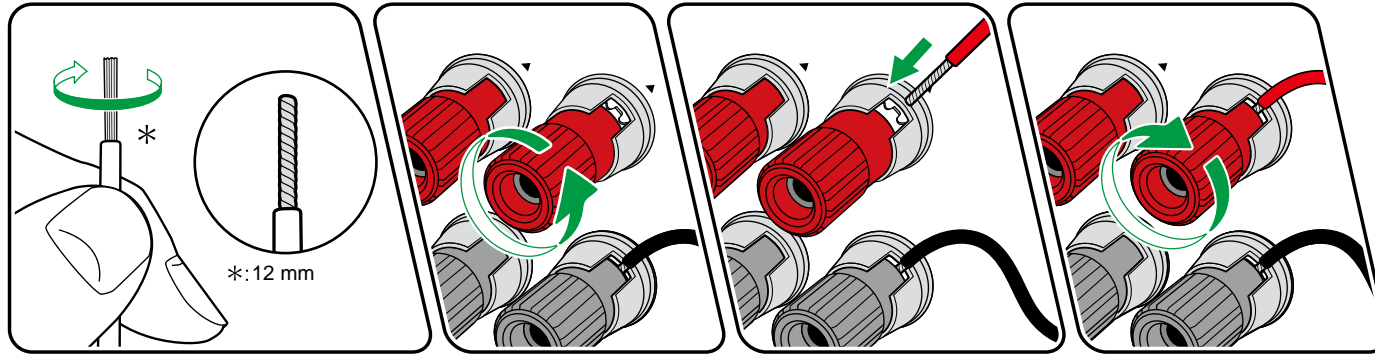
■ 本機で使用できるスピーカー

本機はスピーカーのインピーダンスが4~16 Ωのスピーカーに対応しています。スピーカーのインピーダンスについては、使用するスピーカーの取扱説明書をご確認ください。

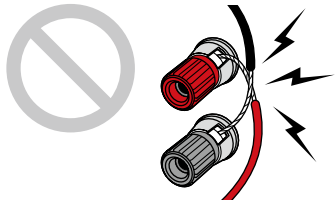
■ (ご注意)スピーカーインピーダンスについて

接続するスピーカーの中に4 Ω 以上6 Ω 未満のスピーカーが1 台でもあるときは、初期設定 (→p159)の「スピーカー設定」で「インピーダンス」を「4オーム」に設定してください。システム設定メニューから「インピーダンス」を設定する場合は、リモコンの  ボタンを押して表示されるホームから「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「インピーダンス」(→p125)を「4オーム」に設定してください。

■ スピーカーケーブルを接続する



本機の端子の+側とスピーカーの+側を、-側は-側とを、チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違っていると、位相が逆になり低音が出にくくなります。スピーカーケーブル先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+側と-側が接触すると故障の原因となることがあります。



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

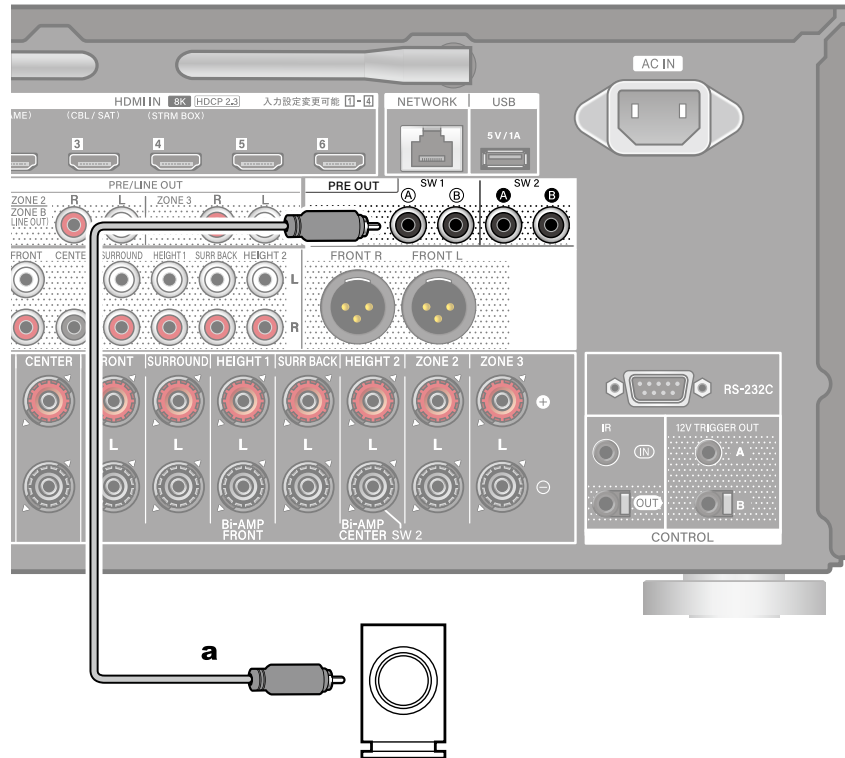
7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch



サブウーファーを接続する



サブウーファーケーブル を使用して、本機とアンプ内蔵サブウーファーを接続します。

- アンプ内蔵サブウーファーは4台まで接続可能です。
- SW 1 端子とSW 2 端子からは異なる信号が出力されます。また音量レベルも個別に設定できます。(→[p128](#))
- SW 1 端子の「A」と「B」からは同じ信号が出力されます。SW 2 端子も同じ仕様です。

a サブウーファーケーブル



5.1ch

7.1ch

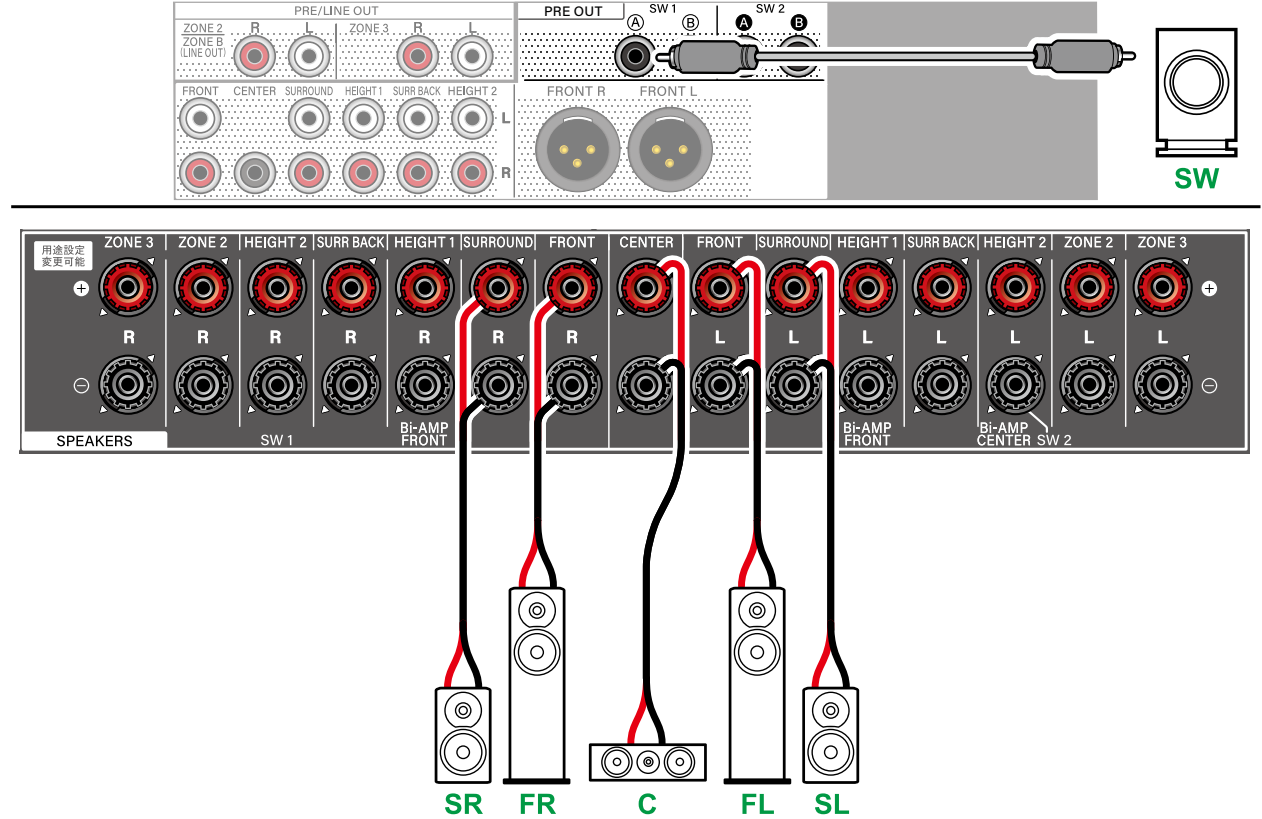
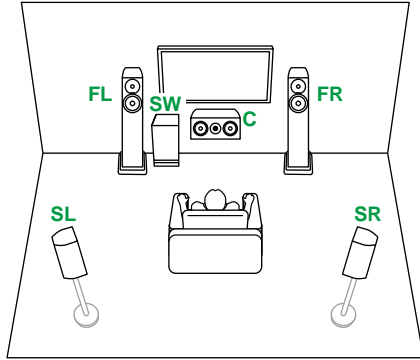
5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch

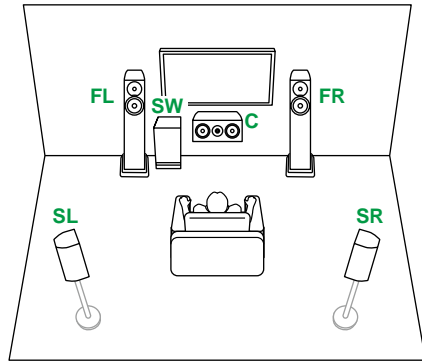
■ 5.1 チャンネルシステム



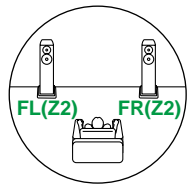
- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

■ 5.1 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2/ゾーン 3)

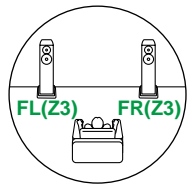
メインルーム



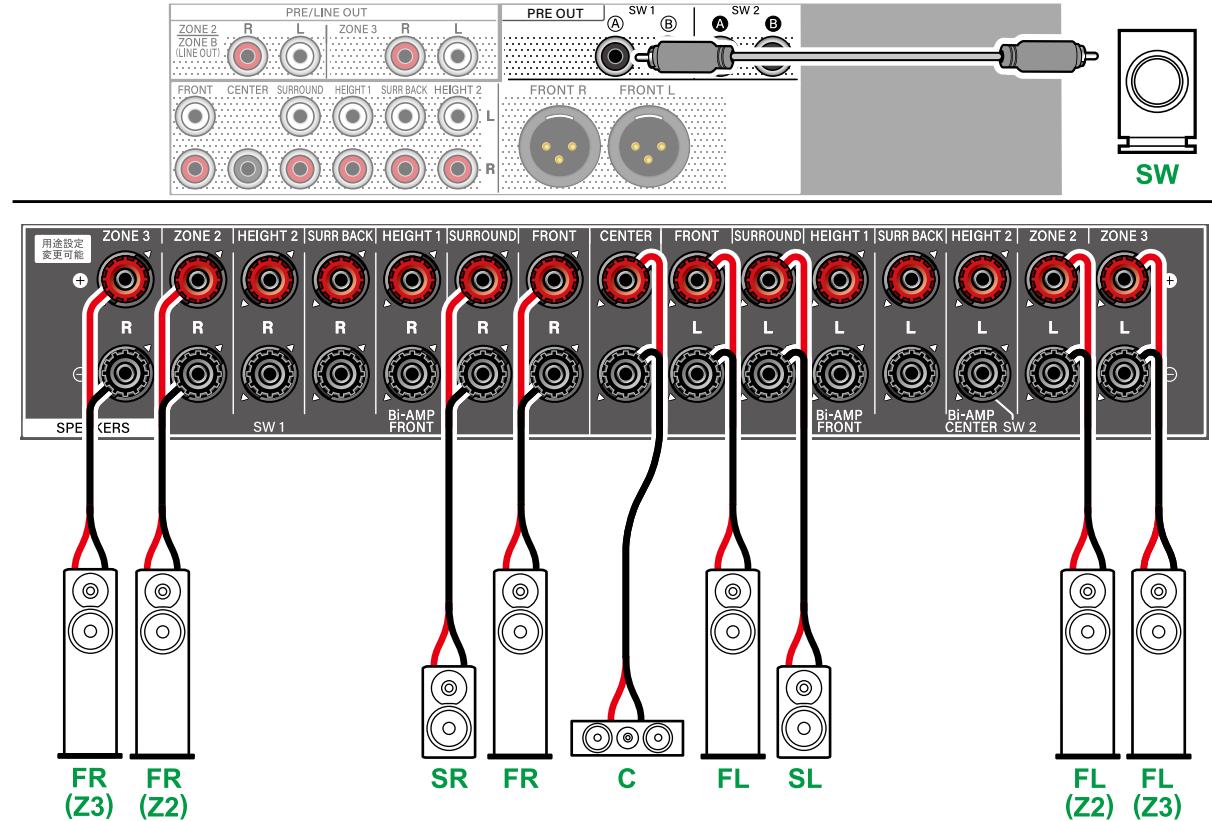
ゾーン 2



ゾーン 3



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)



5.1ch

7.1ch

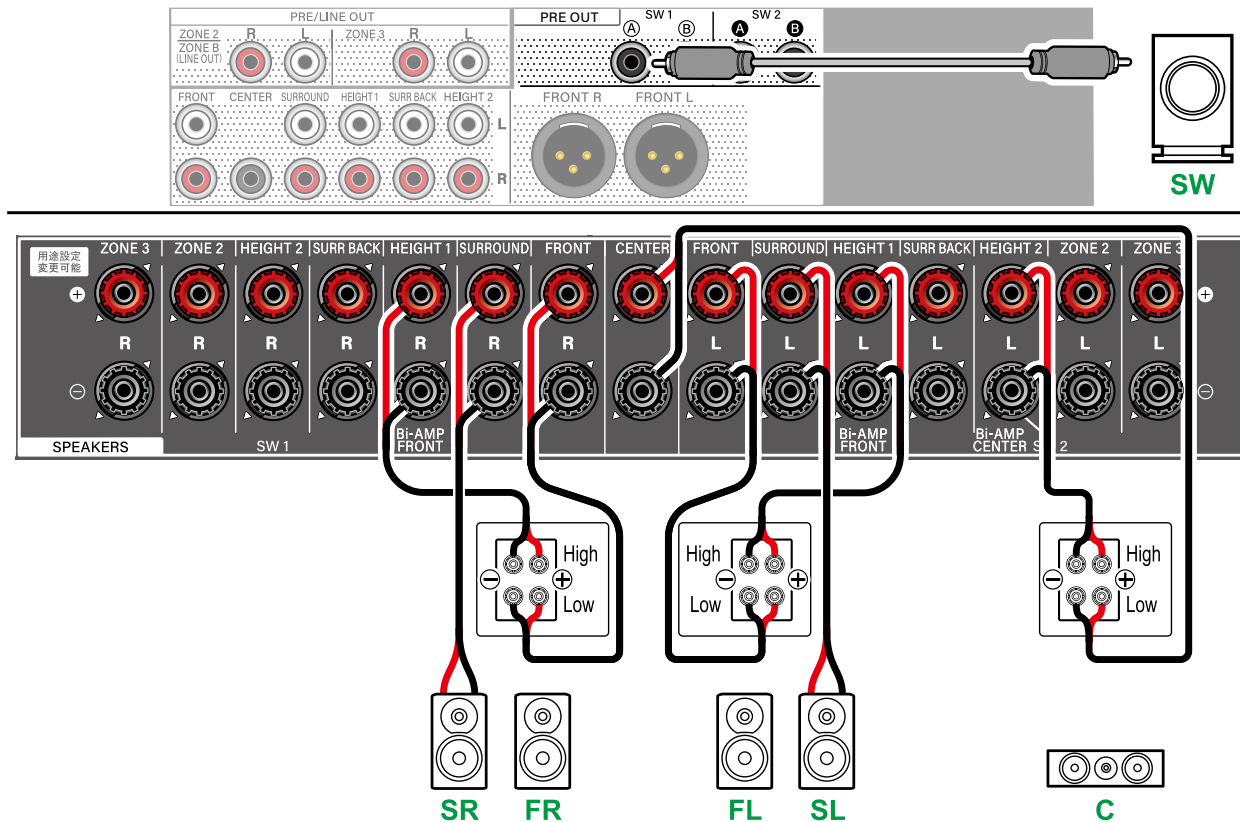
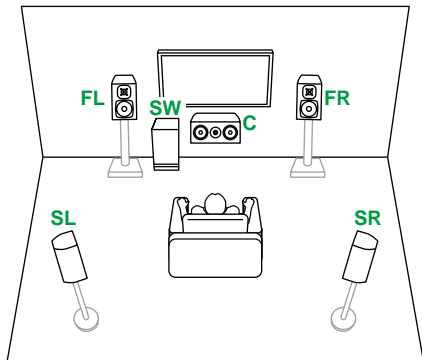
5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch

■ 5.1 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)

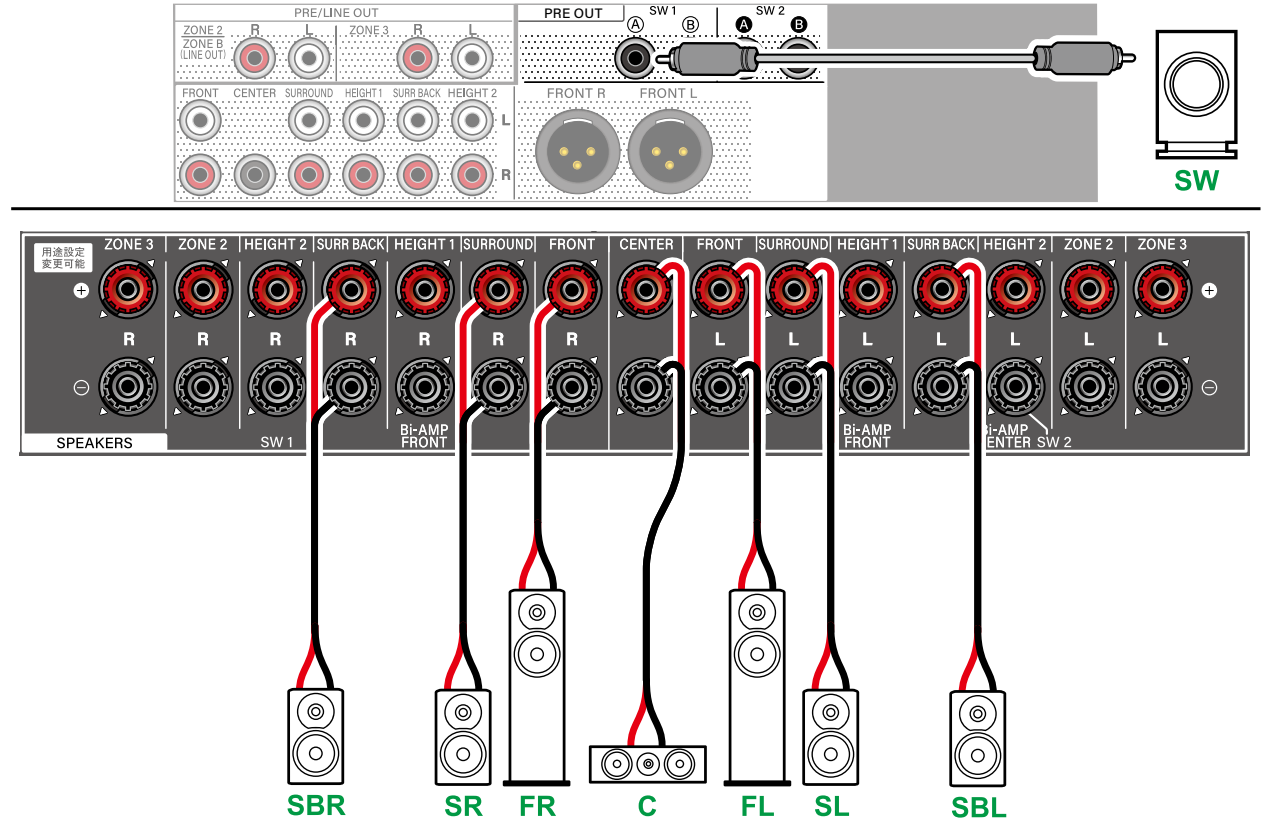
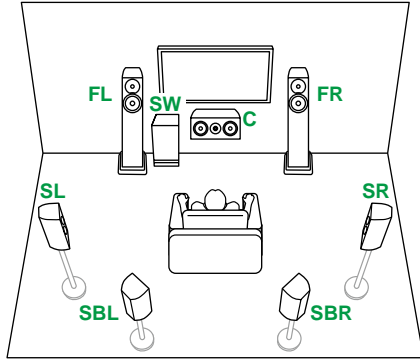


バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



■ 7.1 チャンネルシステム

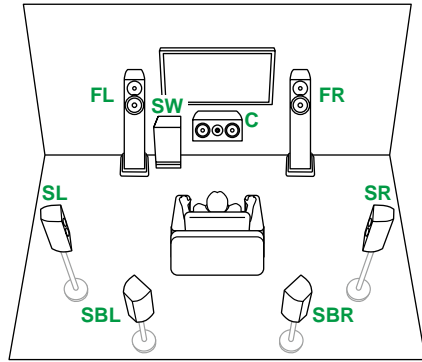


- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

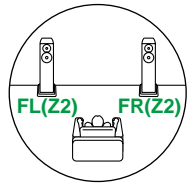


■ 7.1 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2/ゾーン 3)

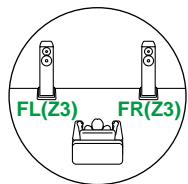
メインルーム



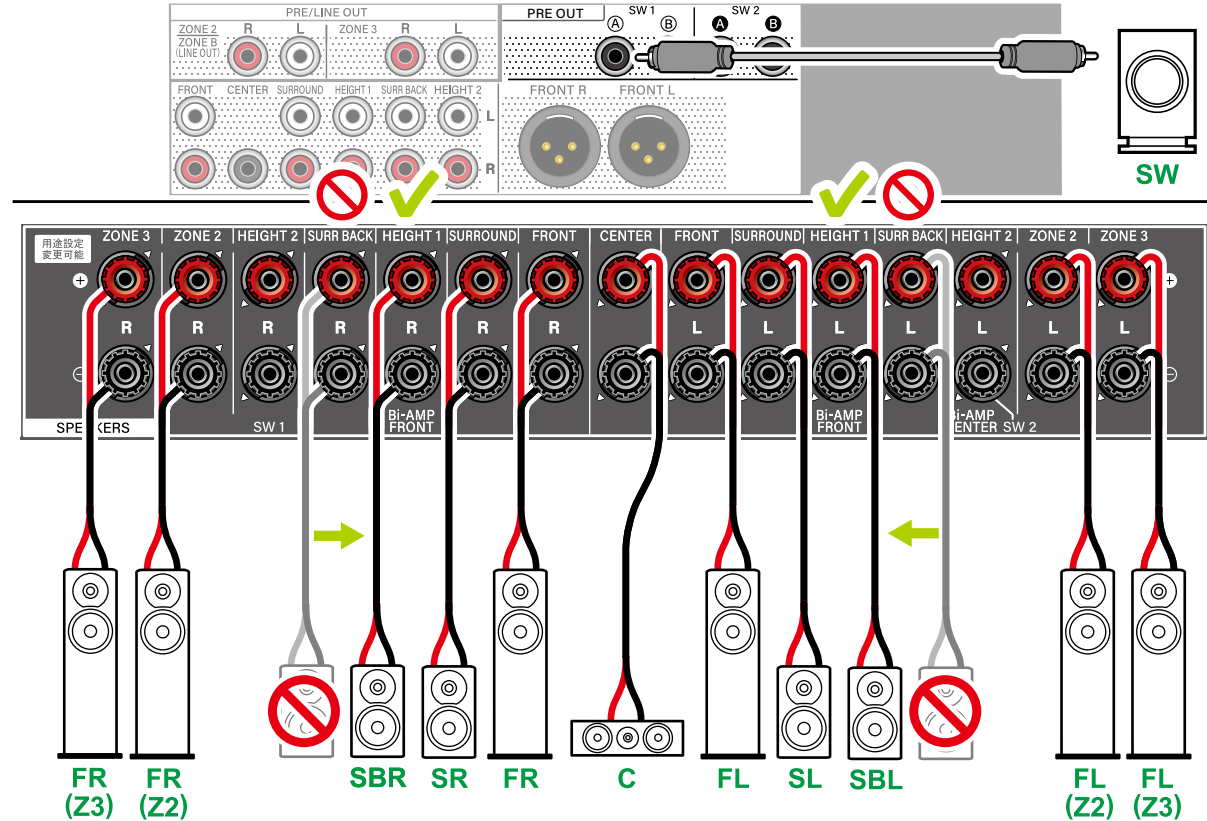
ゾーン 2



ゾーン 3



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)



- サラウンドバックスピーカーをHEIGHT 1 端子に接続する必要があります。



5.1ch

7.1ch

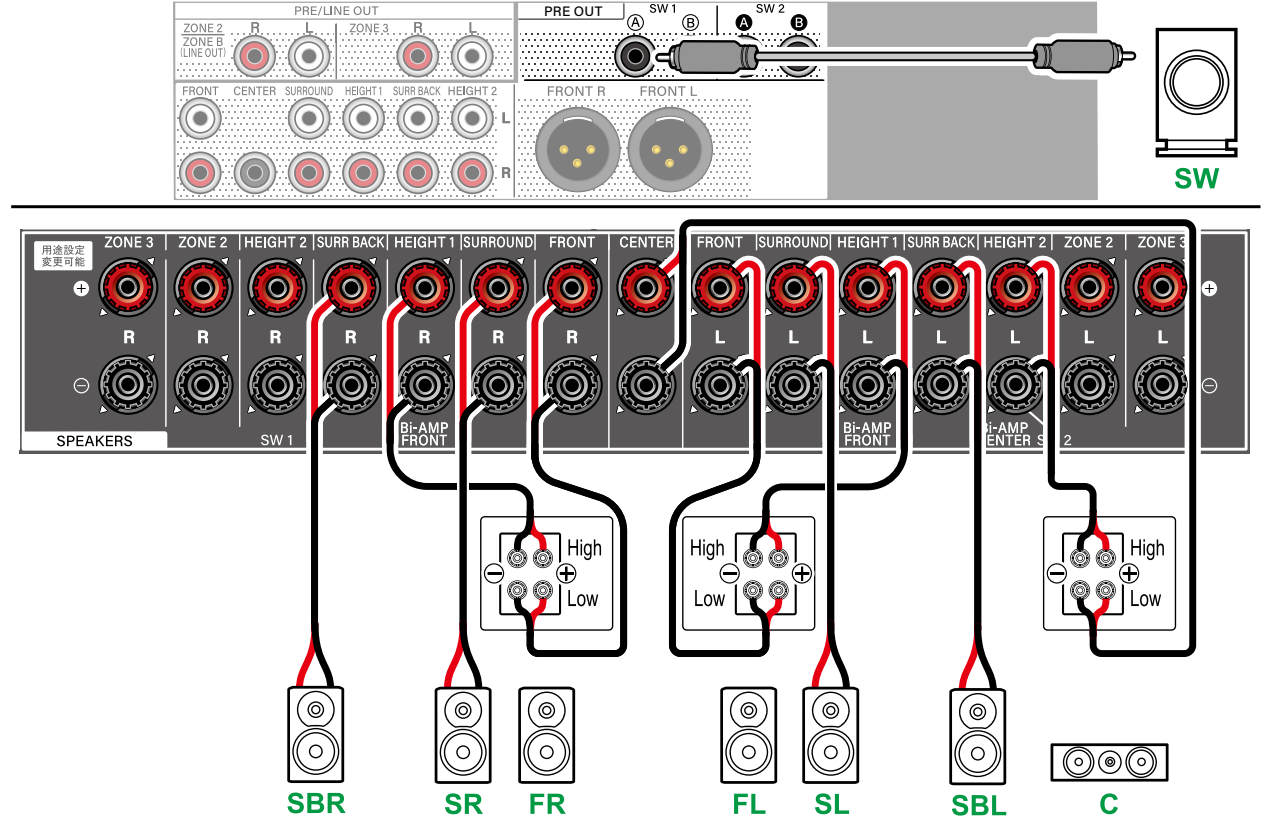
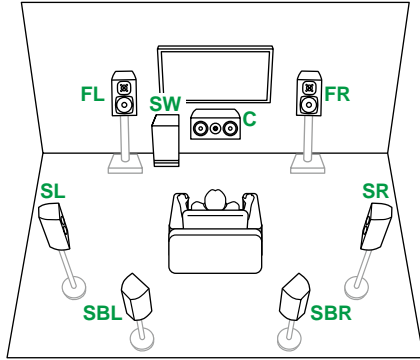
5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch

■ 7.1 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



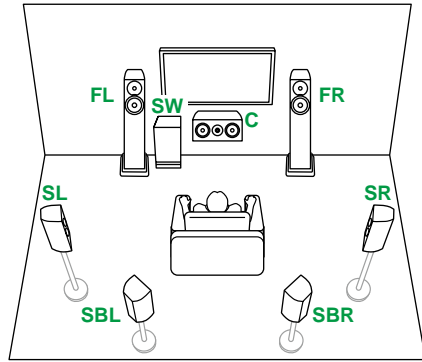
バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

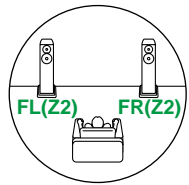


■ 7.1 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) + ゾーンスピーカー (ゾーン 2)

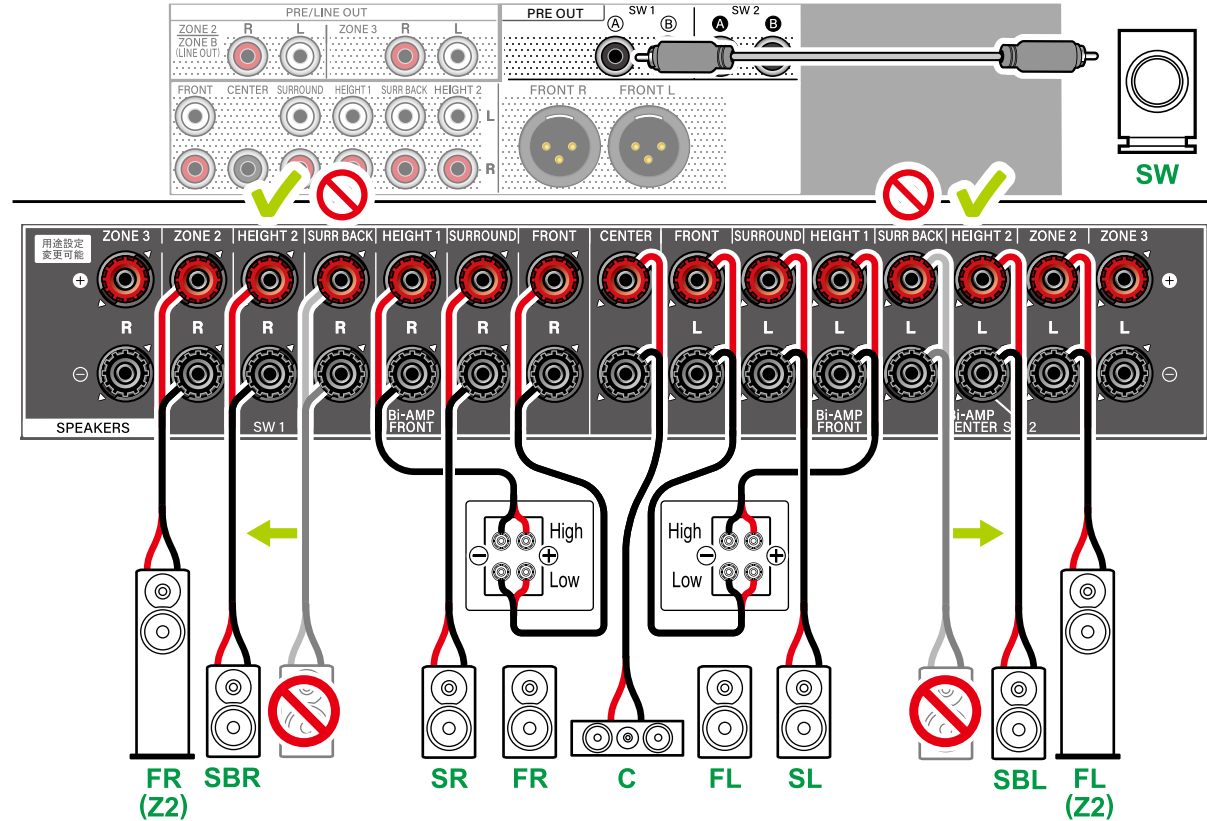
メインルーム



ゾーン 2



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)



バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

- サラウンドバックスピーカーをHEIGHT 2 端子に接続する必要があります。

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

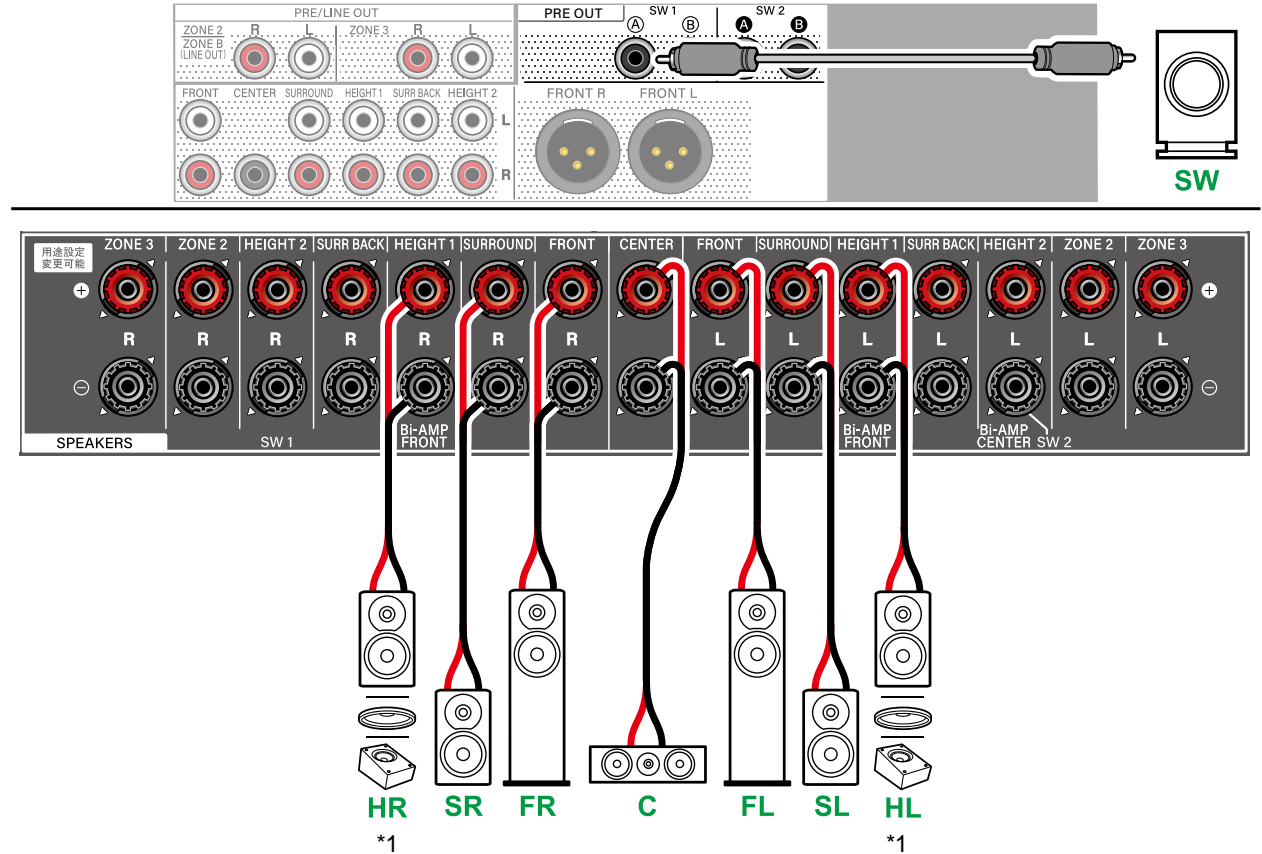
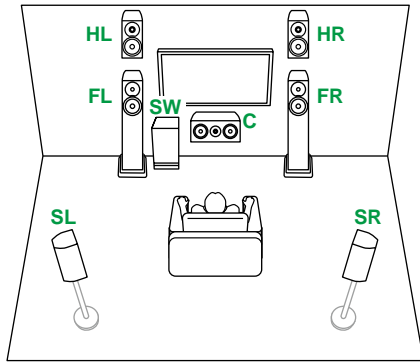
7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch



■ 5.1.2 チャンネルシステム



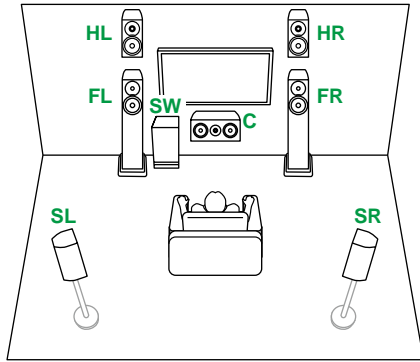
*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



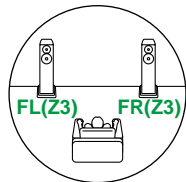
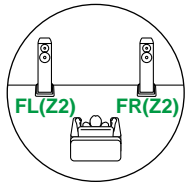
■ 5.1.2 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2/ゾーン 3)

メインルーム

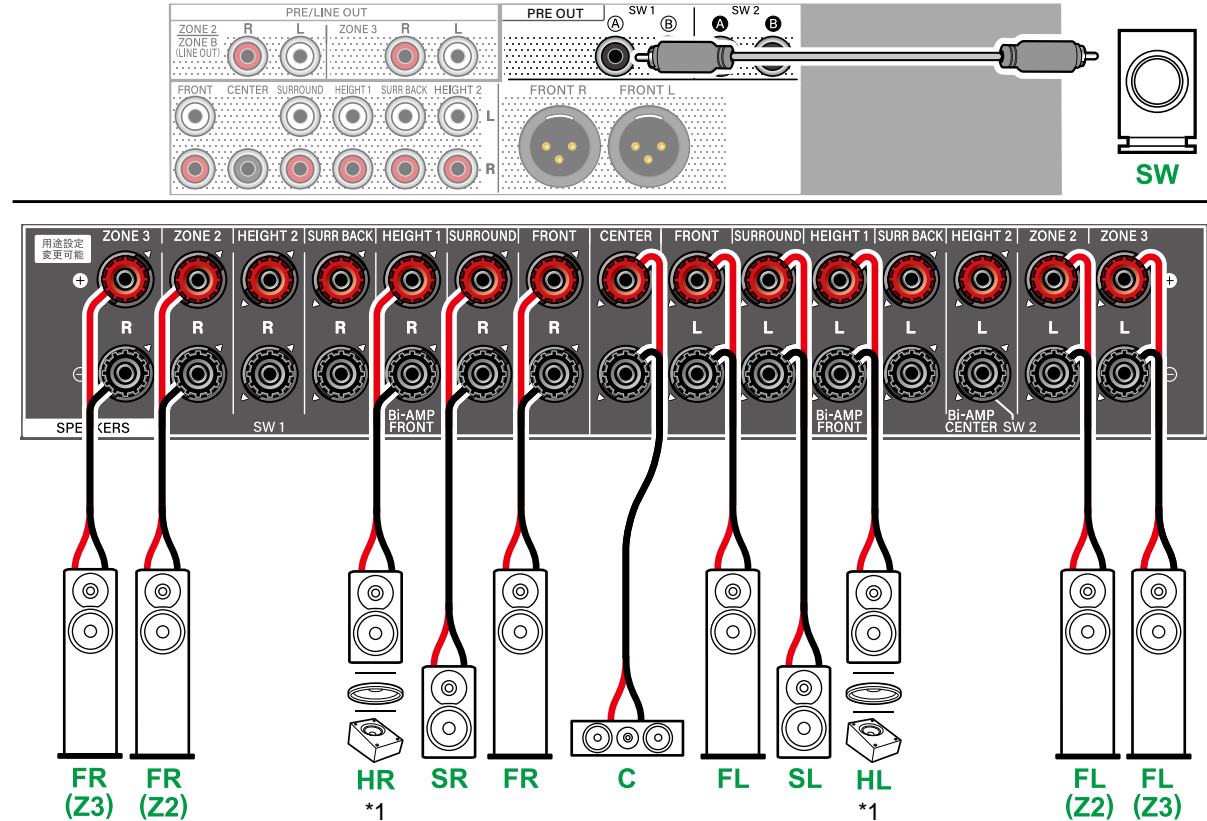


ゾーン 2

ゾーン 3



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)



*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

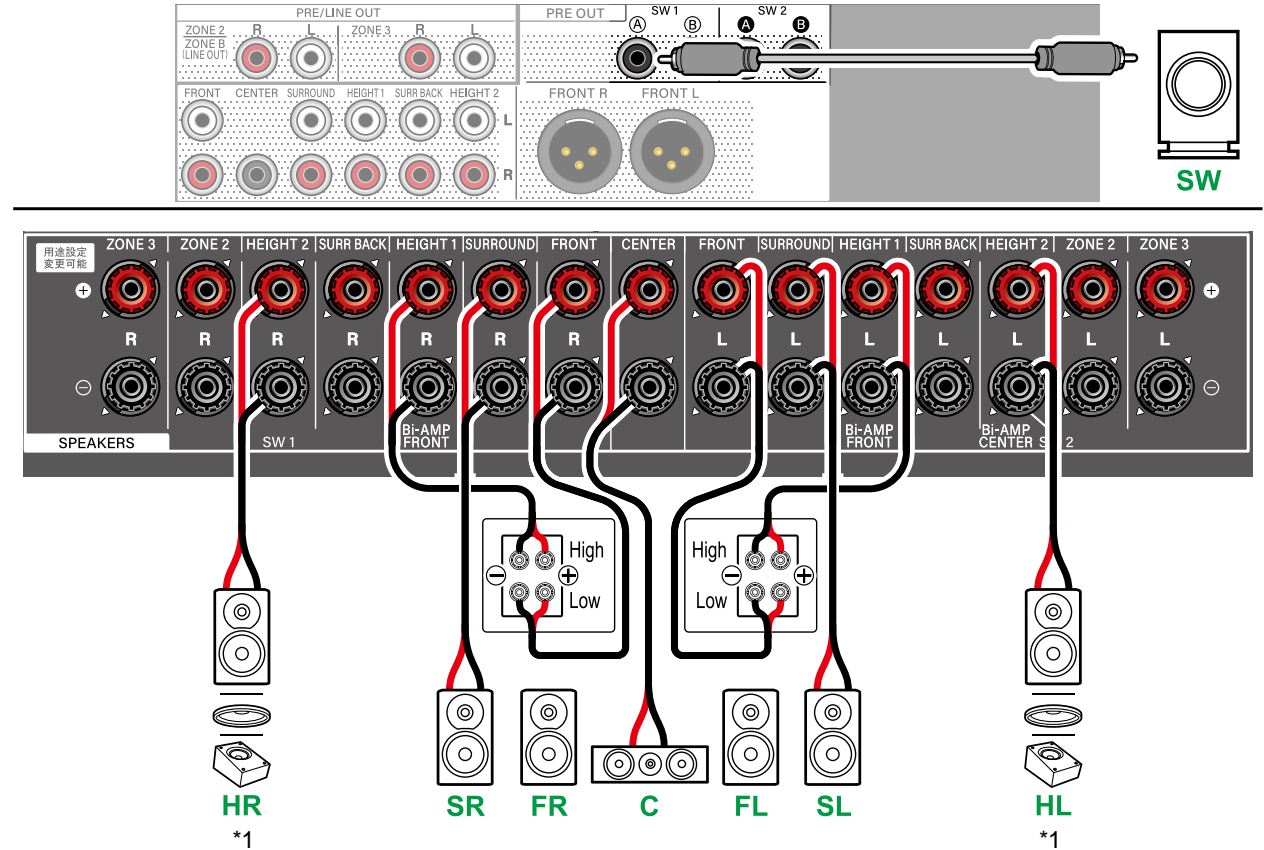
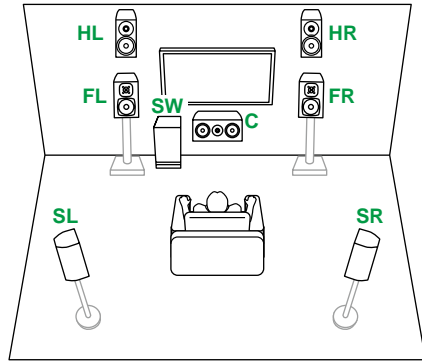
7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch



■ 5.1.2 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



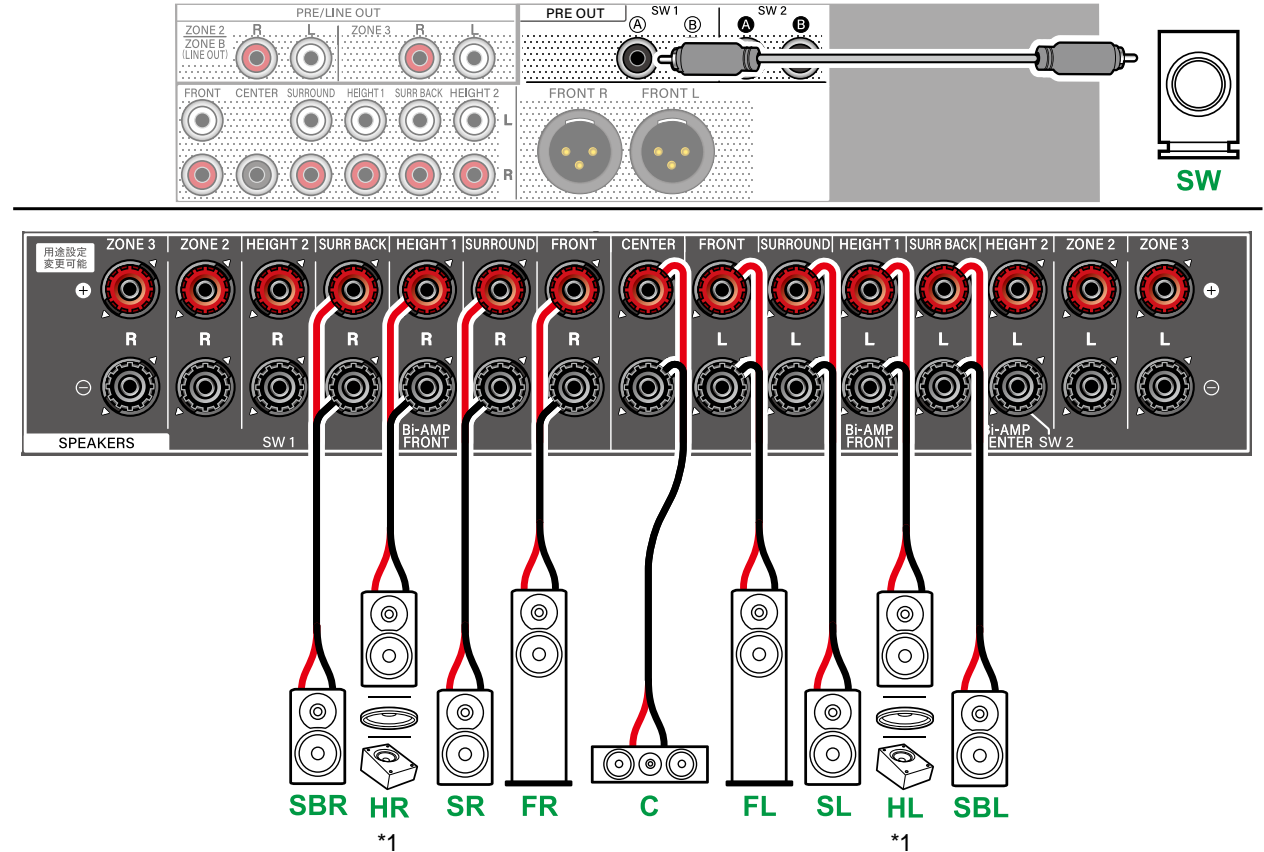
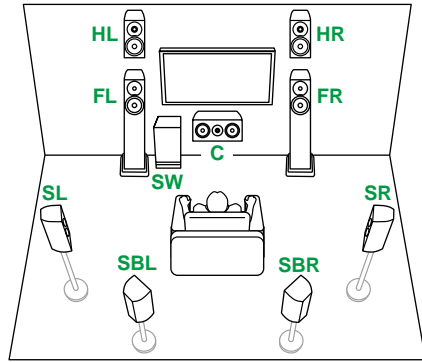
バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



■ 7.1.2 チャンネルシステム



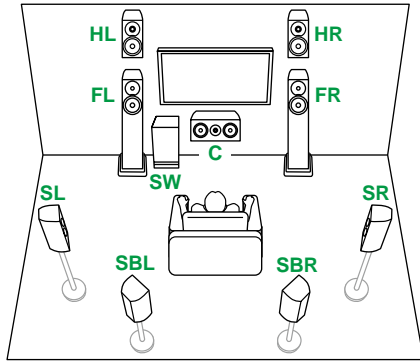
*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

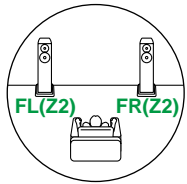


7.1.2 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2)

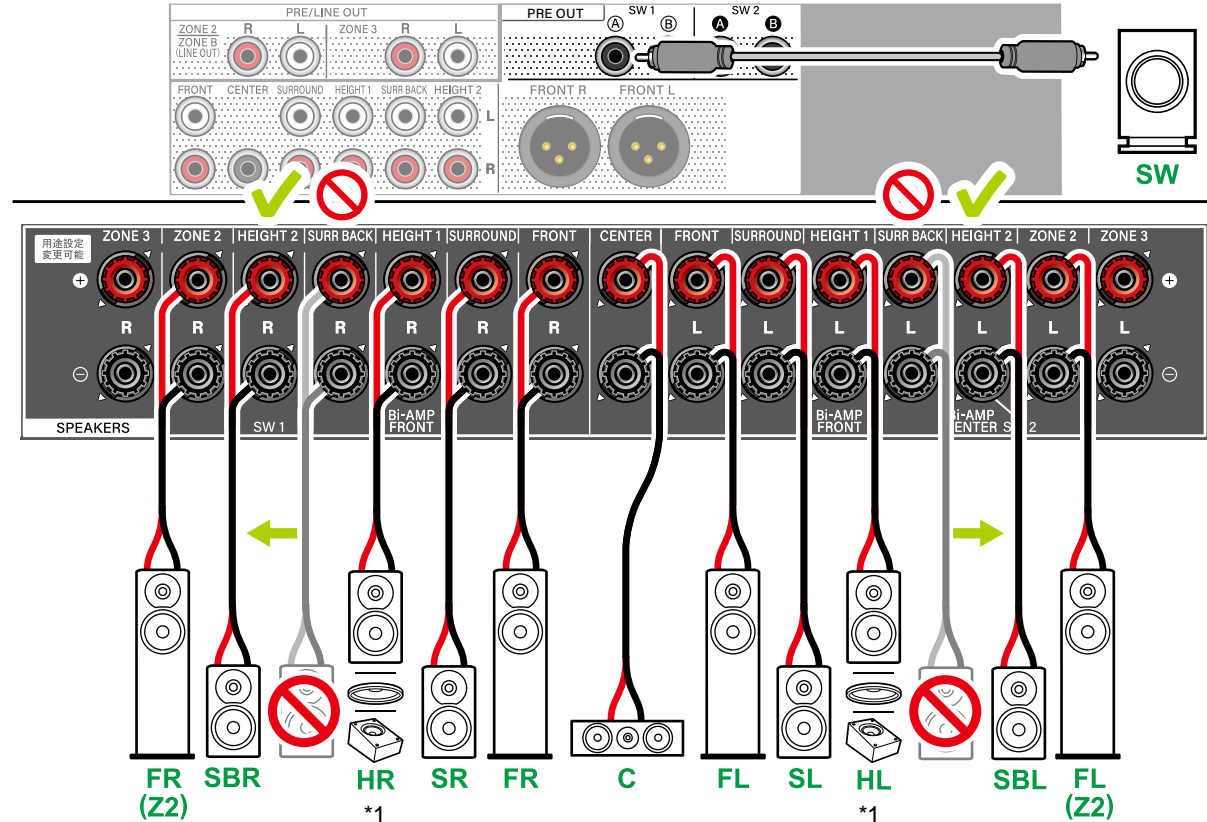
メインルーム



ゾーン 2



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)



• サラウンドバックスピーカーをHEIGHT 2 端子に接続する必要があります。

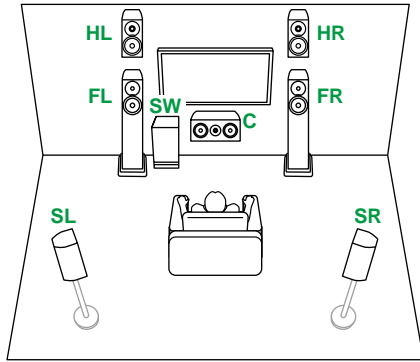
*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

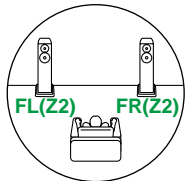


7.1.2 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2/ゾーン 3)

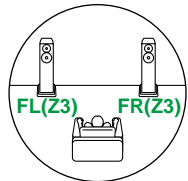
メインルーム



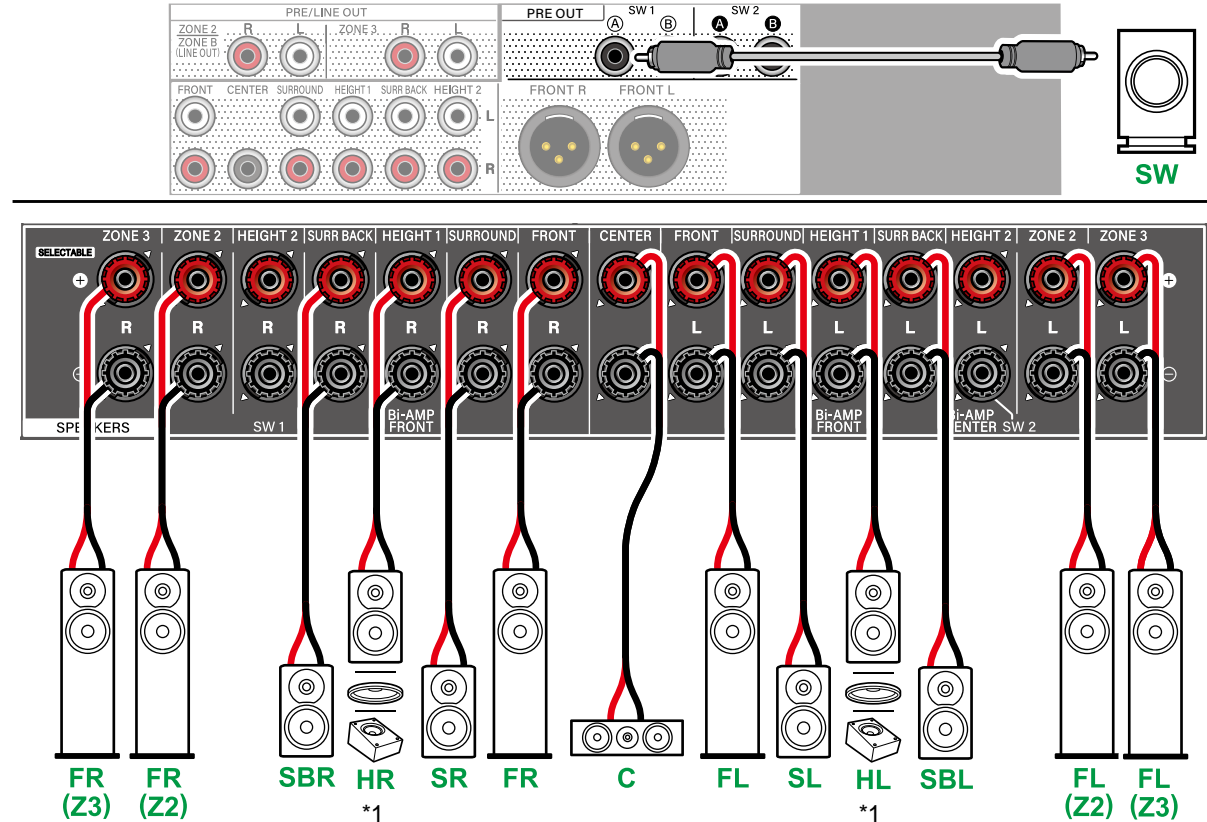
ゾーン 2



ゾーン 3



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)



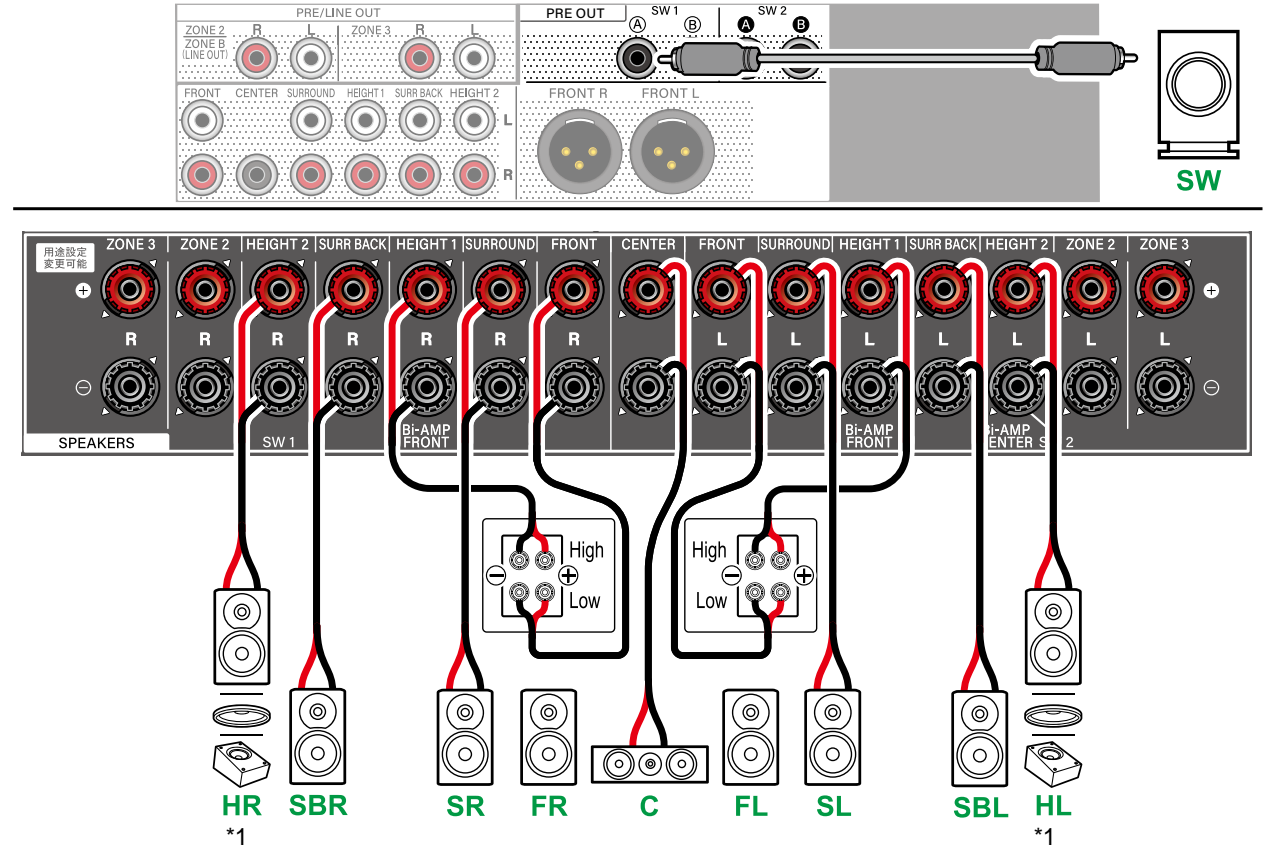
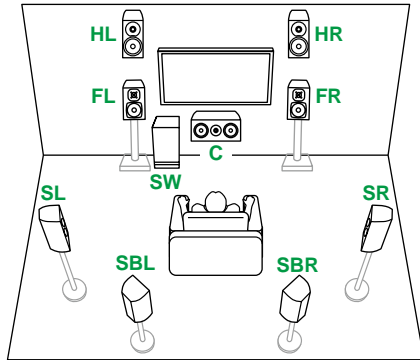
- ゾーン 2/ゾーン 3再生を行っているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーからは再生できません。

*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



■ 7.1.2 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



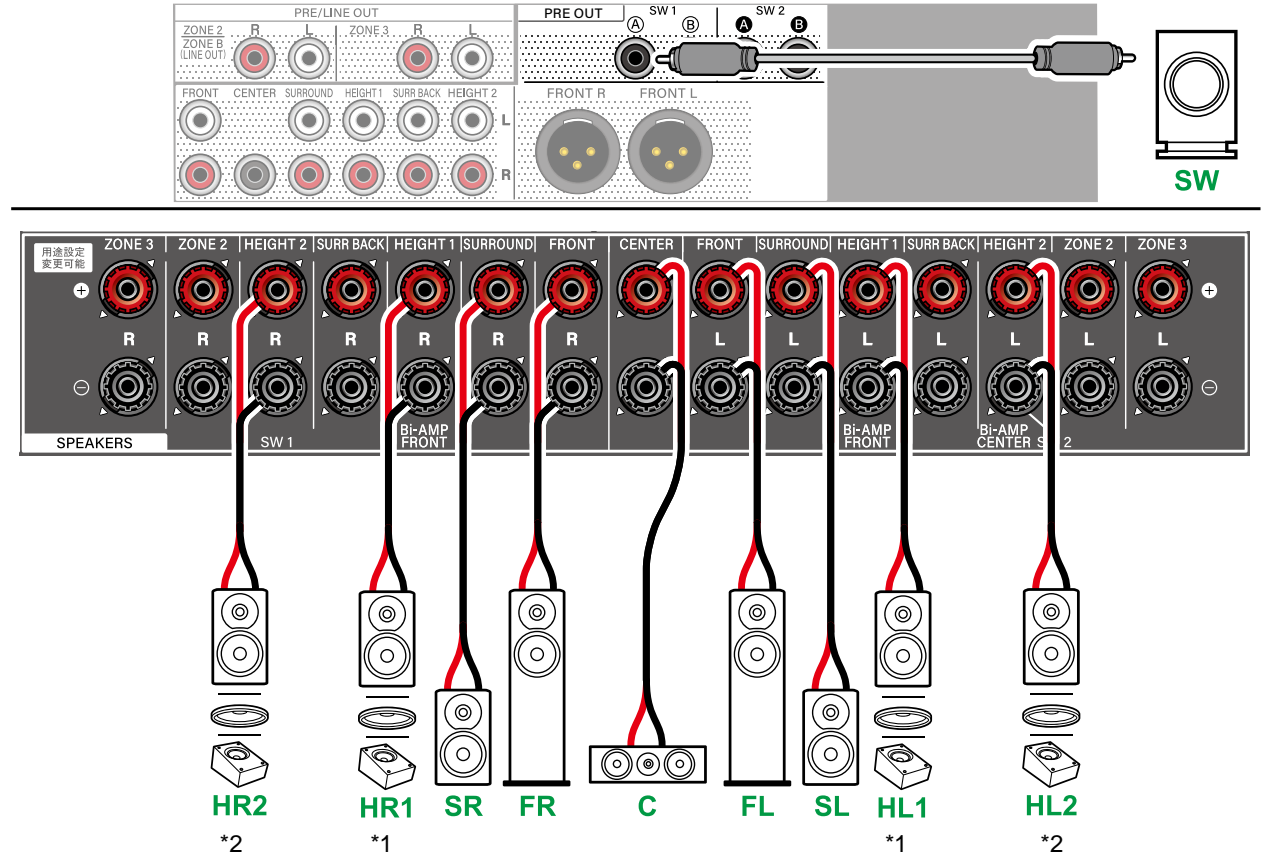
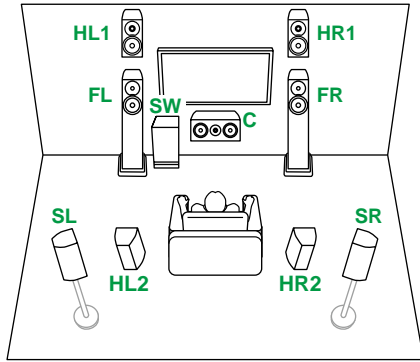
バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL/HR: ハイトスピーカー、トップスピーカー、Dolby Enabledスピーカー)。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



■ 5.1.4 チャンネルシステム



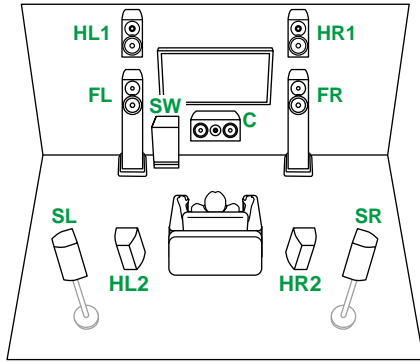
*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL1/HR1: フロントハイトスピーカー、トップ (フロント側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (フロント))。
 *2 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL2/HR2: リアハイトスピーカー、トップ (リア側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (サラウンド))。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

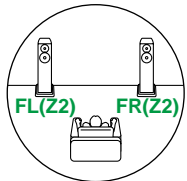


■ 5.1.4 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2/ゾーン 3)

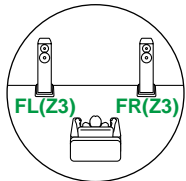
メインルーム



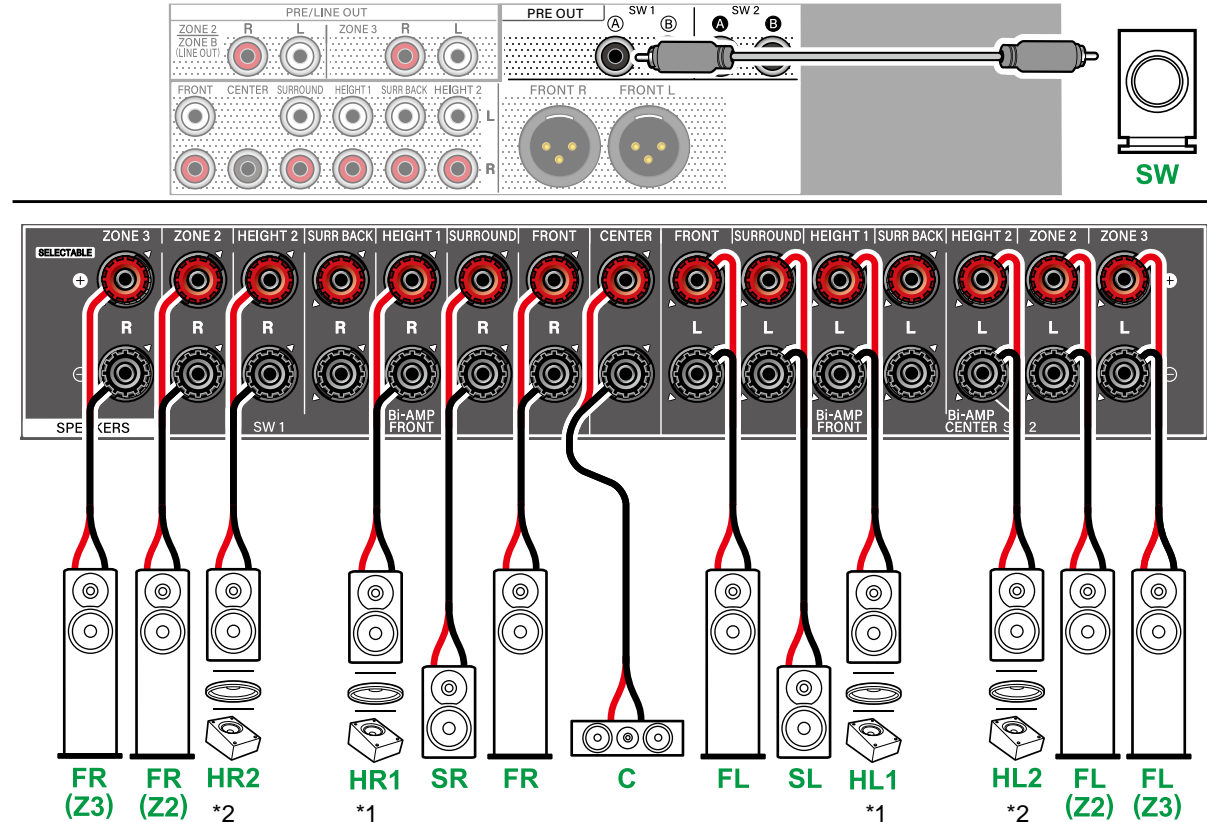
ゾーン 2



ゾーン 3



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)



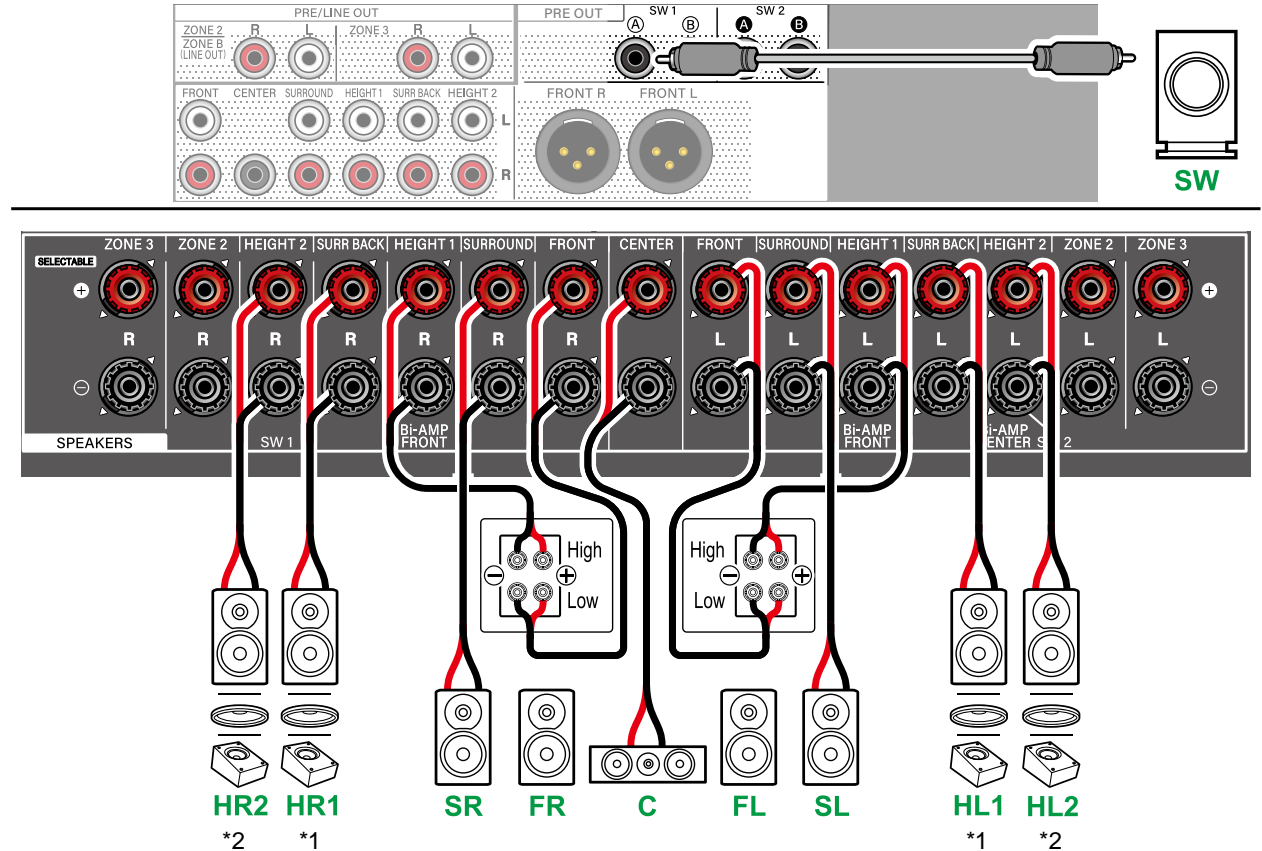
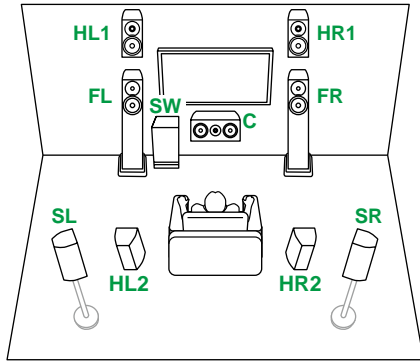
- ゾーン 2/ゾーン 3再生を行っているときは、ハイト 2 スピーカーからは再生できません。

*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL1/HR1: フロントハイトスピーカー、トップ (フロント側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (フロント))。
 *2 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL2/HR2: リアハイトスピーカー、トップ (リア側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (サラウンド))。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



■ 5.1.4 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

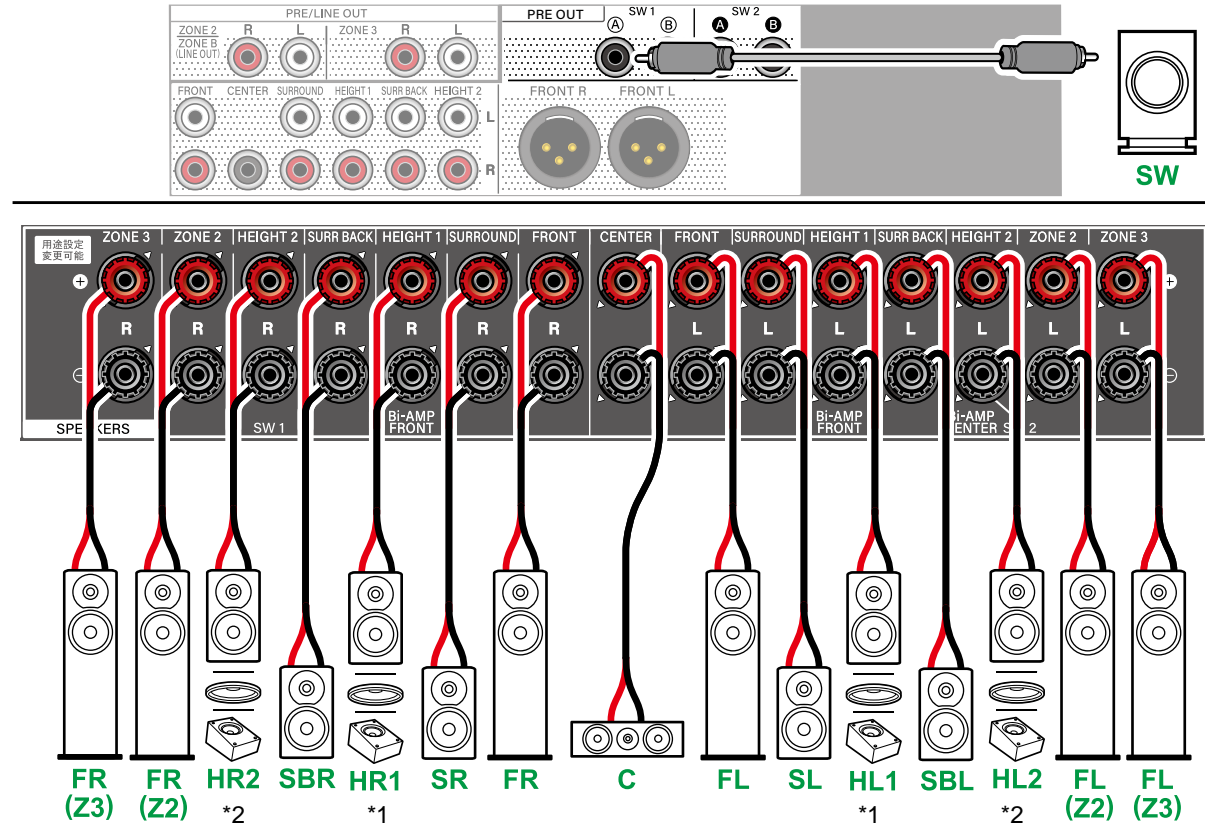
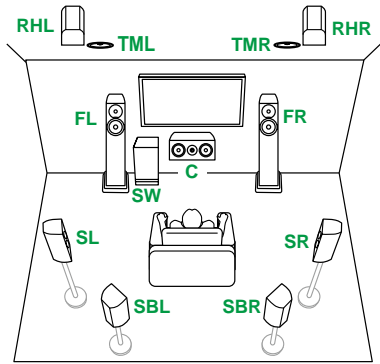
*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL1/HR1: フロントハイトスピーカー、トップ (フロント側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (フロント))。

*2 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL2/HR2: リアハイトスピーカー、トップ (リア側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (サラウンド))。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch



7.1.4 チャンネルシステム



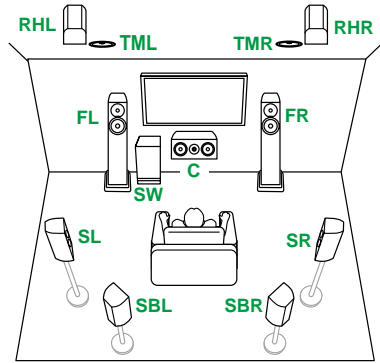
*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL1/HR1: フロントハイトスピーカー、トップ (フロント側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (フロント))。
 *2 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL2/HR2: リアハイトスピーカー、トップ (リア側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (サラウンド、サラウンドバック))。

- 5.1ch
- 7.1ch
- 5.1.2ch
- 7.1.2ch
- 5.1.4ch
- 7.1.4ch

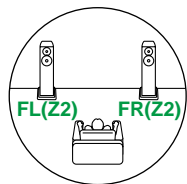


7.1.4 チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (ゾーン 2/ゾーン 3)

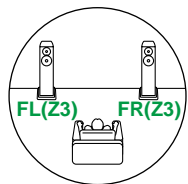
メインルーム



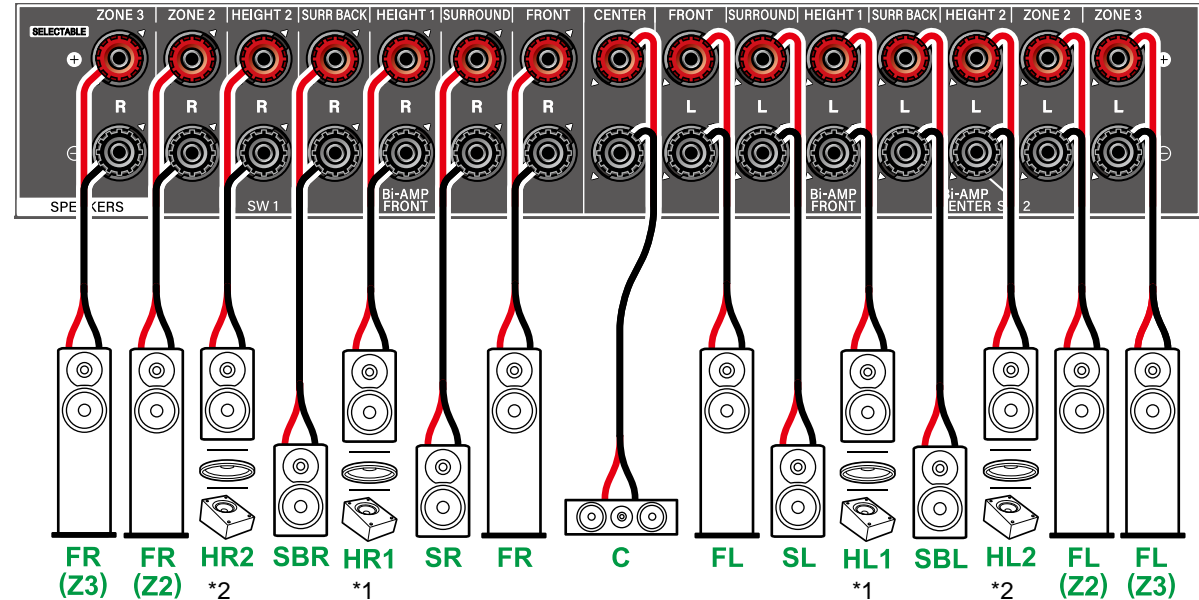
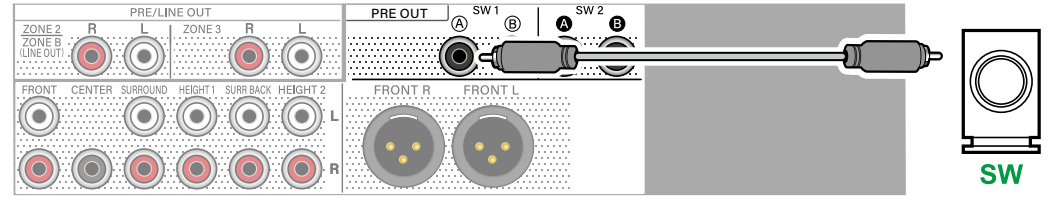
ゾーン 2



ゾーン 3



- 再生する(ゾーン 2)(→p99)
- 再生する(ゾーン 3)(→p101)



- ZONE 2再生を行っているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーからは再生できません。
- ゾーン 2/ゾーン 3再生を行っているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーとハイト 2 スピーカーからは再生できません。

*1 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL1/HR1: フロントハイトスピーカー、トップ (フロント側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (フロント))。

*2 実際に設置したハイトスピーカーを接続してください (HL2/HR2: リアハイトスピーカー、トップ (リア側) スピーカー、Dolby Enabledスピーカー (サラウンド、サラウンドバック))。

5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

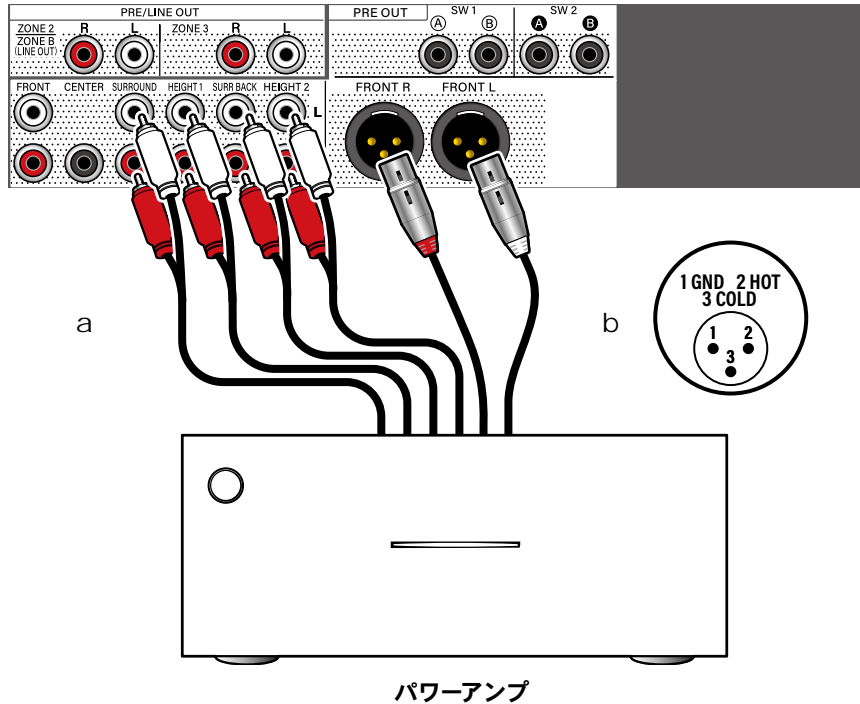
7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch



パワーアンプを接続する



a オーディオ用ピンケーブル、 b バランス型XLRケーブル

パワーアンプを本機に接続して、本機をプリアンプとして使用できます。接続にはオーディオ用ピンケーブルやバランス型XLRケーブルを使用します。

- 接続するパワーアンプに付属の取扱説明書も必ずお読みください。
- スピーカーとパワーアンプの詳細な接続方法については、パワーアンプの取扱説明書をご覧ください。



設定が必要です

- 接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(→[p123](#))を設定してください。



5.1ch

7.1ch

5.1.2ch

7.1.2ch

5.1.4ch

7.1.4ch

接続する

HDMIケーブルの接続と注意点	61
テレビを接続する	62
サブモニターを接続する	63
再生機器を接続する	64
別室のテレビやプリメインアンプと接続する (マルチゾーン)	68
ネットワークに接続する	71
外部のコントロール機器を接続する	72
電源コードを接続する	74

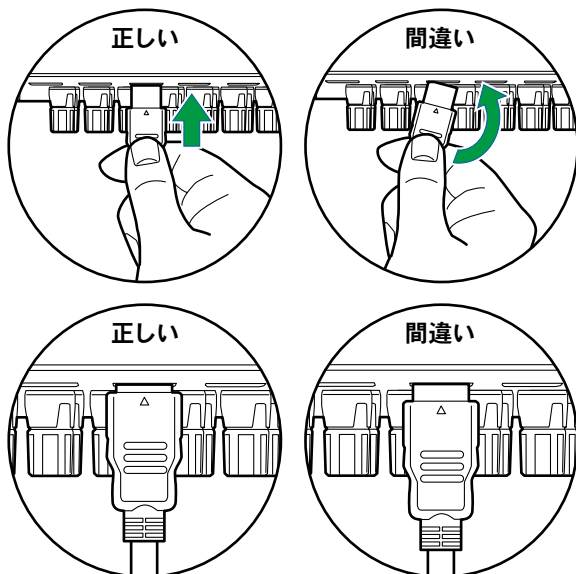


HDMIケーブルの接続と注意点

HDMI(High-Definition Multimedia Interface)は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム機などの映像機器の接続に対応したデジタルインターフェース規格です。HDMIでは、1本のケーブルで、制御信号、デジタル映像、デジタル音声を伝送できます。

接続について

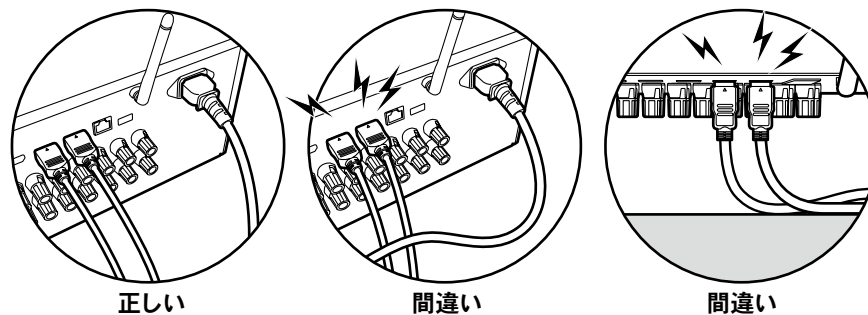
HDMIケーブルはまっすぐ、しっかりと奥まで差し込んでください。斜めに差し込むと端子を傷つける可能性があります。



- HDMIケーブルを抜くときは、端子を持って抜いてください。ケーブルを引っ張って抜くと断線する可能性があります。

■(ご注意)ケーブルの配線について

HDMIケーブルに負担が掛かると動作不良の原因になります。負担が掛からない配線を行ってください。



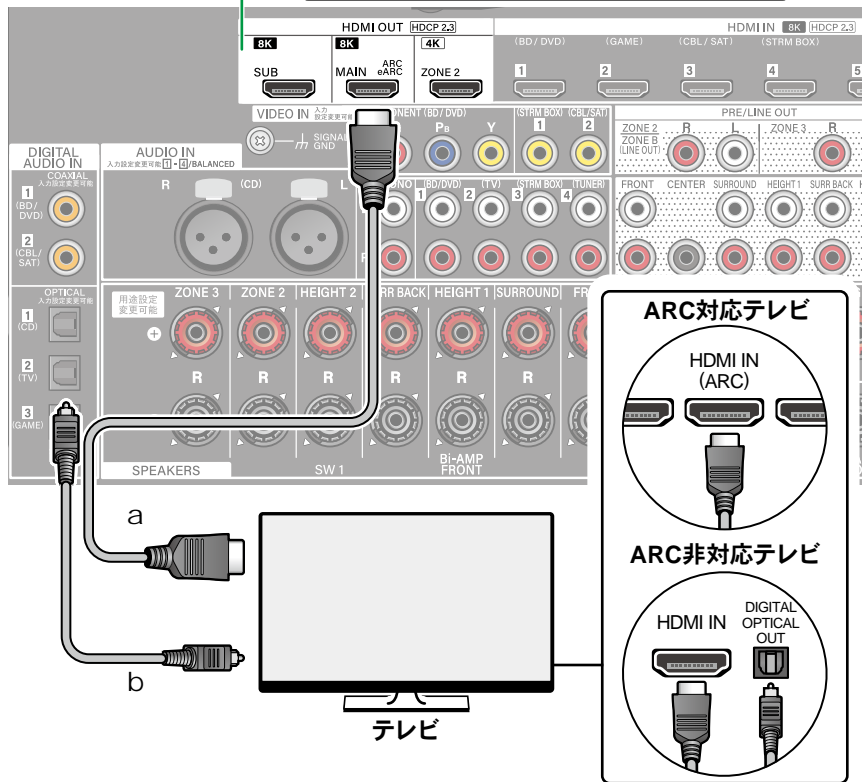
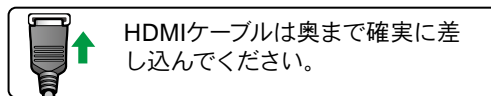
- 4Kの高画質映像(4K 120Hzなど)や8Kの高画質映像(8K 60Hzなど)を再生する場合は、パッケージに「ULTRA HIGH SPEED」のラベルが貼られているULTRA High Speed HDMIケーブルをご使用ください。



テレビを接続する

テレビを本機に接続することで、本機に接続したAV機器の映像をテレビに出力したり、テレビの音声を本機で再生することができます。

サブモニター (→p63)
ゾーン2 (→p68)



a HDMIケーブル、b 光デジタルケーブル

ARC/eARC対応テレビとの接続

テレビがARC (Audio Return Channel) 機能(*)に対応している場合は、HDMIケーブルのみを使用してテレビと接続を行います。TV側のHDMI IN 端子はARC 対応の端子を選んで接続してください。HDMIケーブルは本機のHDMI OUT端子の「ARC」と記載がある方に接続してください。

- eARC機能対応のテレビを接続する場合は、Ethernet対応のHDMIケーブルをご使用ください。

ARC非対応テレビとの接続

テレビがARC (Audio Return Channel) 機能(*)に対応していない場合は、HDMIケーブルと光デジタルケーブルを接続します。テレビにDIGITAL OPTICAL OUT端子がない場合は、オーディオ用ピンケーブルを使用して、AUDIO IN TV端子と接続することもできます。

- 本機の入力端子に接続したケーブルテレビ用チューナーなどでテレビを視聴する場合(テレビ内蔵のチューナーを使用しない場合)は、光デジタルケーブルやオーディオ用ピンケーブルを接続する必要はありません。



設定が必要です

- ARC機能を使用しない場合は、ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「オーディオリターンチャンネル (eARC対応)」(→p135)を「オフ」に設定してください。


(*)ARC機能およびeARC機能は、HDMIケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。テレビがARC機能およびeARC機能に対応しているかどうかは、テレビの取扱説明書などでご確認ください。

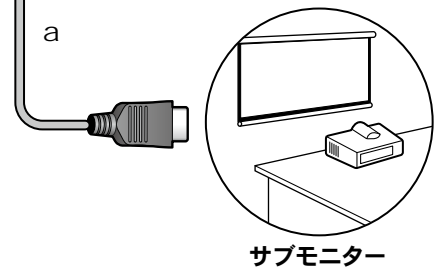
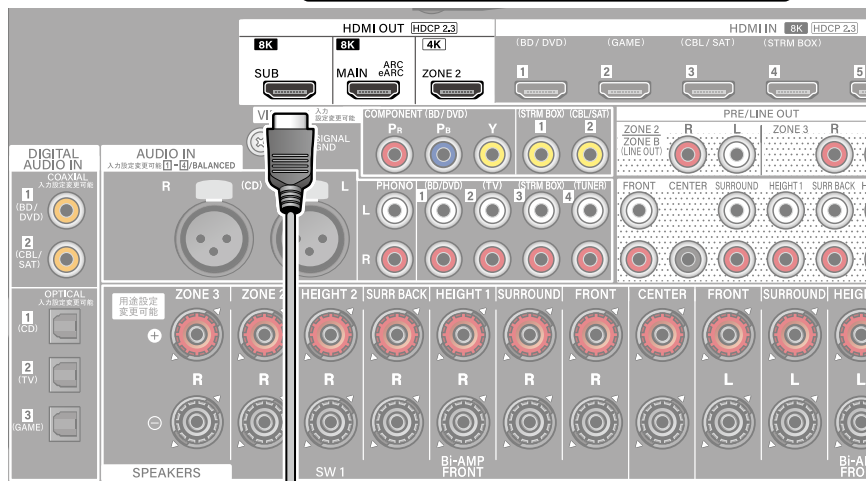
ARC/eARC対応音声フォーマット (→p198)

- 8Kの高画質映像を再生する場合は、設定が必要です。設定については、「4K/8K信号フォーマット」(→p118)をご参照ください。また、8K映像対応のHDMIケーブルをご使用ください。



サブモニターを接続する

 HDMIケーブルは奥まで確実に差し込んでください。



a HDMIケーブル

サブモニター

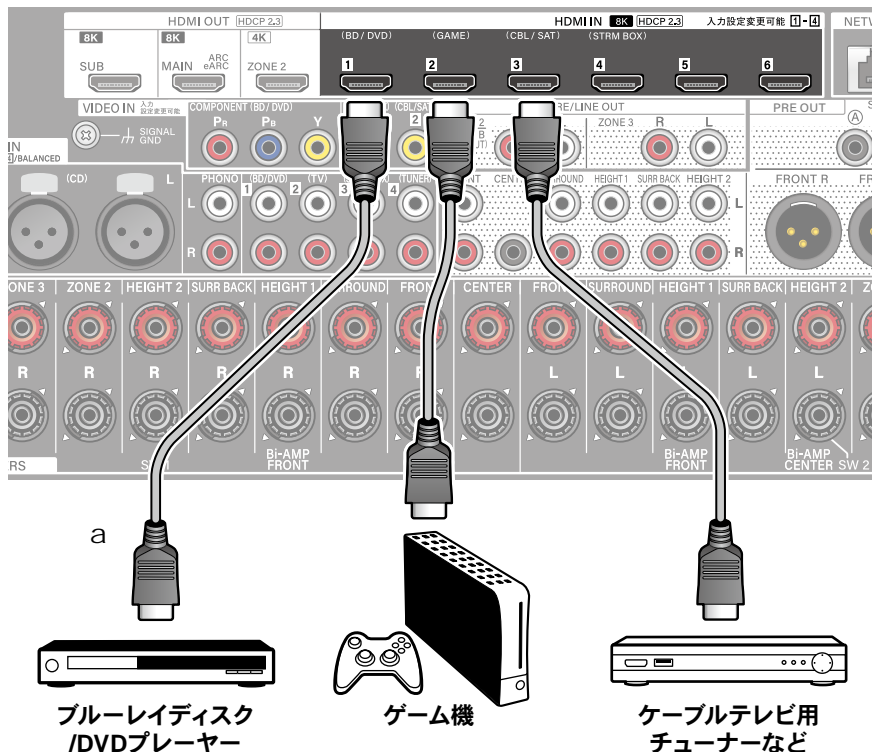
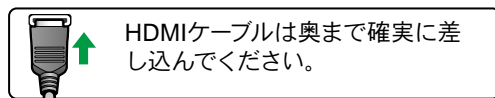
本機には複数のHDMI OUT端子があり、HDMI OUT SUB 端子にもう1台テレビやプロジェクターを接続することができます。

- MAIN とSUB の切り換えは、リモコンのHDMI MAIN/SUBボタン (→p16)や「AV Adjust」 (→p83)で行います。なお、この端子はARC機能には対応していません。
- HDMI OUT MAIN端子とSUB端子の両方に解像度の異なる機器を接続している場合は、低い方の解像度に合わせて出力されます。



再生機器を接続する

HDMI端子のあるBD/DVDやGAMEとの接続



a HDMIケーブル



HDMI 端子を持つAV機器との接続例です。CEC(Consumer Electronics Control) 規格に準拠しているAV機器との接続では、入力切替の連動切替などのHDMI CEC機能(*) や、本機の電源がスタンバイ状態になっているときでもAV機器の映像/ 音声信号をテレビに伝送できるHDMIスタンバイスルー機能を使用することができます。

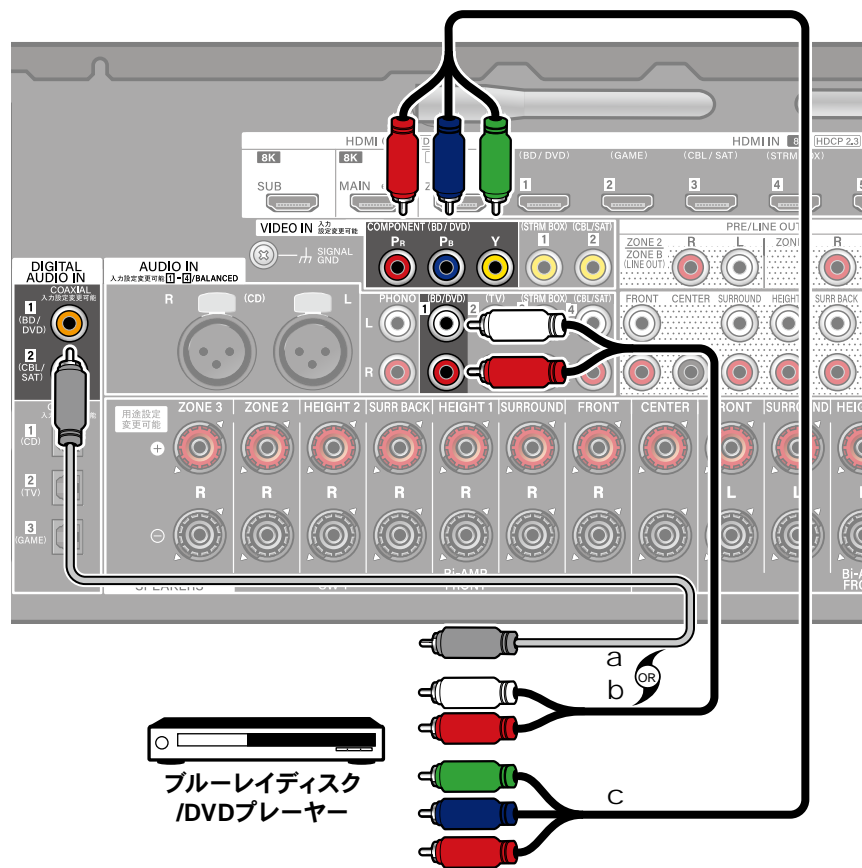
- 8Kの高画質映像を再生する場合は、設定が必要です。設定については、「4K/8K 信号フォーマット」(→p118) をご参照ください。また、8K映像対応のHDMIケーブルをご使用ください。
- 接続するHDMI端子によって対応する解像度が異なります。詳しくは"対応入力解像度" (→p199) をご覧ください。

Note

- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド音声を楽しむためには、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- (*)HDMI CEC機能 :CEC規格に準拠した再生機との入力切替の連動切り換え / CEC規格に準拠したテレビのリモコンで、音声をテレビから出力するか、本機から出力するかの切り換えや音量調整などの操作 / テレビの電源オフに連動して自動で電源スタンバイなどのコントロール機能が可能です。



HDMI端子のないBD/DVDとの接続



a 同軸デジタルケーブル、b オーディオ用ピンケーブル、c コンポーネントビデオケーブル

HDMI 端子を持たないAV機器との接続例です。AV機器に装備されている端子に合わせてケーブルを選び接続してください。映像入力をBD/DVD端子に接続する場合、音声入力もBD/DVD 端子に接続するなど、映像入力端子と音声入力端子は同じ名称の端子を接続します。なお、VIDEO IN 端子、COMPONENT VIDEO IN 端子に入力された映像信号は、HDMIの映像信号に変換されてHDMI OUT 端子から出力されません。

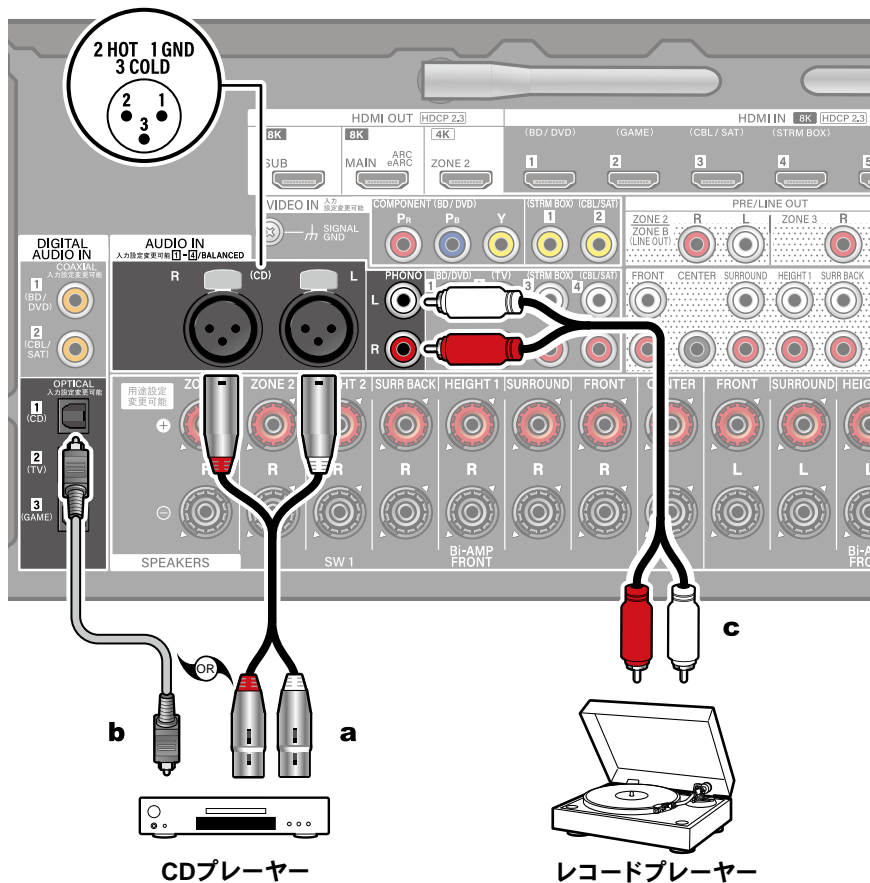
- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド再生を楽しむためには、音声信号は同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルでの接続が必要です。
- 図の場合、入力切換の割り当て(→p119)を変更すると、BD/DVD 以外の端子に接続することもできます。

Note

- COMPONENT VIDEO IN端子は480iまたは576iの解像度のみに対応しています。COMPONENT VIDEO IN 端子に接続する場合は、再生機器の出力解像度の設定を480i または576i に設定してください。480i などの選択肢がない場合は、インターレースを選択してください。再生機器が480i または576i で出力できない場合は、VIDEO IN 端子をご使用ください。
- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド音声を楽しむためには、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。



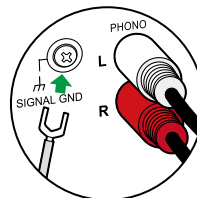
オーディオ機器との接続



a バランス型XLRケーブル、b 光デジタルケーブル、c オーディオ用ピンケーブル

オーディオ機器との接続例です。CDプレーヤーとはバランス型XLRケーブルまたは光デジタルケーブルで接続します。PHONO 端子には、MM 型のカートリッジを使用したレコードプレーヤーを接続することができます。

- レコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合は、PHONO 端子以外のAUDIO IN 端子のいずれかに接続します。また、MC 型カートリッジを使用したレコードプレーヤーの場合は、MC カートリッジ対応のフォノイコライザーを本機とレコードプレーヤーの間に介して、PHONO 端子以外のAUDIO IN 端子のいずれかに接続します。

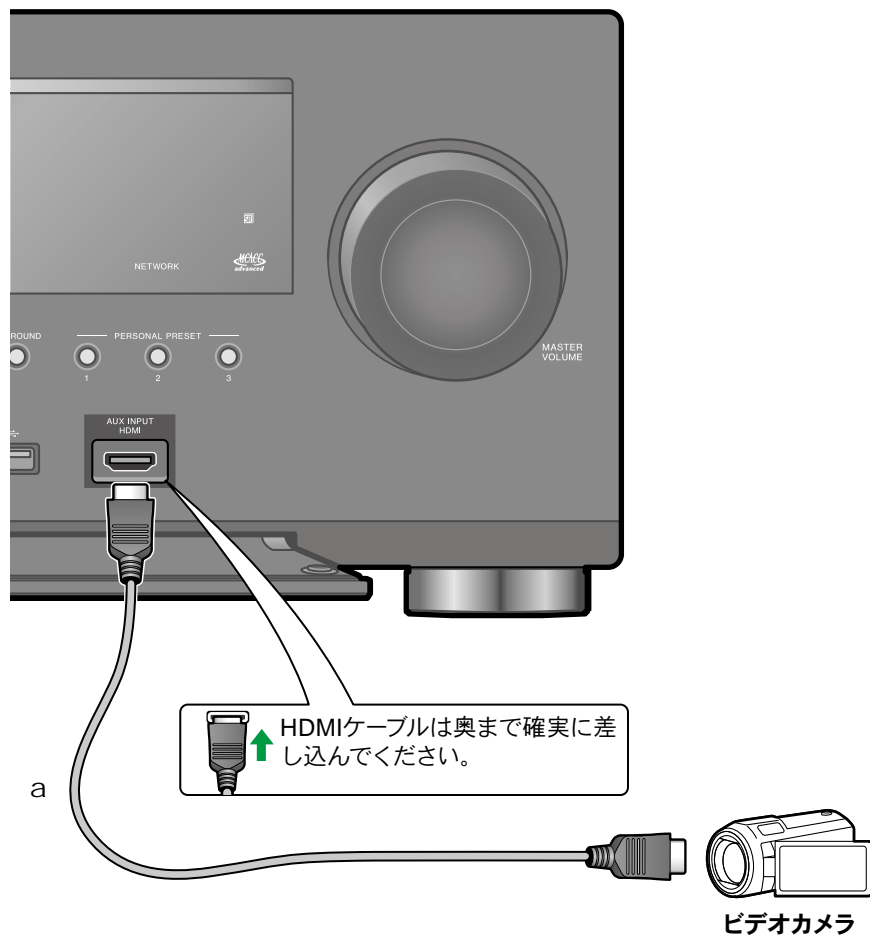


レコードプレーヤーにアース線がある場合は、SIGNAL GND端子に接続します。



ビデオカメラなどを接続する

HDMIケーブルを使用して、フロントパネルのAUX INPUT HDMI端子にビデオカメラなどを接続します。



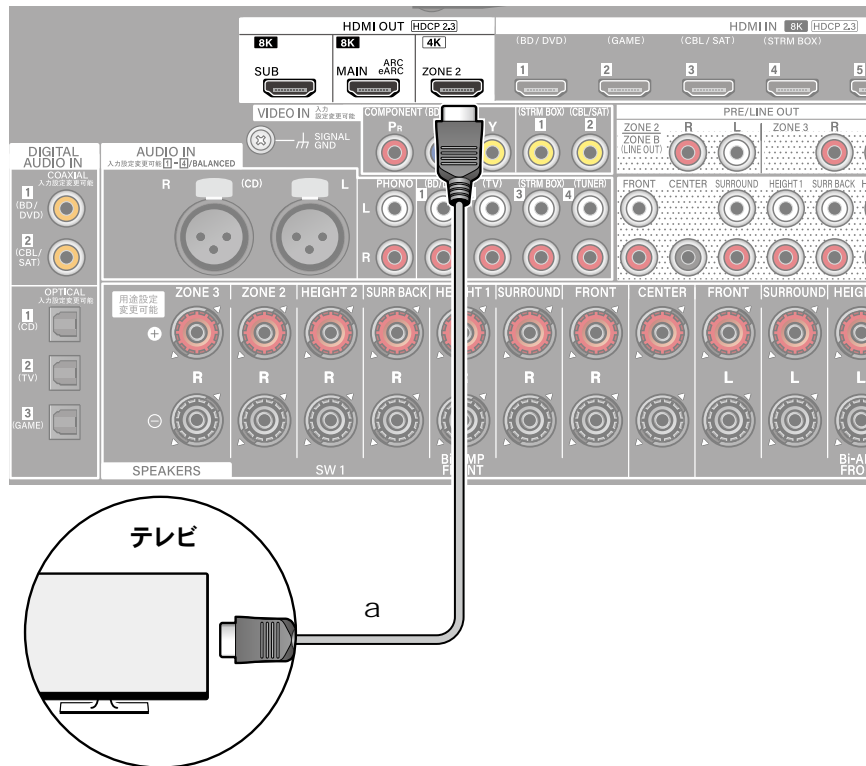
a HDMIケーブル



別室のテレビやプリアンプと接続する (マルチゾーン)

別室のテレビと接続する(ゾーン 2)

HDMIケーブルは奥まで確実に差し込んでください。



a HDMIケーブル

メインルーム (本機のある部屋) でブルーレイディスクプレーヤーを再生しながら、HDMI入力端子を備えた別室(ゾーン 2)のテレビでも同じブルーレイディスクプレーヤーや、他のAV機器の映像と音声を再生することができます。

- 外部接続のAV機器の音声は、2ch PCM音声信号のみ出力可能です。また、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。



設定が必要です

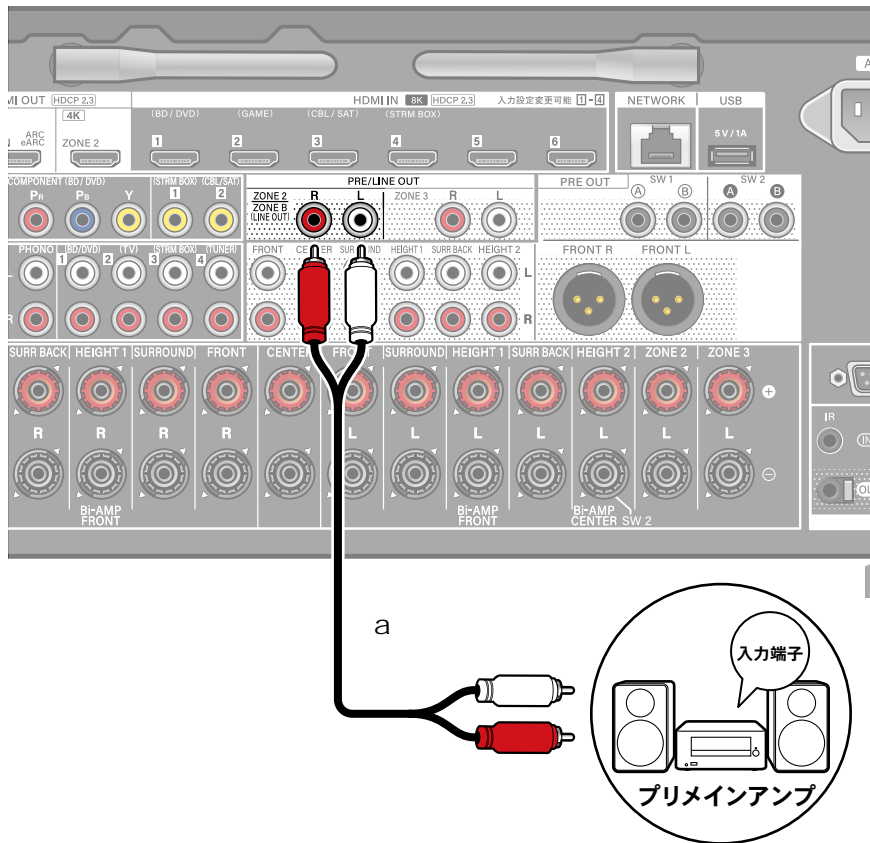
- HDMI入力の映像や音声をゾーン 2出力する場合は、システム設定メニューの「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力 / OSD」-「ゾーン 2 HDMI」(→p118)を「使用する」に設定してください。なお、「ゾーン 2 HDMI」を「Use」に設定すると、HDMI OUT ZONE 2端子から出力できる映像の解像度は「4K Enhanced」(→p118)までになります。

□ マルチゾーン (→p98)

□ 再生する(ゾーン 2) (→p99)



別室のプリメインアンプと接続する (ゾーン2)



a オーディオ用ピンケーブル

メインルーム(本機のある部屋)で再生をしながら、別室(ゾーン 2)で、2chの音声を楽しむことができます。本機のZONE 2 PRE/LINE OUT 端子と別室のプリメインアンプの入力端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。

- AV機器がHDMI端子を持たない場合は、同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルで接続してください。また、外部接続のAV機器の音声は、アナログまたは2ch PCM音声のみゾーン 2で再生可能です。本機と同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続している場合は、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。



設定が必要です

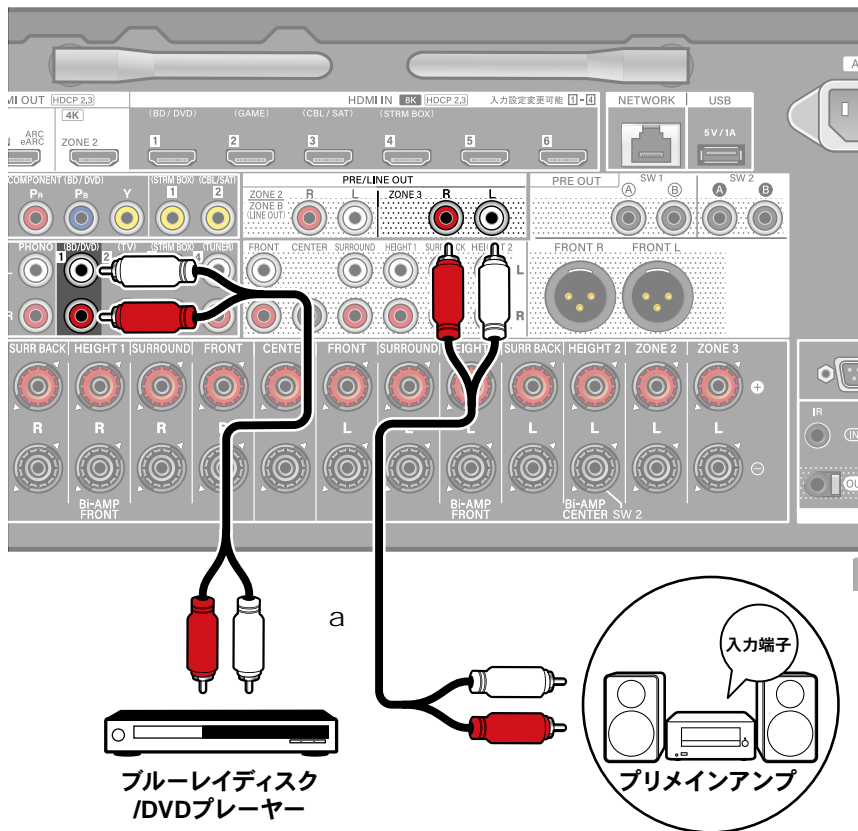
- ゾーン 2に音声を出力するためには設定が必要です。リモコンの🏠を押して表示されるホームの「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン 2 プリアウト」(→p124)を「ゾーン 2」に設定してください。
- ボリュームコントロールが付いていないプリメインアンプを接続する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン 2」-「アウトプットレベル」(→p140)を「可変 (初期値：固定)」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、プリメインアンプやスピーカー等が破損する恐れがあります。ボリュームコントロールが付いているプリメインアンプを接続する場合は、「固定」のままご使用ください。

❑ マルチゾーン (→p98)

❑ 再生する(ゾーン 2) (→p99)



別室のプリメインアンプと接続する (ゾーン3)



a オーディオ用ピンケーブル

メインルーム(本機のある部屋)で再生をしながら、別室(ゾーン 3)で、2chの音声を楽しむことができます。本機のZONE 3 PRE/LINE OUT端子と別室のプリメインアンプの入力端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。メインルームとゾーン 3で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

- 外部接続のAV機器の音声をゾーン 3出力するには、オーディオ用ピンケーブルでの接続が必要です。HDMIケーブルや同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルでの接続ではゾーン 3出力できませんのでご注意ください。



設定が必要です

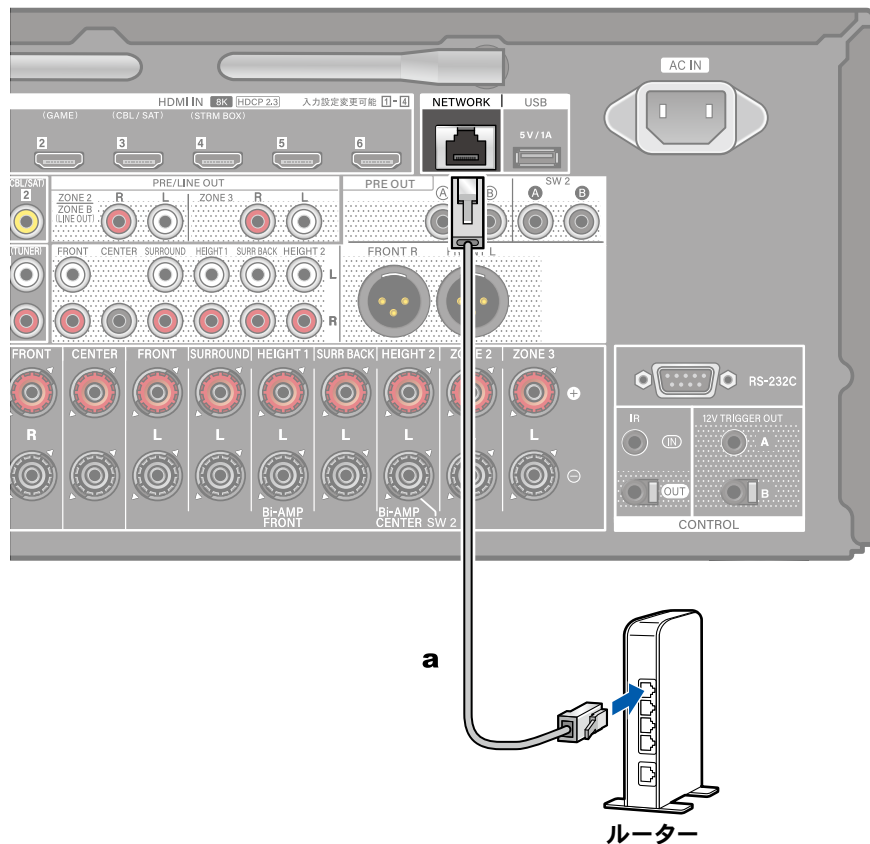
- 「スピーカー組み合わせ一覧」(→p195)が2.1.2 ch、3.1.2 ch、4.1.2 ch、5.1.2 chで、バイアンプやゾーン 2 (ゾンスピーカー)を使用する場合は、この機能は使用できません。ただし、ZONE 3 PRE/LINE OUT端子にパワーアンプを接続した場合は、ゾーン 2 (ゾンスピーカー)およびゾーン 3 (ゾンスピーカー)の使用は可能です。
- ボリュームコントロールが付いていないプリメインアンプを接続する場合は、システム設定の「マルチゾーン」-「ゾーン 3」-「アウトプットレベル」(→p140)を「可変(初期値:固定)」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、プリメインアンプやスピーカー等が破損する恐れがあります。ボリュームコントロールが付いているプリメインアンプを接続する場合は、「固定」のままご使用ください。

□ マルチゾーン (→p98)

□ 再生する(ゾーン 3) (→p101)



ネットワークに接続する



a LANケーブル

本機は有線LANまたはWi-Fi(無線LAN)を使用して、ネットワークに接続できます。ネットワークに接続すると、インターネットラジオなどのネットワーク機能を楽しむことができます。有線LANで接続する場合は、図のようにルーターとNETWORK端子をLANケーブルで接続してください。Wi-Fiで接続するには、初期設定の「ネットワーク接続」(→p160)でお好みの設定方法を選んで画面の指示に従って設定してください。初期設定の完了後に、システム設定メニューで設定する場合は、リモコンの🏠ボタンを押して表示されるホーム画面の「ネットワーク/Bluetooth」-「ネットワーク」から設定します(→p153)。また、Wi-Fi接続の場合は、無線アンテナを立ててご使用ください。

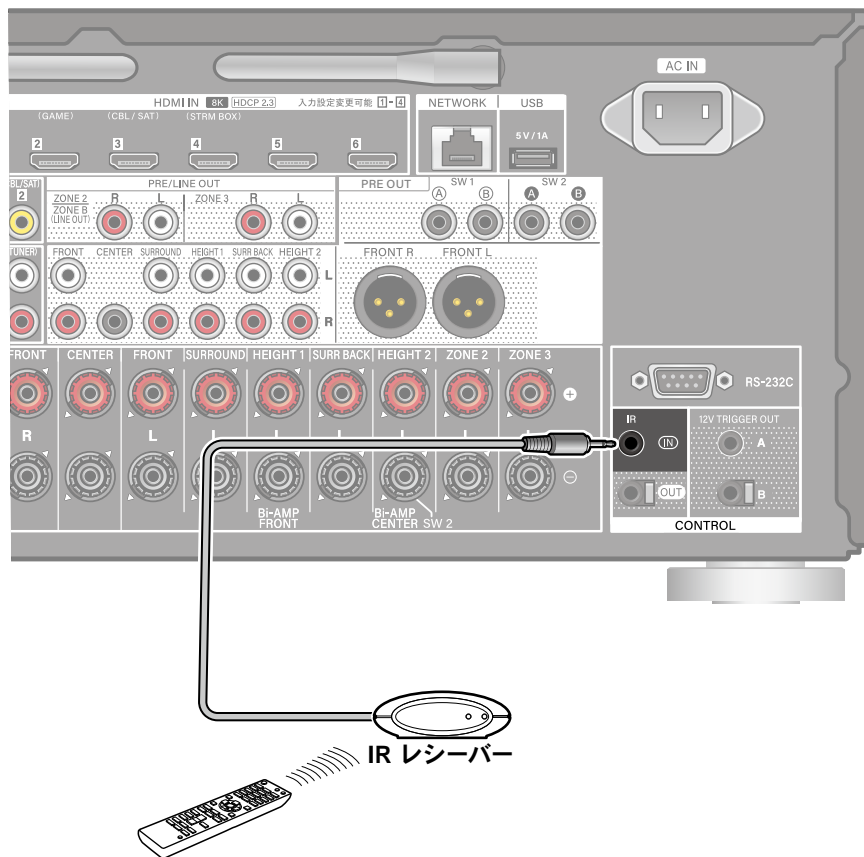
Note

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティーを保つために、必ずルーターなどを使用してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダなど)の通信回線(公衆無線LANを含む)には直接接続しないでください。



外部のコントロール機器を接続する

IR 入力/出力端子

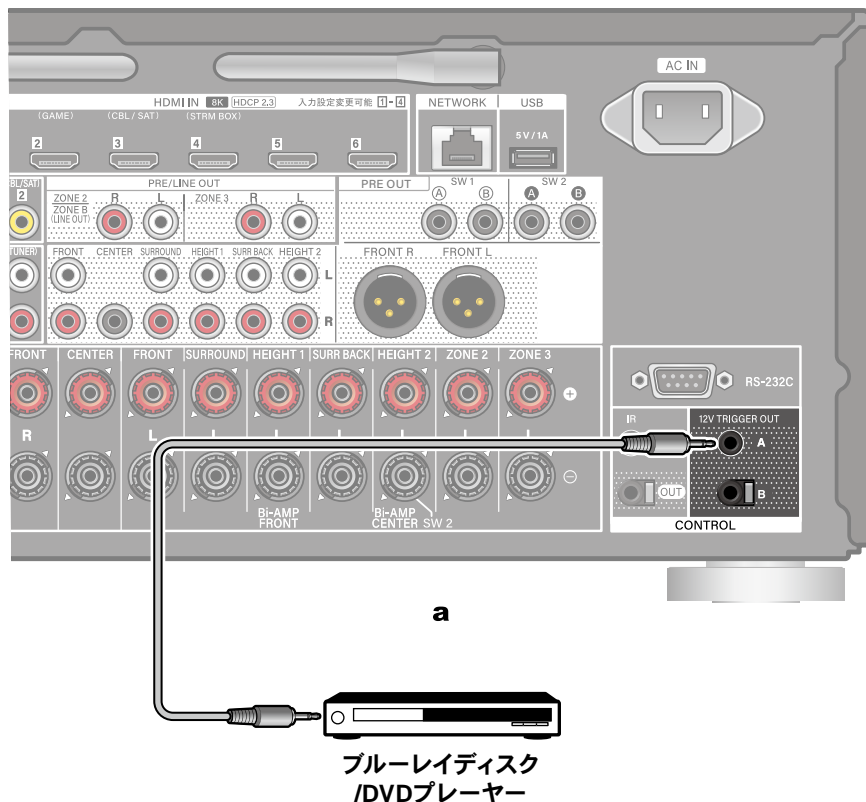


IR レシーバーなどで構成されるリモートコントロールレーザーユニットを本機に接続すると、リモコン信号が届きにくい場合(キャビネットへの設置など)でもリモコンで操作することができます。また、本機をゾーン 2などの別室からリモコンで操作したり、本機と別の機器を接続して、リモコンで別の機器を操作することもできます。リモートコントロールレーザーユニットの導入については、専門の販売店にお問い合わせください。

- 接続に必要なケーブルの種類については、リモートコントロールレーザーユニットの取扱説明書などで確認ください。



12V トリガー出力端子




a モノラルミニプラグケーブル (φ3.5 mm)

ブルーレイディスク/DVDプレーヤーなど12V TRIGGER IN端子を装備している機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン/スタンバイすることができます。本機は任意の入力切換を選んだときに、12V TRIGGER OUT A端子から最大12 V/100 mA、12V TRIGGER OUT B端子から最大12 V/25 mAの制御信号を出力して外部機器の電源連動を制御します。各入力切換は設定を行うことで、制御信号を出力するゾーンを選択することができます。

- 接続には抵抗なしのモノラルミニプラグケーブル(φ3.5 mm)を使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。

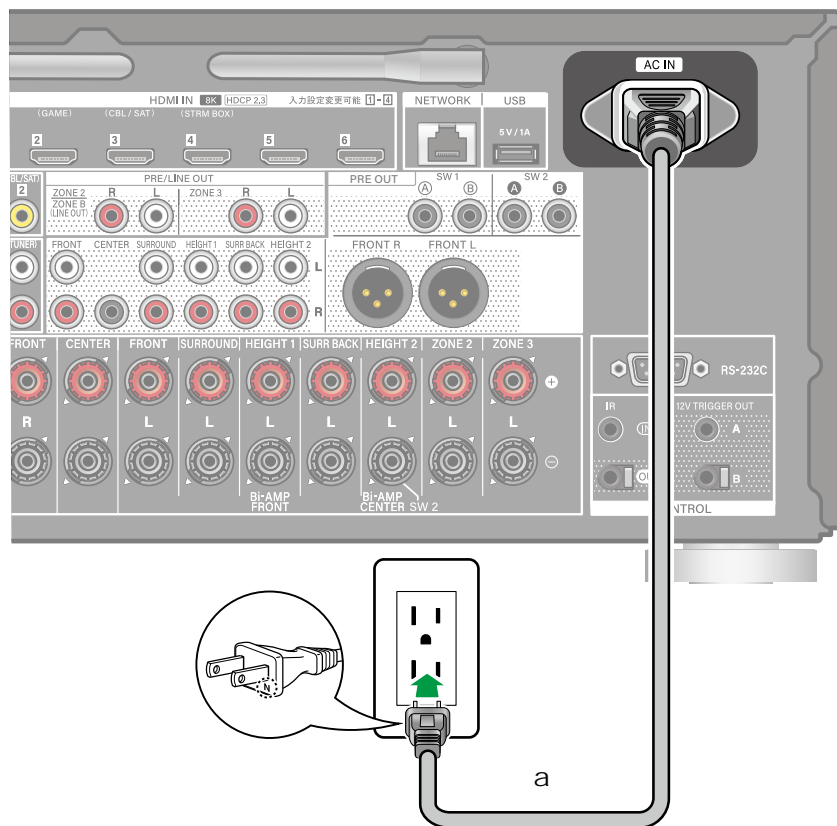


設定が必要です

- 12V TRIGGER OUT端子から制御信号を出力するためには設定が必要です。リモコンの  を押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「12V トリガー A」(→[p138](#))または「12V トリガー B」(→[p138](#))の任意の入力切換を「メイン」、「ゾーン 2」または「ゾーン 3」に設定してください。



電源コードを接続する



すべての接続が完了したら、電源コードを接続してください。

- 本機には取り外しタイプの電源コードが付属しています。電源コードは必ず本機の AC IN に接続したあとで、コンセントに接続してください。電源コードを抜くときは先にコンセントから抜いてください。
- 音質向上のため、電源の極性を合わせます。電源プラグのNの印字がある側をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。コンセントの溝の長さと同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

a 電源コード



基本の操作	76
リスニングモード	79
BLUETOOTH® 再生	80
AV Adjust	83

ネットワークサービス

Spotify	86
AirPlay®	87
DTS Play-Fi®	89
Amazon Alexa	90
Amazon Music	92
Sonosシステムと接続して再生する	94
インターネットラジオ	96

便利な機能

マルチゾーン	98
PERSONAL PRESET を使う	103
AV Directモードを使う	105
USBストレージに保存された音楽ファイルを再生する	106
Music Server	108
Play Queue	111
トランスミッターを接続して再生する	113

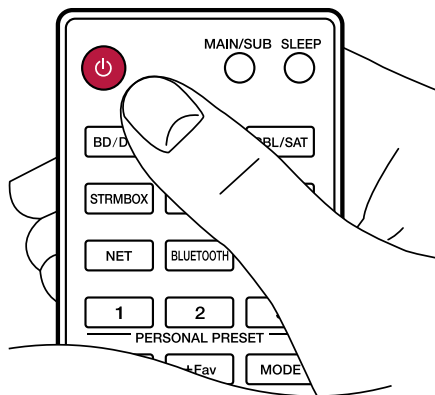
再生する




基本の操作

電源を入れる

1. リモコンの「」を押すと、本機の電源が入ります。

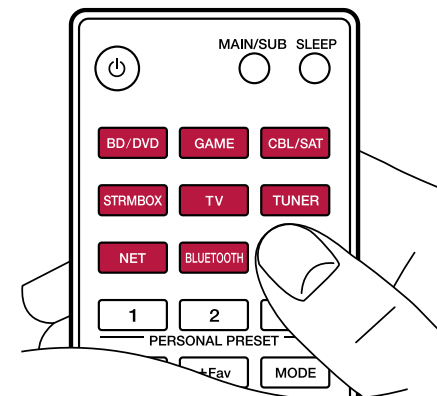


次の操作でも電源を入れる事ができます。

- 本体の「」を押す
- アプリのPioneer Remote App (→[p165](#)) を使う
- 連動機能を使う (HDMI CEC) (→[p77](#))

再生するソースを選択する

1. リモコンの入力切換ボタンを押して、再生するソースを選択します。
例えば、BD/DVD 端子に接続した機器を再生する場合は、BD/DVDを押します。テレビの音声を聴くにはテレビを押します。



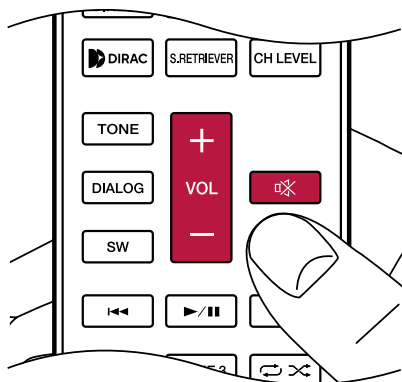
次の操作でも再生するソースを選択することができます。

- 本体の入力切換ダイヤルを回す。
- アプリのPioneer Remote App (→[p165](#)) を使う



音量を調節する

1. リモコンのボリュームボタンを押して、音量を調節します。
一時的に音を消すときは ㊦ Muteボタンを押します。もう一度押すと解除されま
す。
 - Dolby Vision映像が入力されると、テレビ画面に表示されるボリュームバーが青からマゼンタに変わります。



次の方法でも音量を調節することができます。

- 本体のマスターボリュームを操作する
- アプリのPioneer Remote App (→[p165](#)) を使う
- 連動機能を使う (HDMI CEC) (→[p77](#))

連動機能を使う (HDMI CEC)

HDMIケーブルを使用して、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) 機能に対応したテレビと接続すると、テレビのリモコンで本機の音量を調節したり、電源のオン/オフ連動を行うことができます。また、HDMI CEC機能に対応したブルーレイディスクプレーヤーやゲーム機などを接続している場合は、入力切替が自動で行われます。

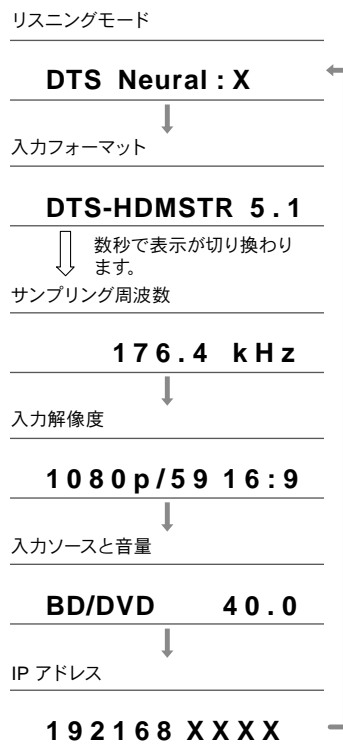
- HDMI CEC の設定 (→[p134](#)) (初期値はOn)
- テレビのHDMI CEC機能については、テレビの取扱説明書などをご確認ください。
- CEC規格に準拠している製品と連動するよう設計されておりますが、すべてのCEC機器との連動動作を保証するものではありません。
- 連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのCEC機器を接続しないでください。
 - ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
 - ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
 - ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台



表示を切り換える

リモコンの **i** ボタンをくり返し押すと、本体表示部が次の順に切り換わります。

- BLUETOOTHなど再生するソースによって、表示内容が異なります。
- 音声信号によっては、入力フォーマットのチャンネル数の隣に「B(Back)」または「W (Wide)」が表示されます。
- すべての情報が表示されるとは限りません。



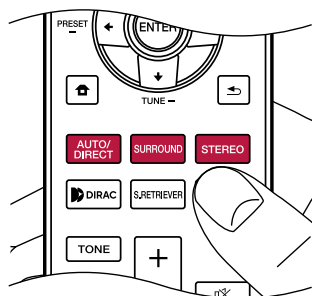
リスニングモード

再生中に「AUTO/DIRECT」、「サラウンド」、「STEREO」のボタンをくり返し押すことで、リスニングモードを切り換えることができます。

- それぞれのリスニングモードの効果は、「リスニングモードの効果」(→p191)をご参照ください。
- 入力する信号の音声フォーマットごとに選択できるリスニングモードについては、「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」(→p187)をご参照ください。

リスニングモードを選ぶ

1. 再生中にAUTO/DIRECT、SURROUND、STEREOのいずれかを押します。



2. 選んだボタンをくり返し押して、本体表示部に表示されるモードを切り換えます。

DTS

- AUTO/DIRECT、SURROUND、STEREOは、各ボタンごとに最後に選んだリスニングモードを記憶します。最後に選んだリスニングモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなリスニングモードを自動的に選択します。

 Dolby Atmos

 DTS X

 IMAX
ENHANCED

Manufactured under license from Dolby Laboratories. Dolby, Dolby Vision, Dolby Atmos, Dolby Audio, and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories.

For DTS patents, see <http://patents.dts.com>. Manufactured under license from DTS, Inc. or under license from DTS Licensing Limited. DTS, DTS:X, DTS Play-Fi, Play-Fi and the DTS:X, DTS Play-Fi, and Play-Fi logos are registered trademarks or trademarks of DTS, Inc. and its affiliates in the United States and other countries. © 2022 DTS, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

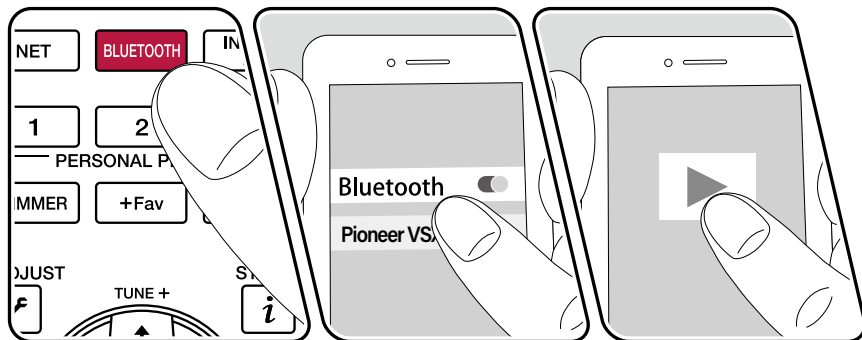
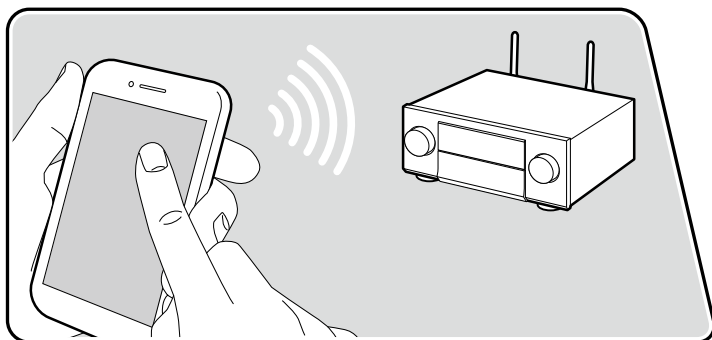
Manufactured under license from IMAX Corporation. IMAX® is a registered trademark of IMAX Corporation in the United States and/or other countries. For DTS patents, see <http://patents.dts.com>. Manufactured under license from DTS, Inc. DTS and the DTS logo are registered trademarks or trademarks of DTS, Inc. in the United States and other countries. © 2020 DTS, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.



BLUETOOTH® 再生

スマートフォンなどのBLUETOOTH対応機器の音声を本機に接続したスピーカーから再生することができます。また、本機からBLUETOOTH対応のヘッドホン、ワイヤレススピーカーなどへ音声を送信することもできます。

BLUETOOTH対応機器の音声を本機で再生する



イラストはイメージです

本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

ペアリング

1. BLUETOOTHボタンを押すと、表示部に「Now Pairing...」が表示され、ペアリングモードになります。

Now Pairing...

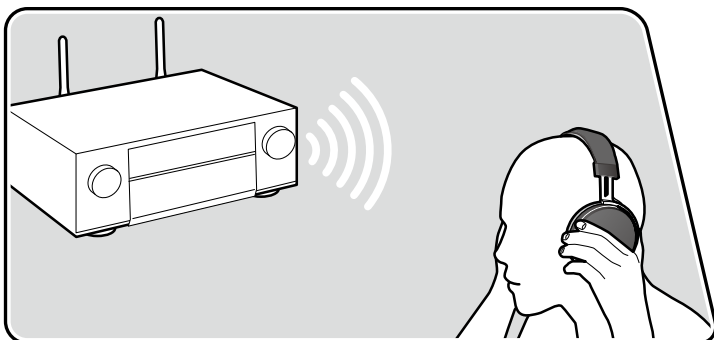
2. BLUETOOTH 対応機器のBLUETOOTH 機能を有効(オン)にして、表示される機器から本機を選びます。パスワードを要求された場合は、「0000」を入力してください。
 - 本機は「Pioneer VSA-LX805 XXXXXX」と表示されます。この表示はフレンドリーネーム機能 (→p154)やPioneer Remote App (→p165)(iOSやAndroid™でご利用になれます)で変更することができます。
 - 別のBLUETOOTH 対応機器と接続する場合は、「Now Pairing...」が表示されるまでBLUETOOTHボタンを長押しして、2の操作を行います。本機は最大8台のペアリング情報を記憶できます。
 - 約15 m 圏内で通信できます。なお、すべてのBLUETOOTH 対応機器との接続動作を保証するものではありません。
 - ペアリングに失敗する場合は、ホーム画面の「ネットワーク/Bluetooth」- 「Bluetooth」- 「Bluetooth送信機能」(→p157)を「オフ」、 「Bluetooth受信機能」(→p156)を「オン」に設定してください。

再生する

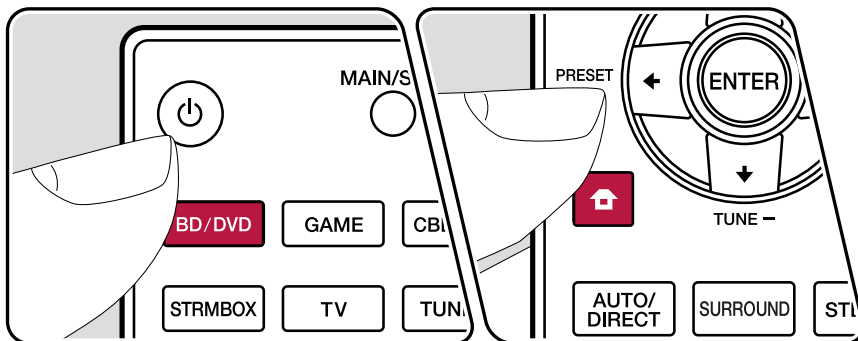
1. BLUETOOTH 対応機器の接続操作を行います。
2. 音楽ファイルを再生します。
本機の入力が自動で「BLUETOOTH」に切り換わります。
BLUETOOTH 対応機器のボリュームは適度に大きくしてください。
 - BLUETOOTH ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はBLUETOOTH 対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。



本機からBLUETOOTH対応機器へ音声を送信する



イラストはイメージです



ペアリング

- 再生したい入力切替を押します。
 - 「BLUETOOTH」以外を選択してください。「BLUETOOTH」を選択した場合は、本機能は無効です。
- リモコンの🏠ボタンを押して表示されるホームの「ネットワーク/Bluetooth」-「Bluetooth」-「Bluetooth送信機能」を選び、ENTERボタンを押します。
- 「Bluetooth送信機能」で「オン(Tx)」または「オン(メイン+Tx)」を選びます。
 - 「オン(Tx)」を選択した場合はBLUETOOTH対応機器のみ、「オン(メイン+Tx)」の場合はBLUETOOTH対応機器と本体の両方から再生されます。



- 「デバイスを検索する」で、ENTERボタンを押します。
 - 受信可能なBLUETOOTH対応機器の検索が始まり、対象の機器が一覧表示されます。
- 音声出力したい機器を選び、ENTERボタンを押すと「Now Pairing…」が表示されて、ペアリングモードになります。
 - BLUETOOTH対応機器によっては、手動でペアリング状態にする必要がある場合があります。機器の名称が一覧に表示されない場合には、BLUETOOTH対応機器の設定を確認してください。



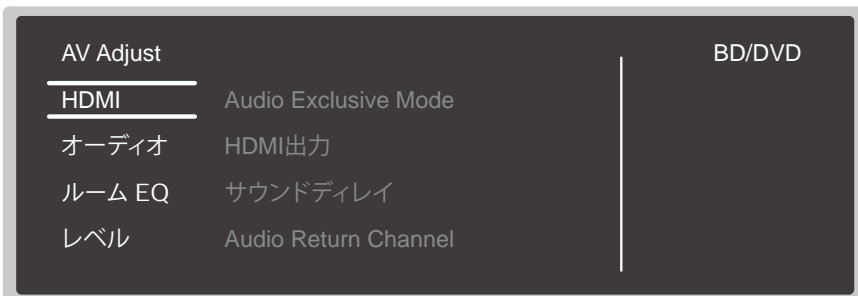
再生する


1. 本機に接続したAV機器で再生操作を行います。TUNER、NET入力切換の場合は本機で再生操作を行います。
 - 「アウトプットレベル」で「可変」を選択すると本機でボリュームを調節することができます。あらかじめ接続したBLUETOOTH対応機器側で適切なボリュームに調節しておいてください。「固定」の場合は、BLUETOOTH対応機器でボリュームの調節を行ってください。
 - 本機から複数台のBLUETOOTH対応機器へ音声送信はできません。
 - 約15 m圏内で通信できます。なお、すべてのBLUETOOTH対応機器でこの接続動作を保証するものではありません。
 - 「Bluetooth送信機能」が「オン(Tx)」または「オン(メイン+Tx)」でかつ下記の場合は、本機がペアリング済みのBLUETOOTH対応機器を検出すると、本機は自動でその機器と再接続します。
 - スタンバイ状態になった後、再度電源を入れたとき
 - 「BLUETOOTH」以外を選択中
 - 「NET」入力切換を選択中で、ネットワークサービス/コンテンツによる音声出力が行われているとき(一部のサービスを除く)
 機能を利用しない場合は「Bluetooth送信機能」で「オフ」を選択し、接続を解除してください。または、受信機側で接続を切断してください(受信機側で接続の切断が可能な場合)
 - 以下の場合、BLUETOOTH対応機器から音声出力はできません。
 - 音声ファイルがDSD形式の場合
 - 以下のネットワークサービスによる音声の再生時： Chromecast built-in、Amazon Alexa、AirPlay、DTS Play-Fi
 - 出力される音声に本機の音質調整やリスニングモードの適用はできません。
 - 本機能はメインルーム(本機のある部屋)のみ利用可能です。別室(ゾーン 2/ゾーン 3)から音声を出力するマルチゾーン機能をオンにすると、本機能はオフになります。



AV Adjust



音質の調整など、便利な機能を素早く設定することができます。



再生しながらテレビの画面で設定が可能です。リモコンの  ボタンを押して、AV Adjustのメニューを表示させます。

リモコンのカーソル▲/▼で内容を選び、ENTERボタンで決定します。

設定を変更するには、カーソルで操作します。



- ひとつ前の画面に戻るには  ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、  ボタンを押します。

Note

- 8K信号など高い帯域幅が必要な入力信号の場合には、AV Adjustが表示されないことがあります。

HDMI

Audio Exclusive Mode : HDMI IN 1端子を音声専用のモードにし、音質を向上させることができます。なお、設定をオンにした場合、映像信号の出力が止まりテレビ画面は表示されなくなります。

-  ボタンを押すとテレビ画面に表示されますが、  ボタンを再度押すと、映像信号は出力されません。

HDMI出力 : 映像信号を出力するHDMI OUT端子を「MAIN」、「SUB」、「MAIN+SUB」から選びます。

サウンドディレイ : 映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて映像と音声のずれを調整できます。各入力切換に個別に設定することができます。

- リスニングモードがPure Directモードでアナログ信号やDSD信号を入力しているときは設定できません。

Audio Return Channel : HDMI接続したARC機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合は「オン」を選び、ARC機能を使用しない場合は「オフ」を選んでください。



■ オーディオ

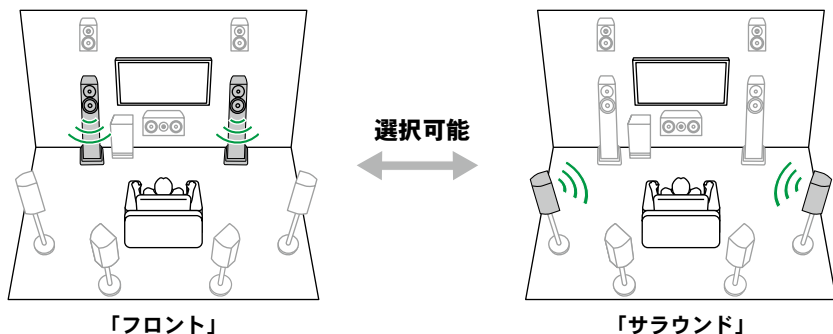
サウンドレトリバー：圧縮された音声をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が48 kHz以下の信号に働きます。ビットストリーム信号は効果がありません。

- リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。
- 「Dirac Live」(→p85)でいずれかのSlotを選択している場合は、選択できません。

Midnight：小さな音でも細かな音が聞こえやすくなる機能です。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

- リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。
- 以下の場合、この機能を使用することはできません。
 - 「Loudness Management」を「オフ」に設定し、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDを再生している場合
 - 入力信号がDTS:Xで、「Dialog Control」が0 dB以外の場合

ステレオアサイン：お好みのペアスピーカーからステレオ出力できる機能です。音声出力するスピーカーはフロントスピーカー(「フロント」以外にサラウンドスピーカー(「サラウンド」)、サラウンドバックスピーカー(「サラウンドバック」)、ハイト 1 スピーカー(「ハイト 1」)、ハイト 2 スピーカー(「ハイト 2」)から選択できます。



- 音声の出力先を変更した場合、リスニングモードは「Stereo」に切り換わります。

ゾーン B：ゾーン Bへの音声の出力方法を「オフ」、「オン (A+B)」、「オン (B)」から選びます。

- 以下の場合、「ゾーン B」を選択することはできません。
 - ゾーン 2がオンの場合
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン 2 プリアウト」が「ゾーン」に設定されている場合(→p124)

Auto フェイズコントロール+：フェイズコントロール規格で作られたディスク以外は、低域が遅れて記録されているものがあります。そういったディスクの位相ずれを補正します。「自動」を選ぶと低域の遅れだけでなく、極性と相関も検出して補正します。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。
- 「Dirac Live」(→p85)でいずれかのSlotを選択している場合は、選択できません。

AV Direct Mode：デジタル回路の動作を制限してノイズの発生を抑えることで、音質を向上させることができます。(→p105)

Dialog Lifted Up：センター成分の定位感を調整することにより、映画やドラマのセリフ、または音楽のボーカルを際立たせ、より聴き取りやすい音にします。front high speakersを使用している場合に、「1」(低)～「4」(高)から選びます。

- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
 - Front Highスピーカーが有効でない場合
 - 「DIALOGボタン」(→p17)の機能を使用している場合
 - 「Dialog Control」(→p130)が設定されている場合
 - リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのとき

オーディオスケイラー：「自動」を選ぶと、「Hi-bit 32」、「アップサンプリング」、「デジタルフィルター」を自動で最適な設定にして、音楽ファイルやCDなどを高音質再生します。この設定は、各入力切替ごとに行えます。

「Hi-bit 32」、「アップサンプリング」、「デジタルフィルター」を手動で設定する場合は、「手動」を選んでください。

Hi-bit 32：CDやDVD、BDといったデジタル音声信号へのダイナミックレンジの拡大をすることにより、より滑らかで繊細な音楽表現を可能にします。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が44.1 kHz以上の場合に設定できます。

- 「オーディオスケイラー」で「自動」を選んでいるときは設定できません。



アップサンプリング：PCM2チャンネル音声のサンプリング周波数を2倍または4倍にすることで、高音質な再生を実現します。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が44.1 kHz～96 kHzの場合に設定できます。この機能が使用できるリスニングモードは、Direct、Pure Direct、Stereoです。

- 「オーディオスケイラー」で「自動」を選んでいるときは設定できません。

デジタルフィルター：AUDIO DAC (デジタルアナログコンバーター)のデジタルフィルターの種類を切り換えます。「Slow」(柔らかく緩やかな音の印象)、「Sharp」(骨格感のある硬めな音の印象)、または「Short」(立ち上がり早く前に出てくるような音の印象)から選びます。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が44.1 kHz以上の場合に設定できます。

- 「オーディオスケイラー」で「自動」を選んでいるときは設定できません。

Reflex Optimizer：Dolby Enabledスピーカーの天井からの反射効果を高めます。この設定は、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ハイト 1 スピーカー」/「ハイト 2 スピーカー」を「Dolby Speaker」に設定している場合に選択できます。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

■ ルームEQ

Dirac Live(*1)：Dirac Live (→[p162](#), [p166](#)) で測定したフィルタが登録されているスロットを「Slot1」～「Slot3」から選びます。

- 「Slot1」～「Slot3」はDirac Liveの測定結果が保存されますが、「Manual Adjust」(→[p168](#))でオリジナルのフィルタを登録することもできます。
- 「フルオートMCACC」で測定した場合は選択できません。

MCACC EQ (*1)(*3)：部屋の環境による音のひずみを補正するイコライザー機能を有効/無効に切り換えます。

フェイズコントロール (*1)：低域の位相乱れを補正して低音を増強します。原音に忠実な力強い低音域再生を実現します。

MCACC メモリー：「フルオートMCACC」や「マニュアルMCACC」で補正したスピーカーの設定内容を保存しているMCACCメモリー 1～3から、どのMemoryを使用するかを選びます。

シアターフィルター (*2)(*3)：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

定在波制御 (*1)(*3)：「オン」に設定すると音波が壁などで反射して元の音波と干渉することで発生する定在波の影響を制御できます。

(*1) リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

(*2) リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。

(*3) 「Dirac Live」(→[p162](#), [p166](#))を使用している場合、この機能は使用できません。また、選択できる場合でも効果がありません。

■ Level

フロント：音声を聴きながら、フロントスピーカーのスピーカーレベルを調整します。

センター：音声を聴きながら、センタースピーカーのスピーカーレベルを調整します。

サブウーファー 1/サブウーファー 2：音声を聴きながら、サブウーファースピーカーレベルを調整します。

- 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。



Spotify



スマートフォンやタブレット、PCをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。
詳しくは spotify.com/connect をご覧ください。

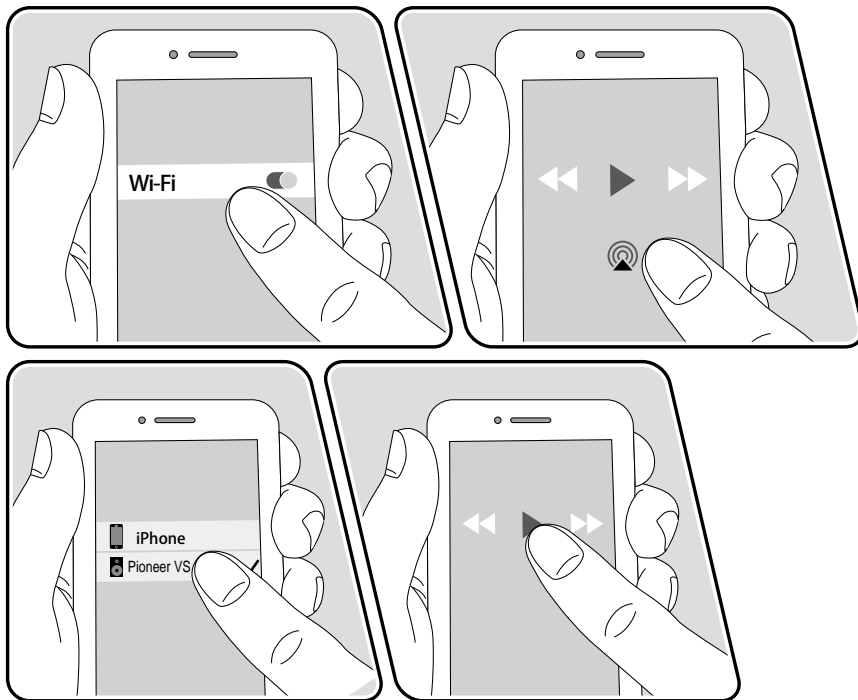


AirPlay®


本機をiPhone®、iPod touch®, iPad®などのiOS端末と同じネットワークに接続すると、iOS端末の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。


- iOS端末のOSは最新のバージョンにアップデートしてください。
- iOSのバージョンによっては、iOS端末側の操作画面や操作手順が異なる場合があります。詳しくはiOS端末の操作説明をご参照ください。

本機で再生する



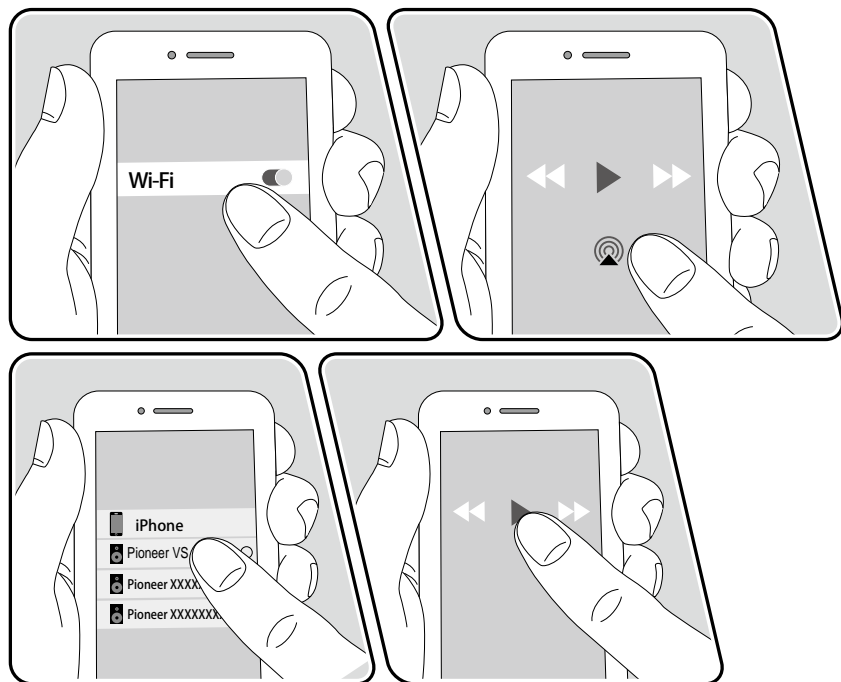
(例) iOS 10

1. iOS端末を本機がネットワーク接続しているアクセスポイントにネットワーク接続します。
2. AirPlayに対応したiOS端末の音楽再生アプリの再生画面でAirPlayアイコンをタップして、表示される機器から本機を選択します。
3. iOS端末の音楽ファイルを再生します。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→[p137](#))はオンに設定されています。
 - AirPlayワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はAirPlay対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

また、iTunes(Ver. 10.2以降)を搭載したPCの音楽ファイルも再生することができます。操作は、本機とPCが同じネットワークに接続していることを確認したうえで、リモコンのNETボタンを押します。次にiTunesのAirPlayアイコンをクリックして、表示される機器から本機を選び、音楽ファイルを再生します。




複数の機器で再生する(AirPlay2)



(例) iOS 10

本機はAirPlay2に対応しています。iOS端末のバージョンがiOS11.4以上の場合、iOS端末の曲を本機とAirPlay2対応の他の機器で同時に再生することができます。

1. iOS端末を本機がネットワーク接続しているアクセスポイントにネットワーク接続します。
2. iOS端末の音楽再生アプリの再生画面でAirPlayアイコンをタップして、表示される機器から本機と再生したいAirPlay2対応機器を選択します。
 - AirPlay2対応機器には右側に白い丸が表示されます。
 - AirPlay2対応機器は複数台選ぶことができます。
 - 音量調整は機器ごとに調整することができます。
3. iOS端末の音楽ファイルを再生します。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→[p137](#))はオンに設定されています。
 - AirPlayワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はAirPlay対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

また、iTunes(Ver. 12.8以降)を搭載したPCの音楽ファイルも再生することができます。操作は、本機とPCが同じネットワークに接続していることを確認したうえで、リモコンのNETボタンを押します。次にiTunesのAirPlayアイコンをクリックして、表示される機器から本機と再生したいAirPlay2対応機器を選び、音楽ファイルを再生します。



DTS Play-Fi®



<https://play-fi.com/>

本機をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末と同じネットワークに接続すると、モバイル端末で再生した音楽をワイヤレスで楽しむことができます。再生は音楽ストリーミング配信サービスの楽曲や、モバイル端末のミュージックライブラリ内の楽曲などを再生することができ、iTunesのプレイリストにも対応しています。また、複数のDTS Play-Fi対応スピーカーを同じネットワークに接続すると、ご家庭の色々な部屋で同じ音楽を再生する「グループ再生」も可能です。なお、この機能をお楽しみになるには、Pioneer Music Control App(iOSやAndroid™でご利用になれます)のダウンロードが必要です。



Playing Back

1. モバイル端末で、Pioneer Music Control Appをダウンロードします。
https://intl.pioneer-audiovisual.com/playfi/app_p.html



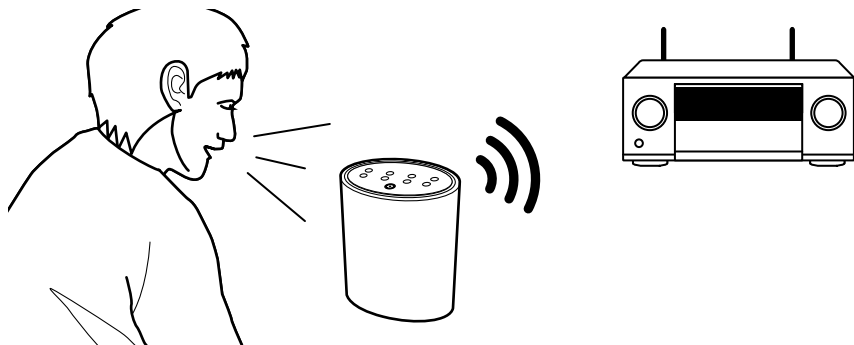
2. モバイル端末を本機が接続しているネットワークに接続します。
 3. Pioneer Music Control Appを起動すると、自動的に対応機種が表示されます。
 4. 対応機種の中から本機を選ぶと、音楽ストリーミング配信サービスなどのアプリの一覧が表示されますので、再生したいコンテンツを選び、画面の誘導に従って操作を行います。
- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→p137)はオンに設定されています。
 - 操作の詳細やFAQをご覧になりたい場合は、下記のURLをご参照ください。
https://intl.pioneer-audiovisual.com/playfi/info_p.html
 - 音楽ストリーミング配信サービスをご使用の場合、ユーザー登録などが必要な場合があります。
 - 本機は、以下のDTS Play-Fi機能には対応していません。
 - Spotify
 - Wireless Surround Sound
 - Line In Rebroadcast
 - インターネットラジオ
 - 本機で「セットアップメニュー」のいくつかの設定が変更できなくなります。それらの設定を変更したいときは、アプリから本機の接続を解除してみてください。



Amazon Alexa

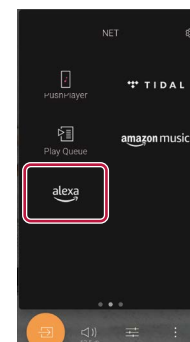
AlexaはAmazonが開発したクラウドベースの音声サービスです。本機をAmazonアカウントに登録すると、Amazon Alexa 搭載端末(Amazon Echoなど)やAmazon Alexaアプリ(iOSやAndroid™でご利用になれます)を利用して、音声操作で本機のボリュームを調整したり、音楽を再生することができます。

- Amazon Alexaを使用するには、Amazonのアカウントが必要です。詳しくはAmazonのホームページでご確認ください。



本機をAmazonアカウントに登録する

1. Amazonアカウントへの登録は、Pioneer Remote Appで行います。本機の操作では設定することはできません。
アプリについては「Pioneer Remote App」(→p165)をご参照ください。
2. Pioneer Remote Appを起動し、表示された本機をタップします。
3. Pioneer Remote Appの画面上部にある「NET」または「ネットワーク」をタップして、ネットワークメニューに切り換えたあと、「amazon alexa」アイコンをタップします。
 - ログイン画面が表示されず、アップデートやインストールの画面が表示された場合は、画面の誘導に従ってアップデートやインストールを行ってください。



お住まいの地域によって利用可能なサービスが異なります。

4. 「セットアップ開始」をタップして、セットアップ画面で言語の選択と製品名の登録を行います。言語は他のAmazon Alexa 搭載端末(Amazon Echoなど)と同じ言語を選択してください。また、製品名には音声で簡単に呼び出せる名前を入力してください。
(例)スピーカー
5. 「次へ」をタップして、Amazon Alexaの画面を表示させます。
6. 画面の誘導に従って操作を行い、メールアドレスやパスワードなど、Amazonのアカウント情報を入力してAmazonにログインします(*1)。ログイン後、「許可」をタップして、本機をAmazonアカウントに登録します。
(*1) 他のAmazon Alexa 搭載端末と同じアカウントでログインしてください。



7. 登録が完了すると、Pioneer Remote Appの画面に戻ります。画面の誘導に従ってAmazon Alexa 搭載端末(Amazon Echoなど)に話しかけて、音声操作ができるか確認します。

例： 「Alexa、スピーカー(*2)の音量を上げて」

「Alexa、スピーカー(*2)で音楽を再生して」

(*2) 手順4で登録した製品名で話しかけてください。



本機を操作する

音声操作で本機のボリュームを調整したり、音楽の再生/停止、音楽のスキップアップ/ダウンを行うことができます。

1. 本機の電源がオンの状態で、Amazon Alexa 搭載端末(Amazon Echoなど)に向かって話しかけます。Amazon Alexaアプリを使用する場合は、アプリを起動したあと、Alexaのロゴマークをタップしてモバイル端末に話しかけてください。

例： 「Alexa、スピーカー(*3)の音量を上げて」

「Alexa、スピーカー(*3)で音楽を再生して」

(*3) 「本機をAmazonアカウントに登録する」の手順4で登録した製品名で話しかけてください。

- 音声操作の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。[\(Click here\)](#)
- Amazon Alexaアプリの操作については、Amazonのホームページをご確認ください。



Amazon Music

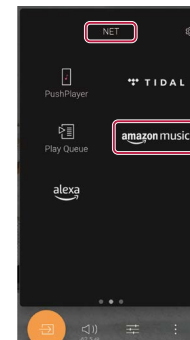


本機をAmazon Musicに登録すると、Amazonが提供している音楽配信サービスを楽しむことができます。

- Amazon Musicを再生するには、AmazonのアカウントとAmazon PrimeやAmazon Music Unlimitedへの加入が必要です。詳しくはAmazonのホームページでご確認ください。

本機をAmazon Musicに登録する

1. Amazonアカウントへの登録は、Pioneer Remote Appで行います。本機の操作では設定することはできません。
アプリについては"Pioneer Remote App" (→p165)をご参照ください。
2. Pioneer Remote Appを起動し、表示された本機をタップします。
3. Pioneer Remote Appの画面上部にある「NET」または「ネットワーク」をタップして、ネットワークメニューに切り換えたあと、「Amazon Music」アイコンをタップして、Amazon Musicのログイン画面を表示させます。(機種によって、アイコン名は異なる場合があります)
 - ログイン画面が表示されず、アップデートやインストールの画面が表示された場合は、画面の誘導に従ってアップデートやインストールを行ってください。



お住まいの地域によって利用可能なサービスが異なります。

4. メールアドレスやパスワードなど、Amazonのアカウント情報を入力して、Amazonにログインします。ログインに成功して本機が登録されると、Amazon Musicのメニューが表示されます。
続いて再生する場合は、次項の手順3に進んでください。



Pioneer Remote Appを使ってAmazon Musicを再生する

1. Pioneer Remote Appを起動します。起動すると自動的に本機が表示されますので、表示された本機をタップして選びます。
2. 画面上部にある「NET」または「ネットワーク」をタップして、ネットワーク画面に切り換えたあと、「Amazon Music」アイコンをタップします。
3. Amazon Musicのメニュー画面の中から再生したいコンテンツを選んで、再生を行います。

リモコンを使ってAmazon Musicを再生する

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. NET を押すと、テレビにNetwork Functions の一覧画面が表示されます。
3. カーソルで「Amazon Music」を選び、ENTER で決定します。
4. Amazon Musicのメニュー画面の中から再生したいコンテンツを選んで、再生を行います。



Sonosシステムと接続して再生する



本機とSonos Portを接続すると、Sonos App上の音楽、音源を本機に送ることができます。Sonos Portを介することで、本機をネットワーク上の別のSonos機器と同じグループで再生したり、または本機のみで再生することができます。また、Sonos Appから音楽の再生を開始すると、自動的に本機の電源がオンになり、入力切り換を行う連動機能が働きます。

- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→p137)はオンに設定されています。
- Sonos Portは最大3台まで登録することができます。

必要な機器

- Sonos Port
- RCAオーディオケーブル(Sonos Portに付属)

本機とSonos Portとの接続方法

- Sonos Portと本機のAUDIO IN端子をSonos Portに付属のRCAオーディオケーブルを使って接続します。PHONO端子以外のどの入力端子でも使用できます。
 - デジタルケーブルでも接続することができます。詳しくはSonosの取扱説明書をご確認ください。
 - 本機に表示される入力切り換をより分かりやすい名前に変更することができます。例えば、Sonos Portに接続された入力を「CD」(または別の入力切り換え名)から「SONOS」に変更することができます。リモコンの ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「入力ソース」-「名前変更」から変更します。

設定する

Sonosを本機で再生するには、設定が必要です。以下の手順に従って設定を行ってください。

- リモコンの ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「Works with SONOS」を選び、ENTERボタンを押します。
- カーソルの▲/▼で次の項目を選んで設定します。

入力セクタ:

Sonos Portとの連動機能を有効にします。カーソルの◀/▶で、Sonos Portを接続した入力端子を選びます。

接続機器:

ENTERボタンを押すと、本機と同じネットワークに接続されているSonos機器が表示されます。本機と接続されているSonos Portを選んで、ENTERボタンを押します。

- Sonos Port以外の製品(Play:3などの出力端子を持たない製品)も機器一覧に表示され、選択することができてしまいます。その場合、Sonos側の再生が開始されると入力が切り換わりますが、音声は出力されません。接続されているSonos Portのルーム名を選択してください。
- Sonos製品一覧画面に表示できるのは32台までになります。連動したいSonos Portが見つからない場合は、前の画面に戻り連動しない製品の電源を切ってから、再度お試しください。



出力ゾーン：

カーソルの◀/▶で音楽を聴きたいZONEを選びます。

「メイン」：メインルーム(本機のある部屋)にのみ音声を出力します。

「ゾーン 2」：別室(ゾーン 2)にのみ音声を出力します。

「メイン/ゾーン 2」：メインルームと別室(ゾーン 2)の両方に音声を出力します。

「ゾーン 3」：別室(ゾーン 3)にのみ音声を出力します。

「メイン/ゾーン 3」：メインルームと別室(ゾーン 3)の両方に音声を出力します。

「ゾーン 2/ゾーン 3」：別室(ZONE 2とZONE 3)の両方に音声を出力します。

「メイン/ゾーン 2/ゾーン 3」：メインルームと別室(ZONE 2とZONE 3)に音声を出力します。

音量プリセット：

Sonos Portを再生するときのボリュームをあらかじめ設定しておくことができます。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「 $-\infty$ dB」、「 -81.5 dB」～「 $+18.0$ dB」から選びます。

- 2台目と3台目の設定を行う場合は、カーソルの▼を繰り返し押しして次の画面に進み、メニューを「SONOS-1」から「SONOS-2」や「SONOS-3」に切り換えてください。

Sonosを本機で再生する

- Sonos Appを使って聞きたい曲を選び、本機が設置されている部屋(またはグループ)に送ることができます。本機とSonos Portの組合せには、機器が設置されているTVルームまたはリビングルームといった覚えやすい名前をつけることをおすすめします。
- 音楽の再生を開始しても本機の入力が自動で切り換わらない場合は、一度再生を止めて、再び再生を開始してください。
- Sonos Appの設定で「Volume Pass Through」モードを選択すると、Sonos Appを使って本機のボリュームを操作することができます。
 - * 「Volume Pass Through」モードを選択すると、「音量プリセット」機能は無効になります。



インターネットラジオ

本機をインターネットに接続されたネットワークに接続すると、TuneIn Radioなどのインターネットラジオサービスをお楽しみいただけます。

- インターネットラジオサービスを再生するには、ネットワークがインターネットに接続されている必要があります。
- インターネットラジオサービスによっては、事前にPCなどからユーザー登録が必要な場合があります。各サービスの詳細については、各サービスのホームページをご確認ください。
- radiko.jp で、お使いの地域以外の放送局を選ぶには、radiko.jp プレミアムへの会員登録が必要です。詳しくはradiko.jp のホームページをご確認ください。

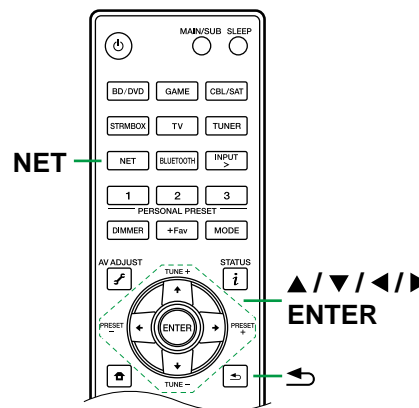
再生する





イラストはイメージです

本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. NET を押すと、テレビにネットワークサービスの一覧画面が表示されます。
3. カーソルでお好みのインターネットラジオサービスを選び、ENTER で決定します。
4. 画面の表示に従ってカーソルでラジオ局や番組を選び、ENTER で再生します。
 - ひとつ前の画面に戻るには◀を押します。



インターネットラジオサービスのメニューについて

特定の放送局をお気に入り登録したり、お気に入り登録した放送局を削除したりすることができます。表示されるメニューは、選択中のサービスによって異なります。放送局の再生中に画面の右下にメニューアイコンが表示されます。このアイコンだけが表示されている場合は、そのままENTERを押すと、画面にメニューが表示されます。複数のアイコンが表示されている場合は、カーソルでアイコンを選び、ENTERを押します。

radiko.jp プレミアムについて

radiko.jp プレミアムの会員登録をされている場合、本機からログインすると、お使いの地域以外の全国各地の放送局を聴くことができます。radiko.jp でお使いの地域以外の放送局を選んでENTERボタンを押したあと、以下の操作でログインしてください。

1. 「E-mail アドレスを入力してください」と表示されるので、ENTERを押して、会員登録に使用したメールアドレスを入力します。入力が終わったら「OK」を選び、ENTERを押します。
2. リモコンのカーソルで「OK」を選び、ENTERを押します。
3. 「パスワードを入力してください」と表示されるので、ENTERを押して、パスワードを入力します。入力が終わったら「OK」を選び、ENTERを押します。
4. リモコンのカーソルで「OK」を選び、ENTERを押します。

TuneIn Radio アカウントについて

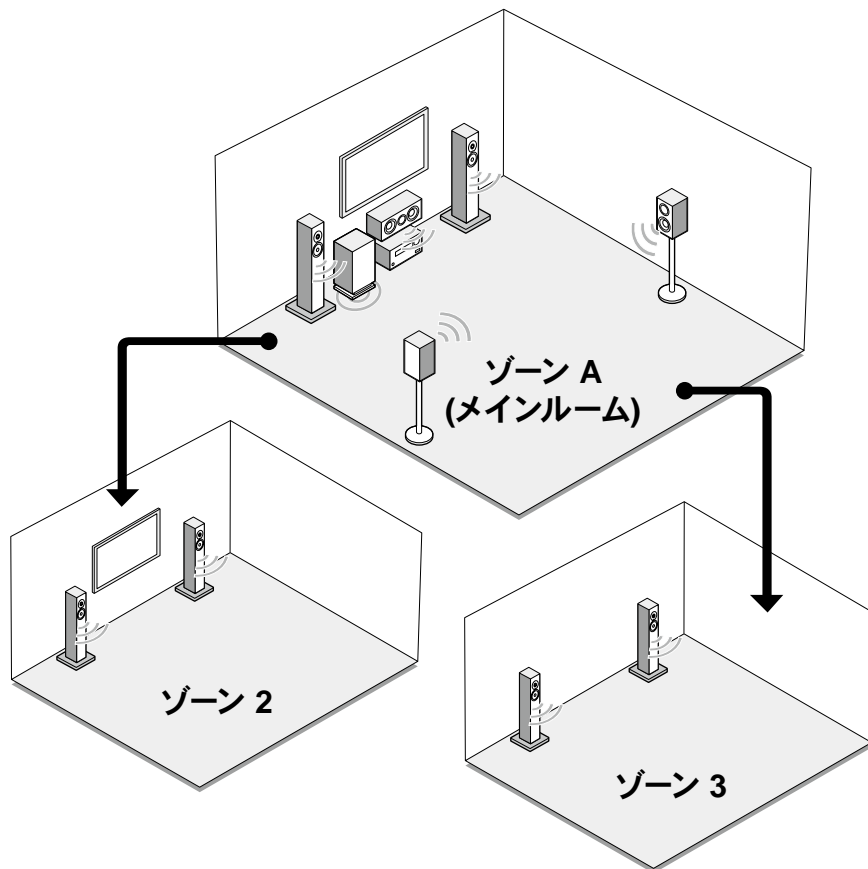
TuneIn Radio のホームページ(tunein.com)でアカウントを作成し、本機からログインするとホームページ上でフォローしたお気に入りのラジオ局や番組が、本機の「My Presets」に自動的に追加されます。「My Presets」はTuneIn Radioの次の階層に表示されます。「My Presets」に追加されたラジオ局を表示するには、本機の操作においてもTuneIn Radioにログインする必要があります。ログインは本機の「TuneIn Radio」のトップリストから「Login」 - 「I have a TuneIn account」を選び、ユーザー名とパスワードを入力してください。

- 本機で「Login」を選ぶと表示される登録コードを使って、TuneIn Radioホームページのマイページからデバイスの関連付けを行うと、「Login」 - 「Login with a registration code」から、ユーザー名とパスワードの入力を省略してログインすることができます。



マルチゾーン

メインルーム(本機のある部屋)で再生をしながら、別室(ゾーン 2/ゾーン 3)で2chの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン 2/ゾーン 3で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。



マルチゾーン再生の操作には、Pioneer Remote App (→[p165](#)) が便利です。Pioneer Remote App(iOSやAndroid™でご利用になれます)をダウンロードしたスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で使用できます。

- 再生する(ゾーン 2) (→[p99](#))
- 再生する(ゾーン 3) (→[p101](#))



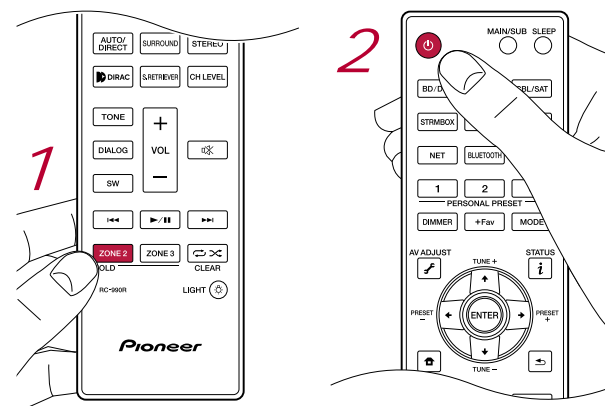
再生する(ゾーン 2)

Note

- 外部接続のAV機器の音声は、アナログまたは2ch PCM音声のみゾーン 2で再生可能です。本機とHDMIケーブル、同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続している場合は、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。
- HDMI入力の映像や音声をゾーン 2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力 / OSD」-「Zone2 HDMI」(→p118)を「Use」に設定してください。
- 「NET」または「BLUETOOTH」入力切替は、メインルームと別室とで同じソースしか選べません。また、メインルームで「NET」を選択中に別室で「BLUETOOTH」を選択すると、メインルームも「BLUETOOTH」に切り換わります。
- 「NET」入力切替では、DSDの音声信号はゾーン 2に出力できません。
- ゾーン 2がオンのときは、スタンバイ時の消費電力が増加します。
- "本機からBLUETOOTH対応機器へ音声を送信する" (→p81)を使用すると、本機能はオフになります。

ゾーン 2のオン/オフを行う

- リモコンのZONE 2 HOLDボタンを押しながら、リモコンを本機に向けて0を押します。本体で操作する場合は、ZONE 2 ON/OFFボタンを押します。



ゾーン 2がオンになると、本体の表示部に「Z2」が点灯します。ゾーン 2をオフにするには、もう一度同じ操作を行います。

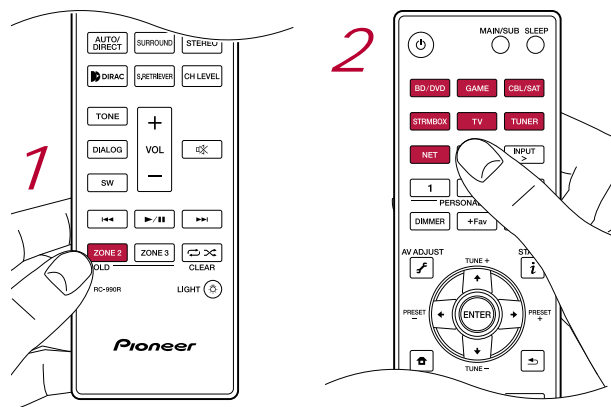
Z2

- ゾーン 2使用時に本機の電源をスタンバイにすると、Z2表示がうす暗く点灯し、別室のみの再生モードに切り換わります。また、本機がスタンバイ時にゾーン 2をオンにしても、別室のみの再生モードになります。



ゾーン 2で再生するソースを選択する

1. リモコンのZONE 2 HOLDボタンを押しながら別室で再生したい入力の入力切替を押します。
本体で操作する場合は、ZONE CONTROL ボタンをくり返し押して表示部で「Z2」を選んだあとに、別室で再生したい入力を入力切替ダイヤルで8秒以内に選びます。

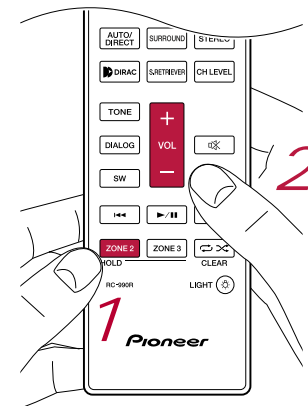


- 別室のテレビに接続機器の情報を表示することができます。リモコンのZONE 2 HOLDボタンを押しながら **i** ボタンを押してください。

ゾーン 2の音量を調節する

ゾーン 2 スピーカーを使用する場合

1. リモコンのZONE 2 HOLDボタンを押しながらボリュームボタンで調整します。本体で操作する場合は、本体のZONE CONTROLボタンを押してから、8秒以内にマスターボリュームつまみで調節します。



別室のプリメインアンプを使用する場合

1. プリメインアンプのボリュームで音量を調節します。
 - ボリュームコントロールが付いていないプリメインアンプを使用する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン 2」-「アウトプットレベル」(→p140)を「可変(初期値は固定)」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、プリメインアンプやスピーカー等が破損する恐れがあります。ボリュームコントロールが付いているプリメインアンプを接続する場合は、「固定」のままご使用ください。



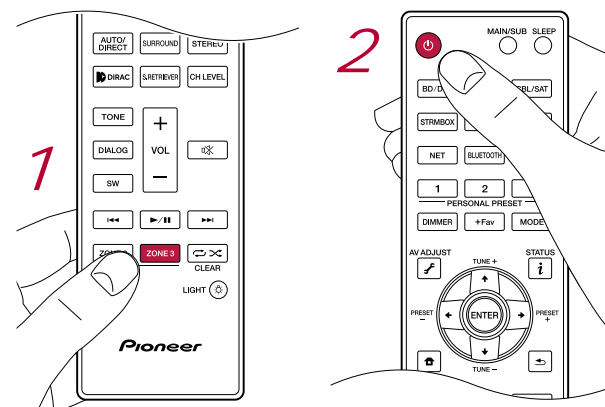
再生する(ゾーン 3)

Note

- 外部接続のAV機器の音声は、アナログのみ再生可能です。
- ゾーン 3 スピーカーを使用する場合は、セットアップメニューの「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーンスピーカー」(→[p124](#))を「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定してください。
- プリメインアンプを使用する場合はシステム設定メニューの「スピーカー」-「配置・構成」(→[p123](#))を以下のいずれかに設定してください。
 - 「スピーカーチャンネル」を「2.1 ch」、「3.1 ch」、「4.1 ch」 or 「5.1 ch」に設定する
 - 「スピーカーチャンネル」を「2.1.2 ch」、「3.1.2 ch」、「4.1.2 ch」 or 「5.1.2 ch」に設定し、かつ「バイアンプ」と「ゾーンスピーカー」を「無し」に設定する
- 「NET」または「BLUETOOTH」入力切替は、メインルームと別室とで同じソースしか選べません。また、メインルームで「NET」を選択中に別室で「BLUETOOTH」を選択すると、メインルームも「BLUETOOTH」に切り換わりません。
- 「NET」入力切替では、DSD の音声信号はゾーン 3に出力できません。
- ゾーン 3がオンのときは、スタンバイ時の消費電力が増加します。
- "本機からBLUETOOTH対応機器へ音声を送信する"(→[p81](#))を使用すると、本機能はオフになります。

ゾーン 3のオン/オフを行う

- リモコンのZONE 3 HOLDボタンを押しながら、リモコンを本機に向けて0を押します。本体で操作する場合は、ZONE 3 ON/OFFボタンを押します。



ゾーン 3がオンになると、本体の表示部に「Z3」が点灯します。ゾーン 3をオフにするには、もう一度同じ操作を行います。

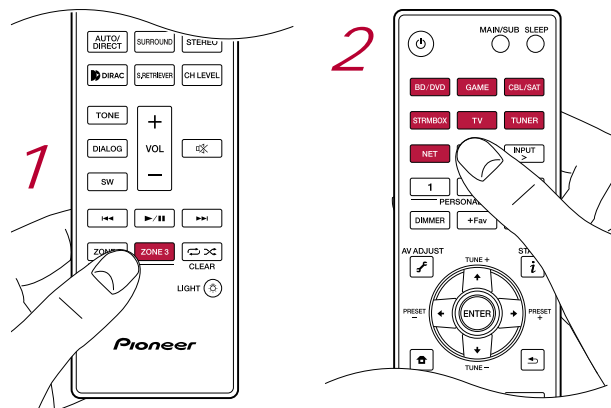
Z3

- ゾーン 3使用時に本機の電源をスタンバイにすると、Z3 表示がうす暗く点灯し、別室のみの再生モードに切り換わります。また、本機がスタンバイ時にゾーン 3をオンにしても、別室のみの再生モードになります。



ゾーン 3で再生するソースを選択する

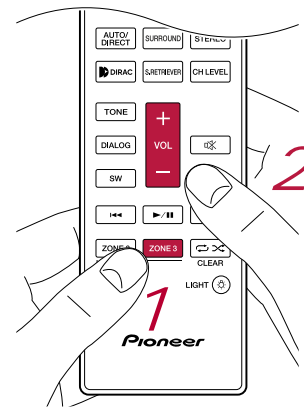
1. リモコンのZONE 3 HOLDボタンを押しながら別室で再生したい入力の入力切替を押します。
本体で操作する場合は、ZONE CONTROL ボタンをくり返し押して表示部で「Z3」を選んだあとに、別室で再生したい入力を入力切替ダイヤルで8秒以内に選びます。



ゾーン 3の音量を調節する

ゾーン 3 スピーカーを使用する場合

1. リモコンのZONE 3 HOLDボタンを押しながらボリュームボタンで調整します。本体で操作する場合は、本体のZONE CONTROLボタンを押してから、8秒以内にマスターボリュームつまみで調節します。

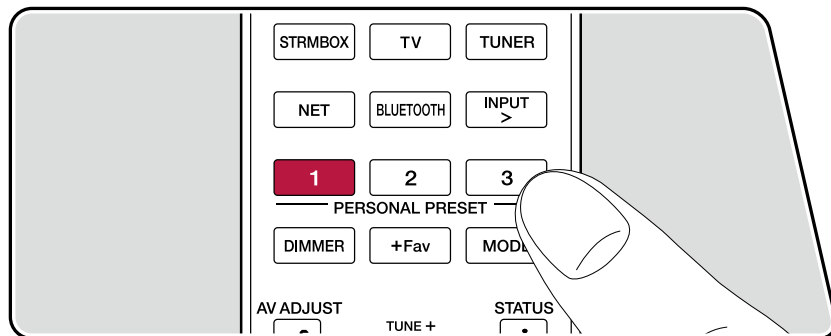


別室のプリメインアンプを使用する場合

1. プリメインアンプのボリュームで音量を調節します。
ボリュームコントロールが付いていないプリメインアンプを使用する場合は、「ゾーン 3 スピーカーを使用する場合」と同じ操作で調節します。
 - ボリュームコントロールが付いていないプリメインアンプを接続する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン 3」-「アウトプットレベル」(→ p140)を「可変 (初期値は固定)」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、プリメインアンプやスピーカー等が破損する恐れがあります。



PERSONAL PRESET を使う

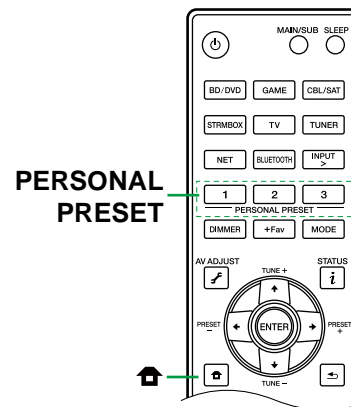


登録する

現在の入力切替やリスニングモードなどの、さまざまな設定内容 (→p104)を3つの PERSONAL PRESETボタンに登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。
 (例)PERSONAL PRESETボタンを押すと、自動的に入力切替が「TUNER」に切り換わって、登録した放送局を受信します。また、リスニングモードやボリュームレベルも登録した内容に切り換わります。

登録したい設定の状態で、以下の操作を行ってください。

1. PERSONAL PRESET 1~3 のいずれかのボタンを長押しします。
2. 表示部に「Preset Written」と表示され、設定内容が登録されます。すでに登録がされている場合は上書きされます。



登録できる設定内容について


PERSONAL PRESETでは以下の設定が登録されます。

- 入力切換(ネットワークサービスを登録することもできます。)
- 出力先(HDMI)
- リスニングモード
- ポリウムレベル(上限は「0.0 dB」)
(ゾーン 2/ゾーン 3がオンの場合、ゾーン 2/ゾーン 3のポリウムレベルも登録されます。)
- 出力先(マルチゾーン)
- MCACCメモリー
- MCACC EQ
- 定在波制御
- フェイズコントロール
- フェイズコントロールプラス
- サウンドディレイ
- サウンドレトリバー機能の「オン」「オフ」
- TREBLE/BASS/DIALOGなど

登録した設定を使用する

1. PERSONAL PRESET 1~3ボタンのうち、設定内容を登録したボタンを押します。

登録した設定を確認する

1.  を押して表示されるホームの「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「PERSONAL PRESET 情報」(→p121)を選び、ENTERを押します。
2. 登録内容の一覧が表示されます。
 - サウンドレトリバー機能など一覧に表示されない項目もあります。



AV Directモードを使う

AV Directモードはデジタル回路の動作を制限してノイズの発生を抑えることで、音質を向上させることができます。ネットワーク、BLUETOOTH、USBなどの通信を一時的に停止する「AV Direct」と、一部のデジタル回路の電源をオフにする「AV Direct Net Off」があります。どちらも、本機の入力端子に接続した外部機器の音声を再生するときを使用することができます。

- Sonos Port (→p94) が接続されている入力ソースでは使用することはできません。

「AV Direct」を使用する

再生しながらテレビの画面で設定が可能です。

1. リモコンの  ボタンを押して、AV Adjustを表示させます。
2. AV Adjustの「Audio」-「AV Direct Mode」を選び、オン/オフを行います。
 - 次の操作を行うと、「AV Direct」は自動的にオフになります。
 - 本機をスタンバイ状態にする。
 - 入力ソースを「NET」または「BLUETOOTH」に切り換える。
 - Sonos Port (→p94) が接続されている入力ソースを選ぶ。
 - ホーム画面を表示する。
 - マルチゾーン機能をオンにする。
 - 使用する機能によっては表示部に曲名が表示されて、「AV Direct」の「オフ」が表示されないことがあります。

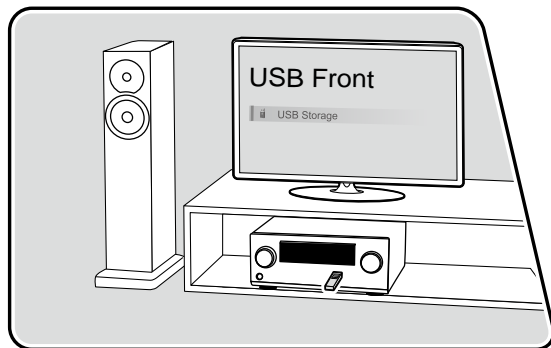
「AV Direct Net Off」を使用する

1. 本体にあるZONE CONTROLボタンを押しながらSTATUSボタンを押すと、本機の表示部に「AV Direct Net Off」が表示されて一部のデジタル回路の電源がオフになります。
 - 次の操作を行うと、「AV Direct Net Off」は自動的にオフになります。
 - 本機をスタンバイ状態にする。
 - 入力ソースを「NET」または「BLUETOOTH」に切り換える。
 - Sonos Port (→p94) が接続されている入力ソースを選ぶ。
 - セットアップメニューを表示する。
 - マルチゾーン機能をオンにする。



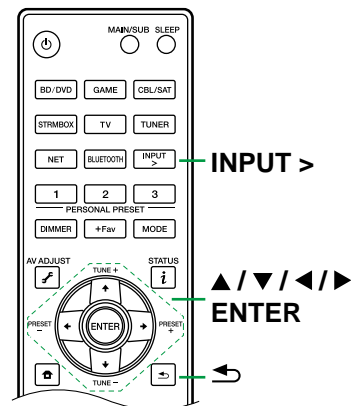
USBストレージに保存された音楽ファイルを再生する

USBストレージに記録された音楽ファイルを再生することができます。



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

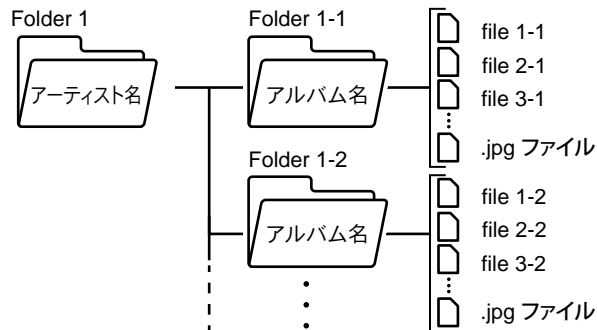
1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 本機の前面パネルまたは後面パネルのUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続します。
3. INPUT > ボタンを押して、「USB Front」または「USB Rear」を選びます。
 - 表示部の「USB」が点滅する場合は、USBストレージが正しく接続されているか確認してください。
 - 表示部に「Connecting…」が表示されている間は、本機と接続しているUSBストレージを抜かないでください。データ破損や故障の原因になります。
4. 次の画面でENTERを押します。USBストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されますので、カーソルでフォルダを選び、ENTER を押して決定してください。
5. カーソルで音楽ファイルを選び、ENTER を押して再生を始めます。



- ひとつ前の画面に戻るには を押します。
- 本機で表示できない文字は「*」で表示されます。
- 本機のUSB端子はUSB2.0規格に準拠しています。再生するコンテンツによっては、転送速度が足りずに音途切れなどが発生する場合があります。



- VBR (可変ビットレート)で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- 本機はUSB再生における下記条件時でのギャップレス再生に対応しています。WAV、FLAC、Apple Lossless再生時、同一のフォーマット、サンプリング周波数、チャンネル数、量子化ビット数が連続再生される場合
- WAV 形式の場合、アーティスト名/ アルバム名/ アルバムアート表示を可能にするには、音楽ファイルを保存する際のフォルダ構成とファイル名を次の図のようにしてください。アルバムアートは画面表示させたい.jpg ファイルを最下段フォルダに保存することで表示できます。なお、データ容量が大きい.jpgファイルは表示するまでに時間がかかる場合や表示されない場合があります。

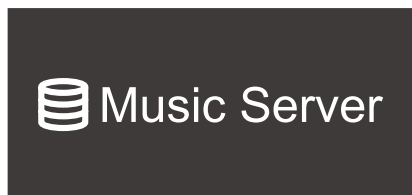


USBストレージについて

- 本機ではUSB Mass Storage Class規格に対応しているUSBストレージを使用できます。また、USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき20,000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 本機はセキュリティ機能付きUSBストレージに対応していません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。また、USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、本機でのご使用前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- すべてのUSBストレージとの動作を保証するものではありません。



Music Server



本機と同じネットワークに接続したPCやNASに保存された音楽ファイルのストリーミング再生に対応しています。

Music Serverについて

- 本機が対応しているネットワークサーバーは、Windows Media® Player 12などのサーバー機能を備えたプレーヤーがインストールされたPC、またはホームネットワーク機能対応のNASです。Windows Media® Player 12をお使いの場合、事前の設定が必要です。なお、PCの場合は、Windows Media® Playerのライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR (可変ビットレート)で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- サーバー内の音楽ファイルは、1フォルダにつき20,000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- メディアサーバーの種類によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

Windows Media® Player 12 の設定をする

1. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
2. 「ストリーム」メニューから「メディアストリーミングを有効にする」を選び、ダイアログを開きます。
 - メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューから「その他のストリーミングオプション」を選ぶと、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので、手順4に進んでください。
3. 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
4. 「メディアストリーミングオプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認します。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。
6. 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることを確認します。
 - Windows Media® Playerのバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

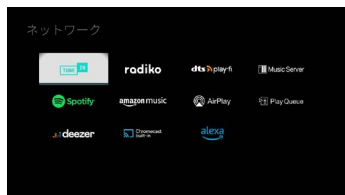
□ 再生する (→p109)



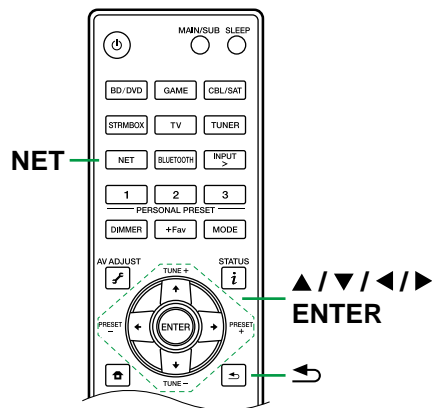
再生する

本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 再生する音楽ファイルが保存されているサーバー(Windows Media® Player 12、NASのどちらか)を起動します。
3. PCやNASが本機と同じネットワークに接続されているか確認します。
4. NETを押して、ネットワークサービスの一覧画面を表示させます。
 - 表示部の「NET」が点滅する場合は、ネットワークが正しく接続されていない。接続を確認してください。



5. カーソルで「Music Server」を選び、ENTERを押します。



6. カーソルで目的のサーバーを選び、ENTERを押して、項目のリスト画面を表示させます。
 - 本機では、サーバーにある写真や動画にはアクセスできません。
 - サーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。
 7. カーソルで再生する音楽ファイルを選び、ENTERを押して再生を始めます。
 - 画面に「No Item.」と表示される場合は、ネットワークの接続が正しくされているか確認してください。
- ひとつ前の画面に戻るには◀を押します。

音楽ファイルを検索して、選択する

ご使用のサーバーが検索機能に対応している場合は次の検索機能を使用することが可能です。

Music Serverで使用可能なサーバーを表示した状態で、次の操作を行ってください。

1. ▲/▼で再生したい音楽ファイルのあるサーバーを選び、ENTERを押します。
2. ▲/▼でSearchフォルダを選んでENTERを押します。Searchフォルダには以下の3つのフォルダがあります。
 - 「Search by Artist」: アーティスト名で検索する場合に選びます。
 - 「Search by Album」: アルバム名で検索する場合に選びます。
 - 「Search by Track」: 曲名で検索する場合に選びます。
3. ▲/▼でフォルダを選んでENTERを押します。
4. 検索したい文字を入力し、ENTERを押すと検索結果が表示されます。
5. ▲/▼で再生したい音楽ファイルを選んでENTERを押します。



PCを操作してリモート再生する

ホームネットワーク内のPCを操作することにより、PCに保存された音楽ファイルの本機で再生できます。本機では、Windows Media® Player 12を介したリモート再生操作が行えます。Windows Media® Player 12で本機のリモート再生機能を使用するには、事前に設定が必要です。(→[p108](#))

リモート再生する

1. 本機の電源を入れます。
 2. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
 3. Windows Media® Player 12で再生する音楽ファイルを選び、右クリックします。
 - 別のサーバー内の音楽ファイルのリモート再生する場合は、「その他のライブラリ」から目的のサーバーを開き、再生する音楽ファイルを選びます。
 4. 「リモート再生」から本機を選び、Windows Media® Player 12の「リモート再生」ウィンドウを開いて、本機で再生を始めます。
 - Windows® 10をお使いの場合は、「デバイスキャスト」をクリックしてから本機を選びます。リモート再生中の操作は、PCの「リモート再生」ウィンドウで行います。再生画面はHDMI接続されたテレビに表示されます。
 5. 「リモート再生」ウィンドウの音量バーで、音量を調節します。
 - リモート再生ウィンドウと本機の音量値は一致しない場合があります。
 - 本機で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。
 - 以下のいずれかの場合、本機はリモート再生できません。
 - ネットワークサービスを使っている
 - USBストレージの音楽ファイルを再生している
- リモート再生ではDSDには対応していません。
 - リモート再生は、ギャップレス再生に対応していません。



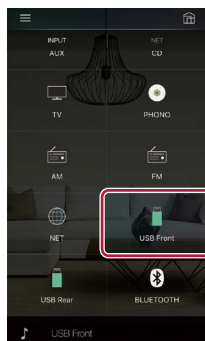
Play Queue



Pioneer Remote App(iOSやAndroid™でご利用になれます)をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にダウンロードすると、本機に接続したUSBストレージ内の音楽ファイルや、本機と同じネットワークに接続したPCやNASに保存された音楽ファイルの中から、お気に入りの再生リスト(Play Queue情報)を保存し再生することができます。Play Queue情報は、本機の電源コードをコンセントから抜くまで有効です。アプリについては"Pioneer Remote App" (→[p165](#))をご参照ください。

Play Queue情報の追加

1. アプリの画面で、「INPUT」入力切替を選び、「USB」アイコンをタップします。または、「NET」入力切替を選び、「USB」アイコンまたは「Music Server」アイコンをタップします。(機種によって、アイコン名は異なる場合があります)



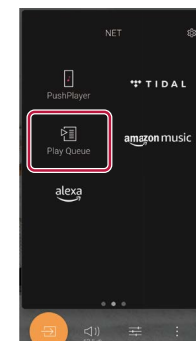
2. 追加したい曲の「+」アイコンをタップすると、Play Queue追加のポップアップを開きます。



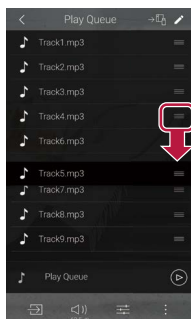
3. 「今すぐ再生」(Play Now)、「次に再生」(Next)、「最後に再生」(Last)アイコンをタッチすると、Play Queueに追加することができます。
 - Play Queueリストに曲がないときは、「今すぐ再生」(Play Now)のみが表示されます。

並び替えや削除

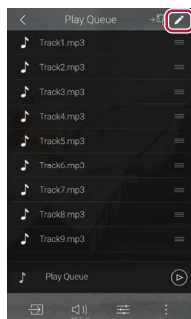
1. 「NET」入力切替を選び、「Play Queue」アイコンをタップしてPlay Queueサービス画面に入ります。





2. 曲を並び替える場合は、編集アイコン「」をタップしたあと、曲の「」アイコンをタップして、移動先にドラッグします。




3. 曲を削除する場合は、編集アイコン「」をタップして、編集モードに切り替えます。



4. 削除したい曲の隣にある「」アイコンをタップして「」を入れ、「」アイコンをタップすると曲がPlay Queueから削除されます。
- すべての曲の選択/解除を行う場合は、「Play Queue」の隣にある「」アイコンをタップします。



再生する

再生は、Play Queueの追加で「今すぐ再生 」を選択するか、Play Queueサービス画面内で曲を選択すると開始されます。

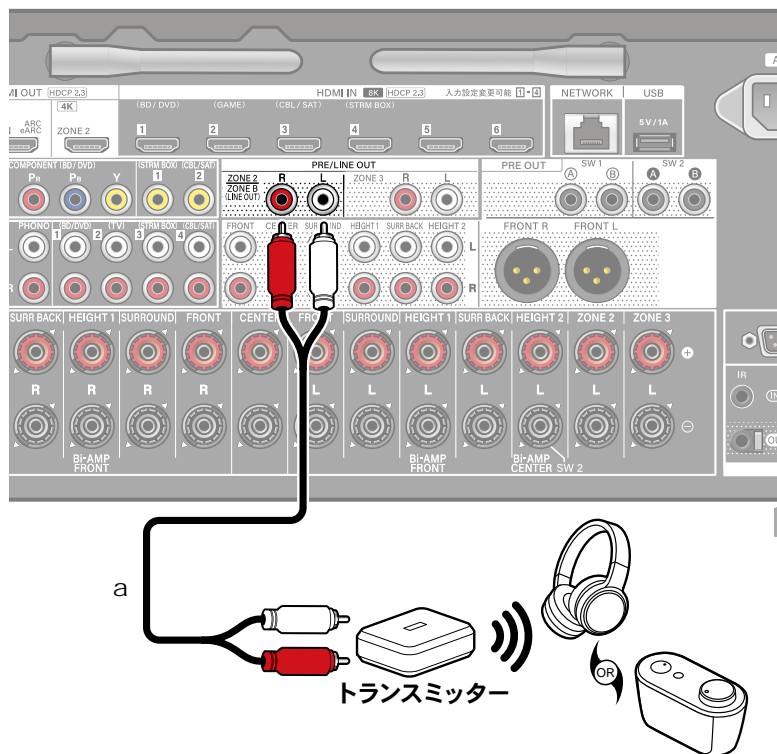


トランスミッターを接続して再生する

本機のZONE B LINE OUT端子にワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーのトランスミッターを接続すると、メインルームと同じソースの音声をワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーで再生することができます。

接続する

1. 本機のZONE B LINE OUT端子とトランスミッターの入力端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。



a オーディオ用ピンケーブル

設定する

1. リモコンの を押して表示されるホームの「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン 2 プリアウト」(→p124) を「ゾーン B」に設定します。

再生する

1. リモコンの ボタンを押して、「オーディオ」-「ゾーン B」を選びます。
 - 以下の場合、「ゾーン B」は選択することができません。
 - ZONE 2がオンの場合
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン 2 プリアウト」が「ゾーン 2」に設定されている場合(→p124)
2. 音声の出力先を選びます。
 - オフ:** ゾーン Aからのみ音声を出力します。本体表示部の「A」が点灯します。
 - オン (A+B):** ゾーン Aとゾーン Bから音声を出力します。本体表示部の「A」「B」が点灯します。
 - オン (B):** ゾーン Bからのみ音声を出力します。本体表示部の「B」が点灯します。

AB

3. AV機器を再生します。
4. 音量調整は、ゾーン Bのトランスミッターなどで行います。
 - 「ゾーン 2 プリアウト」を「ゾーン B」に設定し、かつAV Adjustの「オーディオ」-「ゾーン B」が「オン (A+B)」に設定されているとき、ゾーン Aの出力は以下のようになります。
 - TONEボタンで音質調整を行うと、ゾーン Aとゾーン Bの両方の音質が変わります。
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「距離」(→p127) のサラウンドバックスピーカーの効果はなくなります。
 - 音声の出力先に「オン (A+B)」を選んだ場合、ゾーン Aのリスニングモードはスピーカーレイアウトが2.1 chの場合は「Stereo」、3.1 ch以上の場合は「Ext.Stereo」しか選べません。





システム設定	115
MCACC Pro	144
ネットワーク/Bluetooth	152
Web Setup	158
設定ウィザードでの初期設定	159
Pioneer Remote App	165
Dirac Live	166



システム設定

テレビに操作画面を表示するOSD(On-Screen Display)機能を使用して、設定を行うことができます。
 リモコンの **HOME** ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでシステム設定を選びENTERボタンを押します。
 リモコンのカーソル **▲/▼/◀/▶** で内容を選び、ENTERボタンで決定します。
 初期値を変更するには、カーソル **◀/▶** で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには **◀** ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、 **HOME** ボタンを押します。



メニューリスト

入力/出力端子の割り当て	TV出力/OSD	テレビへの出力についての設定や、テレビに操作画面を表示する機能(OSD)についての設定が行えます。	p117
	HDMI入力	各入力切換に割り当てられている、HDMI IN端子の割り当て設定を変更することができます。	p119
	映像入力	各入力切換に割り当てられている、COMPONENT VIDEO IN端子とVIDEO IN端子の割り当て設定を変更することができます。	p119
	デジタル音声入力	各入力切換に割り当てられている、DIGITAL AUDIO IN COAXIAL/OPTICAL端子の割り当て設定を変更することができます。	p119
	アナログ音声入力	各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN端子の割り当て設定を変更することができます。	p120
	入力スキップ	本機の入力切換ダイヤルやリモコンのINPUT SELECTボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。	p120
	PERSONAL PRESET 情報	PERSONAL PRESET1~3ボタンで登録した内容を確認することができます。	p121
スピーカー	配置・構成	スピーカーの接続環境についての設定を変更することができます。	p123
	クロスオーバー	クロスオーバー周波数についての設定を変更することができます。	p125
	距離	視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することができます。	p127
	チャンネルレベル	各スピーカーの音量レベルを調整することができます。	p128
	Dolby Enabled Speaker	Dolby Enabledスピーカーについての設定を変更することができます。	p128
	スピーカー バーチャライザー	スピーカーバーチャライザー機能のオン/オフを切り換えることができます。	p128



音の設定・調整	デュアルモノ/モノ	多重音声の再生についての設定を変更することができます。	p129
	Dolby	Dolby信号入力時についての設定を変更することができます。	p129
	DTS / IMAX	DTS信号入力時についての設定を変更することができます。	p130
	LFE Mute Level	Dolby Digital系、DTS系、マルチチャンネルPCM、DSD信号の低域効果(LFE)レベルが設定できます。	p131
	ボリューム	ボリュームについての設定を変更することができます。	p131
入力ソース	インプットボリュームアブソーバ	本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整をすることができます。	p132
	名前変更	各入力切換にわかりやすい名前を設定することができます。	p132
	音声信号選択	ひとつの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択することができます。	p133
ハードウェア	HDMI	HDMI機能についての設定を変更することができます。	p134
	電源管理	省電力機能についての設定を変更することができます。	p136
	12Vトリガー A	12V TRIGGER OUT A端子の出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。	p138
	12Vトリガー B	12V TRIGGER OUT B端子の出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。	p138
	Works with SONOS	Sonos Portと接続する場合の設定を変更することができます。	p139
マルチゾーン	ゾーン 2	ゾーン 2についての設定を変更することができます。	p140
	ゾーン 3	ゾーン 3についての設定を変更することができます。	p140
	Remote Play Zone	リモート再生についての設定を変更することができます。	p141
その他	リモコン ID	リモコンのIDを変更することができます。	p142
	ファームウェアアップデート	ファームウェアアップデートについての設定を変更することができます。	p142
	初期設定	初期設定をセットアップメニューから行うことができます。	p143
	ロック	セットアップメニューの設定を変更できないようにすることができます。	p143
	ファクトリーリセット	すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。	p143



入力/出力端子の割り当て

■ TV出力/OSD

テレビへの出力についての設定や、テレビに操作画面を表示する機能(On-Screen Display)についての設定が行えます。

□ HDMI出力 (初期値: MAIN)

テレビを接続するHDMI端子を選びます。

- HDMI OUT MAIN端子とSUB端子の両方に解像度の異なる機器を接続している場合は、低い方の解像度に合わせて出力されます。

MAIN	テレビをHDMI OUT MAIN端子に接続する場合
SUB	テレビをHDMI OUT SUB端子に接続する場合
MAIN+SUB	MAINとSUB端子両方に接続する場合

□ Dolby Vision (初期値: MAIN)

再生機器のDolby Vision映像をDolby Vision対応テレビに出力させたい場合に、MAINとSUBのどちらのHDMI OUT端子にDolby Vision対応テレビを接続するかを選びます。この設定は「HDMI出力」を「MAIN+SUB」にして、MAINとSUBの両方の端子にテレビを接続している場合のみ設定する必要があります。

MAIN	HDMI OUT MAIN端子に接続したDolby Vision対応テレビにDolby Vision映像を出力する場合
SUB	HDMI OUT SUB端子に接続したDolby Vision対応テレビにDolby Vision映像を出力する場合
ゾーン 2	HDMI OUT ZONE 2端子に接続したDolby Vision対応テレビにDolby Vision映像を出力する場合
オフ	「MAIN」または「SUB」を選んで、テレビの映像が正常に映らなくなる場合

□ アップスケーリング (初期値: オフ)

4K/8Kに対応したテレビをご使用の場合に、1080pで入力された映像信号を自動的に4K/8Kで出力することができます。また、4Kで入力された映像信号を自動的に8Kで出力することもできます。なお、8Kで出力するためには、「4K/8K信号フォーマット」(→p118)を「8K Standard」または「8K Enhanced」に設定し、かつ8K信号フォーマットに対応したテレビとHDMIケーブルで接続する必要があります。

- テレビがHDMI入力映像の周波数と同じ周波数の4K/8K解像度に対応していないと正しく4Kまたは8Kアップスケーリングすることができません。テレビの4K/8K解像度の対応周波数をご確認の上、AV機器から入力する映像信号の解像度を変更してください。

オフ	この機能を使用しない場合 • ご使用のテレビが4K/8Kに対応していない場合は、「オフ」にしてください。
自動	この機能を使用する場合

□ スーパーレゾリューション (初期値: 2)

「アップスケーリング」を「自動」に設定している場合に入力された映像信号の補正の度合いを「オフ」、「1」(弱)～「3」(強)から選びます。



入力/出力端子の割り当て

□ 4K/8K信号フォーマット

本機が入出力する4K、8K信号フォーマットを設定します。接続するテレビや再生機器に合わせて設定してください。

- 接続するHDMI端子によって対応する解像度が異なります。詳しくは"対応入力解像度" (→p199)をご覧ください。

BD/DVD	(初期値: 4K Enhanced)
GAME	(初期値: 8K Enhanced)
CBL/SAT	(初期値: 4K Enhanced)
STRM BOX	(初期値: 4K Enhanced)
HDMI 5	(初期値: 4K Enhanced)
HDMI 6	(初期値: 4K Enhanced)

4K Standard	10.2 Gbps対応のHigh Speed HDMIケーブルを使用して、標準的な4K信号フォーマット(4K 30Hzなど)に対応したテレビや再生機器を接続する場合
4K Enhanced	18 Gbps対応のPremium High Speed HDMIケーブルを使用して、高精細な4K信号フォーマット(4K 60Hzや4K HDRなど)に対応したテレビや再生機器を接続する場合 <ul style="list-style-type: none"> 接続機器やHDMIケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「4K Standard」に切り換えてください。
8K Standard	48Gbps対応のULTRA High Speed HDMIケーブルを使用して、4K 120Hzや5K 30Hz、8K 30Hz信号フォーマットに対応したテレビや再生機器を接続する場合
8K Enhanced	48Gbps対応のULTRA High Speed HDMIケーブルを使用して、5K 60Hz、8K 60Hz信号フォーマットに対応したテレビや再生機器を接続する場合

□ ゾーン 2 HDMI出力 (初期値: 使用しない)

HDMI OUT ZONE 2端子に接続している別室(ゾーン 2)のテレビに出力する場合の設定です。

使用する	この機能を有効にする場合
使用しない	この機能を無効にする場合 <ul style="list-style-type: none"> HDMI入力の映像や音声をゾーン 2出力する場合は、「使用する」に設定してください。

□ OSD言語 (初期値: 日本語)

OSDに表示する言語を以下から選びます。

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語、日本語

□ インポーズOSD (初期値: オン)

音量調整や入力切換などの情報をテレビ画面に表示するかどうかを設定します。

オン	OSDをテレビに表示する <ul style="list-style-type: none"> この設定を「オン」にしても、入力信号によってはOSDが表示されないことがあります。 Dolby Vision信号が入力されると、音量バーの色が青からマゼンタに変わります。
オフ	OSDをテレビに表示しない

□ スクリーンセーバー (初期値: 3分)

スクリーンセーバーの起動時間の設定です。

「3分」、「5分」、「10分」、「オフ」から選びます。



入力/出力端子の割り当て

■ HDMI入力

各入力切換に割り当てられている、HDMI IN端子の割り当て設定を変更することができます。

- BD/DVD** (初期値: HDMI 1(HDCP 2.3))
- GAME** (初期値: HDMI 2(HDCP 2.3))
- CBL/SAT** (初期値: HDMI 3(HDCP 2.3))
- STRM BOX** (初期値: HDMI 4(HDCP 2.3))

「HDMI 1 (HDCP 2.3)」～「HDMI 4 (HDCP 2.3)」:

各入力切換に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切換に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「---」に変更すると選べるようになります。

■ 映像入力

各入力切換に割り当てられている、COMPONENT VIDEO IN端子とVIDEO IN端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

- BD/DVD** (初期値: COMPONENT)
- GAME** (初期値: ---)
- CBL/SAT** (初期値: VIDEO 2)
- STRM BOX** (初期値: VIDEO 1)

COMPONENT	任意の入力切換にCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
VIDEO 1、 VIDEO 2	任意の入力切換にVIDEO IN端子を割り当てます。

■ デジタル音声入力

各入力切換に割り当てられている、DIGITAL AUDIO IN COAXIAL/OPTICAL端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

- BD/DVD** (初期値: COAXIAL 1 (同軸入力))
- GAME** (初期値: OPTICAL 3 (光入力))
- CBL/SAT** (初期値: COAXIAL 2 (同軸入力))
- STRM BOX** (初期値: ---)
- CD** (初期値: OPTICAL 1 (光入力))
- TV** (初期値: OPTICAL 2 (光入力))
- TUNER** (初期値: ---)

COAXIAL 1、 COAXIAL 2、 OPTICAL 1、 OPTICAL 2、 OPTICAL 3	任意の入力切換にCOAXIAL端子またはOPTICAL端子を割り当てます。
---	---------------------------------------



入力/出力端子の割り当て

■ アナログ音声入力

各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

- BD/DVD** (初期値:オーディオ 1)
- GAME** (初期値:---)
- CBL/SAT** (初期値:---)
- STRM BOX** (初期値:オーディオ 3)
- CD** (初期値:バランス)
- TV** (初期値:オーディオ 2)
- TUNER** (初期値:オーディオ 4)

オーディオ 1、 オーディオ 2、 オーディオ 3、 オーディオ 4、 バランス	任意の入力切換にAUDIO IN端子を割り当てます。
--	----------------------------

■ 入力スキップ

本機の入力切換ダイヤルやリモコンのINPUT SELECTボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。

- BD/DVD** (初期値:使用する)
- GAME** (初期値:使用する)
- CBL/SAT** (初期値:使用する)
- STRM BOX** (初期値:使用する)
- HDMI 5** (初期値:使用する)
- HDMI 6** (初期値:使用する)
- AUX** (初期値:使用する)
- CD** (初期値:使用する)
- TV** (初期値:使用する)
- PHONO** (初期値:使用する)
- TUNER** (初期値:使用する)
- NET** (初期値:使用する)
- USB Front** (初期値:使用する)
- USB Rear** (初期値:使用する)
- BLUETOOTH** (初期値:使用する)

使用する	入力切換を使用します。
スキップ	入力切換をスキップします。



入力/出力端子の割り当て

■ PERSONAL PRESET 情報

PERSONAL PRESET1~3ボタンで登録した内容を確認することができます。
登録されている設定の一覧が表示されます。

□ プリセット (初期値:プリセット 1)

プリセット番号を「プリセット 1」、「プリセット 2」、「プリセット 3」から選びます。

(メイン)

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクト	---	設定されている入力切換が表示されます。
HDMI出力	---	設定されている出力先(HDMI)が表示され ます。
ネットワークサ ービス	---	設定されているネットワークサービスと放送局 名が表示されます。
リスニングモード	---	設定されているリスニングモードが表示され ます。
音量	---	設定されている音量が表示されます。(上限は 「0.0 dB」)
マルチゾーン	---	設定されている出力先(マルチゾーン)が表示 されます。
MCACCメモリー	---	設定されているMCACCメモリーの番号が表示 されます。
MCACC EQ	---	設定されているMCACC EQの状態が表示され ます。
定在波制御	---	設定されている定在波設定の状態が表示され ます。
フェイズコント ロール	---	設定されているフェイズコントロールの状態が 表示されます。
フェイズコントロ ールプラス	---	設定されているフェイズコントロールプラスの設 定値が表示されます。

設定項目	初期値	設定内容
サウンドディレイ	---	設定されているサウンドディレイの設定値が表 示されます。

- 「ネットワークサービス」は入力切換が「NET」の場合にのみ表示されます。



入力/出力端子の割り当て

(ゾーン 2)

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクタ	---	設定されている入力切替が表示されます。
ネットワークサービス	---	設定されているネットワークサービスが表示されます。
ステーション	---	設定されている放送局のPreset Nameが表示されます。

- 「ネットワークサービス」は入力切替が「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「Station」は入力切替が「NET」の場合にのみ表示されます。

(ゾーン 3)

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクタ	---	設定されている入力切替が表示されます。
ネットワークサービス	---	設定されているネットワークサービスが表示されます。
ステーション	---	設定されている放送局のPreset Nameが表示されます。

- 「ネットワークサービス」は入力切替が「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「Station」は入力切替が「NET」の場合にのみ表示されます。



スピーカー

■ 配置・構成

スピーカーの接続環境についての設定を変更することができます。

- 「スピーカーチャンネル」や「サブウーファー」、「ハイト 1 スピーカー」、「ハイト 2 スピーカー」の設定を変更した場合、Dirac Live (→[p162](#), [p166](#)) の測定結果は消去されます。

□ スピーカーチャンネル (初期値: 7.1.4 ch)

接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて、

「2.1 ch」、「3.1 ch」、「4.1 ch」、「5.1 ch」、「6.1 ch」、「7.1 ch」、「2.1.2 ch」、「3.1.2 ch」、「4.1.2 ch」、「5.1.2 ch」、「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」、「6.1.4 ch」、「7.1.4 ch」から選択してください。

□ サブウーファー プリアウト (初期値: SW 1 & SW 2)

アンプ内蔵サブウーファーの有無を設定します。

無し	アンプ内蔵サブウーファーを接続しない場合
SW 1	SW 1 端子にアンプ内蔵サブウーファーを1台または2台接続する場合
SW 1 & SW 2	SW 1 端子とSW 2 端子にアンプ内蔵サブウーファーを1台または2台接続する場合

- SW 1 端子とSW 2 端子からは異なる信号が出力されます。また音量レベルも個別に設定できます。(→[p128](#))
- SW 1 端子の「A」と「B」からは同じ信号が出力されます。SW 2 端子も同じ仕様です。

□ パッシブサブウーファー (初期値: 無し)

パッシブサブウーファーの有無を設定します。

無し	パッシブサブウーファーを接続しない場合
1ch	パッシブサブウーファーを1台接続する場合 • HEIGHT 2 (SW1) 端子に接続します。
2ch	パッシブサブウーファーを2台接続する場合 • 1台目をHEIGHT 2 (SW 1) 端子に接続し、2台目をHEIGHT 2 (SW 2) 端子に接続します。

- 以下のいずれかの場合、この設定は選択できません。
 - 「バイアンプ」を「フロント/センター」に設定している
 - 「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定している
 - 「スピーカーチャンネル」を「6.1.4 ch」または「7.1.4 ch」に設定している
 - 「スピーカーチャンネル」を「6.1.2 ch」または「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」に設定し、かつ「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2」、または「バイアンプ」を「フロント」に設定している
 - 「スピーカーチャンネル」を「2.1.2 ch」または「3.1.2 ch」、「4.1.2 ch」、「5.1.2 ch」に設定し、かつ「バイアンプ」を「フロント」に設定している
 - 「スピーカーチャンネル」を「6.1 ch」または「7.1 ch」に設定し、かつ「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2」、「バイアンプ」を「フロント」に設定している

□ ハイト1 スピーカー (初期値: トップ フロント)

HEIGHT 1端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。

接続するスピーカーのタイプや配置に合わせて「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker フロント」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」、「フロントハイ」、「トップフロント」から選択してください。

- 「バイアンプ」を「フロント/センター」に設定している場合、この設定は選択できません。
- ハイトスピーカーを2組使用している場合、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」は選べません。
- 「Dolby Speaker サラウンド」および「Dolby Speaker バック」は、それぞれサラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを使用している場合にのみ選択できます。使用しているスピーカーは、「スピーカーチャンネル」で表示される図でご確認いただけます。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。



スピーカー

□ ハイット 2 スピーカー (初期値: トップリア)

HEIGHT 2端子にハイットスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。

接続するスピーカーのタイプや配置に合わせて「フロントハイ」、「トップフロント」、「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker フロント」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」から選択してください。

ただし、「ハイット 1 スピーカー」の設定によって選択できる項目は以下のようになります。

- 「ハイット 1 スピーカー」を「フロントハイ」に設定している場合: 「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」から選択します。
- 「ハイット 1 スピーカー」を「トップフロント」または「Dolby Speaker フロント」に設定している場合: 「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」から選択します。
- 「ハイット 1 スピーカー」を「トップミドル」に設定している場合: 「リアハイ」に固定されます。
- 「Dolby Speaker サラウンド」および「Dolby Speaker バック」は、それぞれサラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを使用している場合にのみ選択できます。使用しているスピーカーは、「スピーカーチャンネル」で表示される図でご確認いただけます。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

□ ゾーン スピーカー (初期値: 無し)

ゾーン 2 スピーカーおよびゾーン 3 スピーカーの使用の有無を設定します。

- 「ゾーン 2 プリアウト」を「ゾーン B」に設定している場合、この設定は選べません。

無し	ゾーン 2 スピーカーやゾーン 3 スピーカーを使用しない場合
ゾーン 2	ゾーン 2 スピーカーを使用する場合
ゾーン 2/ゾーン 3	ゾーン 2 スピーカーとゾーン 3 スピーカーの両方を使用する場合

□ ゾーン 2 プリアウト (初期値: ゾーン 2)

ZONE 2 PRE/LINE OUT/ZONE B LINE OUT端子から出力される音声の出力先を設定します。

- 「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2」または「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定している場合、この設定は「ゾーン 2」に固定されます。

ゾーン 2	別室(ゾーン 2)のプリメインアンプを接続している場合
ゾーン B	ゾーン Bにプリメインアンプやワイヤレスヘッドホンのトランスミッターなどを接続している場合

□ バイアンプ (初期値: 無し)

スピーカーをバイアンプ接続するかどうかを設定します。

- ゾーンスピーカーを使用している場合は、「いいえ」と「フロント」以外は選べません。

いいえ	いずれのスピーカーもバイアンプ接続しない場合
フロント	フロントスピーカーのみバイアンプ接続する場合 <ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの場合、この設定は選択できません。 <ul style="list-style-type: none"> 「スピーカーチャンネル」を「6.1.4 ch」または「7.1.4 ch」に設定している 「スピーカーチャンネル」を「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」または「5.1.4 ch」に設定し、「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2」または「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定している 「スピーカーチャンネル」を「6.1 ch」、「7.1 ch」または「2.1.2 ch」～「5.1.2 ch」に設定し、「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定している
フロント / センター	フロントスピーカーとセンタースピーカーをバイアンプ接続する場合。「スピーカーチャンネル」を「3.1 ch」、「5.1ch」または「7.1 ch」に設定している場合にのみ選択できます。



スピーカー

□ インピーダンス (初期値: 6オーム以上)

接続したスピーカーのインピーダンス(Ω)を設定します。

- インピーダンスは、ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でご確認ください。

4オーム	接続したスピーカーの中に1台でも4 Ω 以上6 Ω 未満のスピーカーがある場合
6オーム以上	接続したスピーカーがすべて6 Ω 以上の場合

■ クロスオーバー

各スピーカーから出力する低音域を何Hzからサブウーファーから出力するかを設定します。サブウーファーを使用していないときは、「フルレンジ」に設定したスピーカーから低音域が出力されます。

- Dirac Live Bass Control(→p166)を使用する場合、ここではクロスオーバー周波数の設定はできません。Pioneer Remote App(→p167)で設定を行ってください。

□ Dirac Live Bass Control (初期値: オフ)

Dirac Live Bass Controlを使用して、クロスオーバー周波数を調整します。

オン	Dirac Live Bass Controlを使用する場合、DiracDirac Live Bass Control測定を行うと選択できるようになります。
オフ	この機能を使用しない場合

□ 設定方法 (初期値: 共通)

各チャンネルに設定するクロスオーバーのタイプを設定します。

共通	各チャンネルに共通したクロスオーバーを設定します。各チャンネルへは「スモール」や「ラージ」を設定します。
独立	各チャンネルに独立したクロスオーバーを設定できます。各スピーカーのクロスオーバー周波数を参考に40Hzから設定できます。

フロント	(初期値: スモール/80 Hz)
センター	(初期値: スモール/80 Hz)
ハイト 1	(初期値: スモール/80 Hz)
ハイト 2	(初期値: スモール/80 Hz)
サラウンド	(初期値: スモール/80 Hz)
サラウンドバック	(初期値: スモール/80 Hz)
クロスオーバー	(初期値: 80 Hz)
LFERローパスフィルタ	(初期値: 120 Hz)

- IMAXサウンドモードが適用されている場合、この設定は無効になります。ただし、「IMAXユーザー設定」(→p130)の設定が「手動」(初期値は自動)の場合は有効になります。



スピーカー

フロント:

「設定方法」が「共通」の場合(→p125)

使用するスピーカーに応じて設定します。

「スモール」:フロアスタンド型のフロントスピーカーを使用しない場合

「ラージ」:フロアスタンド型のフロントスピーカーを使用する場合

- 「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」にした場合、「フロント」の設定は「ラージ」に固定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。ご使用のスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

「設定方法」が「独立」の場合(→p125)

各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40 Hz」～「200 Hz」から選びます。

「フルレンジ」:全帯域を出力します。

- 「配置・構成」-「サブウーファー プリアウト」または「パッシブ サブウーファー」の設定を「無し」にした場合、「フロント」の設定は「フルレンジ」に固定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。ご使用のスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

センター、ハイト1、ハイト2、サラウンド:

「設定方法」が「共通」の場合(→p125)

使用するスピーカーに応じて設定します。

「スモール」:スピーカーの直径が16cm未満のスピーカーを使用する場合

「ラージ」:スピーカーの直径が16cmより大きいスピーカーを使用する場合

- 「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

「設定方法」が「独立」の場合(→p125)

各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40 Hz」～「200 Hz」から選びます。

「フルレンジ」:全帯域を出力します。

- 「フルレンジ」は、「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

サラウンドバック:

「設定方法」が「共通」の場合(→p125)

使用するスピーカーに応じて設定します。

「スモール」:スピーカーの直径が16cm未満のスピーカーを使用する場合

「ラージ」:スピーカーの直径が16cmより大きいスピーカーを使用する場合

- 「サラウンド」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

「設定方法」が「独立」の場合(→p125)

各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40 Hz」～「200 Hz」から選びます。

「フルレンジ」:全帯域を出力します。

- 「フルレンジ」は、「サラウンド」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。



スピーカー

クロスオーバー*:

「スモール」に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するか、またLFE(低域効果音)信号の何Hz以下の低音域を再生するかを設定します。

設定できる各周波数は「50 Hz」～「200 Hz」です。

*「設定方法」が「共通」の場合に選択できます。(→p125)

LFEローパスフィルタ*:

LFE(低域効果音)信号の低域フィルターを設定し、設定値以下の周波数だけを通過させ、不要なノイズを消すことができます。低域フィルターは、LFEチャンネルを使っているソースにしか適用されません。

設定できる各周波数は「80 Hz」～「120 Hz」です。

「オフ」：この機能を使用しない場合

*「設定方法」が「独立」の場合に選択できます。(→p125)

ダブルバス (初期値: オフ)

「配置・構成」-「サブウーファープリアウト」の設定が「SW 1」または「SW 1 & SW 2」、または「パッシブ サブウーファー」が「1ch」または「2ch」で、「フロント」の設定が「フルレンジ」のときのみ選択できます。

左右フロントスピーカー、センタースピーカーの低音をサブウーファーに送り、低音の出力を強調します。

「オン」：低音の出力を強調する場合

「オフ」：低音の出力を強調しない場合

• フルオートMCACCやDirac Liveを行っても、この機能は自動で設定されません。

■ 距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することができます。

□ フロント 左	(初期値: 3.00 m)
センター	(初期値: 3.00 m)
フロント 右	(初期値: 3.00 m)
ハイト 1 左	(初期値: 3.00 m)
ハイト 1 右	(初期値: 3.00 m)
ハイト 2 左	(初期値: 3.00 m)
ハイト 2 右	(初期値: 3.00 m)
サラウンド 右	(初期値: 3.00 m)
サラウンドバック 右	(初期値: 3.00 m)
サラウンドバック 左	(初期値: 3.00 m)
サラウンド 左	(初期値: 3.00 m)
サブウーファー 1	(初期値: 3.00 m)
サブウーファー 2	(初期値: 3.00 m)

- 初期値は地域によって異なります。
- 距離の単位は、リモコンのMODEボタンを押して切り換えることができます。単位をフィートで設定する場合は、0' 0" 1/2～30.0"の間で1/2 ft単位で設定可能です。単位をメートルで設定する場合は、0.01 m～9.00 mの間で0.01 m単位で設定可能です。
- Dirac Live (→p162, p166) で測定した場合、"msec"単位で表示され、数値は変更できません。

(ハイト 1 左、ハイト 1 右、ハイト 2 左、ハイト 2 右、サラウンドバック 右、サラウンドバック 左):

- ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。



スピーカー

■ チャンネルレベル

各スピーカーの音量レベルを調整することができます。

- フロント左 (初期値: 0.0 dB)
- センター (初期値: 0.0 dB)
- フロント右 (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 1 左 (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 1 右 (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 2 左 (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 2 右 (初期値: 0.0 dB)
- サラウンド 右 (初期値: 0.0 dB)
- サラウンドバック 右 (初期値: 0.0 dB)
- サラウンドバック 左 (初期値: 0.0 dB)
- サラウンド 左 (初期値: 0.0 dB)
- サブウーファー 1 (初期値: 0.0 dB)
- サブウーファー 2 (初期値: 0.0 dB)

「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(サブウーファーは「-15.0 dB」～「+12.0 dB」)から選びます(0.5 dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。

(ハイト 1 左、ハイト 1 右、ハイト 2 左、ハイト 2 右、サラウンドバック 右、サラウンドバック 左):

- ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。

■ Dolby Enabled Speaker

Dolby Enabledスピーカーについての設定を変更することができます。

- この設定は、「配置・構成」-「ハイト 1 スピーカー」/「ハイト 2 スピーカー」を「Dolby Speaker」に設定している場合に選択できます。

 ドルビーイネーブルドスピーカーから天井の距離 (初期値: 6.0 ft/1.80 m)

Dolby Enabledスピーカーから天井までの距離を設定します。「0.1 ft」/「0.03 m」～「15.0 ft」/「4.50 m」から選びます(「1/2 ft」/「0.01 m」単位)。

- 距離の単位(ft/m)は、「距離」の設定で使用している単位で表示されます。

 Reflex Optimizer (初期値: オフ)

Dolby Enabledスピーカーの天井からの反射効果を高めることができます。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、この機能は効果がありません。
- 「Dirac Live」(→p85)を有効にしている場合、この機能は効果がありません。

オフ	この機能を使用しない場合
オン	この機能を使用する場合

■ スピーカーバーチャライザー

スピーカーバーチャライザー機能のオン/オフを切り換えることができます。

 スピーカーバーチャライザー (初期値: オン)

オン	F.S.Surroundなどのバーチャルスピーカー効果のあるリスニングモードを選択できます。
オフ	F.S.Surroundなどのバーチャルスピーカー効果のあるリスニングモードを選択できなくなります。



音の設定・調整

■ デュアルモノ/モノラル

多重音声の再生についての設定を変更することができます。

□ デュアルモノ (初期値: 主)

多重音声や多重言語の放送などを再生するときの音声や言語の種類を設定します。

- 音声多重放送の場合、リモコンの **i** ボタンを押すと本機の表示部に「1+1」と表示されます。

主	主音声のみが再生されます。
副	副音声のみが再生されます。
主 / 副	主音声と副音声が同時に再生されます。

□ モノラル入力チャンネル (初期値: 左 + 右)

アナログまたは2 ch PCM信号をMonoリスニングモードで再生する場合の入力チャンネルを設定します。

左	左チャンネルの音声のみを再生します。
右	右チャンネルの音声のみを再生します。
左 + 右	左右両チャンネルの音声を再生します。

■ Dolby

Dolby信号入力時についての設定を変更することができます。

□ Loudness Management (初期値: オン)

Dolby TrueHD再生時に、セリフの音量を一定レベルに揃えるダイアログノーマライゼーション機能を有効にします。なお、Dolby Digital Plus/Dolby TrueHD再生時にこの設定を「オフ」にすると、小音量でもサラウンドが楽しめるMidnight機能は「オフ」に固定されます。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

□ Center Spread (初期値: オフ)

Dolby Audio - Surrリスニングモードを再生する際の、フロント音場の広がりを調整します。

- スピーカーの設定によっては「オフ」になります

オン	左右に音を広げる場合
オフ	中央に音を集中させる場合



音の設定・調整

■ DTS / IMAX

DTS信号入力時についての設定を変更することができます。

□ Dialog Control (初期値: 0 dB)

音声の会話部分を1 dBステップで6 dBまで引き上げ、騒音下でも会話部分を聴こえやすくします。

- DTS:Xコンテンツ以外では設定できません。
- コンテンツによっては選択できない場合があります。

□ IMAXモード (初期値: 自動)

IMAXサウンドモードを設定します。

自動	IMAXコンテンツを検出した場合に、自動的にIMAXサウンドモードを適用します。
オン	IMAXコンテンツを本機が識別できない場合、この設定を「オン」にすることで、IMAXサウンドモードを適用することができます。
オフ	無効にする場合

□ IMAXユーザー設定 (初期値: 自動)

IMAXコンテンツをIMAXサウンドモードで再生する際に、自動的にIMAXが推奨するスピーカー設定を適用するか、手動で設定するかを選びます。

- 「IMAXモード」が「オフ」の場合、この設定は選択できません。

自動	IMAXが推奨するスピーカー設定を使用する場合
手動	「IMAXバスフィーディング」と「IMAX LFE Mute Level」を手動で設定する場合

□ IMAXバスフィーディング (初期値: オン)

低音域成分の経路を設定します。

- 「IMAXユーザー設定」が「自動」の場合、この設定は選択できません。

オン	各チャンネルの低音域成分を、クロスオーバー設定(→p125)に従って出力します。
オフ	LFE信号のみを出力します。

□ IMAX LFE Mute Level (初期値: 0 dB)

- 「IMAXユーザー設定」が「自動」の場合、この設定は選択できません。

IMAX信号を入力している時のLFEの音量レベルを設定することができます。「-∞ dB」、「0 dB」～「-20 dB」から選びます。



音の設定・調整

■ LFE Mute Level

Dolby Digital系、DTS系、マルチチャンネルPCM、DSD信号の低域効果(LFE)レベルの設定を変更することができます。

□ LFE Mute Level (初期値: 0 dB)

各信号の低域効果(LFE)レベルを、「0 dB」～「 $-\infty$ dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「 -20 dB」または「 $-\infty$ dB」を選んでください。

■ ボリューム

ボリュームについての設定を変更することができます。

□ 音量表示 (初期値: 絶対値)

ボリュームの表示方法を、絶対値または相対値に切り換えることができます。絶対値の音量82.0が相対値の0.0 dBに相当します。

絶対値	「0.5」、「99.5」など絶対値で表示します。 • 絶対値の音量を「82.0」に設定すると、表示部に「82.0Ref」が表示されます。
相対値	「 -81.0 dB」、「 $+18.0$ dB」など相対値で表示します。

□ ミュートレベル (初期値: $-\infty$ dB)

消音時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。「 $-\infty$ dB」、「 -40 dB」、「 -20 dB」から設定できます。

□ 音量制限 (初期値: オフ)

音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「 -32 dB」～「 $+17$ dB」から選びます。

□ 電源オン時音量 (初期値: 最終値)

電源を入れたときの音量を設定します。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「 $-\infty$ dB」、「 -81.5 dB」～「 $+18.0$ dB」から選びます。
• この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。

□ ヘッドホン音量レベル (初期値: 0.0 dB)

ヘッドホンの出力レベルを調整します。「 -12.0 dB」～「 $+12.0$ dB」から選びます。



入カソース

■ インプットボリュームアブソーバ

本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整をすることができます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

□ インプットボリュームアブソーバ (初期値: 0.0 dB)

「-12.0 dB」～「+12.0 dB」から選びます。他の機器と比べて音量が大きい場合は-の値を、小さい場合は+の値で調整します。音声を確認する場合は接続機器を再生してください。

- この機能は、ゾーン2/ゾーン3では機能しません。

■ 名前変更

各入力切換にわかりやすい名前を設定することができます。入力した名前が本体表示部に表示されます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

□ 名前変更 (初期値: 入力切換名)

1. カーソルで文字・記号を選び、ENTERボタンを押します。
この操作をくり返して最大10文字まで入力します。
「A/a」: 大文字/小文字が切り換わります。(リモコンのMODEボタンを押しても大文字/小文字が切り換わります)
「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。
「⌫」: カーソルの左側の文字を1文字消去します。
「␣」: 1文字分スペースが入ります。
• リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。
 2. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押します。
入力した名前が保存されます。
- 初期値に戻すには、入力画面でリモコンのCLEARボタンを押し、何も入力されていない状態で「OK」を選び、ENTERボタンを押します。

- 「NET」、「BLUETOOTH」の入力切換を選択時は、設定できません。



入カソース

■ 音声信号選択

HDMI IN端子の「BD/DVD」とAUDIO IN端子の「BD/DVD」に接続しているなど、ひとつの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択します。入力切換ごとに設定します。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。なお、初期値が変更できないものもあります。

- BD/DVD** (初期値: HDMI)
- GAME** (初期値: HDMI)
- CBL/SAT** (初期値: HDMI)
- STRM BOX** (初期値: HDMI)
- AUX** (初期値: HDMI)
- CD** (初期値: COAXIAL (同軸入力))
- TV** (初期値: OPTICAL (光入力))
- PHONO** (初期値: アナログ)

ARC	ARC対応テレビからの入力信号を優先する場合 <ul style="list-style-type: none"> • この項目は、「ハードウェア」-「HDMI」-「オーディオリターンチャンネル (eARC対応)」の設定を「オン」にして、かつ「TV」の入力切換を選択時にのみ選ぶことができます。
HDMI	HDMI IN端子の入力を優先する場合 <ul style="list-style-type: none"> • この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「HDMI入力」の設定でHDMI端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。
COAXIAL (同軸入力)	DIGITAL AUDIO IN COAXIAL端子の入力を優先する場合 <ul style="list-style-type: none"> • この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定でCOAXIAL端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。
OPTICAL (光入力)	DIGITAL AUDIO IN OPTICAL端子の入力を優先する場合 <ul style="list-style-type: none"> • この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定でOPTICAL端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。

アナログ	AUDIO IN端子の入力を優先する場合 <ul style="list-style-type: none"> • この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「アナログ音声入力」の設定でAUDIO IN端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。
------	---

□ PCM固定 (初期値: オフ)

「音声信号選択」の設定で「HDMI」、「COAXIAL」、「OPTICAL」を選んだ場合の入力信号をPCM(マルチチャンネルPCMは除く)に固定するかどうかを選択します。PCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが発生する場合は「オン」に設定してください。通常は「オフ」にしておいてください。

- 「音声信号選択」の設定を変更するたびにこの設定は「オフ」に戻ります。
- 「NET」または「BLUETOOTH」の入力切換を選択時は、この設定を変更できません。



ハードウェア

■ HDMI

HDMI機能についての設定を変更することができます。

□ HDMI CEC (初期値: オン)

この設定を「オン」にすると、HDMI接続したCEC対応機器と入力切替連動などの連動機能が働きます。

この設定を変更した場合、すべての接続機器の電源を切って電源を入れ直してください。

- ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などが必要です。
- この設定は、HDMI OUT MAIN端子に接続した場合にのみ有効です。
- この設定を「オン」にして、操作画面を閉じると、本体表示部に接続されているCEC対応機器名称と「CEC On」が表示されます。
- この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。
- この設定が「オン」で、ご利用のテレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本機のMASTER VOLUMEダイヤルを操作すると、本機に接続したスピーカーからも音声が出力されます。どちらか一方の音声のみ出力したい場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
- この設定を「オン」にして、異常な動作をする場合は「オフ」にしてください。
- 接続した機器がCECに対応していない場合や、対応しているかわからない場合は、「オフ」にしてください。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

□ HDMIスタンバイスルー (初期値: 自動 (エコ))

「オフ」以外に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、HDMI接続している再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。なお、「HDMI CEC」が「オン」に設定されている場合は、「自動」および「自動 (エコ)」のみ選択できます。その他を選択する場合は、「HDMI CEC」を「オフ」に設定してください。

- この機能を「オフ」以外に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。
- CEC規格に準拠していない再生機器をテレビで再生する場合は、本機の電源をオンにして入力を切り換える必要があります。
- CEC規格に準拠したテレビをお使いの場合は、「自動 (エコ)」を選ぶとスタンバイ状態での消費電力を低減できます。

オフ	この機能を使用しない場合
BD/DVD、 GAME、 CBL/SAT、 STRM BOX、 HDMI 5、 HDMI 6、 AUX	たとえば「BD/DVD」を選んでいると、本機がスタンバイ状態でも、「BD/DVD」端子に接続した再生機器をテレビで再生することができます。この機能を使用したい再生機器が決まっている場合に、この設定値を選択します。
最終値	スタンバイにする直前に選んでいた入力切替の映像と音声をテレビで再生することができます。「最終値」を選んだ場合は、スタンバイ状態でもリモコンやPioneer Remote Appアプリで本機の入力を切り換えることができます。
自動、 「自動 (エコ)」	接続した再生機器がCEC規格に準拠している場合は、この設定を選びます。スタンバイにする直前に選んでいた入力切替が何であっても、CEC連動機能により、再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。



ハードウェア

□ テレビオーディオ出力 (初期値:自動)

本機の電源が入った状態で、テレビのスピーカーから音声を聴くことができます。

- 「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力 / OSD」-「HDMI出力」、または「AV Adjust」の「HDMI」-「HDMI出力」の設定を「MAIN」または「MAIN+SUB」にし、「HDMI CEC」の設定を「オン」にした場合、この設定は「自動」に固定されます。この設定を変更する場合は、「HDMI CEC」の設定を「オフ」にしてください。
- 「テレビオーディオ出力」が「オン」に設定されている場合、テレビから音声が出ているときはリスニングモードを変更できません。
- お使いのテレビや接続機器の入力信号によっては、この設定が「オン」でもテレビから音声がでないことがあります。その場合は、本機のスピーカーから音声が出ます。
- 本機に入力された音声をご利用のテレビのスピーカーから出力しているときに、本機のマスターボリュームダイヤルを操作すると、本機から音声が出ます。音声を出したくない場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合
自動	「HDMI出力」の設定が「MAIN」または「MAIN+SUB」で、「HDMICEC」の設定が「オン」の場合は「自動」に固定されます。「自動」の場合、テレビのスピーカーから音声を出力するときは本機のスピーカーからは音声がなくなり、本機のスピーカーから音声を出力するときはテレビのスピーカーからは音声がなくなります。 <ul style="list-style-type: none"> テレビ側のHDMI CEC設定がオフの場合は、テレビのスピーカーと本機のスピーカーの両方から音声が出力されることがあります。

□ オーディオリターンチャンネル (eARC対応) (初期値:オン)

HDMI接続したARC機能またはeARC機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。

オン	テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合
オフ	ARC機能/eARC機能を使用しない場合

□ PQLS (初期値:オフ)

HDMI接続したPQLS (Precision Quartz Lock System) 機能対応のAV機器の音声を高音質に再生します。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

□ オートディレイ (初期値:オン)

HDMIリップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。

オン	自動補正機能を有効にする場合
オフ	自動補正機能を使用しない場合



ハードウェア

■ 電源管理

省電力機能についての設定を変更することができます。

□ スリープタイマー (初期値: オフ)

30 分、60 分、 90 分	指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。「30 分」、「60 分」、「90 分」から選びます。
オフ	自動的にスタンバイ状態にしない場合

□ 自動スタンバイ (初期値: オフ)

映像または音声入力がない状態で本機を20分間操作しなかった場合、自動的にスタンバイ状態に移行させることができます。(「スタンバイ時のUSB電源供給」または「ネットワークスタンバイ」が有効になっているときは、消費電力の増加を最小限に抑制するHYBRID STANDBYモードに移行します。)

オン	自動的にスタンバイ状態に移行させる場合(「AUTO STBY」表示が点灯します。) <ul style="list-style-type: none"> スタンバイ状態に移行する30秒前に本体表示部とテレビ画面に「自動スタンバイ」と表示されます。 ゾーン 2/ゾーン 3に出力している場合、「自動スタンバイ」は動作しません。
オフ	スタンバイ状態への移行をさせない場合

□ HDMIスタンバイスルー時の自動スタンバイ (初期値: オフ)

「HDMIスタンバイスルー」動作中に「自動スタンバイ」設定を有効または無効にしません。

オン	有効にする場合 <ul style="list-style-type: none"> 「自動スタンバイ」および「HDMIスタンバイスルー」の設定が「オフ」の場合、この設定は「オン」にできません。
オフ	無効にする場合

□ スタンバイ時のUSB電源供給 (初期値: オフ)

この機能を「オン」に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、背面のUSB端子(5V/1 A)に接続された機器に給電することができます。

- 前面のUSB端子は、スタンバイ時のUSB 機器への電源供給には対応していません。
- この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRIDSTANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。



ハードウェア

□ ネットワークスタンバイ (初期値: オン)

この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態でもネットワーク機能が働き、Pioneer Remote Appなど本機をコントロールできるアプリケーションを使用して、ネットワーク経由で本機の電源をオンにすることができますようになります。

- この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRIDSTANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。なお、この機能を「オフ」に設定した場合でも、HDMI CEC (→[p134](#))、HDMIスタンバイスルー (→[p134](#))、スタンバイ時のUSB電源供給 (→[p136](#))、Bluetoothによる起動 (→[p137](#))のいずれかの機能を有効に設定しているときは、設定に関わらず「オン」の状態になります。
- ネットワークへの接続が切断されると、消費電力の抑制のため「ネットワークスタンバイ」が無効になる場合があります。この場合は、リモコンや本体の電源ボタンで電源をオンにしてください。

□ Bluetoothによる起動 (初期値: オフ)

本機がスタンバイ時に、BLUETOOTH対応機器と接続することにより、本機を起動させる機能です。「Bluetooth」-「Bluetooth受信機能」を「オン」に設定している場合に有効です。

On	この機能を使用する場合 <ul style="list-style-type: none"> この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRIDSTANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。
Off	この機能を使用しない場合 <ul style="list-style-type: none"> 「ネットワーク/Bluetooth」-「Bluetooth」-「Bluetooth受信機能」を「オフ」に設定している場合、この設定は「オフ」に固定されます。 「ネットワーク/Bluetooth」-「Bluetooth」-「Bluetooth受信機能」-「自動入力切り換え」を「オフ」に設定している場合も、この設定は「オフ」に固定されます。

- 「ネットワークスタンバイ」、「Bluetoothによる起動」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。



ハードウェア

■ 12Vトリガー A

12V TRIGGER OUT A端子から制御信号(最大12V/100mA)を出力する場合に設定します。入力切換ごとに設定することができます。12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。

- BD/DVD (初期値: オフ)
- GAME (初期値: オフ)
- CBL/SAT (初期値: オフ)
- STRM BOX (初期値: オフ)
- HDMI 5 (初期値: オフ)
- HDMI 6 (初期値: オフ)
- AUX (初期値: オフ)
- CD (初期値: オフ)
- TV (初期値: オフ)
- PHONO (初期値: オフ)
- TUNER (初期値: オフ)
- NET (初期値: オフ)
- USB Front (初期値: オフ)
- USB Rear (初期値: オフ)
- BLUETOOTH (初期値: オフ)

12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。

オフ	制御信号を出力しない場合
メイン	メインルームの入力切換に連動して、外部機器の電源を制御する場合
ゾーン 2	ゾーン 2の入力切換に連動して、外部機器の電源を制御する場合
ゾーン 3	ゾーン 3の入力切換に連動して、外部機器の電源を制御する場合

■ 12Vトリガー B

12V TRIGGER OUT B端子から制御信号(最大12V/25mA)を出力する場合に設定します。入力切換ごとに設定することができます。12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。

- BD/DVD (初期値: オフ)
- GAME (初期値: オフ)
- CBL/SAT (初期値: オフ)
- STRM BOX (初期値: オフ)
- HDMI 5 (初期値: オフ)
- HDMI 6 (初期値: オフ)
- AUX (初期値: オフ)
- CD (初期値: オフ)
- TV (初期値: オフ)
- PHONO (初期値: オフ)
- TUNER (初期値: オフ)
- NET (初期値: オフ)
- USB Front (初期値: オフ)
- USB Rear (初期値: オフ)
- BLUETOOTH (初期値: オフ)

12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。

オフ	制御信号を出力しない場合
メイン	メインルームの入力切換に連動して、外部機器の電源を制御する場合
ゾーン 2	ゾーン 2の入力切換に連動して、外部機器の電源を制御する場合
ゾーン 3	ゾーン 3の入力切換に連動して、外部機器の電源を制御する場合



ハードウェア

■ Works with SONOS

Sonos Portと接続する場合の設定を変更することができます。

(SONOS-1/SONOS-2/SONOS-3)

□ 入力セレクト (初期値: オフ)

本機とSonos Portを接続した入力端子を選択します。

- 「オフ」を選択すると、Sonosとの連動機能が無効になります。

□ 接続機器 (初期値: -)

本機と同じネットワークに接続されているSonos Portの名前を表示します。ENTERボタンを押すと、接続しているSonos Portを選択することができます。

- Sonos Port以外の製品(Play:3などの出力端子を持たない製品)も機器一覧に表示され、選択することができてしまいます。その場合、Sonos側の再生が開始されると入力が切り換わりますが、音声は出力されません。接続されているSonos Portのルームネームを選択してください。
- Sonos製品一覧画面に表示できるのは32台までになります。連動したいSonos Portが見つからない場合は、前の画面に戻り連動しない製品の電源を切ってから、再度お試しください。
- この機能を使用するには、あらかじめ「入力セレクト」を設定しておいてください。

□ 出力ゾーン (初期値: メイン)

音楽を聴きたいゾーンを選びます。

- この機能を使用するには、あらかじめ「入力セレクト」を設定しておいてください。

メイン	メインルーム(本機のある部屋)にのみ音声を出力します。
ゾーン 2	別室(ゾーン 2)にのみ音声を出力します。
メイン/ゾーン 2	メインルームと別室(ゾーン 2)の両方に音声を出力します。
ゾーン 3	別室(ゾーン 3)にのみ音声を出力します。
メイン/ゾーン 3	メインルームと別室(ゾーン 3)の両方に音声を出力します。
ゾーン 2/ゾーン 3	別室(ゾーン 2とゾーン 3)の両方に音声を出力します。
メイン/ゾーン 2/ゾーン 3	メインルームと別室(ゾーン 2とゾーン 3)に音声を出力します。

□ 音量プリセット (初期値: メイン=最終値 / ゾーン 2=最終値 / ゾーン 3=最終値)

Sonos Portを再生するときのボリュームをあらかじめ設定しておくことができます。メインルーム(本機のある部屋)と別室(ゾーン 2またはゾーン 3)で異なるボリュームを設定することができます。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」~「+18.0 dB」から選びます。

- この機能を使用するには、あらかじめ「入力セレクト」を設定しておいてください。



マルチゾーン

■ ゾーン 2

ゾーン 2 についての設定を変更することができます。

□ アウトプットレベル (初期値:固定)

別室(ゾーン 2)に出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。

固定	別室のプリメインアンプで調整する場合
可変	本機で調整する場合

□ 音量制限 (初期値:オフ)

ゾーン2で音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「-32 dB」～「+17 dB」から選びます。

□ 電源オン時音量 (初期値:最終値)

本機の電源を入れたときのゾーン2の音量を設定します。「最終値」(本機の電源を切ったときの音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。

- この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。

□ 低域 (初期値: 0 dB)

ゾーン2の低音域の音量を調整します。「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。

□ 高域 (初期値: 0 dB)

ゾーン2の高音域の音量を調整します。「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。

□ バランス入力 (初期値: 0)

ゾーン2の左右の音量バランスを設定します。「L +10」～「R +10」から選びます。

□ サウンドチェック (初期値:-)

メインルーム以外の別室(ゾーン 2)でも音声を楽しみたい場合に、ゾーン 2へのテストトーンを出力します。

「Start」表示中にENTERボタンを押します。画面の表示に沿って操作してください。

■ ゾーン 3

ゾーン 3 についての設定を変更することができます。

□ アウトプットレベル (初期値:固定)

別室(ゾーン 3)に出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。

固定	別室のプリメインアンプで調整する場合
可変	本機で調整する場合 <ul style="list-style-type: none"> • 「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーンスピーカー」を「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定している場合、この設定は「可変」に固定されます。

□ 音量制限 (初期値:オフ)

ゾーン3で音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「-32 dB」～「+17 dB」から選びます。

□ 電源オン時音量 (初期値: Last)

本機の電源を入れたときのゾーン3の音量を設定します。「最終値」(本機の電源を切ったときの音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。

- この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。



マルチゾーン

□ 低域 (初期値: 0 dB)

ゾーン3の低音域の音量を調整します。
「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。

□ 高域 (初期値: 0 dB)

ゾーン3の高音域の音量を調整します。
「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。

□ バランス入力 (初期値: 0)

ゾーン3の左右の音量バランスを設定します。
「L +10」～「R +10」から選びます。

□ サウンドチェック (初期値:-)

メインルーム以外の別室(ゾーン 3)でも音声を楽しみたい場合に、ゾーン 3へのテストトーンを出力します。
「Start」表示中にENTERボタンを押します。画面の表示に沿って操作してください。

■ Remote Play Zone

リモート再生についての設定を変更することができます。

□ Remote Play Zone (初期値: 自動)

AirPlayやSpotify Connectでの再生やMusic Server機能でPCからリモート再生する際に、音楽をメインルーム(本機のある部屋)で再生するか別室(ゾーン 2またはゾーン 3)で再生するかを設定することができます。

自動	メインルームがNET入力切替の場合はメインルームで、別室がNET入力切替でメインルームがNET以外の入力切替の場合は別室で再生します。
メイン、ゾーン 2、ゾーン 3	別室でのみ再生する場合は「ゾーン 2」や「ゾーン 3」に設定するなど、特定の部屋での再生に固定する場合に選びます。

- 同じネットワーク機能ですでに再生中の場合は、この機能は働かない場合があります。



その他

■ リモコンID

リモコンのIDを変更することができます。

□ リモコンID (初期値: 1)

Pioneer製品が同じ部屋に複数ある場合、他の製品との混線を防ぐために、本機で使うリモコンのIDを「1」、「2」、「3」から選び、設定します。IDを変更した場合、以下の操作でリモコン本体も本体側と同じIDに設定してください。

MODEボタンを押しながら、以下のボタンを約3秒間押します。

- リモコンのIDを「1」にする場合： AUTO/DIRECT
- リモコンのIDを「2」にする場合： SURROUND
- リモコンのIDを「3」にする場合： STEREO

■ ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデートについての設定を変更することができます。

□ アップデート通知 (初期値: 有効)

更新可能なファームウェアが存在する場合、ネットワーク経由で更新を通知します。

有効	通知する場合
無効	通知しない場合

□ バージョン (初期値: -)

現在のファームウェアのバージョンを表示します。

□ ネットワーク経由のアップデート (初期値: -)

ネットワーク経由でファームウェアを更新するときにENTERボタンを押して選択します。

- インターネットに接続していない場合や、更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。

□ USB経由のアップデート (初期値: -)

USB経由でファームウェアを更新するときにENTERボタンを押して選択します。

- USBストレージを接続していない場合や、USBストレージに更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。
- 「ファームウェアアップデート」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。



その他

■ 初期設定

初期設定をセットアップメニューから行うことができます。

- 「初期設定」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

■ ロック

セットアップメニューの設定を変更できないようにすることができます。

□ セットアップ項目 (初期値: 解除)

セットアップメニューをロックして、設定を変更できないようにします。

ロック	ロックを設定
解除	ロックを解除

■ ファクトリーリセット

すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。

□ ファクトリーリセット (初期値:-)

すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。

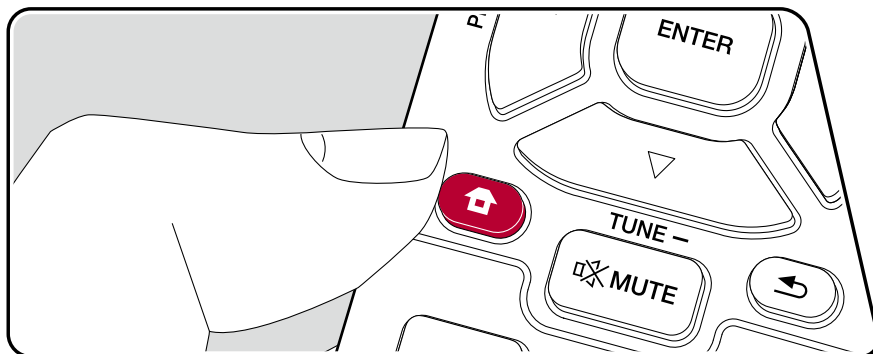
「Start」を選び、ENTERボタンを押します。

- 「ファクトリーリセット」を行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、実行前に、設定内容をメモなどに記録してください。



MCACC Pro

メニュー操作



スピーカーの自動設定やお好みのイコライザー設定を行います。また現在設定されている各スピーカーの設定値などの内容が確認できます。

テレビに操作画面を表示するOSD(On-Screen Display)機能を使用して、設定を行います。

リモコンの🏠ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでMCACC Proを選びENTERボタンを押します。



リモコンのカーソル▲/▼/◀/▶で内容を選び、ENTERボタンで決定します。

初期値を変更するには、カーソル◀/▶で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには◀ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、🏠ボタンを押します。
- フルオートMCACCを実行した場合、Dirac Live (→[p162](#), [p166](#)) で測定したスピーカー補正は無効になります。
- Dirac Liveで測定した場合、「マニュアルMCACC」と「MCACCデータチェック」は設定できません。



フルオートMCACC

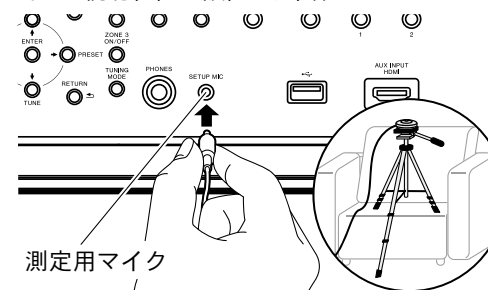
付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、視聴環境に応じて定在波の影響を軽減したり、スピーカーのイコライザー調整を自動で行い、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

- 測定は完了するまでに3~12分ほどかかります。測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に十分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
 - サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源や音量を確認してください。サブウーファーの音量は半分以上に設定してください。
 - 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線がリアパネルや他の芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。
 - 「フルオートMCACC」を実行した場合、Dirac Live (→p162, p166) で測定したスピーカー補正は無効になります。
1. 接続しているスピーカー構成を選びます。



「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。

2. 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。



測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

3. サブウーファーからテストトーンが出力されていることを確認し、ENTERを押します。
4. ENTERを押すと、各スピーカーからテストトーンが出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
5. 4.の測定結果が表示されます。スピーカーの検出結果に問題が無い場合は、「次へ」を選びENTERを押すと、再度テストトーンが出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。(操作をせずに10秒経つと自動でテストトーンが出力されます。)
 - エラーメッセージが表示された場合や、接続したスピーカーが検出されない場合は、「再試行」を選びENTERを押して、再測定を行ってください。
 - 再測定を行っても解決できない場合は、スピーカーの接続が正しく行われているかご確認ください。スピーカー接続に問題があった場合は、電源コードを抜いてから接続を行ってください。
6. 測定が完了したら、さらに最大8つの視聴位置での測定が可能です。測定を行う場合は、「次へ」を選びENTERを押して、画面の指示に従ってください。測定を行わない場合は「終了」を選びENTERを押してください。
 - 各視聴位置での測定後に「終了」を選びENTERを押すと、測定は完了します。
7. 測定用マイクを取り外します。



マニュアルMCACC

■ チャンネルレベル調整

テストトーンを聴きながら、各スピーカーの音量レベルを調整します。まず、フロント左スピーカーをお好みの音量レベルに調整したあと、フロント右スピーカーから順に同じ音の大きさになるように音量レベルを調整します。選択中のスピーカーと基準となるスピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。

<input type="checkbox"/> フロント左	(初期値: 0.0 dB)
センター	(初期値: 0.0 dB)
フロント右	(初期値: 0.0 dB)
ハイト 1 左	(初期値: 0.0 dB)
ハイト 1 右	(初期値: 0.0 dB)
ハイト 2 左	(初期値: 0.0 dB)
ハイト 2 右	(初期値: 0.0 dB)
サラウンド 右	(初期値: 0.0 dB)
サラウンドバック 右	(初期値: 0.0 dB)
サラウンドバック 左	(初期値: 0.0 dB)
サラウンド 左	(初期値: 0.0 dB)
サブウーファー 1	(初期値: 0.0 dB)
サブウーファー 2	(初期値: 0.0 dB)

「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(サブウーファーは「-15.0 dB」～「+12.0 dB」)から選びます(0.5 dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。

(ハイト 1 左、ハイト 1 右、ハイト 2 左、ハイト 2 右、サラウンドバック 右、サラウンドバック 左):

・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。

■ スピーカー距離調整

テストパルスを聴きながら、視聴位置から各スピーカーまでの距離を微調整します。まず、フロント左スピーカーから視聴位置までの実測距離を設定したあと、フロント右スピーカーから順に距離を調整します。選択中のスピーカーと基準となるスピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整してください。

<input type="checkbox"/> フロント左	(初期値: 3.00 m)
センター	(初期値: 3.00 m)
フロント右	(初期値: 3.00 m)
ハイト 1 左	(初期値: 3.00 m)
ハイト 1 右	(初期値: 3.00 m)
ハイト 2 左	(初期値: 3.00 m)
ハイト 2 右	(初期値: 3.00 m)
サラウンド 右	(初期値: 3.00 m)
サラウンドバック 右	(初期値: 3.00 m)
サラウンドバック 左	(初期値: 3.00 m)
サラウンド 左	(初期値: 3.00 m)
サブウーファー 1	(初期値: 3.00 m)
サブウーファー 2	(初期値: 3.00 m)

- ・初期値は地域によって異なります。
- ・距離の単位は、リモコンのMODEボタンを押して切り換えることができます。単位をフィートで設定する場合は、0.1 ft～30.0 ftの間で1/2 ft単位で設定可能です。単位をメートルで設定する場合は、0.03 m～9.00 mの間で0.01 m単位で設定可能です。

(ハイト 1 左、ハイト 1 右、ハイト 2 左、ハイト 2 右、サラウンドバック 右、サラウンドバック 左):

・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。



マニュアルMCACC

■ 定在波制御

音波が壁などで反射して元の音波と干渉することで発生する定在波の影響を制御できます。

- **メイン** (初期値: 0.0 dB)
- センター** (初期値: 0.0 dB)
- サブウーファー** (初期値: 0.0 dB)

メイン:

センタースピーカーとサブウーファー以外のスピーカーの定在波の影響を制御します。

- カーソルの▲/▼で「フィルター」を選んだあと、◀/▶で調整するフィルターを「1」～「3」から選び、ENTERボタンを押します。
- カーソルの◀/▶で中心周波数を選んだあと、◀◀/▶▶で帯域幅を調整し、▲/▼で減衰量を調整します。中心周波数は「63Hz」～「250Hz」、帯域幅は「2.0」～「9.8」(0.2間隔)、減衰量は「0.0dB」～「12.0dB」(0.5dB間隔)から選択できます。

センター:

センタースピーカーのスピーカーの定在波の影響を制御します。

- カーソルの▲/▼で「フィルター」を選んだあと、◀/▶で調整するFilterを「1」～「3」から選び、ENTERボタンを押します。
- カーソルの◀/▶で中心周波数を選んだあと、◀◀/▶▶で帯域幅を調整し、▲/▼で減衰量を調整します。中心周波数は「63Hz」～「250Hz」、帯域幅は「2.0」～「9.8」(0.2間隔)、減衰量は「0.0dB」～「12.0dB」(0.5dB間隔)から選択できます。

サブウーファー:

サブウーファースピーカーの定在波の影響を制御します。

- カーソルの▲/▼で「フィルター」を選んだあと、◀/▶で調整するFilterを「1」～「3」から選び、ENTERボタンを押します。
- カーソルの◀/▶で中心周波数を選んだあと、◀◀/▶▶で帯域幅を調整し、▲/▼で減衰量を調整します。中心周波数は「63Hz」～「250Hz」、帯域幅は「2.0」～「9.8」(0.2間隔)、減衰量は「0.0dB」～「12.0dB」(0.5dB間隔)から選択できます。

■ EQの調整

テストノイズを聴きながら、お好みで接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整することができます。それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。各スピーカーで選択できる周波数の数は、サブウーファーは4バンドまで、それ以外のスピーカーは9バンドまでです。各周波数の音量を調整することで全体的な音量バランスが変わってしまった場合は、「Trim」でバランスを再調整することもできます。

- **フロント左** (初期値: 0.0 dB)
- センター** (初期値: 0.0 dB)
- フロント右** (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 1 左** (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 1 右** (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 2 左** (初期値: 0.0 dB)
- ハイト 2 右** (初期値: 0.0 dB)
- サラウンド 右** (初期値: 0.0 dB)
- サラウンドバック 右** (初期値: 0.0 dB)
- サラウンドバック 左** (初期値: 0.0 dB)
- サラウンド 左** (初期値: 0.0 dB)
- サブウーファー 1** (初期値: 0.0 dB)
- サブウーファー 2** (初期値: 0.0 dB)

- 入力ソースまたはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができない場合があります。

フロント左、フロント右:

カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。

- 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。
- 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合にもみ選択できます。



マニュアルMCACC

センター、サラウンド 右、サラウンド 左:

カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。

- 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。
- 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

ハイト 1 左、ハイト 1 右、ハイト 2 左、ハイト 2 右、サラウンドバック 右、サラウンドバック 左:

カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。

- 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。
- 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。
- ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
- 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

サブウーファー 1、サブウーファー 2:

カーソルの◀/▶で「31 Hz」～「250 Hz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。

- 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。
- 「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」にしているときは選択できません。



マニュアルMCACC

■ EQ Professional

部屋の残響特性(音の響き方)の測定と補正を自動で行うことができます。まず、「残響特性の測定」で残響特性を測定し、「残響特性の確認」で測定結果を確認します。測定結果をもとに「アドバンスドEQセットアップ」で補正時間位置などを指定し、自動で残響特性の補正を行います。

□ 残響特性の測定 (初期値: EQ以外)

部屋の残響特性を測定します。以下の設定を行ったあと、測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

EQ以外	MCACCによるスピーカーのイコライザー調整前の部屋の残響特性を測定します。
EQ	MCACCメモリーに保存された、スピーカーのイコライザー調整後の残響特性を測定します。

□ 残響特性の確認

残響特性の測定結果を、各スピーカーと周波数ごとにグラフで表示します。残響がない場合はグラフが横這いを保ち、残響がある場合は右上がりのグラフになります。補正タイプで「Symmetry」を選択してフルオートMCACCを行った場合は、予測値として補正後の残響特性も表示できます。

□ アドバンスドEQセットアップ

設定した内容に合わせて、自動で残響特性の補正を行います。以下の設定を行ったあと、測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

Time Position (初期値: 30 - 50 msec)

補正時間位置を「0 - 20 msec」～「60 - 80 msec」(10 msec間隔)の間で指定します。Reverb Viewのグラフ表示で、周波数ごとに残響特性が異なる場合やチャンネルごとに残響特性が異なる場合は、「30 - 50 msec」を選ぶことをお勧めします。全体的に残響特性が似ている場合は、「60 - 80 msec」を選ぶことをお勧めします。

EQタイプ (初期値: Symmetry)

補正タイプを選択します。

Symmetry	L/Rでペアになっているスピーカー1組ごとの周波数特性をフラットに補正します。センターなどペアでないスピーカーは個別に補正します。 位相特性を重視した補正をしたい場合に選んでください。
All Channel Adjust	全スピーカーの周波数特性を、それぞれ個別にフラットに補正します。周波数特性を重視した補正をしたい場合に選んでください。
Front Align	フロント以外のスピーカーをフロントスピーカーの特性に合わせるように補正します(フロントスピーカーは補正しません)。フロントスピーカーの特性を重視した補正をしたい場合に選んでください。

定在波制御 マルチポジション (初期値: 無し)

「2」～「9」を選ぶと、メインの視聴位置に加えて、複数の視聴位置に対して定在波の補正を行うことができます。視聴位置が1箇所の場合は、「無し」を選んでください。

- 「2」～「9」を選んだ場合、先にメイン以外の視聴位置で補正を行い、最後にメインの視聴位置で補正を行います。



MCACCデータチェック

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの設定項目の内容や設定値が確認できます。

■ スピーカー設定

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの低音再生能力の大小の設定を確認できます。

■ チャンネルレベル

各スピーカーの出力レベルの設定を確認できます。

■ スピーカー距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を確認できます。

■ 定在波制御

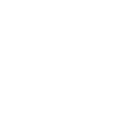
定在波制御フィルターの設定を確認できます。

■ Acoustic Calibration EQ

「マニュアルMCACC」で設定された各スピーカーの周波数特性の補正值を確認できます。

■ 群遅延特性

補正前後のスピーカーの群遅延特性を確認できます。



データ管理

MCACCメモリーの名前を変更したり、設定内容のコピーや消去ができます。

■ MCACCメモリーの名称変更

MCACCメモリーの名前を変更します。

M1 (初期値: Memory 1)

M2 (初期値: Memory 2)

M3 (初期値: Memory 3)

変更する名前を「Memory 1」、「Symmetry」、「All Adj」、「F.Align」、「Movie」、「Music」、「Game」、「Party」、「Sofa」、「Seat」から選択します。

■ MCACCメモリーのコピー

各メモリーに保存されているスピーカーの設定内容を、他のメモリーにコピーします。以下の設定を行ったあと、ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

コピー (初期値: All Data)

全データ	すべての設定内容をコピーします。
レベルと距離のデータ	各スピーカーの出力レベルと視聴位置からの距離のみをコピーします。

コピー元 (初期値: M1.Memory 1)

コピーしたいメモリーを選びます。

コピー先 (初期値: M1.Memory 1)

コピー先のメモリーを選びます。

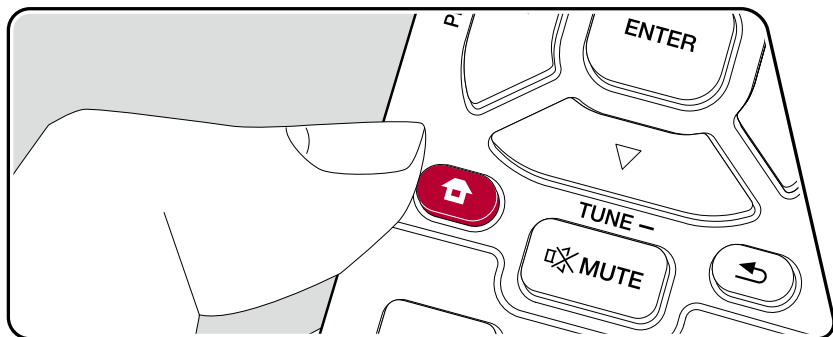
■ MCACCメモリーの消去

MCACCメモリーに保存されているスピーカーの設定内容を消去します。メモリーを選んだあと、ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。



ネットワーク/Bluetooth

メニュー操作



ネットワーク接続に関する設定やBLUETOOTHに関する設定ができます。
 テレビに操作画面を表示するOSD(On-Screen Display)機能を使用して、設定を行います。
 リモコンの🏠ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルで「ネットワーク/Bluetooth」を選びENTERボタンを押します。



リモコンのカーソル▲/▼/◀/▶で内容を選び、ENTERボタンで決定します。
 初期値を変更するには、カーソル◀/▶で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには◀ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、🏠ボタンを押します。



ネットワーク

- DHCPでLANを構築している場合は「DHCP」の設定を「有効」にして自動設定してください。(初期値では「有効」になっています)また、各機器に固定IPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP」の設定を「無効」にして「IP アドレス」の設定で本機にアドレスを割り当て、サブネットマスクとゲートウェイなどお使いのLANに関する情報を設定する必要があります。

□ Wi-Fi (初期値: オフ(有線))

無線LAN対応ルーター経由で、本機をネットワークに接続します。

- 「オン」「オフ(有線)」を切り換える時にはNetworkサービスを停止してください。また、グループ再生を行っている場合は、一度グループを解除してから切り換える設定をしてください。

オン	無線LANで接続する場合
オフ(有線)	有線LANで接続する場合

□ Wi-Fi Setup (初期値: -)

「Start」が表示された状態でENTERボタンを押して、無線LANの設定を行います。

□ Wi-Fi 接続状態 (初期値: -)

接続しているアクセスポイントの情報が表示されます。

SSID	接続しているアクセスポイントのSSID
感度	接続しているアクセスポイントの信号強度
ステータス	接続しているアクセスポイントの状態

□ MACアドレス (初期値: -)

本機のMACアドレスを確認します。
この値は機器固有のものであり、変更はできません。

□ DHCP (初期値: Enable)

有効	DHCPで自動設定する
無効	DHCPを使わず手動設定する <ul style="list-style-type: none"> • 「無効」を選んだ場合、「IP アドレス」、「Subnet Mask」、「Gateway」、「DNS Server」は手動で設定してください。

□ IPアドレス (初期値: 0.0.0.0)

IPアドレスを表示・設定します。

□ サブネットマスク (初期値: 0.0.0.0)

サブネットマスクを表示・設定します。

□ ゲートウェイ (初期値: 0.0.0.0)

ゲートウェイアドレスを表示・設定します。

□ DNSサーバー (初期値: 0.0.0.0)

DNSサーバー(プライマリ)を表示・設定します。



ネットワーク

□ プロキシURL (初期値: -)

プロキシサーバーのURLを表示・設定します。

□ プロキシポート (初期値: 8080)

「プロキシURL」入力時にプロキシサーバーのポート番号を表示・設定します。

□ フレンドリーネーム (初期値: Pioneer VSA-LX805 XXXXXX)

ネットワーク接続している機器側で表示される本機の機種名をわかりやすい名前に変更します。

1. ENTERボタンを押し、Edit画面を表示させます。
2. カーソルで文字・記号を選び、ENTERボタンを押します。
この操作をくり返して最大31文字まで入力します。
「A/a」: 大文字/小文字が切り換わります。(リモコンのMODEボタンを押しても大文字/小文字が切り換わります)
「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。
「⌫」: カーソルの左側の文字を1文字消去します。
「␣」: 1文字分スペースが入ります。
• リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。
3. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押します。
入力した名前が保存されます。

□ AirPlay (初期値: オン)

AirPlay機能の使用/不使用を設定します。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

□ AirPlayデバイス名 (初期値: Pioneer VSA-LX805 XXXXXX)

AirPlay接続している機器側で表示される本機の機種名をわかりやすい名前に変更します。

1. ENTERボタンを押し、Edit画面を表示させます。
2. カーソルで文字・記号を選び、ENTERボタンを押します。
この操作をくり返して最大31文字まで入力します。
「A/a」: 大文字/小文字が切り換わります。(リモコンのMODEボタンを押しても大文字/小文字が切り換わります)
「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。
「⌫」: カーソルの左側の文字を1文字消去します。
「␣」: 1文字分スペースが入ります。
• リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。
3. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押します。
入力した名前が保存されます。
• Home Appに本機を登録した場合、この機能は使用することができません。



ネットワーク

□ AirPlayパスワード (初期値:-)

入力したユーザーのみがAirPlayを利用できるよう最大31文字のパスワードを設定することができます。

1. ENTERボタンを押し、Edit画面を表示させます。
 2. カーソルで文字・記号を選び、ENTERボタンを押します。
この操作をくり返して最大31文字まで入力します。
「A/a」: 大文字/小文字が切り換わります。(リモコンのMODEボタンを押しても大文字/小文字が切り換わります)
「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。
「☒」: カーソルの左側の文字を1文字消去します。
「□」: 1文字分スペースが入ります。
 - リモコンの+Favボタンを押すと、パスワードを「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。
 - リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。
 3. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押します。
入力したパスワードが保存されます。
- Home Appに本機を登録した場合、この機能は使用することができません。

□ プライバシーステートメント (初期値: 同意しない)

ログイン名、Eメールアドレス、パスワードなどを必要とするネットワークサービスを使用する場合、当社プライバシーステートメントへのお客様の同意が必要です。

- この設定はプライバシーステートメントの確認後に設定できます。「プライバシーステートメント」を選んでENTERボタンを押すと、プライバシーステートメントが表示されます。
- この設定を「同意しない」に設定すると、ログインしていたネットワークサービスからログアウトされます。

□ ネットワーク確認 (初期値:-)

ネットワークの接続状態を確認します。

「Start」が表示された状態でENTERボタンを押してください。

- 「ネットワーク」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。



Bluetooth

BLUETOOTH機能についての設定を変更することができます。

- 「Bluetooth」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。BLUETOOTH機能が起動すると選べるようになります。

Bluetooth受信機能

Bluetooth受信機能 (初期値: オン)

BLUETOOTH対応機器の音声の本機で受信する機能の使用/不使用を設定します。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

自動入力切り換え (初期値: オン)

BLUETOOTH対応機器側から本機に接続した状態で再生すると、本機の入力切換を自動的に「BLUETOOTH」に切り換えることができます。

オン	BLUETOOTH対応機器の再生に対応して、入力切換を自動で「BLUETOOTH」にします。
オフ	この機能を無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> 自動的に入力切換が切り換わらない場合は、「オフ」に設定して、手動で入力切換を設定してください。

自動接続 (初期値: オン)

入力切換を「BLUETOOTH」に切り換えると、自動的に最後に接続していたBLUETOOTH対応機器と接続する機能です。

- ご使用のBLUETOOTH対応機器によっては、この機能が働かないことがあります。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

ペアリング情報 (初期値: -)

本機に保存されているペアリング情報を初期化することができます。ペアリング済みの機器と接続できなくなった場合にお試しください。(→p177)

「削除」が表示された状態でENTERボタンを押すと、本機に保存されているペアリング情報が初期化されます。

- BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報は初期化されません。再度その機器と本機をペアリングする際は、BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報を消去してから行ってください。ペアリング情報の消去については、BLUETOOTH対応機器の取扱説明書をご参照ください。

デバイス (初期値: -)

接続されているBLUETOOTH対応機器の名前が表示されます。

- 「ステータス」が「待機中」や「ペアリング」の場合は、名前は表示されません。

ステータス (初期値: -)

接続されているBLUETOOTH対応機器の状態が表示されます。

待機中	ペアリングされていない
ペアリング	ペアリング中
接続済み	接続完了



Bluetooth

■ Bluetooth送信機能

□ Bluetooth送信機能 (初期値: オフ)

本機の音声をBLUETOOTH対応機器に送信する機能の使用/不使用を設定します。

オン (Tx)	この機能を使用する場合 (BLUETOOTH対応機器のみで再生)
オン (メイン + Tx)	この機能を使用する場合 (本機とBLUETOOTH対応機器の両方で再生)
オフ	この機能を使用しない場合

□ デバイスを検索する (初期値: -)

本機の音声を受信可能なBLUETOOTH対応機器を検索します。「Start」を選び、ENTERボタンを押します。受信可能なBLUETOOTH対応機器の名前が一覧表示されます。カーソル▲/▼で接続する機器を選び、ENTERボタンを押すと、ペアリングが開始されます。

□ アウトプットレベル (初期値: 可変)

ボリュームの調整を本機で行うか、BLUETOOTH対応機器で行うかを選択することができます。

可変	本機のボリュームを使用する場合
固定	BLUETOOTH対応機器のボリュームを使用する場合

□ aptX HD (初期値: オフ)

BLUETOOTH対応機器と本機とをaptX HD方式で接続することができます。

- 受信機側のコーデックがaptX HDに対応している必要があります。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

□ 低遅延設定 (初期値: オフ)

ゲーム画面視聴中など、テレビの映像に対してBLUETOOTH接続した機器から再生される音声が遅れて聞こえる場合、音声の遅延を低減することができます。

オン	この機能を使用する場合
オフ	この機能を使用しない場合

□ ペアリング情報 (初期値: -)

本機に保存されているペアリング情報を初期化することができます。ペアリング済みの機器と接続できなくなった場合にお試しください。(→p178)

「Clear」が表示された状態でENTERボタンを押すと、本機に保存されているペアリング情報が初期化されます。

- BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報は初期化されません。再度その機器と本機とをペアリングする際は、BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報を消去してから行ってください。ペアリング情報の消去については、BLUETOOTH対応機器の取扱説明書をご参照ください。

□ デバイス (初期値: -)

接続されているBLUETOOTH対応機器の名前が表示されます。

- 「ステータス」が「待機中」や「ペアリング」の場合は、名前は表示されません。

□ Status (初期値: -)

接続されているBLUETOOTH対応機器の状態が表示されます。


待機中	ペアリングされていない
ペアリング	ペアリング中
接続済み	接続完了
接続済み (aptX)	aptX対応の機器との接続完了
接続済み (aptX HD)	aptX HD対応の機器との接続完了

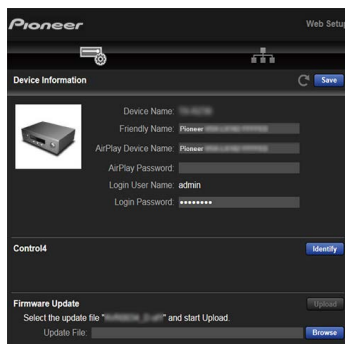


Web Setup

メニュー操作

本機のネットワーク機能に関する設定などをPCやスマートフォンなどのインターネットブラウザを使って設定することができます。

1. リモコンの  ボタンを押して、ホーム画面を表示させます。
2. カーソルで「ネットワーク/Bluetooth」-「ネットワーク」を選び、「IP アドレス」に表示されるIPアドレスをメモします。
3. PCやスマートフォンなどのインターネットブラウザを起動し、URL欄に本機のIPアドレスを入力します。
4. ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。下記を入力して「OK」をクリックします。
ユーザー名：admin (固定)
パスワード：admin (初期値)
 - ブラウザを閉じた場合は、再度入力が必要です。
5. パスワードの変更を行います。
 - パスワードは忘れないようにメモなどに記録してください。忘れてしまった場合は、本機をリセットして(→ [p171](#))初期値(admin)でログインし直してください。
6. インターネットブラウザに本機の情報(Web セットアップ画面)が表示されます。



7. 設定の変更後は、「Save」を選んで設定を保存してください。

Device Information

フレンドリーネームまたはAirPlayデバイス名の変更やAirPlayパスワードの設定などができます。

Control4：Control4システムをお使いの場合に本機を登録します。

Firmware Update：PCにダウンロードしたファームウェアファイルを選んで、本機をアップデートできます。

Network Setting

Status：本機のMACアドレスと、IPアドレスなどのネットワークに関する情報を確認できます。

ネットワーク接続：ネットワークの接続方法を選択できます。「ワイヤレス」を選んだ場合は、「Wi-Fi Setup」から接続するアクセスポイントを選んで接続してください。

DHCP：DHCPの設定を変更できます。「オフ」を選んだ場合、「IP アドレス」、「Subnet Mask」、「Gateway」、「DNS Server」は手動で設定してください。

Proxy：プロキシサーバーのURLを表示・設定します。



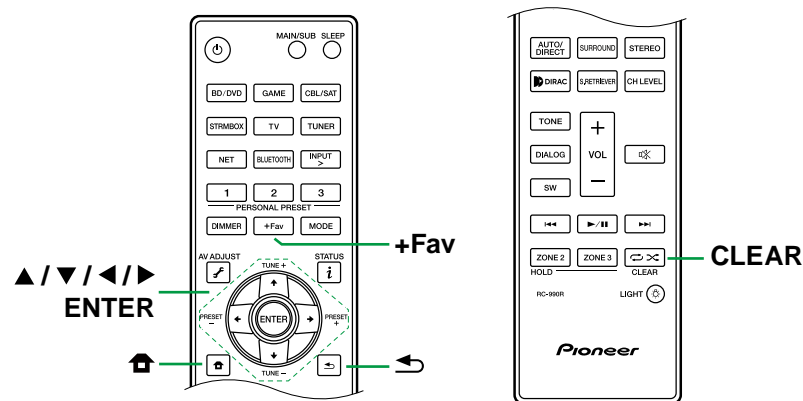
設定ウィザードでの初期設定

初期設定を始める



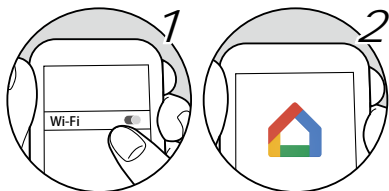
お買い上げ後、初めて電源を入れると、初期設定の画面が自動でテレビに表示され、ガイドランスに沿ってスタートアップに必要な項目を簡単な操作で設定することができます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えてください。
 2. 本機のリモコンに電池を入れます。
 3. 本機のリモコンの電源ボタンを押して電源をオンにします。
 4. テレビに言語選択の画面が表示されたら、カーソル ▲ / ▼ で選択し、ENTER を押します。
 5. ネットワークへの接続設定を行う場合は、「はい」を選びENTERを押します。
 - 操作はリモコンのカーソルで項目を選び、ENTERで決定します。ひとつ前の画面に戻るには を押します。
 - 初期設定を途中で終了してしまった場合は、本機の電源をスタンバイにして、もう一度電源をオンにすると初期設定を再度表示することができます。
- 初期設定は設定を最後まで行うか、ネットワーク接続を設定した後の画面で「今後表示しない」を選択しない限り、電源をオンにするたびに画面に表示されます。
- 初期設定の設定完了後、再度行いたい場合は、 を押し、「システム設定」-「その他」-「初期設定」を選んでENTERを押してください。



ネットワーク接続

1. ネットワーク設定中にプライバシーステートメントに同意するかの確認画面が表示されますので、同意する場合は「Accept」を選択し、ENTERを押してください。
2. ネットワークへの接続方法を選びます。Chromecast built-in機能を利用して接続する場合は「はい」を選びENTERを押します。Chromecast built-in機能を利用するにはGoogle Homeアプリが必要です。スマートフォンやタブレットにGoogle Play やApp Store からGoogle Home アプリをダウンロードしてください。
 - Google Home アプリは、以下のOS で使用できます。(2023年 1月現在)
Android™: 6.0 以上
iOS: iOS 12.0 以降。iPhone®、iPad®、およびiPod touch® に対応



「いいえ」を選んだ場合は、有線LANを使用する方法と、Wi-Fi接続を行う2種類の接続方法があります。

「有線」:有線LANを使用したネットワークへの接続

「ワイヤレス」:無線LANルーターなどのアクセスポイント とのWi-Fi 接続

- Wi-Fi 接続方法には2通りの方法があります。

「ネットワークを検索する」: 本機からアクセスポイントを検索して接続します。事前にアクセスポイントのSSIDをお調べください。

「OSデバイス(iOS7以降)を使用する」: お使いのiOS端末のWi-Fi設定を本機に共有して接続します。

- 「ネットワークを検索する」を選んだ場合は、さらに2種類の接続方法があります。以下の内容をご確認ください。

「パスワード入力」: アクセスポイントのパスワード(キー)を入力して接続します。

「プッシュボタン」: アクセスポイントに自動設定ボタンが装備されている場合に、パスワードの入力を行わずに接続できます。

- アクセスポイントのSSIDが表示されない場合は、SSIDの一覧画面でカーソルの▶で「その他・・・」を選んでENTERを押し、画面に従って設定してください。

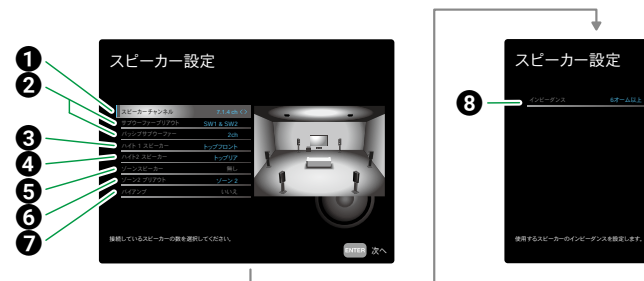
キーボードの入力について

大文字/小文字を切り換えるには、画面の「A/a」を選び、リモコンのENTERを押します。

リモコンの+Favを押すと、パスワードを「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。リモコンのCLEARを押すと入力した文字をすべて消去します。

1. スピーカー設定

1. 接続しているスピーカー構成を選び、ENTERを押します。
「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。



- 1 接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて選択します。
- 2 サブウーファーの有無を設定します。
- 3 HEIGHT 1 端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。
- 4 HEIGHT 2 端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。
- 5 Zone 2、Zone 3のスピーカー端子の接続の有無を設定します。
- 6 ZONE 2 PRE/LINE OUT/ZONE B LINE OUT端子から出力される音声の出力先を設定します。
- 7 フロントスピーカーをバイアンプ接続するかどうかを設定します。
- 8 接続したスピーカーのインピーダンスを設定します。



- 1で選択したスピーカーの組み合わせが表示されます。選択したスピーカーには「はい」が表示されています。間違いがなければENTERを押してください。
3. 「次へ」を選びENTERを押すと、各スピーカーから接続確認のためのテストトーンが出力されます。カーソル ▲ / ▼ で各スピーカーを選択すると、テストトーンが出力されます。確認が終わったら、ENTERを押します。
4. スピーカー接続に問題がなければ、「次へ」を選びENTERを押します。「スピーカー設定」に戻る場合は、「Back to Speaker Setup」を選びENTERを押します。

2. マルチゾーン音声確認

メインルーム以外の別室(ゾーン 2)(ゾーン 3)でも音声を楽しみたい場合に、ZONE 2、ZONE 3へのテストトーンを出力します。

3. ARC設定

ARC機能に対応したテレビと接続する場合は、「はい」を選んでENTERを押してください。

4. ルームEQ

部屋の環境に合わせた音場補正の測定を行います。測定方法は「Dirac Live (Advanced Users Only)」と「フルオートMCACC」の2種類から選択できます。測定を行わない場合は「Not Now」を選択してください。なお、どちらの測定方法も初期設定を終了したあとでも行うことができます。

■ Dirac Liveで測定する場合

モバイル端末にPioneer Remote Appをダウンロードし、アプリを操作して測定を行います。Dirac Liveの測定方法は「Dirac Liveで測定する」(→[p162](#))をご参照ください。

■ フルオートMCACCで測定する場合

本機内蔵の自動音場補正技術を使用します。「フルオートMCACC」の測定方法は「フルオートMCACCで測定する」(→[p164](#))をご参照ください。

- どちらで測定する場合も付属の測定用マイクを使用します。
- 測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に充分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
- サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源や音量を確認してください。サブウーファーの音量は半分以上に設定してください。
- 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線がリアパネルや他の

芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

測定を終えると、初期設定完了の画面が表示されます。「Finished」を表示中にENTERを押して、初期設定を終了してください。

Dirac Liveで測定する (→[p162](#))

フルオートMCACCで測定する (→[p164](#))



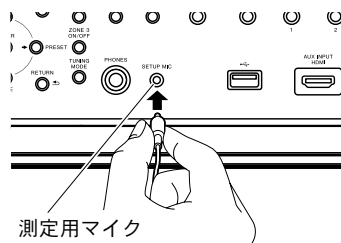
■ Dirac Liveで測定する

Dirac Liveを使って測定するには、Pioneer Remote Appを使用します。最新のバージョンをご使用ください。なお、本機の操作では設定することはできません。アプリについては「Pioneer Remote App」(→p165)をご参照ください。また、測定用マイクの設置用として三脚を準備してください。

- 測定は完了するまでに20分ほどかかります。

Dirac Live®は、Dirac Research社が開発した先進の室内音響最適化技術です。Dirac Liveは、市販されている室内音響最適化技術の中で最も高度なものの一つとして、オーディオシステムにおける最も弱いコンポーネントの一つであるリスニングルームの補正を支援します。Dirac Liveは周波数特性だけでなく、部屋の中のスピーカーのインパルス応答も補正し、イメージングと音質の向上、よりクリアでタイトなベース音、初期反射の低減、室内共振の低減を実現します。

- 「Dirac Live」の画面で「Start Dirac Live」を選び、ENTERを押します。
- 付属の測定用マイクを、本体のSETUP MIC端子に接続します。

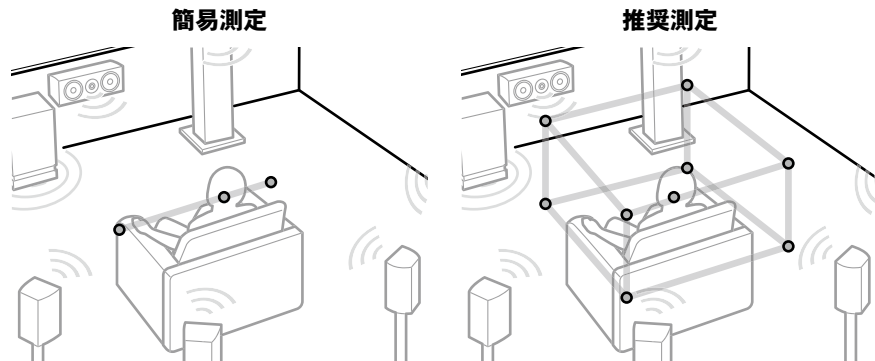


- Pioneer Remote Appを起動すると、自動で測定を案内する画面が表示されますので、「Start」をタップします。
 - 自動で案内が表示されない場合は、表示された本機をタップしたのち、画面左上にある「」をタップして「Dirac Live」を選択してください。
- 「はい」をタップして、表示されたスピーカー構成に誤りが無いか確認し、「はい」をタップします。
 - 初期設定の「スピーカー設定」で設定したスピーカーのチャンネル数と、接続しているスピーカーのチャンネル数が異なる場合、エラーが表示され測定できません。
- Dirac Live Bass Control (→p166)の使用の有無を選択します。使用する場合は「使用する」を選択して、Dirac Liveにログインします。

- 測定方法を選択します。測定方法は、視聴位置と視聴位置の左右の3箇所測定する「簡易測定」と、視聴位置を含む9箇所測定する「推奨測定」の2種類があります。お好みの測定方法をタップしてください。

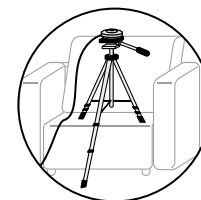
「簡易測定」：視聴位置の耳の高さに測定用マイクを設置して測定します。続いて、視聴位置の左右それぞれ50~100cm(20~40in)離れた位置で測定用マイクを設置して測定します。

「推奨測定」：視聴位置の耳の高さに測定用マイクを設置して測定します。続いて、視聴位置の前方や後方、左右など視聴位置を中心に周囲8箇所の測定をします。それぞれ視聴位置から50~100cm(20~40in)離れた位置に測定用マイクを設置し、測定を行います。



イラストはイメージです

- テストトーンを出力する案内が表示されます。イラストを参考に視聴位置に測定用マイクを設置してください。画面の指示に従って測定を行います。



- テストトーンが大きすぎるまたは小さすぎる場合、測定できないことがあります。「Level Adjust」をタップしてテストトーンの音量を調整してください。



8. 測定が完了すると、「計算結果」画面が表示されます。「機器へ転送」をタップして、測定データを本機に送信します。



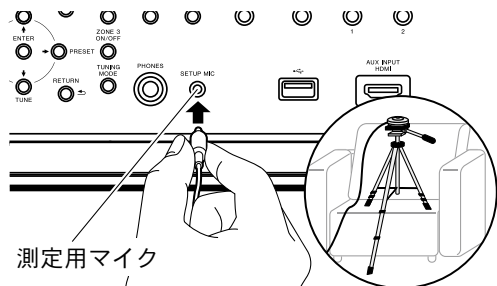
9. 測定用マイクを取り外します。
測定結果を元に各スピーカーの調整結果が本機に保存されます。調整結果のフィルターカーブは3パターンまで編集し、3つのスロットに登録することができます (→p168)。登録したフィルターカーブは「AV Adjust」の「ルームEQ」-「Dirac Live」(→p85)で選択することができます。
- Dirac Liveで測定を行った場合、ホーム画面の「MCACC Pro」-「マニュアルMCACC」(→p146)と、「MCACCデータチェック」(→p150)は選択できなくなります。また、ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「距離」(→p127)も計測結果が反映され、数値を変更することができなくなります。(設定単位は「msec」で表示されます。)



■ フルオートMCACCで測定する

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、視聴環境に応じて定在波の影響を軽減したり、スピーカーのイコライザー調整を自動で行い、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

- 測定は完了するまでに3～12分ほどかかります。
- 「Dirac Live」の画面で「Exit Dirac Live & use MCACC」を選び、Enterを押します。
 - 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。



測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

- サブウーファーからテストトーンが出力されていることを確認し、ENTERを押します。
- ENTERを押すと、各スピーカーからテストトーンが出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
- 4の測定結果が表示されます。スピーカーの検出結果に問題が無い場合は、「次へ」を選びENTERを押すと、再度テストトーンが出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。(操作をせずに10秒経つと自動でテストトーンが出力されます。)
 - エラーメッセージが表示された場合や、接続したスピーカーが検出されない場合は、「Retry」を選びENTERを押して、再測定を行ってください。
 - 再測定を行っても解決できない場合は、スピーカーの接続が正しく行われているかご確認ください。スピーカー接続に問題があった場合は、電源コードを抜いてから接続を行ってください。
- 測定が完了したら、さらに最大8つの視聴位置での測定が可能です。測定を行う場合は、「次へ」を選びENTERを押して、画面の指示に従ってください。測定を行わない場合は「終了」を選びENTERを押してください。

- 各視聴位置での測定後に「終了」を選びENTERを押すと、測定は完了します。
- 測定用マイクを取り外します。



Pioneer Remote App



Pioneer Remote App(iOSやAndroid™でご利用になれます)はモバイル端末をリモコンとして使用できる無償の専用アプリです。入力切替やボリューム調整などの基本操作をはじめ、ラジオの選局やネットワークサービス(インターネットラジオや音楽ファイルの再生)の操作を、テレビ画面を見ずに手元で行うことができます。

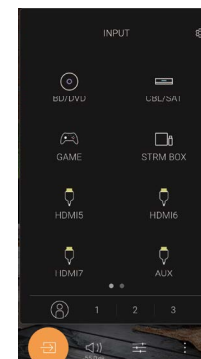
- Pioneer Remote Appを使用するには本機とモバイル端末を同じネットワークに接続する必要があります。

主な機能

- 電源のオン/オフ、入力切替、ボリューム調整など、リモコンの基本操作。
- マルチゾーン (→[p98](#)) を使用すると、メインルーム(本機のある部屋)だけでなく、別室(ゾーン 2/ゾーン 3)の操作もアプリで行うことができます。
- インターネットラジオサービス (TuneIn Radioなど) の再生や選局。テレビ画面を見なくても、手元で操作をすることができます。
- モバイル端末に保存されている音楽ファイルをWi-Fi経由で再生。
- Amazon Musicの再生 (対応機種のみ) (→[p92](#))

初期設定

1. App StoreやGoogle Play™ Storeで、Pioneer Remote Appをダウンロードします。
2. 本機とモバイル端末を同じネットワークに接続します。
3. Pioneer Remote Appを起動します。起動すると自動で本機が表示されますので、表示された本機をタップして選びます。



Dirac Live



Dirac Live®は、Dirac Research社が開発した先進の室内音響最適化技術です。Dirac Liveは、市販されている室内音響最適化技術の中で最も高度なものの一つとして、オーディオシステムにおける最も弱いコンポーネントの一つであるリスニングルームの補正を支援します。Dirac Liveは周波数特性だけでなく、部屋の中のスピーカーのインパルス応答も補正し、イメージングと音質の向上、よりクリアでタイトなベース音、初期反射の低減、室内共振の低減を実現します。

追加機能

Dirac Live Bass Control

Dirac Live Bass Controlは、AV機器の音声信号から再生チャンネル（スピーカー）までの低音域のルーティングを管理する技術です。さらに、デバイスのチャンネルと周波数のルーティングと出力を完全にコントロールすることで、Dirac Liveのルームコレクション技術が大きく強化されます。特に複数のサブウーファーを使用する場合は、ルームコレクションと低音性能が大幅に改善されます。

Dirac Live Bass Controlを使用するには、Dirac Liveへの登録とDirac Live Bass Controlのライセンスが必要です。詳しくは、Dirac Liveのウェブサイトをご覧ください。

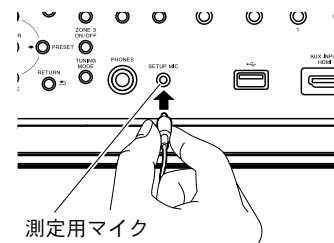
<https://www.dirac.com/online-store/pioneer-vs-a-lx805>

Dirac Liveで測定する

Dirac Liveを使って測定をするには、Pioneer Remote Appを使用します。最新のバージョンをご使用ください。なお、本機の操作では設定することはできません。アプリについては「Pioneer Remote App」(→p165)をご参照ください。また、測定用マイクの設置用として三脚を準備してください。

- 測定は完了するまでに20分ほどかかります。

- Pioneer Remote Appを起動し、表示された本機をタップします。
- 付属の測定用マイクを、本体のSETUP MIC端子に接続します。



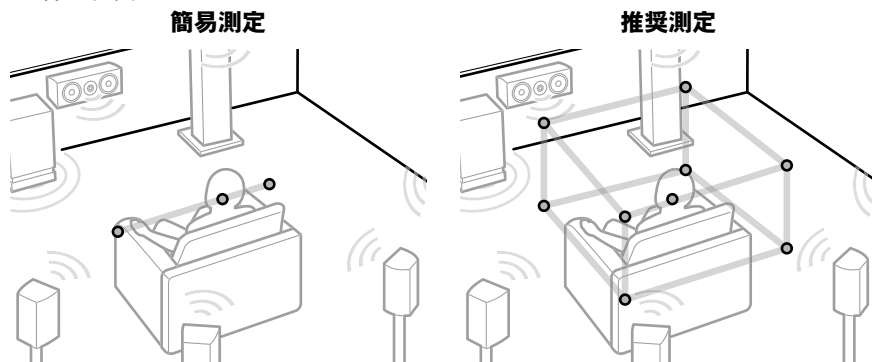
- 「はい」をタップして、表示されたスピーカー構成に誤りが無いか確認し、「はい」をタップします。
 - 「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(→p123)の設定と、接続しているスピーカーのチャンネル数が異なる場合、エラーが表示され測定できません。
- Dirac Live Bass Controlの使用の有無を選択します。使用する場合は「使用する」を選択して、Dirac Liveにログインします。



5. 測定方法を選択します。測定方法は、視聴位置と視聴位置の左右の3箇所測定する「簡易測定」と、視聴位置を含む9箇所測定する「推奨測定」の2種類があります。お好みの測定方法をタップしてください。

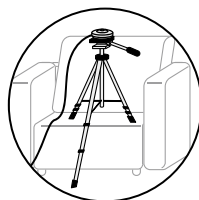
「簡易測定」: 視聴位置の耳の高さに測定用マイクを設置して測定します。続いて、視聴位置の左右それぞれ50~100cm離れた位置で測定用マイクを設置して測定します。

「推奨測定」: 視聴位置の耳の高さに測定用マイクを設置して測定します。続いて、視聴位置の前方や後方、左右など視聴位置を中心に周囲8箇所の測定をします。それぞれ視聴位置から50~100cm離れた位置に測定用マイクを設置し、測定を行います。



イラストはイメージです

6. テストトーンを出力する案内が表示されます。イラストを参考に視聴位置に測定用マイクを設置してください。画面の指示に従って測定を行います。



- テストトーンが大きすぎるまたは小さすぎる場合、測定できないことがあります。「Level Adjust」をタップしてテストトーンの音量を調整してください。

7. 測定が完了すると、「計算結果」画面が表示されます。「機器へ転送」をタップして、測定データを本機に送信します。



8. 測定用マイクを取り外します。
- Dirac Liveで測定を行った場合、ホーム画面の「MCACC Pro」-「マニュアル MCACC」(→p146)と、「MCACCデータチェック」(→p150)は選択できなくなります。また、ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「距離」(→p127)も計測結果が反映され、数値を変更することができなくなります。(設定単位は「msec」で表示されます。)

Dirac Liveを使用する

DiracLiveの測定結果をもとに調整したフィルターカーブを適用することができます。「AV Adjust」の「ルームEQ」-「Dirac Live」(→p85)で、「Slot1」~「Slot3」から選択してください。なお、すべてのSlotには、同じデータが保存されていますが、次項の「Manual Adjust」でオリジナルの音質を編集して登録することができます。

- ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」(→p123)でスピーカーのチャンネル数などを変更すると、測定結果は消去されます。
- Dirac Liveを使用する場合、サンプリング周波数が32 kHzの信号には対応していません。



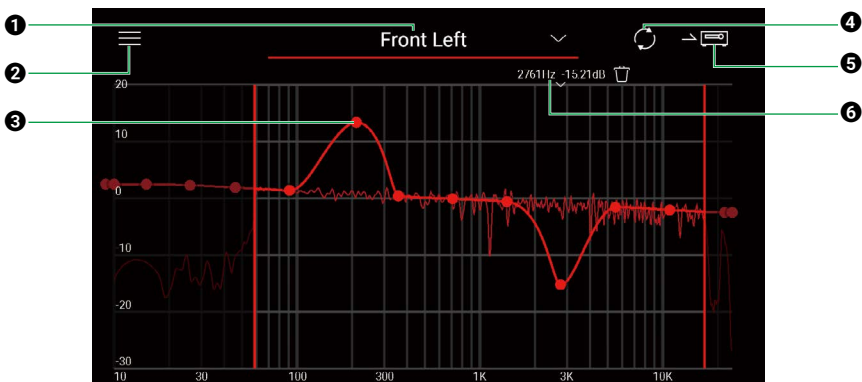
Manual Adjust (手動調整)

Dirac Liveで自動測定したスピーカーの音量レベルをもとに、フィルターカーブを編集してお好みに調整することが可能です。フィルターカーブの編集はPioneer Remote Appで行います。

- 「Manual Adjust」で音質を調整するには、事前にDirac Live (→p162, p166) で本機のスピーカー測定を行う必要があります。
- フルオートMCACC (→p145, p164) でスピーカー測定をした場合、この機能は使用できません。

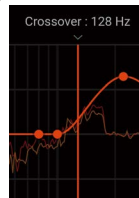
フィルターカーブを編集する

1. Pioneer Remote Appを起動し、表示された本機をタップします。
2. PioneerRemoteAppの画面左上にある「☰」をタップしてメニュー一覧を表示し、「Manual Adjust」をタップします。
3. 「Slot1」～「Slot3」から編集するSlotを選択し、「次へ」をタップします。
 - すべてのSlotには、Dirac Liveの測定結果が初期値として登録されています。
4. はじめに調整したいスピーカーを選択したのち、フィルターカーブを編集します。



- 1 現在調整中のスピーカーです。他のスピーカーを調整したい場合は、横の「☑」をタップして別のスピーカーを選択します。
- 2 メニュー画面を表示します。メニューからは、すべてのスピーカーの調整をリセットしたり調整をキャンセルして終了することができます。また、他のSlotのデータからコピーすることもできます。
- 3 フィルターカーブ上のポイントを左右にドラッグして周波数を、上下にドラッグしてブースト量を変更します。

- 曲線上のポイントの無い部分をタップすると、ポイントを追加できます。
- 4 調整した内容から特性を再計算します。
 - 5 調整した内容を本機に送信します。
 - 6 調整中のポイントの値です。ポイントを削除する場合は横の「☑」をタップします。
- Dirac Live Bass Controlが有効な場合、クロスオーバー周波数を編集するためのバーが表示されます。バーを左右に動かしてクロスオーバーの値を調整します。



5. 調整を終えたら、4をタップして再計算したのち、5をタップして調整データを本機に送信します。
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」でスピーカーのチャンネル数などを変更すると、調整した内容は消去されます。

登録したフィルターカーブを使用する

「AV Adjust」の「ルームEQ」-「Dirac Live」(→p85)で、保存したSlotを選択すると、登録したフィルターカーブを使用することができます。



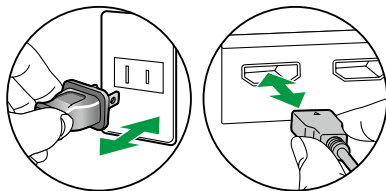
困ったときは

はじめにお読みください	170
動作が不安定なときは	171
再起動をお試しください	171
本機のリセット（設定内容は初期化されます）	171
故障かなと思ったら	172
■ 電源	172
■ 音声	173
■ リスニングモード	175
■ 映像	176
■ 連動動作	177
■ BLUETOOTH機能	177
■ ネットワーク機能	179
■ USBストレージ	180
■ 無線LANネットワーク	180
■ ゾーンB機能	181
■ マルチゾーン機能	181
■ リモコン	181
■ 表示部	181
■ その他	182



はじめにお読みください

トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試ください。また、映像や音声がでない、HDMI連動ができないなどの場合、接続しているHDMIケーブルの抜き差しを行うと改善することもあります。差し直す際は、HDMIケーブルが巻かれていると接触が悪くなりますので、なるべく巻かずに差し直してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。



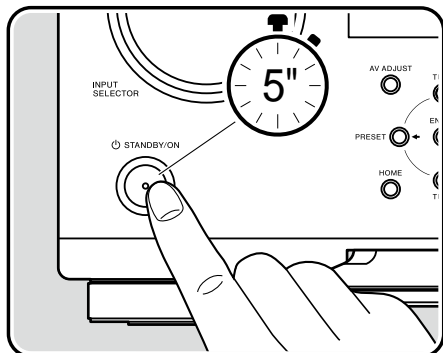
- 本機はマイクロコンピュータにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。
- 製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害(CDレンタル料等)については補償対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。



動作が不安定なときは

□ 再起動をお試しください

本機を再起動すると改善することがあります。本機の電源をスタンバイにして5秒以上待ってから、本体の⏻ STANDBY/ONボタンを5秒以上押し続けて、本機を再起動してください。(本機の設定内容は保持されます。)再起動しても改善しない場合は、本機や接続機器の電源コードやHDMIケーブルの抜き差しをお試しください。

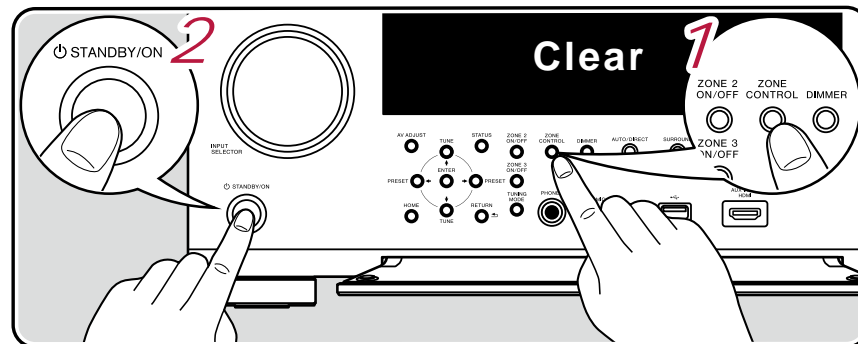


□ 本機のリセット (設定内容は初期化されます)

再起動で改善しない場合は、本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。リセットを行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、以下の操作をする前に、設定内容をメモなどに記録してください。なお、初期設定の操作中は本機をリセットすることはできません。以下の操作をする前に、⏻ ボタンを押して初期設定を終了してください。

1. 本機の電源がオンの状態で本体のZONE CONTROLボタンを押しながら、⏻ STANDBY/ONボタンを押します。
2. 表示部に「Clear」が表示されてスタンバイ状態に戻ります。表示部から「Clear」が消えるまで、絶対に電源コードを抜かないでください。

なお、リモコンのリセットは、MODEを押しながら、CLEARボタンを3秒以上押しします。



故障かなと思ったら

■ 電源

□ 電源を入れると本体表示部に「Diagnostic mode」が表示される

- 保護回路機能が作動した可能性があります。急に電源がスタンバイ状態になり、再度電源を入れたときに本体表示部に「Diagnostic mode」が表示される場合は、本体の故障やスピーカーケーブルの接続に異常がないかを診断しています。診断が終了すると、次のメッセージが表示されます。

Check speaker	表示部に「Diagnostic mode」が表示されたあと、通常のオン状態に戻った場合は、スピーカーケーブルがショートしている可能性があります。本機の電源をスタンバイにしたうえで、スピーカーケーブルの接続を再度行ってください。スピーカーケーブルの先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないようにしてください。
NG:*****	表示部に「NG」が表示された状態で動作を停止した場合は、すぐに本機の電源をスタンバイにしたうえで、電源プラグをコンセントから抜いてください。故障の可能性がありますので、販売店にお問い合わせください。

□ 本機の電源が切れる

- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「自動スタンバイ」が作動すると、自動でスタンバイ状態になります。
- 本機の温度が異常に上昇して保護回路機能が作動した可能性があります。この場合、電源を入れ直してもまた電源が切れる状態がくり返されます。本機の周りに十分な換気スペースを確保して、本機の温度が下がるまでしばらく待ってから電源を入れ直してください。

(→p136)

警告: 煙が出ている、変なおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、販売店または弊社の修理窓口にご連絡ください。



■ 音声

- 測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。
- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- 表示部に「MUTING」と表示し、表示部の唸表示が点滅している場合、リモコンの唸ボタンを押して消音を解除してください。
- ヘッドホンをPHONES端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。
- ホーム画面の「システム設定」-「入力ソース」-「音声信号選択」-「PCM固定」が「オン」になっている場合、PCM信号以外の入力では音声が再生されません。設定を「オフ」に変更してください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ テレビの音が出ない

- 本機の入力切換を、テレビと接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- テレビがARC機能に対応していない場合は、HDMIケーブルの接続に加えて、光デジタルケーブルでテレビと本機を接続してください。

(→p62)

□ 接続した再生機器の音が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がオフになっていることがあります。
- 一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。

□ 特定のスピーカーから音が出ない

- スピーカーコードの+/-は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。
- スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。
- スピーカーの接続が正しく行われているか、「スピーカーケーブルを接続する」(→p38) をご確認ください。スピーカーの接続環境については、初期設定の「スピーカー設定」で設定が必要です。「設定ウィザードでの初期設定」(→p159) をご確認ください。
- 入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。他のリスニングモードを選択して、音が出るかご確認ください。
- サラウンドバックスピーカーを設置する場合、サラウンドスピーカーの設置は必須です。
- バイアンプ接続の場合、最大9 chの再生になります。また、バイアンプ接続では、スピーカー側のショートバーは必ず外してください。

(→p38)



□ サブウーファーから音が出ない

フロントスピーカーの設定が「ラージ」になっていると、テレビや音楽などの2 ch音声入力時に、低域成分がサブウーファーから出力されず、フロントスピーカーから出力されます。サブウーファーから出力する場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。

1. フロントスピーカーの設定を「スモール」に変更する
低域成分がフロントスピーカーから出力されずに、サブウーファーから出力されます。フロントスピーカーの低域再生能力が高い場合は、変更しないことをお勧めします。
2. 「ダブルバス」を「オン」に変更する
フロントスピーカーの低域成分がフロントスピーカーとサブウーファーの両方から出力されます。そのため低音が出過ぎる場合があります。その場合は変更しない、または1の方法で設定することをお勧めします。
 - 設定の詳細については、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」をご覧ください。
 - 入力信号にサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

(→p125)

□ ノイズが聴こえる

- コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

□ HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない

- HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。

□ 音が急に小さくなった

- 本機の内部温度が一定の温度を超えた状態で長時間お使いになると、回路保護のために自動で音量を絞る場合があります。



■ リスニングモード

- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド再生を楽しむためには、音声信号はHDMIケーブルまたは同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルでの接続が必要です。また、接続したBlu-ray Discプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
 - リモコンの **i** ボタンをくり返し押すと、本体表示部が切り換わり、入力フォーマットを確認することができます。
- 以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選べないリスニングモードがあります。"スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード" (→[p184](#))または"入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて" (→[p187](#))をご確認ください。

□ Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audioフォーマットで聴くことができない

- Dolby TrueHDやDolby Atmos、DTS-HD Master Audioなどの音声フォーマットで出力されない場合、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの設定で、「BDビデオ副音声」(または再エンコード、セカンダリ音声、ビデオ付加音声など) 機能を「切」にしてお試しください。設定を変更したあとは、各ソース用のリスニングモードに切り換えてご確認ください。

□ Dolby信号について

- スピーカーレイアウトにサラウンドバックスピーカーを含む場合で、5.1 チャンネルのDolby音声フォーマットで収録されたソフトを再生すると、サラウンドチャンネルの音声をサラウンドバックスピーカーから出力することがあります。
- ゲームなどで使用されている一部のDolby Atmos音声フォーマットが「マルチチャンネルPCM」として認識されることがあります。このような場合はゲーム機本体のファームウェアの更新情報をご確認ください。

□ DTS信号について

- DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときは再生機側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズが発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。





■ 映像

- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
 - 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
 - テレビの映像が乱れる場合は、本機の電源コードや接続ケーブルが干渉している場合があります。テレビのアンテナ線と本機のケーブル類を離してお試しください。
 - テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 映像が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。

□ HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない


- 本機の電源がスタンバイ状態の場合、接続した再生機器の映像をテレビに映し出すにはホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMIスタンバイスルー」を有効にする必要があります。なお、HDMIスタンバイスルーの機能については「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」をご確認ください。
- HDMI OUT SUB端子に接続しているテレビに映像を出力するには、リモコンの  ボタンを押して表示される「AV Adjust」の「HDMI」-「HDMI出力」やリモコンのHDMI MAIN/SUBボタンを押して、出力するHDMI OUT端子を選択します。
- HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- Deep Colorの機能をオフに切り換えてみてください。Deep Color機能をオフにするには、本体のPERSONAL PRESET 2ボタンを押しながら、表示部に「Deep Color: Off」が表示されるまで  STANDBY/ONボタンをくり返し押ししてください。Deep Color機能をオンするには、上記の手順で「Deep Color: On」が表示されるまでボタンを押してください。

(→p134)

□ 映像がちらつく

- テレビの対応解像度が再生機器の出力解像度に適合していない可能性があります。再生機器と本機をHDMI接続している場合は、再生機器側の出力解像度を変更してお試しください。また、テレビの画面モードを変更すると、改善される場合があります。

□ 映像と音声にずれがある

- お使いのテレビの設定や接続環境などによっては、映像が音声より遅れて表示されることがあります。リモコンの  ボタンを押して表示される「AV Adjust」の「HDMI」-「サウンドディレイ」で調整してください。

(→p83)



■ 連動動作

□ テレビなどのCEC対応機器とのHDMI連動動作が働かない

- 本機のホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI CEC」の設定を「オン」にする必要があります。 (→p134)
- CEC対応機器側もHDMI連動の設定が必要です。取扱説明書でご確認ください。
- シャープ製のプレーヤーやレコーダーをHDMI IN端子に接続する場合は、「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMIスタンバイスルー」を「自動」に設定してください。

■ BLUETOOTH機能

- 本機の電源抜き差しや、BLUETOOTH対応機器の電源オン/オフなどをお試ください。BLUETOOTH対応機器の再起動が効果的な場合もあります。
 - BLUETOOTH対応機器がA2DPプロファイルに対応している必要があります。
 - 電子レンジ、コードレス電話機など2.4 GHz帯の電波を使用する機器の近くでは電波干渉を起こしますので使用できないことがあります。
 - 周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、BLUETOOTH接続ができない場合があります。
- 以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ BLUETOOTH対応機器(PCやスマートフォンなど)から本機への送信ができない

- BLUETOOTH対応機器のBLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。 (→p156)

□ BLUETOOTH対応機器(PCやスマートフォンなど)から本機への接続ができない

- ペ어링情報を初期化して、もう一度ペ어링を行ってください。 (→p156)
- はじめに本機に保存されているすべてのペ어링情報を消去します。ホーム画面の「ネットワーク/Bluetooth」-「Bluetooth」-「Bluetooth受信機能」-「ペ어링情報」を選び、「Clear」が表示された状態でENTERボタンを押します。
- 次にBLUETOOTH対応機器側に保存されている本機のペ어링情報を消去します。ペ어링情報の消去については、BLUETOOTH対応機器の取扱説明書をご参照ください。
- 最後にもう一度ペ어링を行います。ペ어링方法については、「BLUETOOTH対応機器の音声の本機で再生する」(→p80)をご参照ください。



□ 本機からBLUETOOTH対応機器(ワイヤレスヘッドホンなど)への送信ができない

- 本機の「Bluetooth送信機能」の設定が「オン(Tx)」または「オン(メイン + Tx)」になっているか確認してください

(→p157)

□ 本機からBLUETOOTH対応機器(ワイヤレスヘッドホンなど)への接続ができない

- BLUETOOTH対応機器のBLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- ペ어링情報を初期化して、もう一度ペ어링を行ってください。

(→p157)

はじめに本機に保存されているすべてのペ어링情報を消去します。ホーム画面の「ネットワーク/Bluetooth」-「Bluetooth」-「Bluetooth送信機能」-「ペ어링情報」を選び、「Clear」が表示された状態でENTERボタンを押します。

次にBLUETOOTH対応機器側に保存されている本機のペ어링情報を消去します。ペ어링情報の消去については、BLUETOOTH対応機器の取扱説明書をご参照ください。

最後にもう一度ペ어링を行います。ペ어링方法については、「本機からBLUETOOTH対応機器へ音声を送信する」(→p81)をご参照ください。

□ BLUETOOTH接続しているのに音楽の再生ができない

- 本機またはBLUETOOTH対応機器のボリューム設定が小さいと、音声再生されないことがあります。本機またはBLUETOOTH対応機器のボリューム設定をご確認ください。
- BLUETOOTH対応機器によっては、送信/受信切換スイッチが搭載されている場合があります。ご利用になる用途に応じて設定を切り換えてお試ください。
- BLUETOOTH対応機器の特性や仕様によっては、本機で音楽を再生できない場合があります。

□ 音声が途切れる

- BLUETOOTH対応機器に問題が発生している可能性があります。ホームページなどで情報を調べてみてください。

□ BLUETOOTH対応機器との接続後、音質が低下した

- 受信状態がよくありません。BLUETOOTH対応機器を本機に近づける、またはBLUETOOTH対応機器と本機の間にある障害物を取り除いてください。



■ ネットワーク機能

- ネットワークサービスを選択できない場合は、ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。起動には約1分かかることがあります。
- NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- 本機とルーターの電源抜き差しや、ルーターの再起動などをお試しください。
- アクセスポイント一覧に該当のルーターが表示されないときは、無線LANルーターがSSIDを隠す設定になっている場合や、ANY接続がオフになっている場合があります。設定を変えてお試しください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ インターネットラジオが聴けない

- サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。
- モデムとルーターが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
- ルーターのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。
- ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
- お使いのISPがサポートしているルーターやモデムを使用しているか確認してください。

□ ネットワークサーバーが使用できない

- 本機とネットワークサーバーは同じルーターに接続する必要があります。
- 本機が対応しているネットワークサーバーは、Windows Media® Player 12またはホームネットワーク機能対応のNASです。
- Windows Media® Playerは設定が必要な場合があります。「Music Server」をご確認ください。
- PCを使用する場合は、Windows Media® Playerのライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

(→p108)

□ ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

- ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
- PCをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア(Windows Media® Player 12など)以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
- PCで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。



■ USBストレージ

□ USBストレージが表示されない

- USBストレージやUSBケーブルが本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
- USBストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。
- 本機のUSB端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- コンテンツの種類によっては正常に再生できないことがあります。対応フォーマットをご確認ください。
- セキュリティ機能付きのUSBストレージの動作は保証できません。

(→p106)

■ 無線LANネットワーク

• 本機と無線LANルーターの電源の抜き差しや、無線LANルーターの電源オン状態の確認、および無線LANルーターの再起動などをお試しください。以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 無線LANネットワークに接続できない

- 無線LANルーターの設定が手動設定に切り換わっている場合があります。自動設定に戻してください。
- 手動でのセットアップをお試しください。つながる場合があります。
- 無線LANルーターがSSIDを隠す設定(ステルスモードなど)になっている場合や、ANY接続がオフになっている場合は、表示されません。設定を変えてお試しください。
- SSIDおよび暗号化設定(WEPなど)が正しいか確認してください。ネットワークの設定と本機の設定内容を合わせてください。
- マルチバイト文字で設定されているSSIDへの接続は対応していません。無線LANルーターのSSIDを英数字で設定しなおして再度お試しください。

□ 選択したSSIDとは異なるSSIDに接続される

- 無線LANルーターによっては、1台で複数のSSIDを設定できるものがあります。このようなルーターに自動設定ボタンを使って接続すると、接続したいSSIDとは異なるSSIDに接続される場合があります。この場合、パスワード入力による接続を行ってください。

□ 再生音が途切れたり通信できない

- 電波状態が悪いため、電波が届かないことがあります。無線LANルーターからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しを良くしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のアクセスポイントから離して設置してください。無線LANルーターと本機は、同じ部屋に配置することを推奨します。
- 周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、無線LANの接続ができない場合があります。
- 他の無線LANを本機の近くで使用すると、再生音が途切れたり通信できないなど他にも色々な症状が発生することがあります。このような場合は無線LANルーターのチャンネルを変更することで回避できます。変更方法は無線LANルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 無線LANで使用する帯域が不足している可能性があります。有線LANで接続してください。



■ ゾーンB機能

□ ゾーン B音声出力できない

- ゾーン Bに音声を出力するためには、AV Adjustの「Audio」-「ゾーン B」で音声の出力先を「オン (A+B)」または「オン (B)」に設定し、かつシステム設定メニューの「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン 2 プリアウト」を「ゾーン B」に設定する必要があります。

(→p113)

■ マルチゾーン機能

□ 外部接続のAV機器の音声をZONE出力できない

- AV機器がHDMI端子を持たない場合は、同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルで接続してください。また、外部接続のAV機器の音声は、アナログまたは2ch PCM音声のみゾーン 2で再生可能です。AV機器と本機をHDMIケーブル、同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続している場合は、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。
- HDMI入力の映像や音声をゾーン 2出力する場合は、システム設定メニューの「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力 / OSD」-「ゾーン 2 HDMI」(→p118)を「使用する」に設定してください。
- 外部接続のAV機器の音声をZONE 3 出力するには、オーディオ用ピンケーブルでの接続が必要です。また、外部接続のAV機器の音声は、アナログのみゾーン 3で再生可能です。

□ その他

- NET、USB入力切換からの音声信号の場合、DSD音声信号はゾーン出力できません。

■ リモコン

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池と一緒に使用しないでください。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置したり、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

■ 表示部

□ 表示部が点灯しない

- ディマー機能が働いている则表示部が薄暗くなったり、消灯します。DIMMERボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。

(→p16)



■ その他

□ 本体から異音が聞こえる

- 本機と同系統のコンセントに他の機器を接続している場合、その機器の影響を受けて異音が発生する場合があります。他の機器の電源プラグをコンセントから抜いて症状が改善される場合は、本機とその機器を別系統のコンセントに接続してください。

□ フルオートMCACCを実行中に「騒音が大きすぎます」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

□ フルオートMCACCの測定結果がスピーカーまでの実際の距離と異なる

- お使いのスピーカーによっては測定結果に誤差が生じる場合があります。その場合は、ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「距離」で設定してください。 (→[p127](#))

□ フルオートMCACCの測定結果でサブウーファーの音量レベルが下限に補正される

- サブウーファーの音量レベルを補正しきれていないことが考えられます。フルオートMCACCの測定開始前にサブウーファーのボリュームを下げてください。

□ 「クロスオーバー」や「距離」、「チャンネルレベル」の設定が初期値に戻る

- Dirac Liveで測定を行った場合、システム設定メニューの「スピーカー」-「配置・構成」(→[p123](#))の「スピーカーチャンネル」や「サブウーファー」、「ハイト1スピーカー」、「ハイト2スピーカー」の設定を変更すると、測定結果は初期値に戻ります。再測定を行ってください。



スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード	184
入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて	187
リスニングモードの効果	191
スピーカー組み合わせ一覧	195
主な仕様	196

仕様について



スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード

各スピーカーレイアウトによって選択できるリスニングモードについては、下記の表を参照してください。

リスニングモード	スピーカーレイアウト (ch)															
	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	2.1.2	3.1.2	4.1.2	5.1.2	6.1.2	7.1.2	4.1.4	5.1.4	6.1.4	7.1.4
<input checked="" type="checkbox"/> DD (Dolby Audio - DD)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*2)	✓(*2)		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*2) (*3)	✓(*2) (*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*2) (*3)	✓(*2) (*3)
<input checked="" type="checkbox"/> DD+ (Dolby Audio - DD+)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1) (*2)	✓(*1) (*2)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1) (*2)	✓(*1) (*2)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1) (*2)	✓(*1) (*2)
<input checked="" type="checkbox"/> DTHD (Dolby Audio - TrueHD)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1) (*2)	✓(*1) (*2)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1) (*2)	✓(*1) (*2)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1) (*2)	✓(*1) (*2)
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos					✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 2.0/2.1	✓															
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 3.0/3.1		✓														
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 4.0/4.1			✓													
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 5.0/5.1				✓												
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 6.0/6.1					✓											
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 7.0/7.1						✓										
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 2.0.2/2.1.2							✓									
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 3.0.2/3.1.2								✓								
<input checked="" type="checkbox"/> DSur (Dolby Audio - Surr)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 2.0/2.1 (Dolby Audio - Surr)	✓															
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 3.0/3.1 (Dolby Audio - Surr)		✓														
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 4.0/4.1 (Dolby Audio - Surr)			✓													
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 5.0/5.1 (Dolby Audio - Surr)				✓												
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 6.0/6.1 (Dolby Audio - Surr)					✓											
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 7.0/7.1 (Dolby Audio - Surr)						✓										
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 2.0.2/2.1.2 (Dolby Audio - Surr)							✓									
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 3.0.2/3.1.2 (Dolby Audio - Surr)								✓								



リスニングモード	スピーカーレイアウト (ch)															
	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	2.1.2	3.1.2	4.1.2	5.1.2	6.1.2	7.1.2	4.1.4	5.1.4	6.1.4	7.1.4
DTS		✓	✓	✓	✓	✓		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
DTS-HD		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS:X		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS Neural:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
IMAX DTS	✓	✓	✓	✓	✓	✓(*4)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3) (*4)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3) (*4)
IMAX DTS:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
IMAX Neural:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓



リスニングモード	スピーカーレイアウト (ch)															
	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	2.1.2	3.1.2	4.1.2	5.1.2	6.1.2	7.1.2	4.1.4	5.1.4	6.1.4	7.1.4
AAC		✓	✓	✓	✓(*8)	✓(*8)		✓(*8)	✓(*8)	✓(*8)	✓(*8)	✓(*8)	✓(*8)	✓(*8)		
PCM	✓	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
DSD		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*5)	✓(*5)		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3) (*5)	✓(*3) (*5)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3) (*5)	✓(*3) (*5)
Stereo	✓	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)
Mono	✓	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)	✓(*6)
Mono Music		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ext.Stereo		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Classical			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ent.Show (Entertainment Show)			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Drama			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Unplugged			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Action			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
AdvancedGame			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Rock/Pop			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Sports			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
F.S.Surround (Front Stage Surround)	✓	✓	✓(*6)	✓(*7)	✓(*6)	✓(*7)	✓(*6)	✓(*7)	✓(*6)	✓(*7)	✓(*6)	✓(*7)	✓(*6)	✓(*7)	✓(*6)	✓(*7)

*1: 入力信号のチャンネル数に応じた音場で再生されます。

*2: 4.1chや5.1chのDolby信号(DD,DD+,DTHD)が入力されると、サラウンドチャンネルの音声はサラウンドバックスピーカーから出力されます。

*3: ハイトスピーカーからは出力されません。

*4: サラウンドチャンネルの音声はサラウンドバックスピーカーから出力されます。

*5: サラウンドバックスピーカーからは出力されません

*6: フロントスピーカーのみ出力されます。

*7: フロントスピーカーとセンタースピーカーのみ出力されます。

*8: サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーからは出力されません。



入カフォーマットと選択できるリスニングモードについて

入力する信号の音声フォーマットに応じて、さまざまなリスニングモードが選べるようになります。

- Stereoモードは、すべての音声フォーマットで選択できます。
- Pure Directモードでアナログ信号を入力している場合は、DSP(Digital Signal Processor)を経由せずに直接アンプに入力されるAnalog Directモードに切り換わります。
- ヘッドホン接続時に選べるリスニングモードは、Pure Direct、Stereoのみです。

リスニングモード 入カフォーマット	Pure Direct Direct Stereo	DD (Dolby Audio - DD) (*2)	DD+ (Dolby Audio - DD+) (*2)(*3)	DTHD (Dolby Audio - TrueHD) (*2)	Atmos (*11)	DSur (Dolby Audio - Sur) (*11)
	2 ch信号時					
Analog / PCM	✓					✓
音楽ファイル / DSD (*1)	✓					✓
DD / DD+ / DTHD	✓					✓
DTS / DTS 96/24 / DTS Express / DTS-HD HR / DTS-HD MSTR (*13)(*14)	✓					✓(*9)
Multi-ch信号時						
Multich PCM	✓					✓
DSD (*1)	✓					✓
MPEG-2 AAC MPEG-4 AAC	✓					✓
DD	✓	✓				✓
DD+	✓		✓			✓
DTHD	✓			✓		✓
ATMOS	✓				✓	
DTS	✓					✓
DTS 96/24 (*13)	✓					✓
DTS Express (*14)	✓					✓
DTS-HD HR (*14)	✓					✓
DTS-HD MSTR (*14)	✓					✓
DTS-ES Discrete (*13)	✓					✓
DTS-ES Matrix (*13)	✓					✓
DTS:X	✓					
IMAX DTS	✓					
IMAX DTS:X	✓					



入力フォーマット	リスニングモード						
	DTS (*2)	DTS-HD	DTS:X	DTS Neural:X (*4)	IMAX DTS (*8)	IMAX DTS:X (*8)	IMAX Neural:X (*8)
2 ch信号時							
Analog / PCM				✓			
音楽ファイル / DSD (*1)				✓			
DD / DD+ / DTHD				✓			
DTS / DTS 96/24 / DTS Express / DTS-HD HR / DTS-HD MSTR (*13)(*14)				✓			
Multi-ch信号時							
Multich PCM				✓			
DSD (*1)				✓			
MPEG-2 AAC MPEG-4 AAC				✓			
DD				✓			
DD+				✓			
DTHD				✓			
ATMOS							
DTS	✓			✓			
DTS 96/24 (*13)	✓			✓			
DTS Express (*14)		✓		✓			
DTS-HD HR (*14)		✓		✓			
DTS-HD MSTR (*14)		✓		✓			
DTS-ES Discrete (*13)	✓			✓			
DTS-ES Matrix (*13)	✓			✓			
DTS:X			✓				
IMAX DTS	✓(*12)			✓(*12)	✓		✓
IMAX DTS:X			✓(*12)			✓	



入力フォーマット	リスニングモード				Mono	Classical / Unplugged / Ent.Show (Entertainment Show) / Drama / AdvancedGame / Action / Rock/Pop / Sports (*5)	Ext.Stereo / Mono Music (*6)	F.S.Surround (Front Stage Surround) (*7)
	PCM (Multich PCM) (*2)	DSD (*2)(*10)	AAC (*2)					
2 ch信号時								
Analog / PCM				✓	✓	✓	✓	
音楽ファイル / DSD (*1)					✓	✓	✓	
DD / DD+ / DTHD					✓	✓	✓	
DTS / DTS 96/24 / DTS Express / DTS- HD HR / DTS-HD MSTR (*13)(*14)					✓	✓	✓	
Multi-ch信号時								
Multich PCM	✓				✓	✓	✓	
DSD (*1)		✓			✓	✓	✓	
MPEG-2 AAC MPEG-4 AAC			✓		✓	✓	✓	
DD					✓	✓	✓	
DD+					✓	✓	✓	
DTHD					✓	✓	✓	
ATMOS					✓	✓	✓	
DTS					✓	✓	✓	
DTS 96/24 (*13)					✓	✓	✓	
DTS Express (*14)					✓	✓	✓	
DTS-HD HR (*14)					✓	✓	✓	
DTS-HD MSTR (*14)					✓	✓	✓	
DTS-ES Discrete (*13)					✓	✓	✓	
DTS-ES Matrix (*13)					✓	✓	✓	
DTS:X					✓	✓	✓	
IMAX DTS					✓	✓	✓	
IMAX DTS:X					✓	✓	✓	



- (*1) サンプリングレートが5.6/11.2 MHzの場合は、Pure Direct、Stereo、Ext.Stereo、Mono Music 以外のモードは選択できません。
- (*2) センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- (*3) 入力ソースがBlu-ray Discで、スピーカーレイアウトが5.1 ch以下の場合は、DD+ は選択できません。代わりに DD のリスニングモードが選択できます。
- (*4) 入力フォーマットが次のいずれかでチャンネル数がモノラルの場合、このリスニングモードは選択できません。
 - DTS、DTS 96/24、DTS Express、DTS-HD HR、DTS-HD MSTR、PCM、音楽ファイル
- (*5) サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
- (*6) センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
- (*7) 「スピーカーバーチャライザー」(→[p128](#)) を「オフ」に設定している場合、選択できません。
- (*8) 「IMAXモード」(→[p130](#)) を「オフ」(初期値は自動)に設定している場合、選択できません。
- (*9) 入力フォーマットがDTS Expressの場合は選択できません。
- (*10) 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
- (*11) スピーカーレイアウトによって、表示されるリスニングモードが異なります(→[p184](#))。また、「スピーカーバーチャライザー」(→[p128](#))の設定が「オフ」(初期値はOn)の場合は、 Atmosや DSUR以外は選択できません。
- (*12) 「IMAXモード」(→[p130](#))の設定が「オフ」(初期値は自動)の場合のみ選択できます。
- (*13) 本機では「DTS」と表示されます。
- (*14) 本機では「DTS-HD」と表示されます。

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→[p184](#))



リスニングモードの効果

アルファベット(ABC)順

■ AAC

MPEG-2 AAC または MPEG-4 AAC で収録されたソースの再生に適したモードです。MPEG-2 AAC または MPEG-4 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。

- 地上デジタル、BS/CS 放送などのMPEG-2 AAC ソースの再生時に選んでください。
- MPEG-4 AAC は、デジタルオーディオプレーヤー、ゲーム機などのMPEG-2 AAC ソースの再生時に選んでください。

■ Action

アクションシーンの多い映画を楽しむのに適したモードです。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ AdvancedGame

ゲームコンテンツを楽しむのに適したモードです。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ Classical

クラシックやオペラに適したモードです。サラウンド感を強調して、音声イメージが全体に広がる大ホールで聴いているような自然な響きを楽しめます。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ Direct/Pure Direct

「Direct」モードは、トーンコントロール機能など音質に影響する処理を一部遮断することで、より良い音質を楽しむことができます。また「Pure Direct」は、さらに音質に影響を与える処理を遮断することで、原音に忠実な再生を行います。この場合、MCACCやDirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。










■ Atmos


Dolby Atmos音声に記録されている音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、フロントスピーカーのみの接続など、どのようなスピーカーレイアウトでも、Dolby Atmosの自然で立体的な音場をお楽しみいただけます。また、サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーを接続することで、Dolby Atmosのサウンドデザインを、より忠実に再現することができます。Dolby

Atmos音声フォーマット入力時に選択することができます。

Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、チャンネルではなく、3次元空間を、独立した動きのある音声オブジェクトで、よりクリアに、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmosは、Blu-ray Discの音声フォーマットのオプションとして採用され、リスナーの上方に音場を導入したことで、より立体的な音場を実現しています。

スピーカーレイアウトによって、以下のリスニングモードが表示されます。

-  **Atmos 2.0/2.1**: フロントスピーカーのみを設置している場合
-  **Atmos 3.0/3.1**: フロントスピーカーとセンタースピーカーを設置している場合
-  **Atmos 4.0/4.1**: フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを設置している場合
-  **Atmos 5.0/5.1**: フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを設置している場合
-  **Atmos 6.0/6.1**: フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  **Atmos 7.0/7.1**: フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  **Atmos 2.0.2/2.1.2**: フロントスピーカーとハイトスピーカーを設置している場合
-  **Atmos 3.0.2/3.1.2**: フロントスピーカー、センタースピーカー、ハイトスピーカーを設置している場合
-  **Atmos**: サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを設置した「4.1.2ch」、「5.1.2ch」、「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」、「6.1.4 ch」、「7.1.4 ch」のときに選択することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- 「スピーカーバーチャライザー」(→p128)の設定が「オフ」(初期値はOn)の場合には、 Atmos以外は選択できません。



■ **DD (Dolby Audio - DD)**

Dolby Digital音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital音声フォーマットは、Dolby Laboratories, Inc.により開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットで、映画製作に広く採用されており、また、DVD-VideoやBlu-ray Discでは標準の音声フォーマットとして採用されています。DVD-VideoやBlu-ray Discでは、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3 chとサラウンドスピーカーの2ch、低音域専用のLFEch(サブウーファースの音声要素)の最大5.1 chで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ **DD+ (Dolby Audio - DD+)**

Dolby Digital Plus音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital Plus音声フォーマットは、Dolby Digitalをベースに改良され、チャンネル数の拡大と、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。Dolby Digital PlusはBlu-ray Discの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1 chをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1 chで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ **DSur (Dolby Audio - Surr)**

2 chや5.1 chの入力信号を5.1 chや7.1 chや5.1.2 chに拡張できるリスニングモードです。接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるほか、フロントスピーカーのみの接続など、拡張できるスピーカーがない場合も、仮想的にサラウンドチャンネルやハイトチャンネルの音声を創出して、拡張再生することができます。

スピーカーレイアウトによって、以下のリスニングモードが表示されます。

- **DSur 2.0/2.1**: フロントスピーカーのみを設置している場合
- **DSur 3.0/3.1**: フロントスピーカーとセンタースピーカーを設置している場合
- **DSur 4.0/4.1**: フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを設置している場合
- **DSur 5.0/5.1**: フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを設置している場合
- **DSur 6.0/6.1**: フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合

- **DSur 7.0/7.1**: フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
- **DSur 2.0.2/2.1.2**: フロントスピーカーとハイトスピーカーを設置している場合
- **DSur 3.0.2/3.1.2**: フロントスピーカー、センタースピーカー、ハイトスピーカーを設置している場合
- **DSur**: サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを設置した「4.1.2ch」、「5.1.2ch」、「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」、「6.1.4 ch」、「7.1.4 ch」のときに選択することができます。

- 「スピーカーバーチャライザー」(→[p128](#))の設定が「オフ」(初期値はOn)の場合は、**DSur**以外は選択できません。

■ **DTHD (Dolby Audio - TrueHD)**

Dolby TrueHD音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby TrueHD音声フォーマットは、MLPとよばれるロスレス圧縮技術をベースとし、拡張された「可逆型」の音声フォーマットで、スタジオで録音されたマスター音声の忠実な再現を可能としています。Dolby TrueHDはBlu-ray Discの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1 chをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1 chで記録することが可能です。7.1 chでは96 kHz/24 bit、5.1 chでは192 kHz/24 bitで記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ **Drama**

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。すべてのサラウンド音声を強調して会話音声を明瞭にすることにより、局のスタジオにいるような臨場感が楽しめます。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ **DSD**

DSDで収録されたソースの再生に適したモードです。

- 本機はHDMI入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCM出力に設定した方がよい音声を得られる場合があります。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側の出力設定をDSDにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。



■ DTS

DTS音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS音声フォーマットは、DTS, Inc.により開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットです。DVD-Video のオプションの音声フォーマットや、Blu-ray Discの標準の音声フォーマットとして採用されています。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS-HD

DTS-HD High Resolution AudioやDTS-HD Master Audio音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

これらの音声フォーマットは、Blu-ray Discのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1 chをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1 chを、96 kHzのサンプリングレートと24 bitの解像度で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS Neural:X

2 ch や5.1 ch の入力信号を5.1 ch や7.1 ch に拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。

■ DTS:X

DTS:X音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS:X音声フォーマットは、従来のチャンネルベース(5.1 ch、7.1 ch)のミキシング方式と、オブジェクトベースのダイナミックなオーディオミキシングを組み合わせ、精密な音の定位や移動を表現できることが特徴です。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ Ent.Show (Entertainment Show)

ロック、ポピュラーなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドが楽しめます。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ Ext.Stereo (Extended Stereo)

BGMとして音楽を流すときに適したモードです。フロントだけでなくサラウンドからもステレオ音を再生し、ステレオイメージを作ります。

■ F.S.Surround (Front Stage Surround)

サラウンドスピーカーを設置しなくてもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生が楽しめるモードです。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって効果を実現しています。

- 「スピーカーバーチャライザー」(→[p128](#))の設定が「オフ」(初期値はOn)の場合は、選択できません。
- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ IMAX

IMAXは革新的なエンターテインメントテクノロジーで、独自のソフトウェア、アーキテクチャ、機器を組み合わせることで、座席の端から端まで想像もしなかったような世界を体験することができます。一流の映画制作者やスタジオは、IMAXシアターを利用して、並外れた方法で観客と交流しています。IMAXは、独自の画像補正プロセスであるDMRを活用して、監督が意図したとおりの鮮明でシャープな画像を作成します。視野を広げるために特別に設計されたカスタムシアター環境と、シアター全体を均一にカバーする独自のサウンドシステムにより、IMAXは真に没入感のある映画体験を提供します。

- IMAX Enhanced :

IMAX Enhancedは、世界で最も没入感のあるエンターテインメント体験をご家庭にお届けします。IMAX Enhanced製品には、IMAX、DTS、ハリウッドの主要なカラリストによって確立された厳しい性能基準を満たし、家庭内エンターテインメントに比類ない品質とスケールを提供する高性能テレビ、プロジェクター、サウンドバー、AVレシーバーが含まれています。

IMAX Enhancedコンテンツは家庭環境向けにデジタルリマスターされ、映画製作者が意図したとおりに、より鮮明な画像と迫力あるサウンドを提供します。Ultra HDブルーレイディスクや4Kストリーミングサービスで利用できるこのコンテンツは、認定ホームエンターテインメントデバイスに組み込まれたDTS:Xコーデック技術を活用し、独自の完全没入体験を提供します。



IMAXモードは、リマスターされたIMAX Enhancedコンテンツの再生にすべての設定を最適化し、最高の画質と音質を実現するモードです。「IMAX DTS」と表示されている場合は、5.1chのIMAX Enhancedコンテンツの再生に最適化されたモードです。

「IMAX DTS:X」と表示されている場合は、IMAX Enhancedコンテンツの再生に最適化されたモードです。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- IMAXのリスニングモード：
 - IMAX DTS：IMAX Enhancedコンテンツを含むDTS音声フォーマットが入力されたときに表示されます。
 - IMAX DTS:X：IMAX Enhancedコンテンツを含むDTS:X音声フォーマットが入力されたときに表示されます。
 - IMAX Neural:X：5.1 チャンネルの入力信号を5.1.4 チャンネルや7.1.2 チャンネルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生するリスニングモードです。IMAX Enhancedコンテンツを含むDTS音声フォーマットが入力されたときに表示されます。
- お買い上げ時の状態ではIMAX Modeは「自動」に設定されています(→p130)。IMAX Enhancedコンテンツを識別すると、自動的にリスニングモードが切り換わりますが、TVなどでストリーミングサービスから受信したIMAX Enhancedコンテンツを再生する場合、IMAX Enhancedコンテンツを本機が識別できず、リスニングモードが切り換わらないことがあります。この場合はIMAXモードを「オン」に設定してください。
- サラウンドバックスピーカーを接続している場合、5.1 chのIMAX Enhancedコンテンツを含むDTS音声フォーマットをIMAX DTSで再生すると、サラウンドチャンネルの音声はサラウンドバックスピーカーから出力されます。

■ Mono

AnalogまたはPCM信号入力時に、センタースピーカーからモノラル音声を再生します。Center Speakerがない場合は、フロントスピーカーからモノラル音声を再生します。

■ Mono Music

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されるモードです。どの場所においても同じ音場イメージで音楽を聴くことができます。

■ PCM

マルチチャンネルPCMで収録されたソースの再生に適したモードです。

■ Rock/Pop

ロックコンテンツを楽しむのに適したモードです。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ Sports

スポーツコンテンツを楽しむのに適したモードです。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されるモードです。

■ Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、ステージの前で聴いているようなサウンドが楽しめます。

- Dirac Liveで測定されたスピーカー補正は無効になります。



スピーカー組み合わせ一覧

• いずれの組み合わせでも、アンプ内蔵サブウーファーは4台まで接続可能です。

スピーカーチャンネル	フロント	センター	サラウンド	サラウンドバック	ハイト 1	ハイト 2	バイアンプ (*1)	ゾーン 2 (*1) (ゾーンスピーカー)	ゾーン 3 (*1) (ゾーンスピーカー)
2.1 ch	✓						✓	✓	✓
3.1 ch	✓	✓					✓	✓	✓
4.1 ch	✓		✓				✓	✓	✓
5.1 ch	✓	✓	✓				✓	✓	✓
6.1 ch	✓		✓	✓			✓	✓	✓
7.1 ch	✓	✓	✓	✓			✓	✓	✓
2.1.2 ch	✓				✓ (*2)		✓	✓	✓
3.1.2 ch	✓	✓			✓ (*2)		✓	✓	✓
4.1.2 ch	✓		✓		✓ (*2)		✓	✓	✓
5.1.2 ch	✓	✓	✓		✓ (*2)		✓	✓	✓
6.1.2 ch	✓		✓	✓	✓ (*2)		✓	✓	✓
7.1.2 ch	✓	✓	✓	✓	✓ (*2)		✓	✓	✓
4.1.4 ch	✓		✓		✓ (*3)	✓ (*4)	✓	✓	✓
5.1.4 ch	✓	✓	✓		✓ (*3)	✓ (*4)	✓	✓	✓
6.1.4 ch	✓		✓	✓ (*5)(*6)	✓	✓ (*6)	✓	✓	✓
7.1.4 ch	✓	✓	✓	✓ (*5)(*6)	✓	✓ (*6)	✓	✓	✓

(*1) バイアンプとゾーンスピーカーを同時に使用することはできません。ただし、2.1ch ~ 5.1.2chの場合に、バイアンプとゾーン 2 スピーカーを同時に使用することは可能です。

(*2) フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合は、ハイト 1 スピーカーをHEIGHT 2 端子に接続する必要があります。

(*3) フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合は、ハイト 1 スピーカーをSURR BACK 端子に接続する必要があります。

(*4) 「ゾーンスピーカー」 (→p124)を「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定し、ゾーン 2/ゾーン 3の再生を行っているときは、ハイト 2 スピーカーからは再生できません。

(*5) ゾーン 2再生を行っているときは、サラウンドバックスピーカーからは再生できません。

(*6) 「ゾーンスピーカー」 (→p124)を「ゾーン 2/ゾーン 3」に設定し、ゾーン 2/ゾーン 3再生を行っているときは、サラウンドバックスピーカーとハイト 2 スピーカーからは再生できません。

ハイト 1/ハイト 2について

ハイトスピーカーを2組接続する場合、選択できるハイトスピーカーの組み合わせは以下のとおりです。

– ハイト 1 スピーカー: トップミドル、ハイト 2 スピーカー: リアハイ

– ハイト 1 スピーカー: フロントハイ、ハイト 2 スピーカー: リアハイ/トップミドル/トップリア/Dolby Enabledスピーカー (サラウンド) /Dolby Enabledスピーカー (サラウンドバック) のいずれか

– ハイト 1 スピーカー: トップフロントまたはDolby Enabledスピーカー (フロント)、ハイト 2 スピーカー: リアハイ/トップリア/Dolby Enabledスピーカー (サラウンド) /Dolby Enabledスピーカー (サラウンドバック) のいずれか

なお、ハイトスピーカーを1組のみ接続する場合は、ハイトスピーカーのタイプから1つお選びいただけます。



主な仕様

アンプ (音声) 部	
定格出力	220 W × 11チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 0.7%以下、6 Ω、非同時駆動、JEITA) 140 W × 11チャンネル (20 Hz - 20,000 Hz、全高調波歪率 0.08%以下、8 Ω、2チャンネル駆動時、JEITA)
実用最大出力	260 W × 11チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 10%、6 Ω、非同時駆動、JEITA)
総合ひずみ率	0.08%以下 (20 Hz - 20,000 Hz、定格)
入力感度/インピーダンス	200 mV/47 kΩ (LINE(RCA))、3.5 mV/47 kΩ (PHONO MM)、±0.2 mV/44 kΩ (LINE(XLR))
RCA定格出力電圧/インピーダンス	PRE OUT : 1 V/470 Ω
	PRE OUT (ZONE 2) : 1 V/ 470 Ω
	LINE OUT (ZONE 2,ZONE B): 200 mV/2.2 kΩ LINE OUT (ZONE 3) : 200 mV/470 Ω
XLR定格出力電圧/ インピーダンス	PRE OUT : 2 V/220 Ω
PHONO最大許容入力電圧	70 mV (MM 1 kHz 0.5%)
周波数特性	10 Hz - 100 kHz/+1 dB、-3 dB (Direct/Pure Direct)
トーンコントロール最大変化量	メイン : ±10 dB、20 Hz (BASS)、±10 dB、20 kHz (TREBLE) ゾーン 2 : ±10 dB、100 Hz (BASS)、±10 dB、10 kHz (TREBLE) ゾーン 3 : ±10 dB、100 Hz (BASS)、±10 dB、10 kHz (TREBLE)
SN比	107 dB (IHF-A、LINE IN、SP OUT)、78 dB (IHF-A、PHONO IN、SP OUT)
スピーカー適応インピーダンス	4 Ω - 16 Ω
ヘッドホン定格出力	75 mW + 75 mW (32 Ω、1 kHz、全高調波歪率 10%)
ヘッドホン適応インピーダンス	8 Ω - 600 Ω
ヘッドホン周波数特性	10 Hz - 100 kHz



映像部	
信号レベル	1 Vp-p/75 Ω (コンポジット) 1 Vp-p/75 Ω (コンポーネント Y) 0.7 Vp-p/75 Ω (コンポーネント Pb/Pr)
適応最大解像度	480i/576i (コンポーネント)

BLUETOOTH部	
通信システム	BLUETOOTH Specification version 4.2
周波数帯域	2.4GHz (2.402-2.480GHz)
変調方式	FHSS (周波数ホッピングスペクトラム拡散)
対応プロファイル	A2DP 1.2、AVRCP 1.3
対応コーデック	受信: SBC、AAC 送信: SBC、aptX、aptX HD
伝送範囲 (A2DP)	20 Hz - 20 kHz (サンプリング周波数 44.1 kHz)
最大通信距離	遮蔽物の無い見通し約15 m (*) * 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

HDMI	
入力	7 (前面×1を含む)
出力	3(MAIN、SUB、ZONE2)



	入力 *1							出力		
	HDMI 1	HDMI 2	HDMI 3	HDMI 4	HDMI 5	HDMI 6	HDMI (Front)	MAIN	SUB	Zone2
bandwidth	40Gbps	40Gbps	40Gbps	40Gbps	40Gbps	40Gbps	9Gbps	40Gbps	40Gbps	18Gbps
ALLM	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
VRR (for Game)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
QFT (for Game)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DSC	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Uncompressed	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	8K/60p 4:2:0	4K/60p 4:4:4
Compressed (TV needs DSC)	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	8K/60p 4:4:4	-
ARC / eARC *2								✓		
HDR10 (HDR10, BT.2020, HLG)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
HDR10+	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

*1 対応音声フォーマット： 2チャンネルリニアPCM (32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit)
 マルチチャンネルリニアPCM (最大7.1チャンネル、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit)
 ビットストリーム (Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS、DTS-ES、DTS 96/24、DTS-HD Master Audio、
 DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express、DTS:X、IMAX DTS、IMAX DTS:X、DSD(2.8 MHz)、PCM)

*2 ARC対応音声フォーマット： PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS (DTS 96/24、DTS-ESなど)、DTS-HD High Resolution Audio、IMAX DTS
 eARC対応音声フォーマット： PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS (DTS 96/24、DTS-ESなど)、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS- HD Master Audio、
 DTS:X、Multichannel PCM、DTS-HD High Resolution Audio、IMAX DTS、IMAX DTS:X



対応入力解像度	フレームレート	カラースペース	Color depth	HDMI IN 1 - 6	AUX INPUT HDMI (前面)
4K (3840x2160p)	24/25/30 Hz	YCbCr4:2:2	12 bit	✓	✓
		YCbCr4:4:4/RGB	8 bit	✓	✓
			10/12 bit	✓	
4K SMPTE (4096x2160p)	48/50/60 Hz	YCbCr4:2:0	8 bit	✓	✓
			10/12 bit	✓	
		YCbCr4:2:2	12 bit	✓	
		YCbCr4:4:4/RGB	8 bit	✓	
	100/120 Hz		10/12 bit	✓	
		YCbCr4:2:0	8/10/12 bit	✓	
		YCbCr4:2:2	12 bit	✓	
		YCbCr4:4:4/RGB	8/10 bit	✓	
			12 bit	✓(*1)	
5K (5120x2160p)	24/25/30 Hz	YCbCr4:2:2	12 bit	✓	
		YCbCr4:4:4/RGB	8 bit	✓	
			10/12 bit	✓	
	48/50/60 Hz	YCbCr4:2:0	8/10/12 bit	✓(*2)	
		YCbCr4:2:2	12 bit	✓	
		YCbCr4:4:4/RGB	8 bit	✓	
8K (7680x4320p)	24/25/30 Hz		10/12 bit	✓	
		YCbCr4:2:0	8/10/12 bit	✓	
		YCbCr4:2:2	12 bit	✓	
		YCbCr4:4:4/RGB	8/10 bit	✓	
	48/50/60 Hz		12 bit	✓(*1)	
		YCbCr4:2:0	8/10 bit	✓	
			12 bit	✓(*1)	
		YCbCr4:2:2	12 bit	✓(*1)	
	YCbCr4:4:4/RGB	8/10/12 bit	✓(*1)		

(*1)DSC (Display Stream Compression) で圧縮された映像を出力することができます。DSCは高い帯域幅が必要な高精細映像をHDMIで伝送することを実現する映像圧縮技術です。このビデオフォーマットで再生中は、AV Adjustや音量操作などを行っても画面に表示されません。

(*2)5K、48Hz、YCbCr4:2:0、8/10/12 bitには対応していません。

- 本機のHDMI OUT端子からテレビには、入力された解像度のまま出力されます。4Kに対応したテレビをお使いの場合、1080pのHDMI映像信号は4Kで出力することもできます。



ネットワーク部	
イーサネットLAN	1 (10BASE-T/100BASE-TX)
無線LAN	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac standard (Wi-Fi® standard) 5 GHz/2.4 GHz band
<p>■ Music Server (→ p108) 対応音声フォーマット</p>	<p>MP3 (.mp3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3/44.1 kHz、48 kHz/8~320 kbpsおよびVBR <p>WMA (.wma)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz/5~320 kbpsおよびVBR • WMA Pro/Voice/WMA Lossless非対応 <p>WAV (.wav)</p> <p>WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/8 bit、16 bit、24 bit <p>AIFF (.aiff/.aif)</p> <p>AIFFファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/8 bit、16 bit、24 bit <p>AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPEG-2/MPEG-4 Audio/44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz/8~320 kbpsおよびVBR <p>FLAC (.flac)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/8 bit、16 bit、24 bit <p>LPCM (Linear PCM)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz/16 bit <p>Apple Lossless (.m4a/.mp4)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/16 bit、24 bit <p>DSD (.dsf/.dff)</p> <ul style="list-style-type: none"> • DSF/DSDIFF/2.8 MHz、5.6 MHz、11.2 MHz



USB部	
USB	2 (前面 : Ver.2.0、5 V/0.5 A、後面 : Ver.2.0、5V/1 A)
<p>■USBストレージ(→p106) 対応音声フォーマット</p>	<p>MP3 (.mp3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3/44.1 kHz、48 kHz/8~320 kbpsおよびVBR <p>WMA (.wma)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz/5~320 kbpsおよびVBR • WMA Pro/Voice/WMA Lossless非対応 <p>WAV (.wav)</p> <p>WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/8 bit、16 bit、24 bit <p>AIFF (.aiff.aif)</p> <p>AIFFファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/8 bit、16 bit、24 bit <p>AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPEG-2/MPEG-4 Audio/44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz/8~320 kbpsおよびVBR <p>FLAC (.flac)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/8 bit、16 bit、24 bit <p>LPCM (Linear PCM)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz/16 bit <p>Apple Lossless (.m4a/.mp4)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz/16 bit、24 bit <p>DSD (.dsf/.dff)</p> <ul style="list-style-type: none"> • DSF/DSDIFF/2.8 MHz、5.6 MHz、11.2 MHz



総合	
電源・電圧	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	945 W
完全スタンバイ時	0.1 W
ネットワークスタンバイ (有線) 時	1.7 W
ネットワークスタンバイ (無線) 時	1.8 W
BLUETOOTHによる起動時	1.8 W
HDMI CEC スタンバイ時	0.1 W
スタンバイモード (オールオン) 時	1.8 W
HiNA機能を備えた機器がスタンバイ状態、ネットワーク非接続状態、ネットワークスタンバイON状態のとき	2.6 W 本機器は、HiNA機能を備えた機器として、欧州委員会規則(EC) No.1275/2008に準拠しています。ネットワーク機能を使用しない場合は、ネットワークスタンバイ設定をオフにしてください。スタンバイ状態における、電力消費を削減することができます。
最大外形寸法 (幅×高さ×奥行)	435 mm × 185.5 mm × 468 mm
質量	21.5 kg

映像入力	
コンポジット端子	2
コンポーネント端子	1

音声入力	
アナログ	6 (RCA×4、PHONO×1、XLR×1)
デジタル	5 (COAXIAL×2、OPTICAL×3) <ul style="list-style-type: none"> デジタル入力から入力されるPCM信号 (ステレオ/モノラル) のサンプリングレート : 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz/16 bit、20 bit、24 bit



音声出力	
アナログ	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、 HEIGHT 1 L/R、HEIGHT 2 L/R、SUBWOOFER ZONE 2 PRE/LINE OUT or ZONE B LINE OUT、 ZONE 3 PRE/LINE OUT
スピーカー	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、 HEIGHT 1 L/R or FRONT Bi-AMP、HEIGHT 2 L/R or CENTER Bi-AMP、 ZONE 2 L/R、ZONE 3 L/R (バナナプラグ対応)
ヘッドホン	1 (ø 6.3 mm)

その他	
セットアップマイク	1 (前面)
RS-232	1
12V TRIGGER OUT	2 (A : 100 mA、B : 25 mA)
IR	2 (IN×1、OUT×1)

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

☐ → [ライセンスと商標](#)



Pioneer

SN 29404102_JA

© Copyright 2023 Onkyo Technology, K.K. All rights reserved.

Privacy Policy, available at [<https://pioneer-audiovisual.com/privacy/>].

「Pioneer」及び「MCACCロゴ」は、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

O2303-0